

ちば

令和 7 年度

第 69 回

県政に関する世論調査

報 告 書

令和 8 年 1 月

千 葉 県

は し が き

この調査は、県民の皆さまの生活意識、県政に対してどのような関心や期待などを持っているかを把握し、県政推進の基礎資料とするため、昭和50年度から実施しています。

令和7年度は年2回実施することとし、今回は1回目の調査で、県内在住の満18歳以上の3,000名を対象に、8月から9月にかけて郵送法・オンライン調査法で実施しました。

具体的な内容としては、環境と生活、健康、福祉などについて県民の意識等の経年変化を調査する「県民意識調査」、県民のニーズの優先度を調査する「県政への要望」を実施しました。

この報告書が、県の施策立案や各事業の推進などに活用されるだけでなく、広く県民の生活意識や県政に関心を寄せる方々にご活用いただければ幸いです。

終わりに、本調査にご協力いただきました県民の皆さまを始め、関係者の方々に厚くお礼申し上げます。

令和8年1月

千葉県総合企画部長 三神 彰

目 次

調査の概要	1
調査結果及び解説	9
1 環境と生活について	9
(1) 今後の居留意向	9
(1-1) 住み続けたい理由	11
(1-2) 移りたい理由	14
(2) 県内の道路状況の満足度	17
(3) 今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題	19
(4) 住生活全般の満足度	23
(5) 高齢期の住まいで重要なこと	25
(6) 高齢期に住みたい住宅	28
(7) 高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性	30
(8) 地球温暖化問題の関心度	32
(9) 環境に配慮した行動	34
(10) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況	36
(11) 食品ロス削減の取組状況	42
(12) 普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組	44
(13) 「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度	49
(13-1) 「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路	51
(14) 環境保全に関する講演やセミナー、 環境ボランティア活動への参加状況	54
(15) 消費生活全般の満足度	56
(16) 「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度	58
(17) 市民活動団体やボランティア活動の関心度	60
(18) 市民活動団体の活動への参加経験	62
(19) ボランティア活動経験	64
(20) この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験	66
(20-1) 文化芸術を鑑賞しなかった理由	71
(20-2) 文化芸術活動をしなかった理由	74
(21) 文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況	77
2 健康について	79
(1) 健康づくりへの取組状況	79
(2) 安心して受診できる医療体制	81
(3) かかりつけ医の有無	83
3 医療について	87
(1) 県内の医療の満足度	87
(2) 今後、県に力を入れて欲しい医療	89
(3) A E Dの認知度・利用経験	92
(4) A E Dを使用できるか	94

4	福祉について -----	96
	(1) 地域の福祉の状況について -----	96
	(2) お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について -----	101
	(2-1) お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策への不満点 -----	103
	(3) 「共生社会」の認知度 -----	106
5	県の農林水産物について -----	108
	(1) 千葉県産農林水産物の購入意向 -----	108
	(1-1) 千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由 -----	110
	(1-2) 千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由 -----	112
	(2) 環境にやさしい農産物や制度の認知度 -----	114
	(3) 「千葉ブランド水産物」の認知度 -----	117
6	防災に関する取組について -----	119
	(1) 防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度 -----	119
	(2) 飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況 -----	121
	(3) 地震や台風などの災害への対策 -----	125
7	公金のキャッシュレス化の推進について -----	128
	(1) 公金の納付に当たり不便と感ずることの有無 -----	128
	(1-1) キャッシュレス決済を拡大すべきだと思う場面 -----	130
	(2) 便利だと思う公金の納付方法 -----	132
8	生涯学習について -----	136
	(1) 今後学習したいと思うこと -----	136
	(1-1) 学習する上で困っていること -----	139
	(1-2) 学習したいと思わない理由 -----	142
	(2) 生涯学習の情報を得る手段 -----	145
9	SDGs・多様性尊重等について -----	148
	(1) SDGsの言葉の認知度 -----	148
	(2) 「ダイバーシティ」概念の認知度 -----	150
	(2-1) 千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について -----	152
	(3) 「多様性尊重条例」の認知度 -----	155
	(4) 社会全体での男女の地位の平等感 -----	157
	(5) 男女共同参画社会を実現するための取組 -----	159
10	県の魅力について -----	162
	(1) 千葉県の魅力 -----	162
11	広報について -----	166
	(1) 県政に関する情報を得る手段 -----	166
12	県政への要望 -----	170
	(1) 県政への要望 -----	170
	(1-1) 各政策への具体的な要望 -----	177
13	自由回答 -----	190
	(付) 調査票および単純集計結果 -----	197

調 査 の 概 要

1. 調査の目的

この調査は、県民の生活と県政の主要分野にわたる県民の関心、要望、意向などをとらえ、県政推進の基礎資料とすることを目的とする。

2. 調査の項目

（1）県民意識調査

- ・ 環境と生活について
- ・ 健康について
- ・ 医療について
- ・ 福祉について
- ・ 県の農林水産物について
- ・ 防災に関する取組について
- ・ 公金のキャッシュレス化の推進について
- ・ 生涯学習について
- ・ S D G s ・ 多様性尊重等について
- ・ 県の魅力について
- ・ 広報について

（2）県政への要望

3. 調査の設計

（1）調査地域 千葉県全域

（2）調査対象 満18歳以上の個人

（3）標本数 3,000人

（4）抽出方法 層化二段無作為抽出法

※層化二段無作為抽出法とは、行政単位と地域によって県内をブロックごとに分類し（層化）、各層に調査地点を人口に応じて比例配分し、国勢調査における調査区域及び住民基本台帳を利用して（二段）、地点ごとに一定数のサンプル抽出を行うものである。

（5）調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
（郵送配付－郵送・オンライン回収）

（6）調査時期 令和7年8月19日～令和7年9月12日

4. 調査機関

株式会社マーケティングリサーチサービス

5. 回収結果

標本数	（A）	3,000件
総回収数	（B）	1,490件
有効回収数	（C）	1,486件
うちネット回収数		513件
無効回収数		4件
うちネット回収数		1件
回収率	（B／A）	49.67%
有効回収率	（C／A）	49.53%

標本抽出方法

調査対象：千葉県内の市町村に居住する満18歳以上の個人
標本数：3,000人
地点数：市部 192地点
 郡部 8地点
 計 200地点
抽出法：層化二段無作為抽出法

〔層 化〕

県内を、次の11地域に分類した。

地 域 名	該 当 市 郡 名
①千葉地域	千葉市、市原市
②葛南地域	市川市、船橋市、習志野市、八千代市、浦安市
③東葛飾地域	松戸市、野田市、柏市、流山市、我孫子市、鎌ヶ谷市
④印旛地域	成田市、佐倉市、四街道市、八街市、印西市、白井市、富里市、印旛郡
⑤香取地域	香取市、香取郡
⑥海匝地域	銚子市、旭市、匝瑳市
⑦山武地域	東金市、山武市、大網白里市、山武郡
⑧長生地域	茂原市、長生郡
⑨夷隅地域	勝浦市、いすみ市、夷隅郡
⑩安房地域	館山市、鴨川市、南房総市、安房郡
⑪君津地域	木更津市、君津市、富津市、袖ヶ浦市

（注）ここでいう市とは、
令和7年4月1日現在市制施行の
地域をさす。



〔標本数の配分〕

各地域別の層における満18歳以上の人口（令和 6 年 4 月 1 日現在の推定数）に対して、3,000の標本数を比例配分した。

〔抽 出〕

1. 令和 2 年国勢調査時に設定された調査区を、第 1 次抽出単位となる調査単位として使用した。
 2. 調査地点の抽出は、調査地点が 2 地点以上に割り当てられた層については、

$$\left(\frac{\text{層における調査区数の合計}}{\text{層で算出された調査地点数}} = \text{抽出間隔} \right)$$
を算出し、等間隔抽出法によって抽出した。
 3. 抽出に際しての各層内における市町村の配列順序は、令和 2 年国勢調査時の「標準地域コード一覧」に従った。
 4. 調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内（町・丁目・番地等を指定）を、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。
- 以上の結果、各地域別（層別）の標本数・調査地点数は、次のとおりである。

地域	人口・標本数・ 調査地点数
①千葉地域	1,079,739 600 40
②葛南地域	1,451,604 810 54
③東葛飾地域	1,315,573 720 48
④印旛地域	622,830 345 23
⑤香取地域	91,235 45 3
⑥海匝地域	133,587 75 5
⑦山武地域	173,190 90 6
⑧長生地域	126,130 75 5
⑨夷隅地域	59,293 30 2
⑩安房地域	103,595 60 4
⑪君津地域	278,240 150 10
計	5,435,016 3,000 200

（注）上段は満18歳以上の人口（令和 6 年 4 月 1 日現在）、中段は標本数、下段は調査地点数である。

調査地点一覧

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
① 千葉地域	千葉市中央区院内 2 丁目	15	① 千葉地域	市原市皆吉	15
	千葉市中央区白旗 1 丁目	15		市原市国分寺台中央 1 丁目	15
	千葉市中央区蘇我 3 丁目	15		市原市五井西 5 丁目	15
	千葉市中央区問屋町	15		市原市ちはら台南 5 丁目	15
	千葉市中央区浜野町	15	② 葛南地域	市川市原木 4 丁目	15
	千葉市中央区松波 3 丁目	15		市川市奉免町	15
	千葉市中央区宮崎町	15		市川市欠真間 1 丁目	15
	千葉市花見川区天戸町	15		市川市南行徳 2 丁目	15
	千葉市花見川区犢橋町	15		市川市行徳駅前 4 丁目	15
	千葉市花見川区長作台 2 丁目	15		市川市幸 1 丁目	15
	千葉市花見川区幕張町 3 丁目	15		市川市国府台 3 丁目	15
	千葉市花見川区南花園 1 丁目	15		市川市真間 4 丁目	15
	千葉市稲毛区稲毛町 5 丁目	15		市川市大和田 3 丁目	15
	千葉市稲毛区小仲台 8 丁目	15		市川市南八幡 3 丁目	15
	千葉市稲毛区天台 1 丁目	15		市川市宮久保 2 丁目	15
	千葉市稲毛区宮野木町	15		市川市中山 4 丁目	15
	千葉市若葉区小倉台 5 丁目	15		市川市国分 3 丁目	15
	千葉市若葉区桜木 2 丁目	15		市川市北国分 3 丁目	15
	千葉市若葉区千城台北 4 丁目	15		市川市下貝塚 2 丁目	15
	千葉市若葉区都賀の台 2 丁目	15		船橋市東船橋 5 丁目	15
	千葉市若葉区みつわ台 4 丁目	15		船橋市湊町 3 丁目	15
	千葉市緑区椎名崎町	15		船橋市南本町	15
	千葉市緑区あすみが丘 2 丁目	15		船橋市西船 5 丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野 2 丁目	15		船橋市本中山 2 丁目	15
	千葉市緑区おゆみ野中央 8 丁目	15		船橋市旭町 5 丁目	15
	千葉市美浜区磯辺 2 丁目	15		船橋市藤原 6 丁目	15
	千葉市美浜区打瀬 3 丁目	15		船橋市丸山 4 丁目	15
	千葉市美浜区高浜 1 丁目	15		船橋市夏見町 2 丁目	15
	千葉市美浜区真砂 5 丁目	15		船橋市二和東 3 丁目	15
	市原市柳原	15		船橋市三咲 7 丁目	15
	市原市五井東 1 丁目	15		船橋市八木が谷 5 丁目	15
	市原市八幡	15		船橋市前原東 6 丁目	15
	市原市菊間	15		船橋市飯山満町 2 丁目	15
	市原市姉崎	15		船橋市薬円台 5 丁目	15
	市原市桜台 3 丁目	15		船橋市田喜野井 1 丁目	15
	市原市潤井戸	15		船橋市高根台 5 丁目	15

地域	調査地点名	標本数	地域	調査地点名	標本数
② 葛南地域	船橋市新高根1丁目	15	③ 東葛飾地域	野田市清水	15
	船橋市大穴南1丁目	15		野田市中根	15
	船橋市大穴北7丁目／8丁目	15		野田市みずき2丁目	15
	船橋市習志野台4丁目	15		野田市光葉町2丁目	15
	船橋市坪井東5丁目	15		野田市二ツ塚	15
	習志野市谷津7丁目	15		柏市永楽台2丁目	15
	習志野市鷺沼4丁目	15		柏市柏の葉1丁目	15
	習志野市本大久保3丁目	15		柏市南逆井4丁目	15
	習志野市東習志野8丁目	15		柏市末広町	15
	習志野市実籾5丁目	15		柏市豊四季台1丁目	15
	八千代市高津	15		柏市中原1丁目	15
	八千代市佐山	15		柏市東柏1丁目	15
	八千代市勝田台4丁目	15		柏市布施新町2丁目	15
	八千代市高津団地	15		柏市松葉町7丁目	15
	八千代市八千代台西4丁目	15		柏市吉野沢	15
	八千代市ゆりのき台2丁目	15		柏市東逆井1丁目	15
	八千代市村上南4丁目	15		柏市塚崎	15
	浦安市海楽2丁目	15		流山市富士見台1丁目	15
	浦安市入船6丁目	15		流山市向小金4丁目	15
③ 東葛飾地域	浦安市日の出1丁目	15		流山市松ヶ丘4丁目	15
	浦安市当代島3丁目	15		流山市おおたかの森西2丁目	15
	浦安市堀江1丁目	15		流山市流山6丁目	15
	松戸市岩瀬	15		流山市南流山9丁目	15
	松戸市上本郷	15		流山市大字東深井	15
	松戸市幸谷	15		我孫子市白山2丁目	15
	松戸市小金原4丁目	15		我孫子市天王台4丁目	15
	松戸市栄町6丁目	15		我孫子市都部	15
	松戸市新松戸7丁目	15		我孫子市新木野2丁目	15
	松戸市常盤平3丁目	15		我孫子市我孫子3丁目	15
	松戸市中和倉	15		鎌ヶ谷市東道野辺1丁目	15
	松戸市八ヶ崎5丁目	15		鎌ヶ谷市南初富3丁目	15
	松戸市二ツ木	15		鎌ヶ谷市西佐津間1丁目	15
	松戸市松戸新田	15	④ 印旛地域	成田市吾妻1丁目	15
	松戸市稔台2丁目	15		成田市並木町	15
	松戸市六高台6丁目	15		成田市奈土	15
	松戸市六実5丁目	15		佐倉市千成1丁目	15
	松戸市五香南3丁目	15		佐倉市新臼井田	15
	野田市木間ヶ瀬	15		佐倉市井野	15

第69回県政に関する世論調査（R 7 年度）

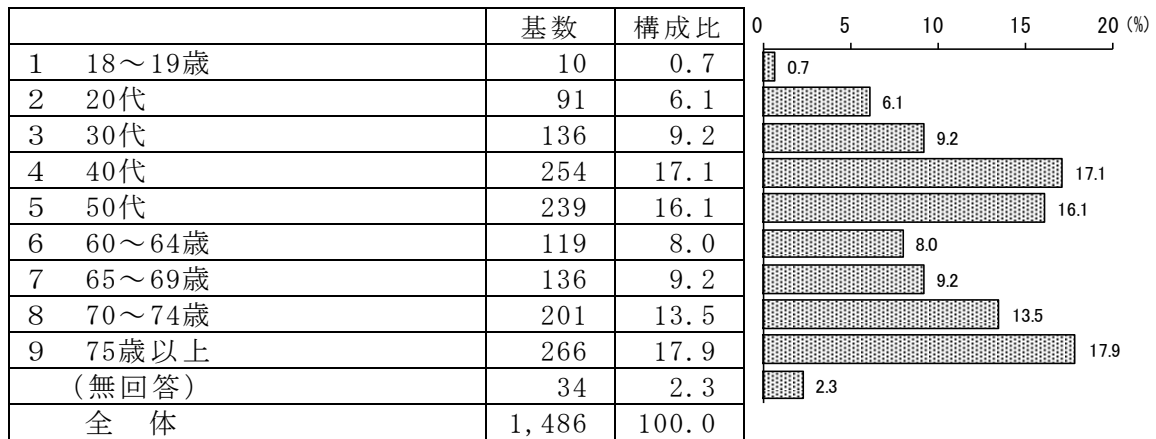
地域	調 査 地 点 名	標 本 数	地域	調 査 地 点 名	標 本 数
④ 印旛地域	佐倉市中志津 2 丁目	15	⑦ 山武地域	東金市田間 3 丁目	15
	佐倉市ユーカリが丘 7 丁目	15		東金市下武射田	15
	佐倉市大崎台 4 丁目	15		山武市横田	15
	佐倉市西ユーカリが丘 1 丁目	15		大網白里市星谷	15
	四街道市めいわ 1 丁目	15		大網白里市季美の森南 2 丁目	15
	四街道市鹿放ヶ丘	15		芝山町朝倉	15
	四街道市旭ヶ丘 1 丁目	15	⑧ 長生地域	茂原市高師	15
	八街市八街ほ	15		茂原市東郷	15
	八街市吉倉	15		茂原市早野	15
	印西市若萩 3 丁目	15		一宮町一宮	15
	印西市小倉台 4 丁目	15	⑨ 地 夷 域 隅	長生村一松戊	15
	印西市西の原 3 丁目	15		いすみ市大原	15
	白井市清水口 1 丁目	15	⑩ 安房地域	御宿町六軒町	15
	白井市野口	15		館山市那古	15
	富里市立沢新田	15		鴨川市東町	15
	酒々井町中央台 3 丁目	15		南房総市本織	15
	栄町竜角寺台 2 丁目	15		鋸南町竜島	15
⑤ 香取地域	香取市大倉	15	⑪ 君津地域	木更津市吾妻 2 丁目	15
	香取市南原地新田	15		木更津市太田 4 丁目	15
	多古町飯笹	15		木更津市港南台 3 丁目	15
⑥ 海匝地域	銚子市前宿町	15		木更津市清見台東 2 丁目	15
	銚子市垣根町 2 丁目	15		木更津市江川	15
	旭市中谷里	15		君津市南子安 1 丁目	15
	匝瑳市八日市場イ	15		君津市人見 2 丁目	15
	匝瑳市川辺	15		君津市東猪原	15
				富津市笹毛	15
				袖ヶ浦市蔵波台 6 丁目	15

回答者の属性

1. 性



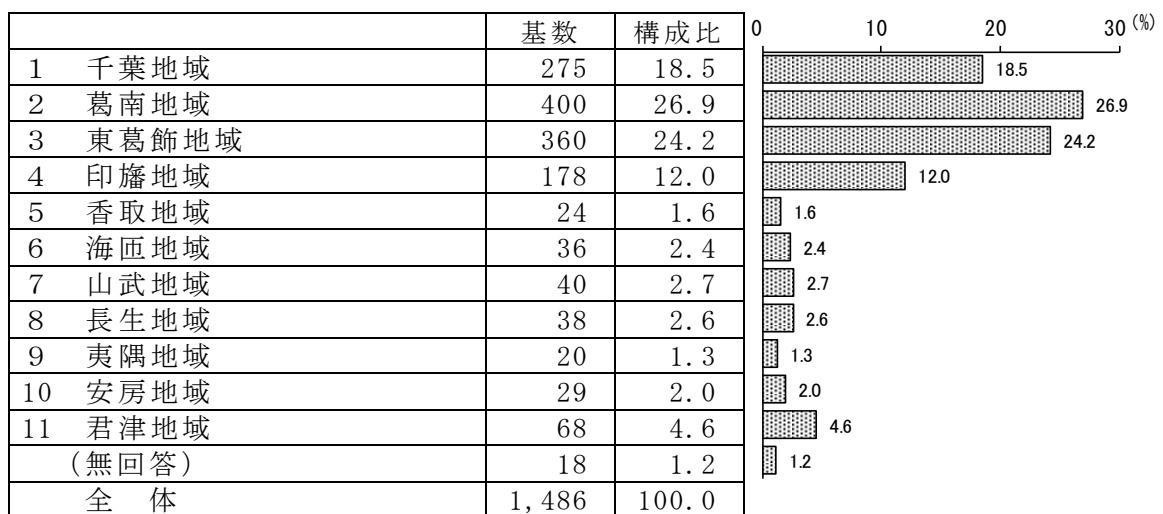
2. 年 代



3. 職 業



4. 地 域



（報告書の見方）

本報告書を読む際に、次の点に留意してください。

- （１）比率はすべて百分比で表し、小数点以下第２位を四捨五入して算出した。このために、百分比の合計が100％にならないことがある。
- （２）基数となるべき実数はnとして掲載した。その比率はnの件数を100％として算出した。
- （３）１人の回答者が複数回答で行う設問では、その比率の合計が100％を上回ることがある。
- （４）複数の選択肢を合わせた表記の回答割合は、選択肢の回答者人数を合わせた値を、全回答者で割った値を採用しているため、選択肢の回答割合を単純に足した値と異なることがある。
- （５）回答の基数（サンプル数）が少ない場合は、解説で当該集計結果に触れていない場合がある。また、派生的設問において、基数が少ない属性が多い場合は、解説を行わない場合がある。
- （６）地域別、性・年代別の解説において、全体の数値との差が認められる確率が一定の基準を超えない属性の数値については、触れていない場合がある。
- （７）この調査の標本誤差は次の式によって得られる。但し、信頼度を95％とする。

$$b = \sqrt{2 \frac{N - n}{N - 1} \times \frac{P(1 - P)}{n}}$$

b = 標本誤差
 N = 母集団数
 n = 比率算出の基数（サンプル数）
 P = 回答比率

次に、本調査の標本誤差の早見表をあげる。

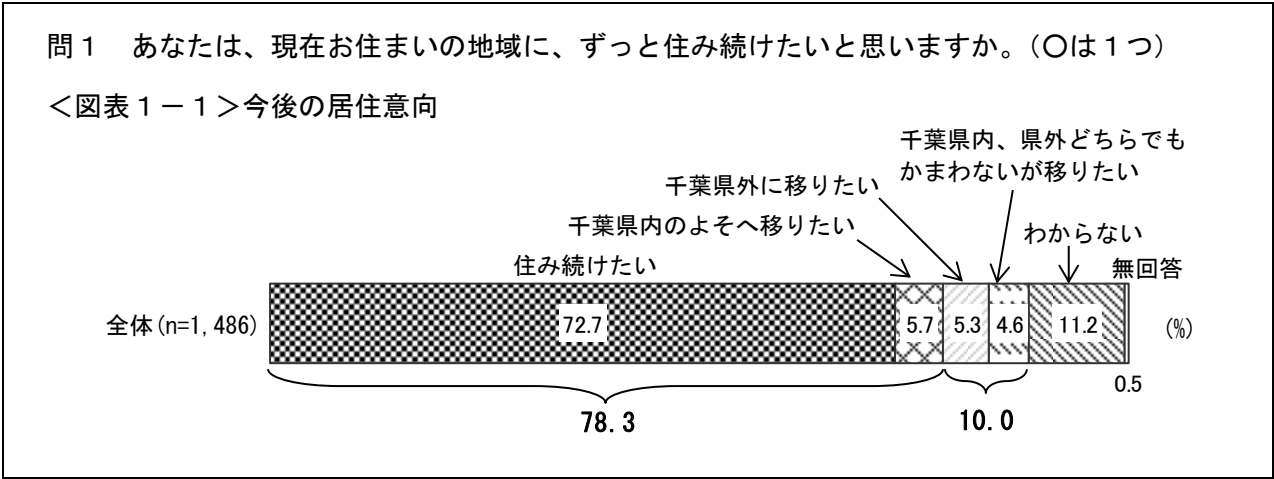
回答比率 (P) 基数 (n)	10%または 90%前後	20%または 80%前後	30%または 70%前後	40%または 60%前後	50%前後
1,486人	± 2.20	± 2.93	± 3.36	± 3.59	± 3.67
1,000	± 2.68	± 3.58	± 4.10	± 4.38	± 4.47
500	± 3.79	± 5.06	± 5.80	± 6.20	± 6.32
300	± 4.90	± 6.53	± 7.48	± 8.00	± 8.16
100	± 8.49	± 11.31	± 12.96	± 13.86	± 14.14

調査の結果 調査結果の解説

1 環境と生活について

(1) 今後の居住意向

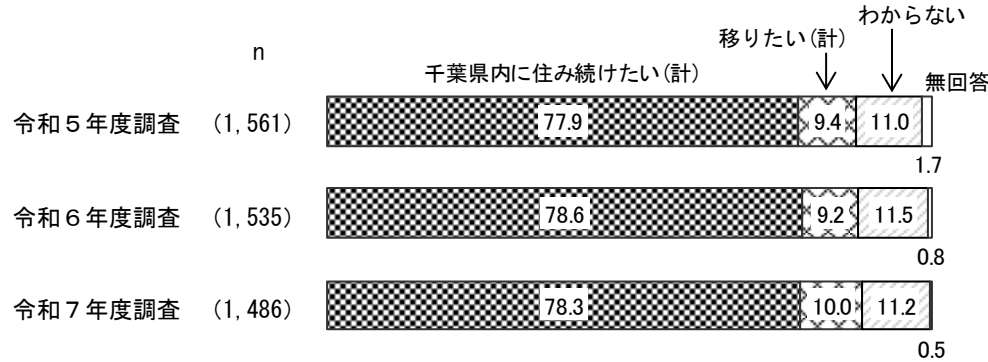
◇『千葉県内に住み続けたい（計）』が約8割



現在お住まいの地域の今後の居住意向を聞いたところ、「住み続けたい」（72.7%）が7割を超え、これと「千葉県内のよそへ移りたい」（5.7%）を合わせた『千葉県内に住み続けたい（計）』（78.3%）が約8割となっている。

一方、「千葉県外に移りたい」（5.3%）と「千葉県内、県外どちらでもかまわないが移りたい」（4.6%）を合わせた『移りたい（計）』（10.0%）が1割となっている。（図表1－1）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

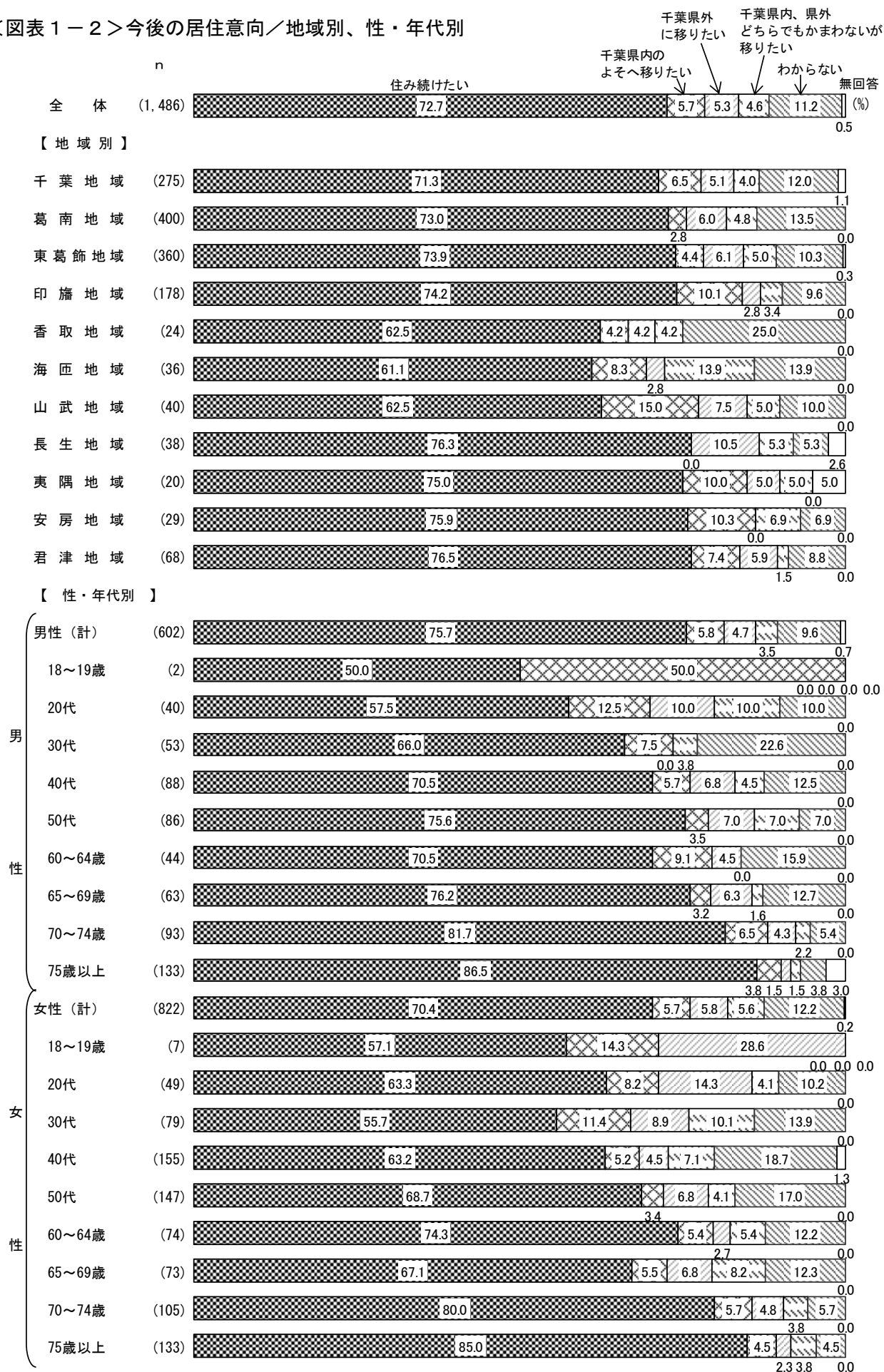
地域別にみると、『千葉県内に住み続けたい（計）』は“印旛地域”（84.3%）が8割台半ばで高くなっている。（図表1－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『千葉県内に住み続けたい（計）』は男性の75歳以上（90.2%）が9割、女性の75歳以上（89.5%）と男性の70～74歳（88.2%）が約9割で高くなっている。

一方、『移りたい（計）』は男性の20代（20.0%）が2割、女性の30代（19.0%）と女性の20代（18.4%）が約2割で高くなっている。（図表1－2）

＜図表 1－2＞今後の居住意向／地域別、性・年代別



（１－１）住み続けたい理由

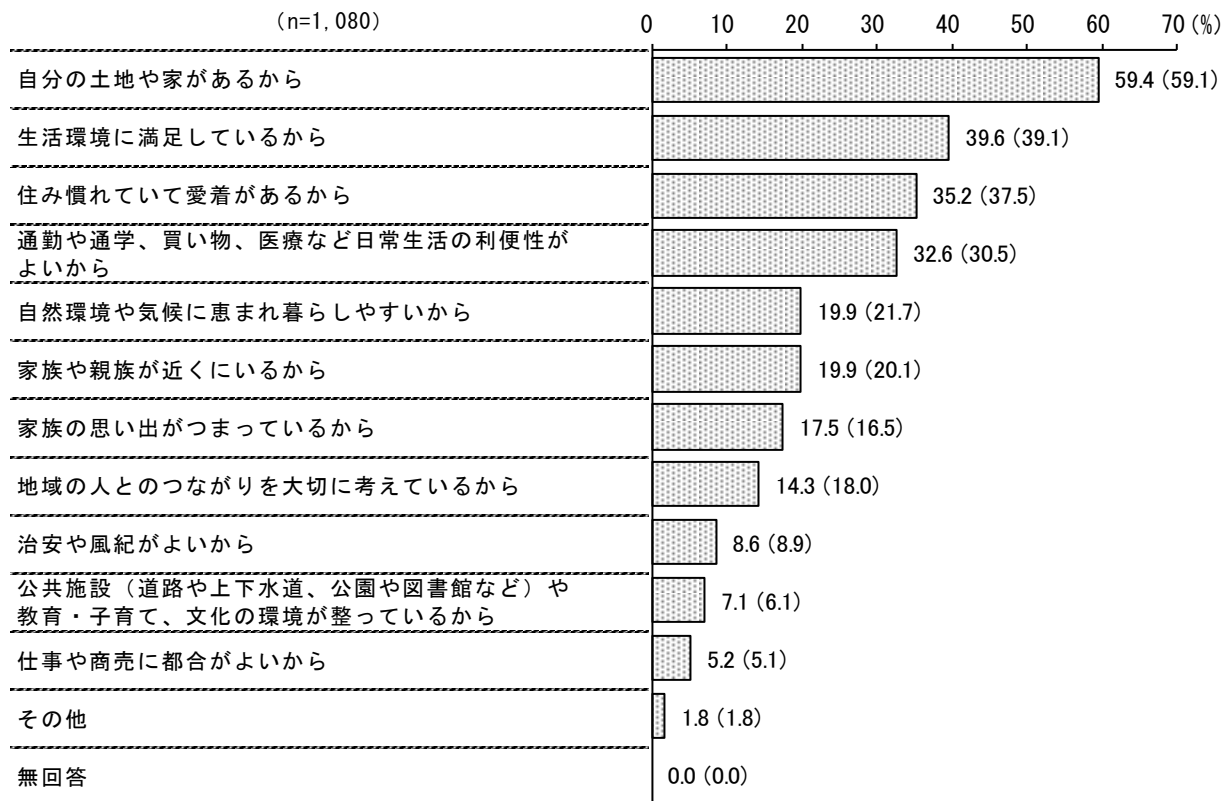
◇「自分の土地や家があるから」が約６割

（問１で「住み続けたい」とお答えの方に）

問１－１ あなたが現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。

（○は３つまで）

＜図表１－３＞住み続けたい理由（３つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和６年度の同様の項目による調査結果 n=1,122

「住み続けたい」と回答した1,080人を対象に、住み続けたい理由を聞いたところ、「自分の土地や家があるから」(59.4%) が約６割で最も高く、以下、「生活環境に満足しているから」(39.6%)、「住み慣れていて愛着があるから」(35.2%)、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」(32.6%) が続く。(図表１－３)

【地域別】

地域別にみると、「住み慣れていて愛着があるから」は“千葉地域”(41.8%) が４割を超えて高くなっている。「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから」は“葛南地域”(44.9%) が４割台半ばで高くなっている。(図表１－４)

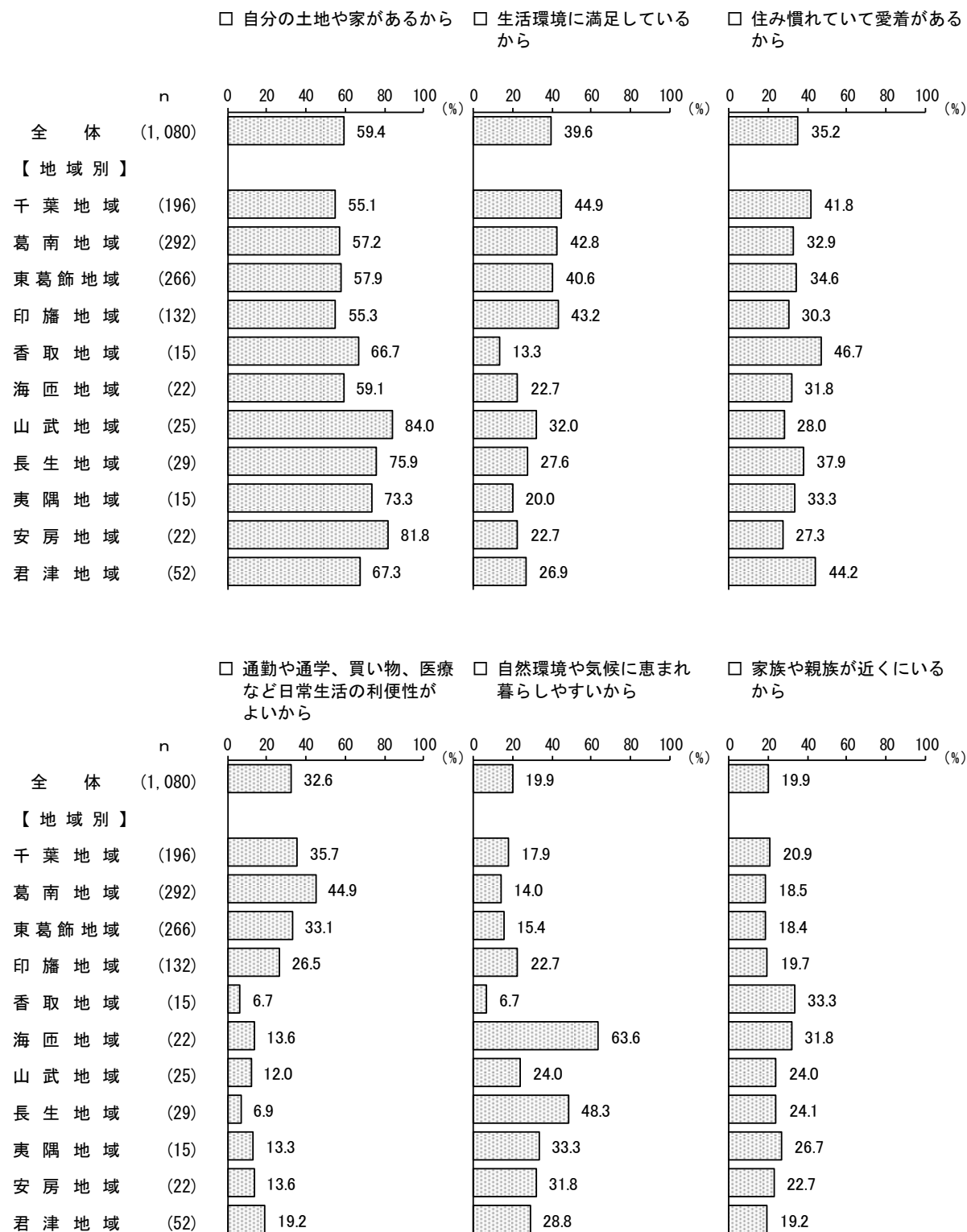
【性・年代別】

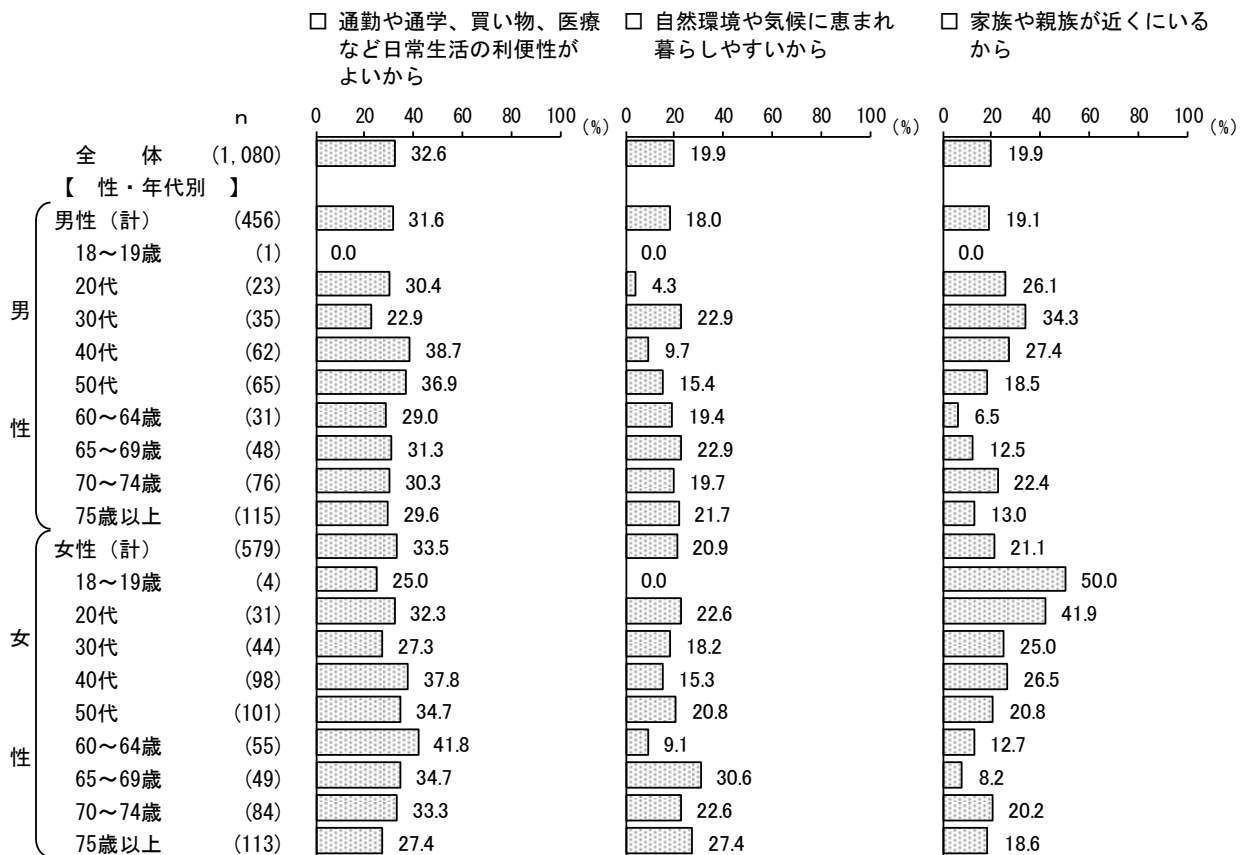
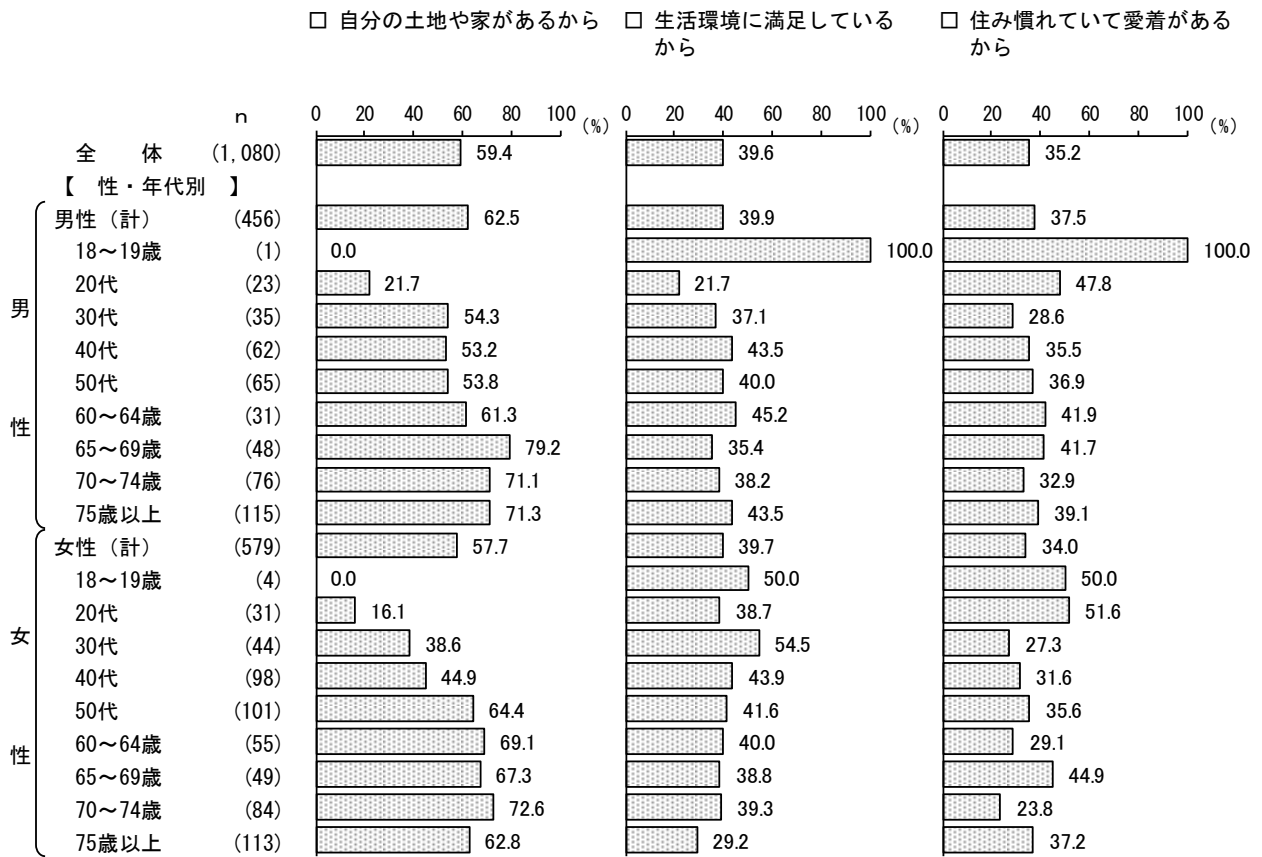
性・年代別にみると、「自分の土地や家があるから」は男性の65～69歳(79.2%) が約８割、女性の70～74歳(72.6%)、男性の75歳以上(71.3%)、女性の70～74歳(71.1%) が７割を超えて高くなっている。

「生活環境に満足しているから」は女性の30代（54.5%）が5割台半ばで高くなっている。

（図表 1－4）

<図表 1－4>住み続けたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





（１－２）移りたい理由

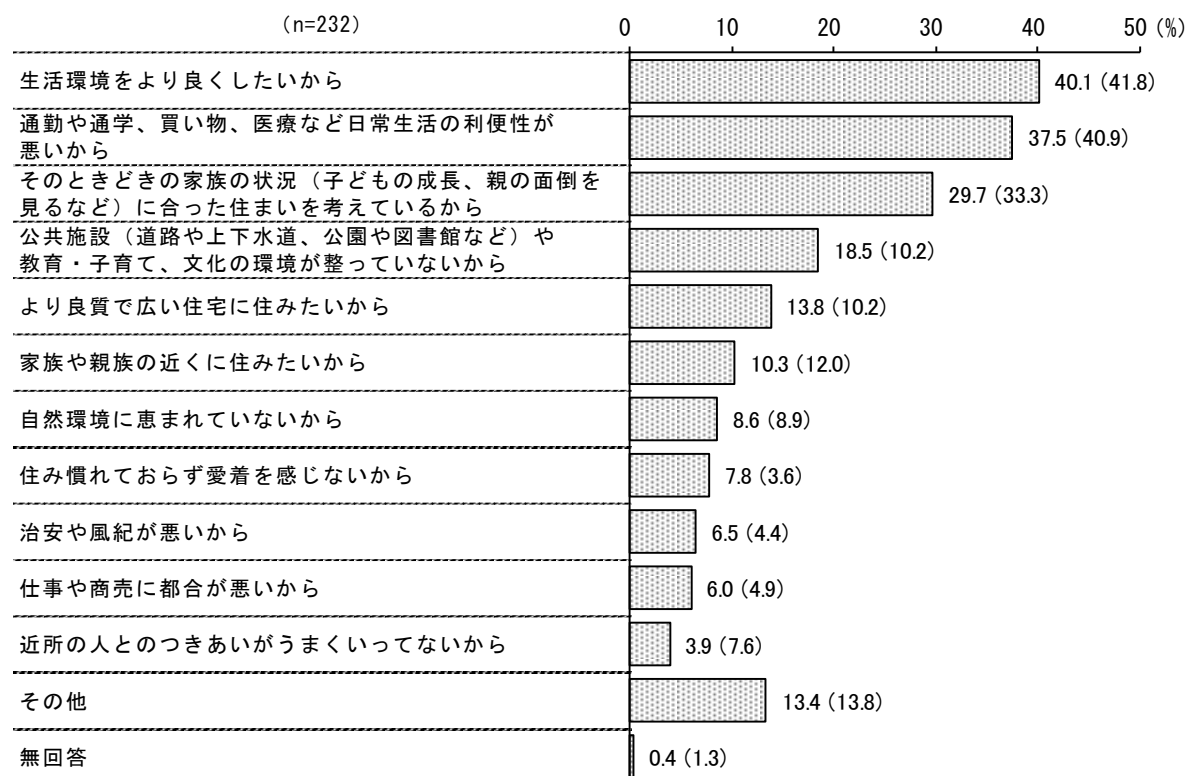
◇「生活環境をより良くしたいから」が４割

（問１で「千葉県内のよそへ移りたい」「千葉県外に移りたい」「千葉県内、県外どちらでもかまわないう移りたい」のいずれかをお答えの方に）

問１－２ あなたが現在お住まいの地域から移りたいと思う理由は何ですか。

（○は３つまで）

＜図表１－５＞移りたい理由（３つまでの複数回答）



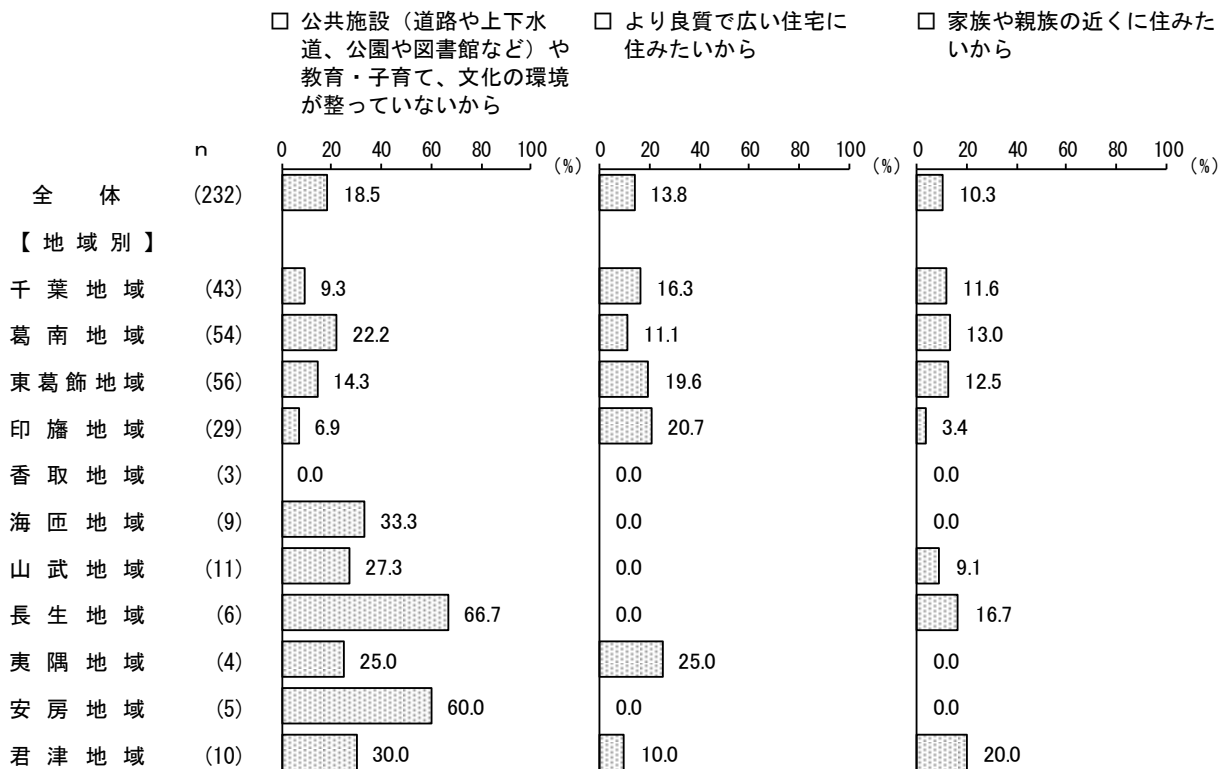
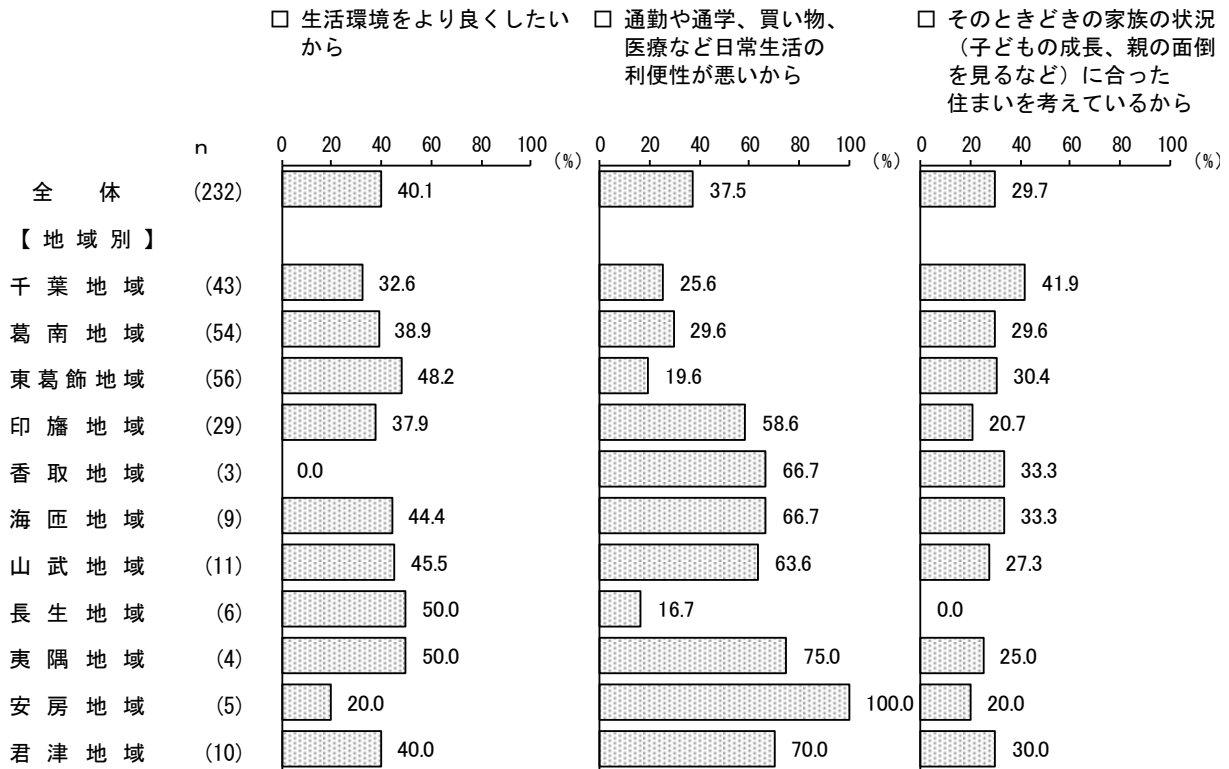
注）（ ）の数字は令和 6 年度の同様の項目による調査結果 n = 225

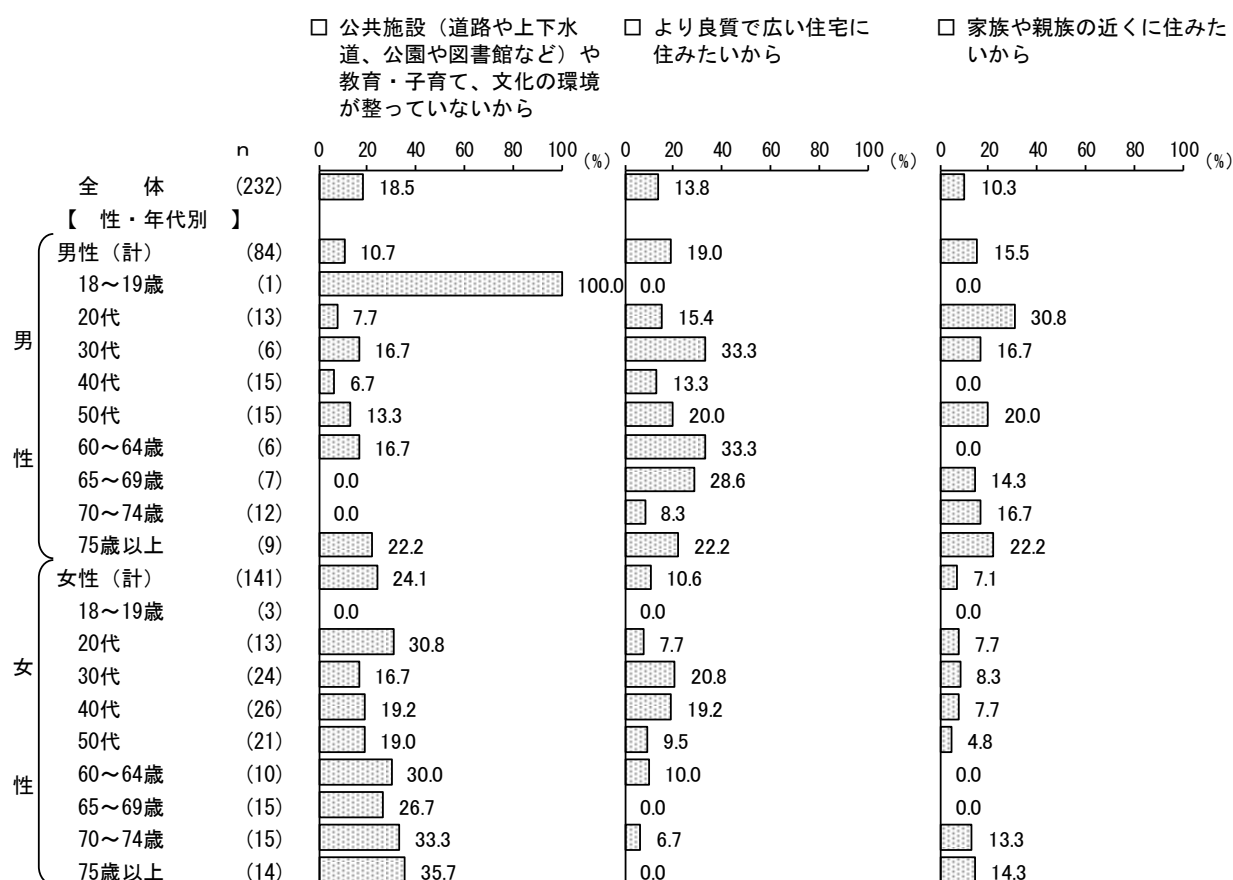
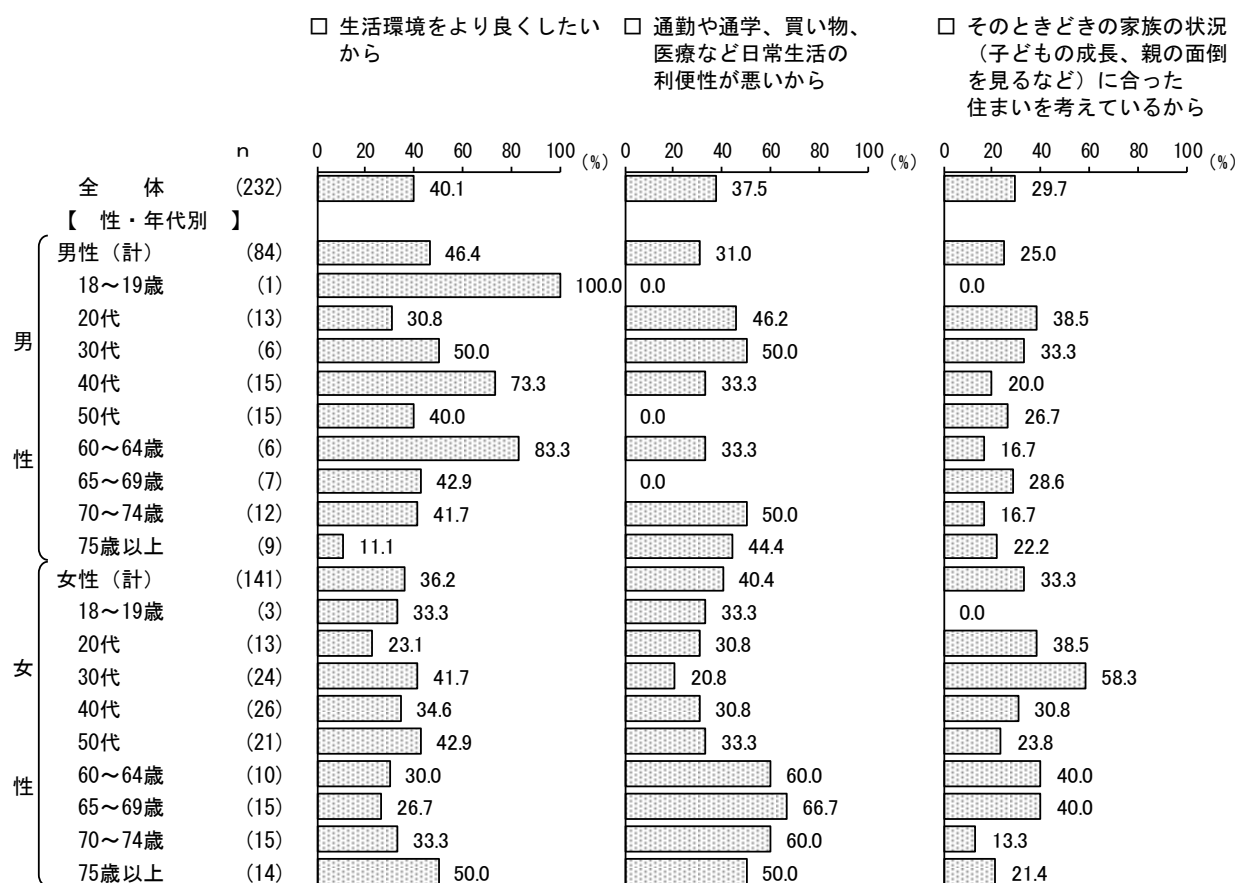
「移りたい」と回答した232人を対象に、移りたい理由を聞いたところ、「生活環境をより良くしたいから」（40.1%）が４割で最も高く、以下、「通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから」（37.5%）、「そのときどきの家族の状況（子どもの成長、親の面倒を見るなど）に合った住まいを考えているから」（29.7%）、「公共施設（道路や上下水道、公園や図書館など）や教育・子育て、文化の環境が整っていないから」（18.5%）が続く。（図表１－５）

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表１－６）

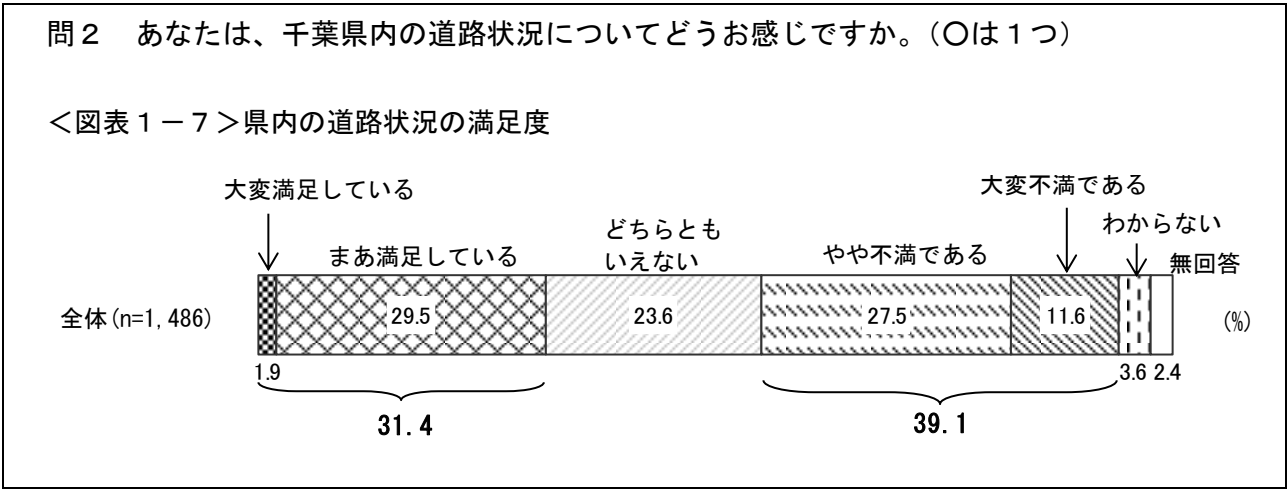
[参考]＜図表 1－6＞移りたい理由（3つまでの複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





（２）県内の道路状況の満足度

◇『満足している（計）』が３割を超える



県内の道路状況の満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.9％）と「まあ満足している」（29.5％）を合わせた『満足している（計）』（31.4％）が３割を超えている。

一方、「やや不満である」（27.5％）と「大変不満である」（11.6％）を合わせた『不満である（計）』（39.1％）は約４割となっている。（図表１－７）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

	n	満足している（計）	不満である（計）	無回答または どちらともいえない またはわからない
令和５年度調査	(1,561)	30.7	39.8	29.5
令和６年度調査	(1,535)	31.7	39.3	29.1
令和７年度調査	(1,486)	31.4	39.1	29.5

【地域別】

地域別にみると、『満足している（計）』は“印旛地域”（38.8％）が約４割で高くなっている。

一方『不満である（計）』は“葛南地域”（46.3％）が４割台半ばで高くなっている。

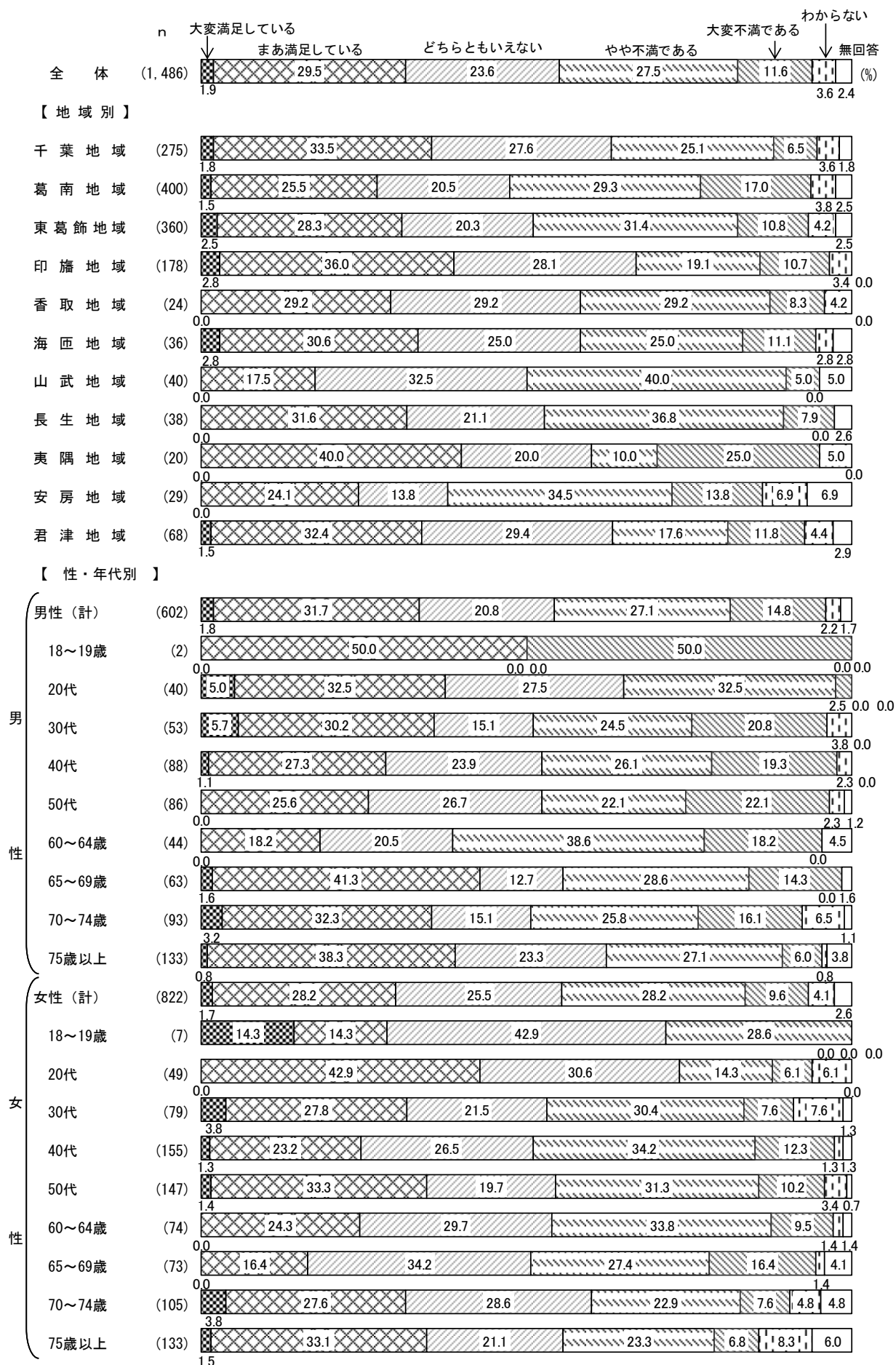
（図表１－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の65～69歳（42.9％）が４割を超え、男性の75歳以上（39.1％）が約４割で高くなっている。

一方、『不満である（計）』は男性の60～64歳（56.8％）が５割台半ば、女性の40代（46.5％）が４割台半ばで高くなっている。（図表１－８）

＜図表 1－8＞県内の道路状況の満足度／地域別、性・年代別

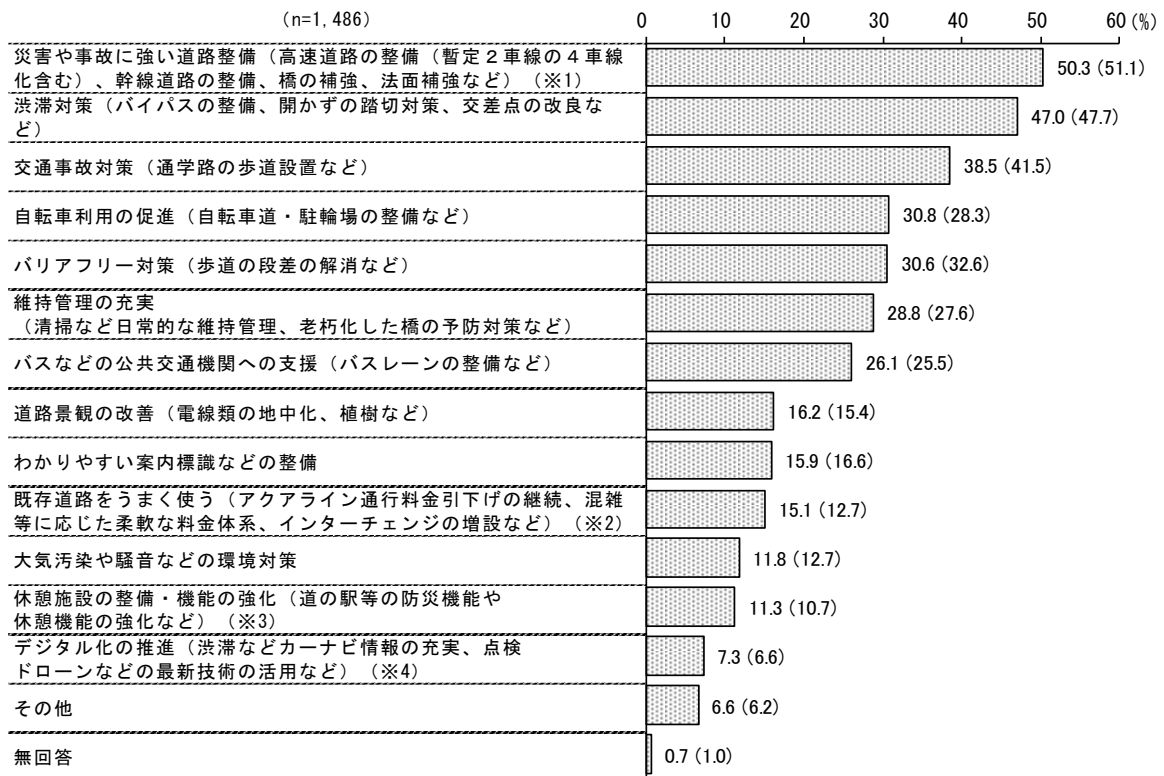


（３）今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題

◇「災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定２車線の４車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）」が５割

問３ あなたは、今後、道路整備をしていく上で、優先的に対策すべき課題は何だと思いますか。（○はいくつでも）

＜図表１－９＞今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題（複数回答）



注）（ ）の数字は令和６年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

（※１）令和６年度調査では「災害に強い道路整備（高速道路の整備、幹線道路の整備、橋の補強など）」

（※２）令和６年度調査では「既存道路の有効活用（アクアラインの通行料金の引下げの継続、インターチェンジの増設など）」

（※３）令和６年度調査では「休憩施設の整備（道の駅等）」

（※４）令和６年度調査では「カーナビ情報の充実（地図情報、渋滞情報の充実など）」

今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題を聞いたところ、「災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定２車線の４車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）」（50.3%）が５割で最も高く、以下、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」（47.0%）、「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」（38.5%）、「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」（30.8%）が続く。（図表１－９）

【地域別】

地域別にみると、「災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定２車線の４車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）」は「君津地域」（63.2%）が６割を超えて高くなっている。

「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は「葛南地域」（56.8%）

が 5 割台半ばで高くなっている。「自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）」は“葛南地域”（37.0%）が約 4 割、“東葛飾地域”（36.4%）が 3 割台半ばで高くなっている。（図表 1－10）

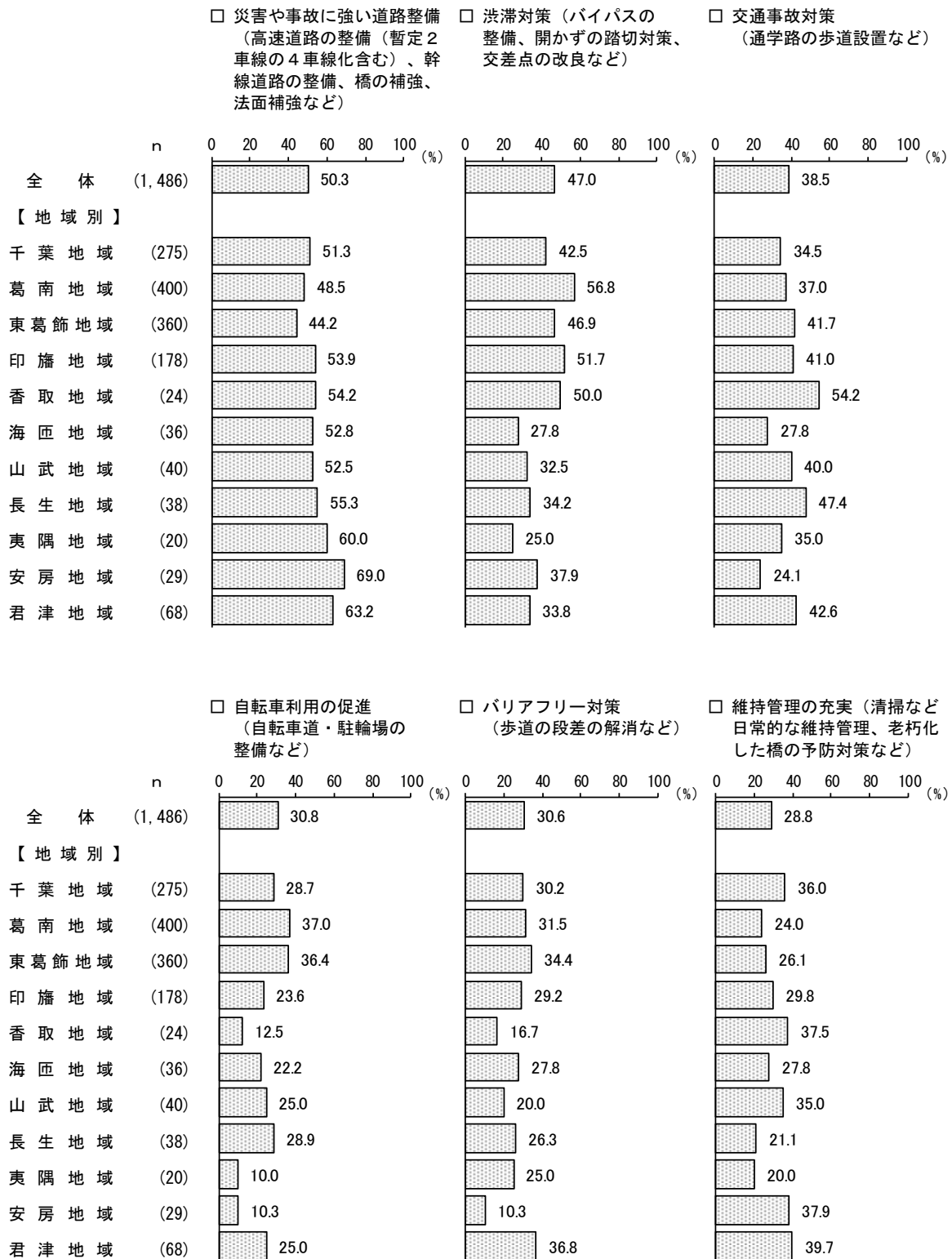
【性・年代別】

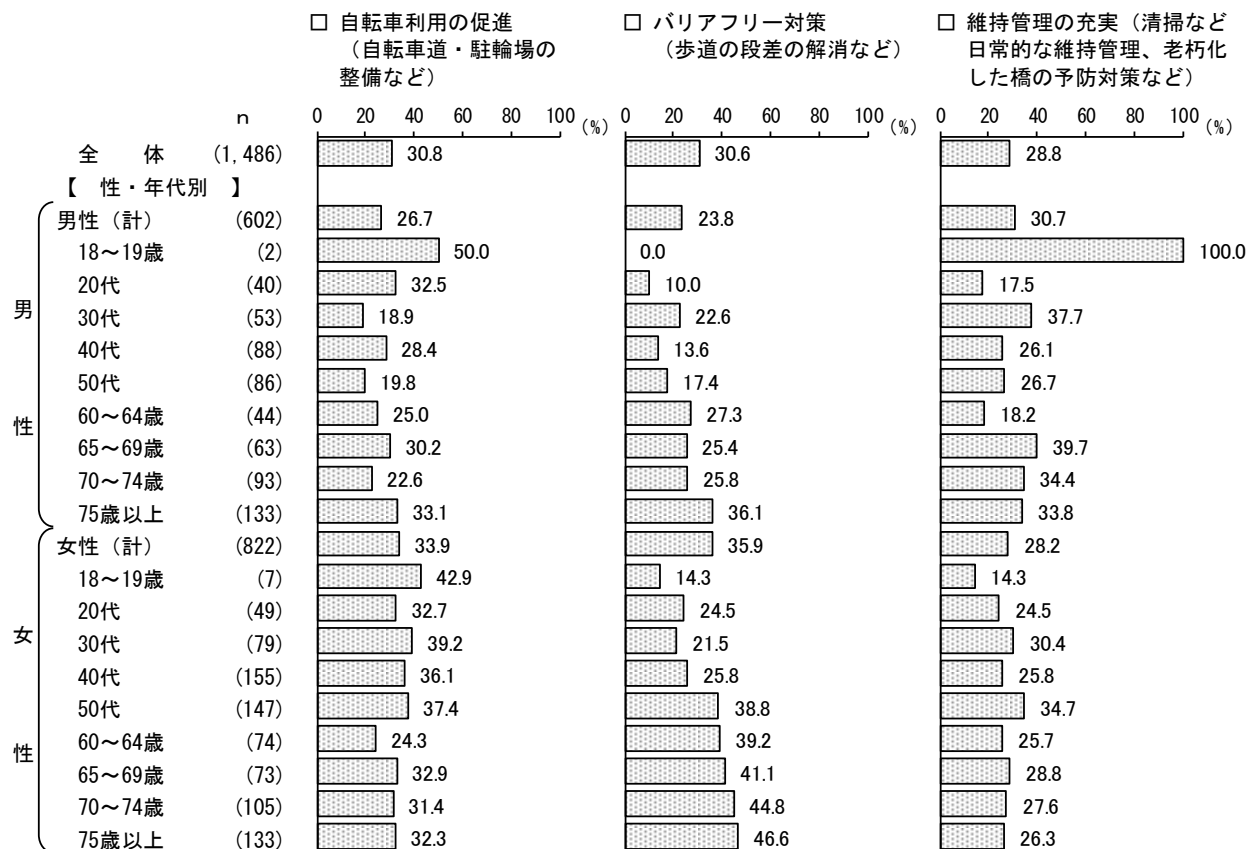
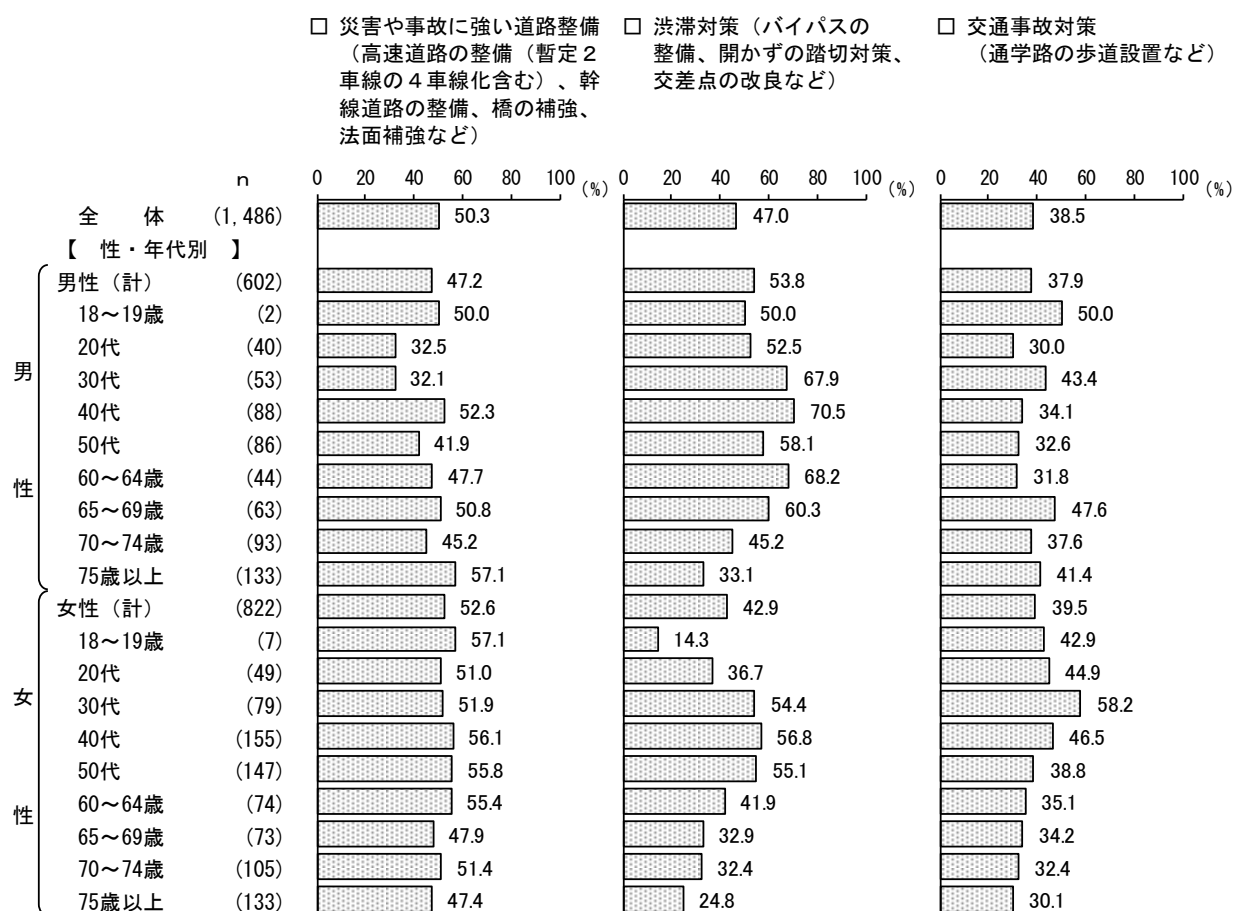
性・年代別にみると、「渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）」は男性の 40 代（70.5%）が 7 割、男性の 60～64 歳（68.2%）と男性の 30 代（67.9%）が約 7 割、男性の 65～69 歳（60.3%）が 6 割、男性の 50 代（58.1%）が約 6 割、女性の 40 代（56.8%）と女性の 50 代（55.1%）が 5 割台半ばで高くなっている。「交通事故対策（通学路の歩道設置など）」は女性の 30 代（58.2%）が約 6 割、女性の 40 代（46.5%）が 4 割台半ばで高くなっている。

（図表 1－10）

＜図表 1－10＞今後、道路整備をしていく上で優先的に対策すべき課題（複数回答）

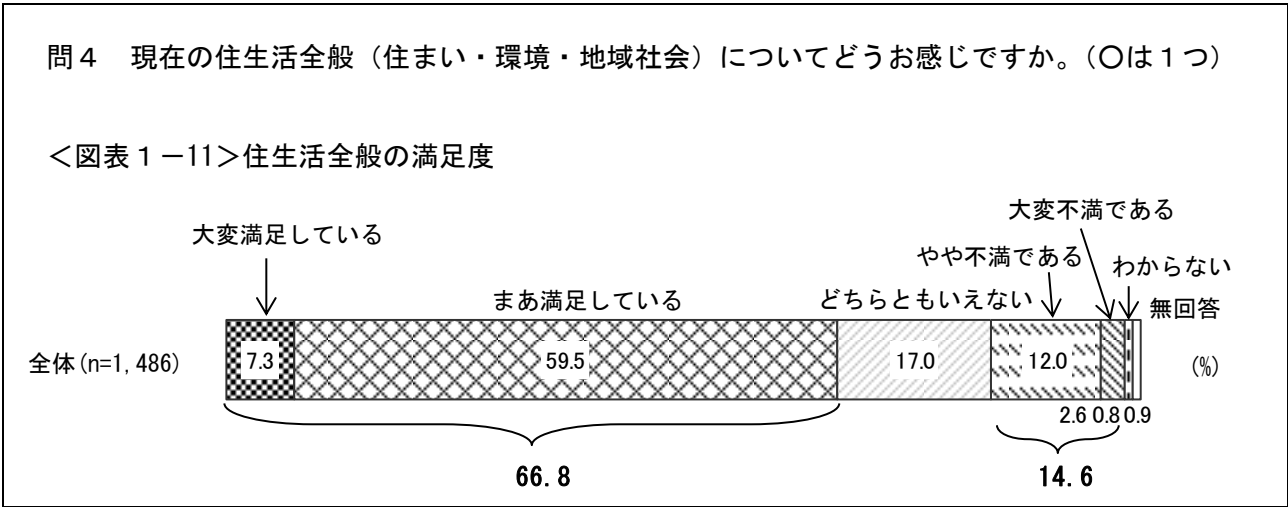
／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





（４）住生活全般の満足度

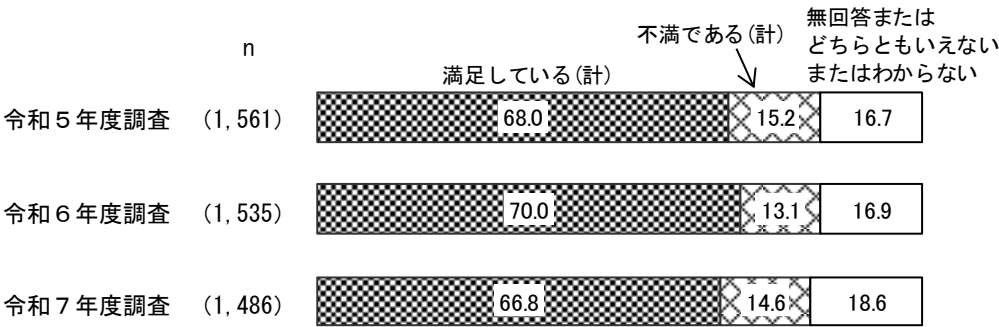
◇『満足している（計）』が６割台半ば



現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（7.3%）と「まあ満足している」（59.5%）を合わせた『満足している（計）』（66.8%）が６割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（12.0%）と「大変不満である」（2.6%）を合わせた『不満である（計）』（14.6%）が１割台半ばとなっている。（図表１－11）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

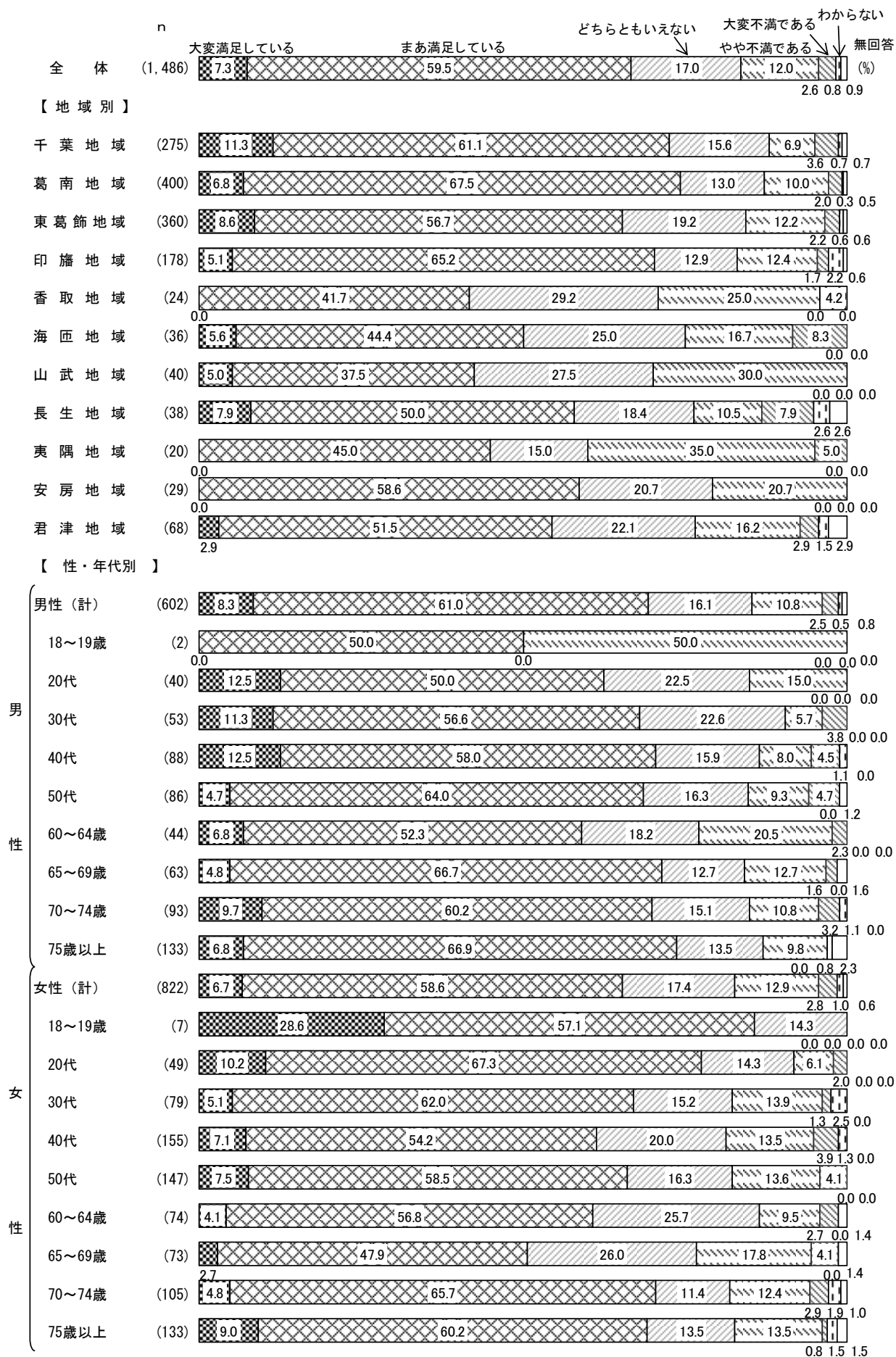
地域別にみると、『満足している（計）』は“葛南地域”（74.3%）が７割台半ば、“千葉地域”（72.4%）が７割を超えて高くなっている。

一方、『不満である（計）』は“山武地域”（30.0%）が３割で高くなっている。（図表１－12）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表１－12）

<図表 1-12>住生活全般の満足度／地域別、性・年代別

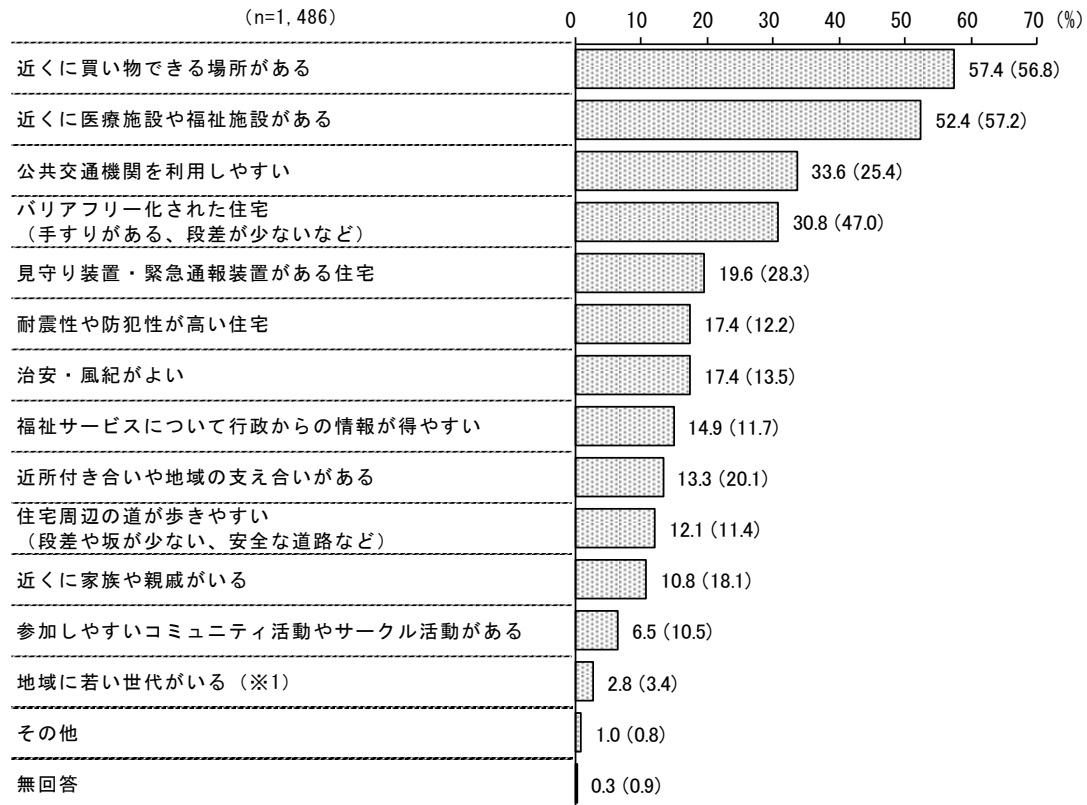


（５）高齢期の住まいで重要なこと

◇「近くに買い物できる場所がある」が約６割

問５ 高齢期における住まいで重要なことは何だと思いますか。（○は３つまで）

<図表１－13> 高齢期の住まいで重要なこと（３つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和２年度の同様の項目による調査結果 n=1,529

（※1）令和２年度調査では「地域に若い世代もいる」

高齢期の住まいで重要なことについて聞いたところ、「近くに買い物できる場所がある」（57.4%）が約６割で最も高く、以下、「近くに医療施設や福祉施設がある」（52.4%）、「公共交通機関を利用しやすい」（33.6%）、「バリアフリー化された住宅（手すりがある、段差が少ないなど）」（30.8%）が続く。（図表１－13）

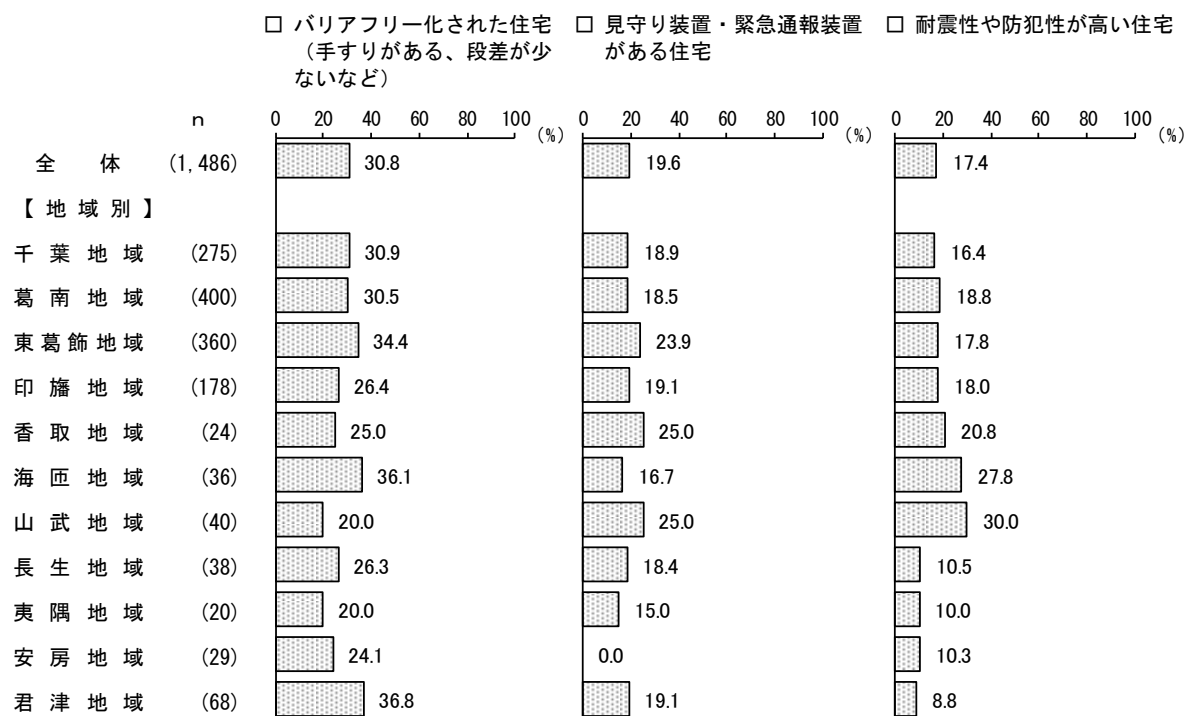
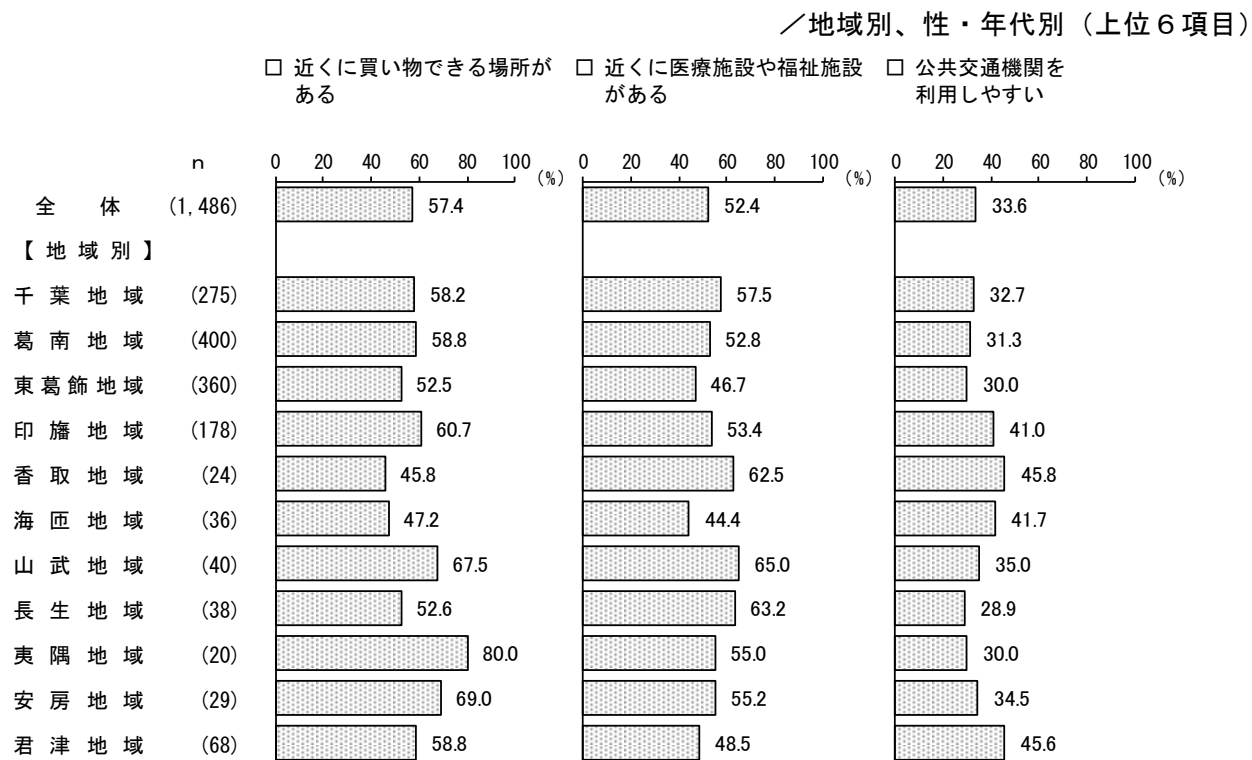
【地域別】

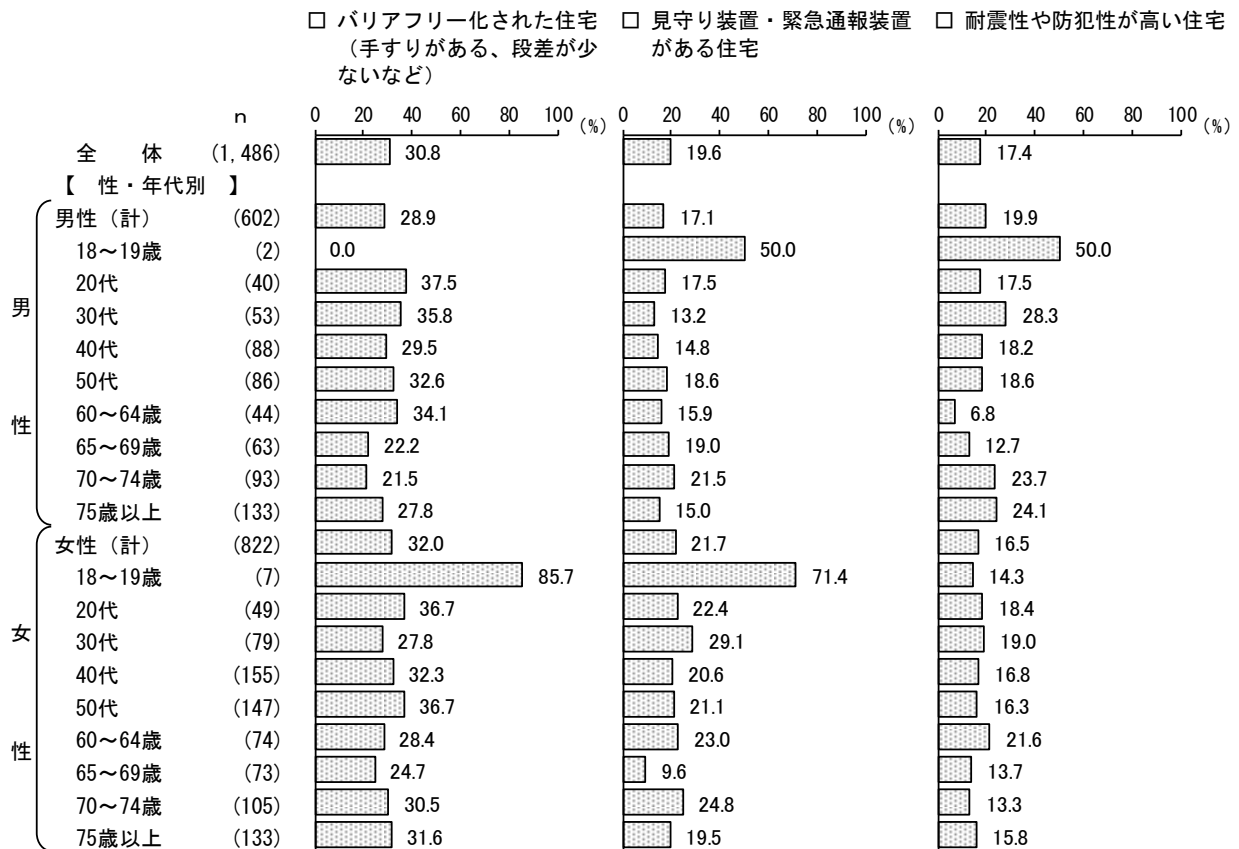
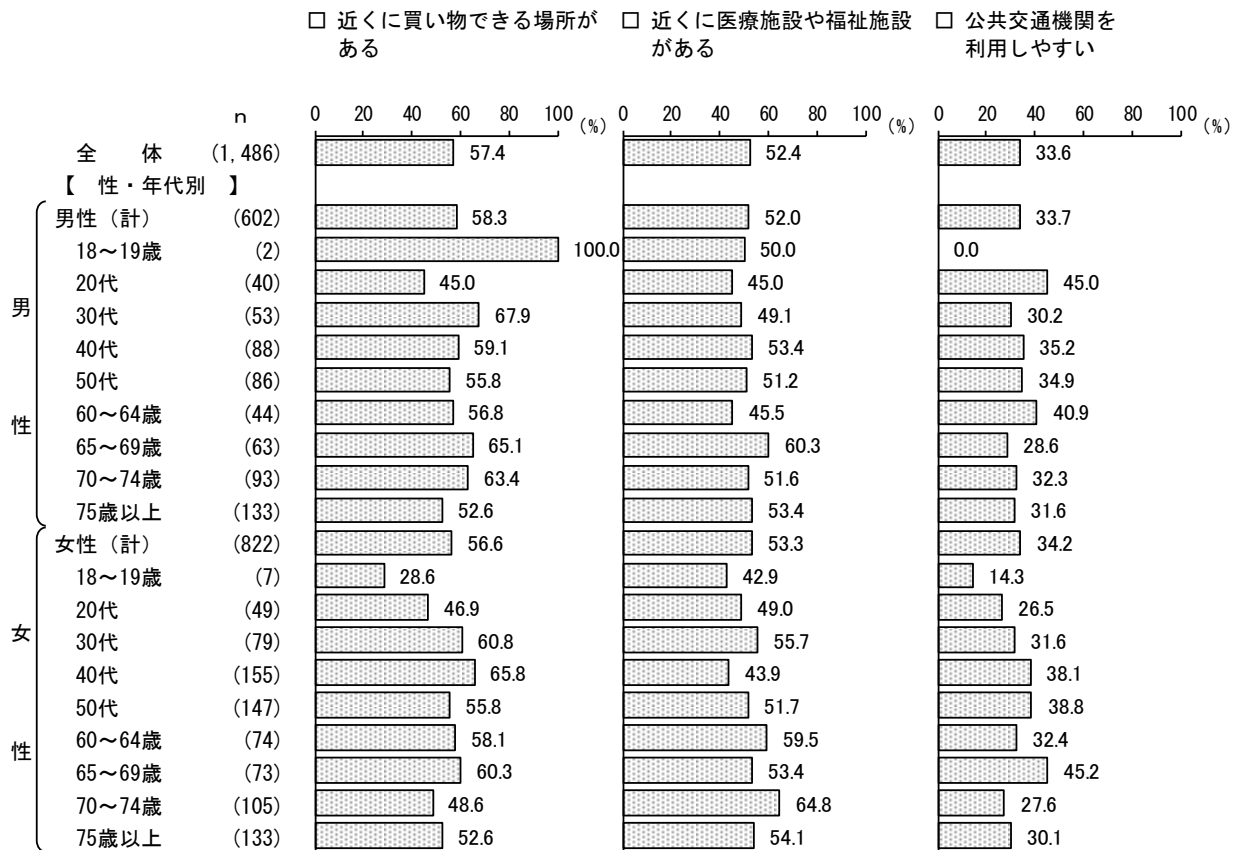
地域別にみると、「公共交通機関を利用しやすい」は“君津地域”（45.6%）が４割台半ば、“印旛地域”（41.0%）が４割を超えて高くなっている。（図表１－14）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「近くに買い物できる場所がある」は女性の40代（65.8%）が６割台半ばで高くなっている。「近くに医療施設や福祉施設がある」は、女性の70～74歳（64.8%）が６割台半ばで高くなっている。「公共交通機関を利用しやすい」は、女性の65～69歳（45.2%）が４割台半ばで高くなっている。（図表１－14）

＜図表 1－14＞高齢期の住まいで重要なこと（3つまでの複数回答）



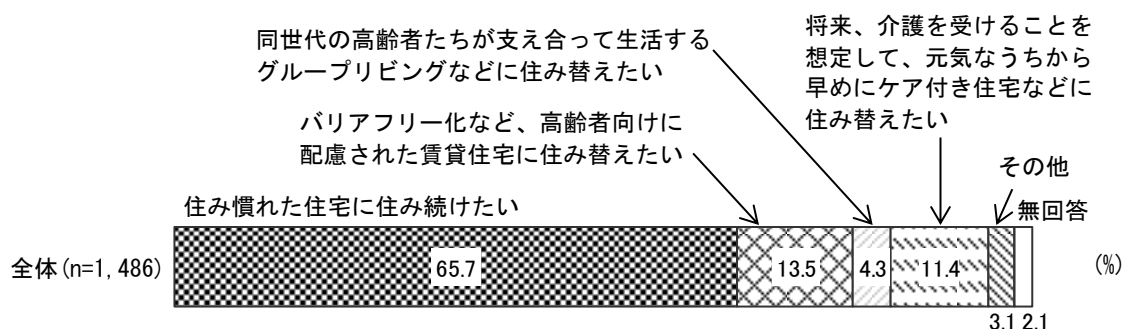


（６）高齢期に住みたい住宅

◇「住み慣れた住宅に住み続けたい」が６割台半ば

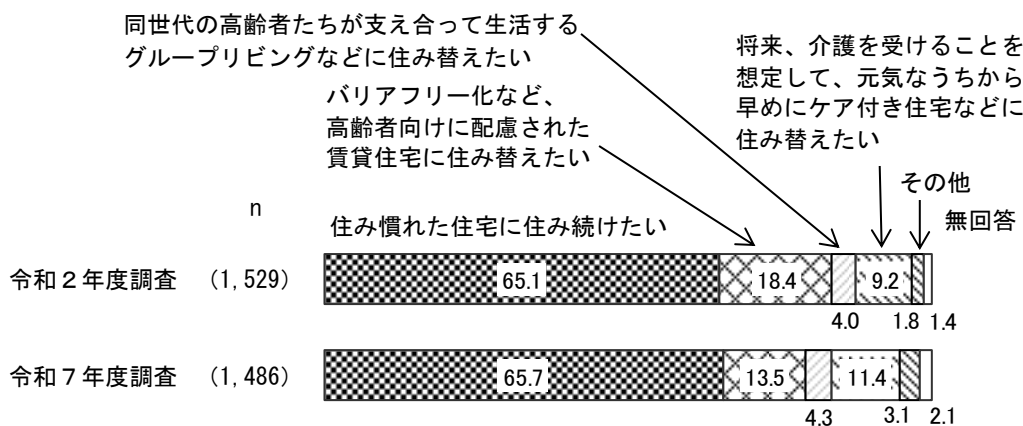
問 6 あなたは、高齢期を迎えたとき、どのような住宅に住みたいと思いますか。（○は１つ）

＜図表 1－15＞高齢期に住みたい住宅



高齢期に住みたい住宅について聞いたところ、「住み慣れた住宅に住み続けたい」（65.7%）が６割台半ばで最も高く、以下、「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された賃貸住宅に住み替えたい」（13.5%）、「将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み替えたい」（11.4%）が続く。（図表 1－15）

【参考】令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いはみられない。（図表 1－16）

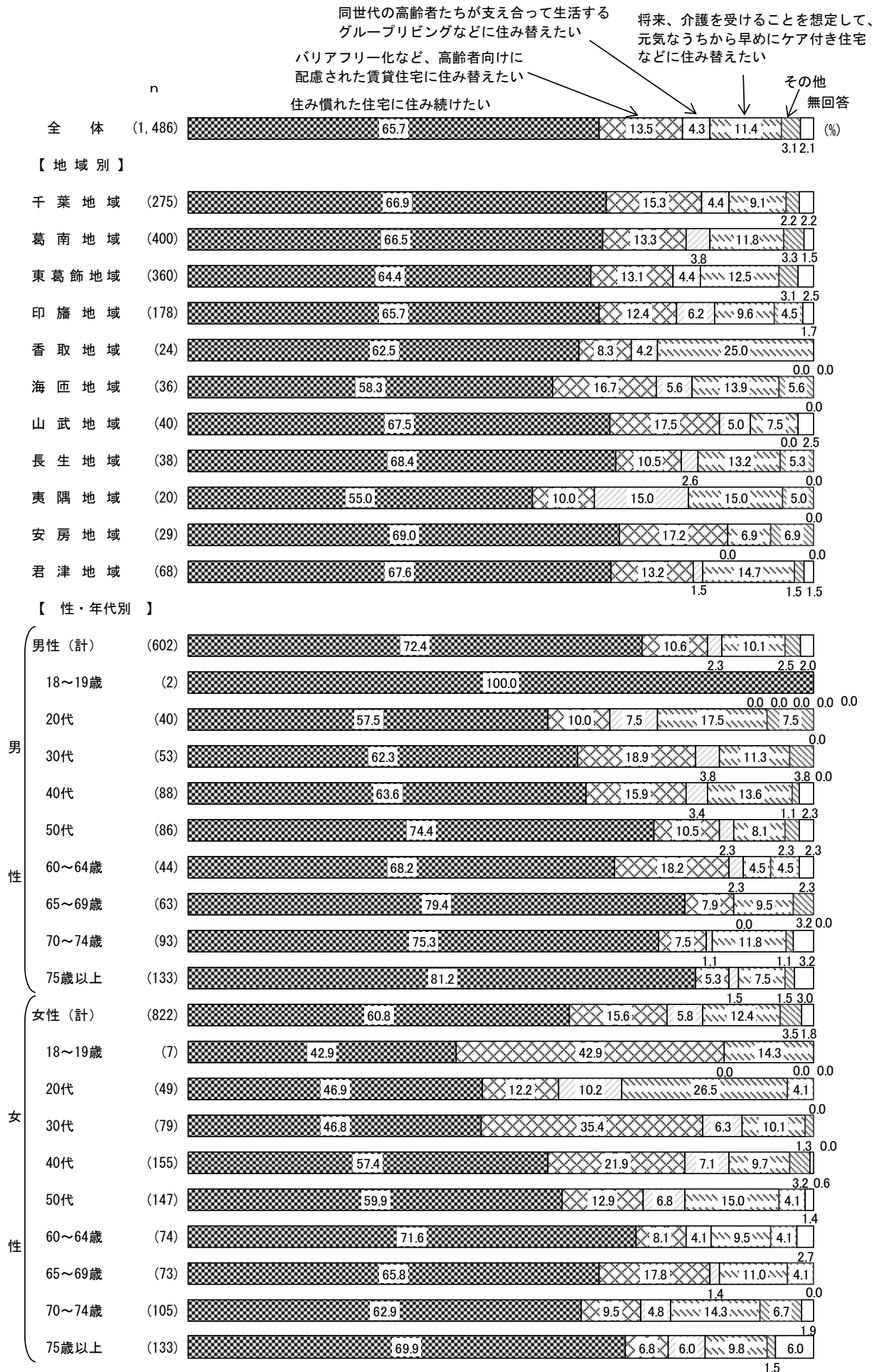
【性・年代別】

性・年代別にみると、「住み慣れた住宅に住み続けたい」は、男性の75歳以上（81.2%）が８割を超え、男性の65～69歳（79.4%）が約８割、男性の70～74歳（75.3%）が７割台半ばで高くなっている。

「バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された賃貸住宅に住み替えたい」は、女性の30代（35.4%）が３割台半ば、女性の40代（21.9%）が２割を超えて高くなっている。

「将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み替えたい」は、女性の20代（26.5%）が２割台半ばで高くなっている。（図表 1－16）

＜図表 1－16＞高齢期に住みたい住宅／地域別、性・年代別

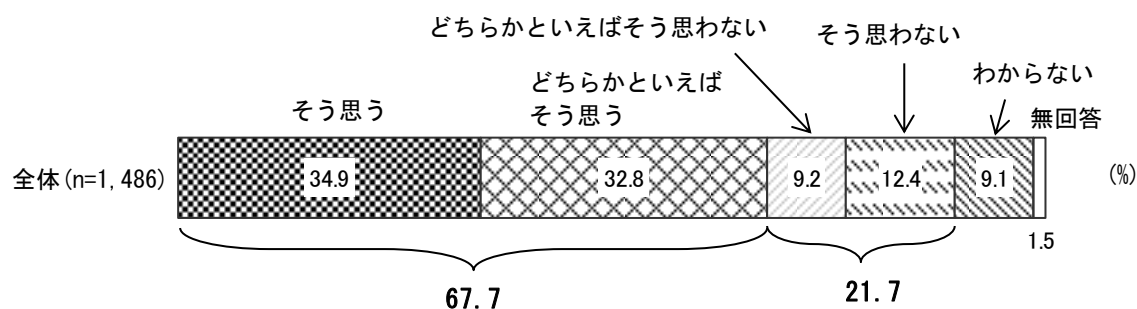


（７）高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

◇『そう思う（計）』が約７割

問７ 高齢期に備え、あなたがお住まいの住宅の建て替え、買い替え、リフォームなどが必要だと思いますか。予定の有無にかかわらずお答えください。（○は１つ）

＜図表 1－17＞高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

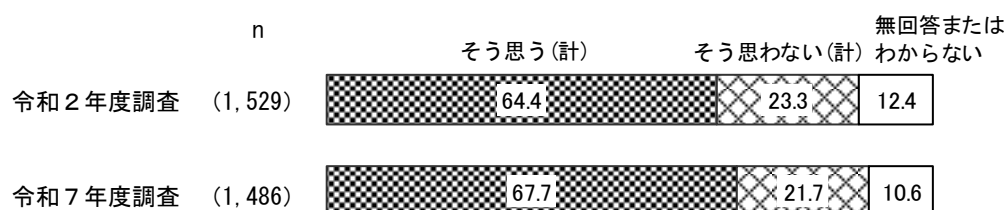


高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性について聞いたところ、「そう思う」（34.9%）と「どちらかといえばそう思う」（32.8%）を合わせた『そう思う（計）』（67.7%）が約７割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（9.2%）と「そう思わない」（12.4%）を合わせた『そう思わない（計）』（21.7%）が２割を超えている。

また、「わからない」（9.1%）が約１割となっている。（図表 1－17）

〔参考〕令和２年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



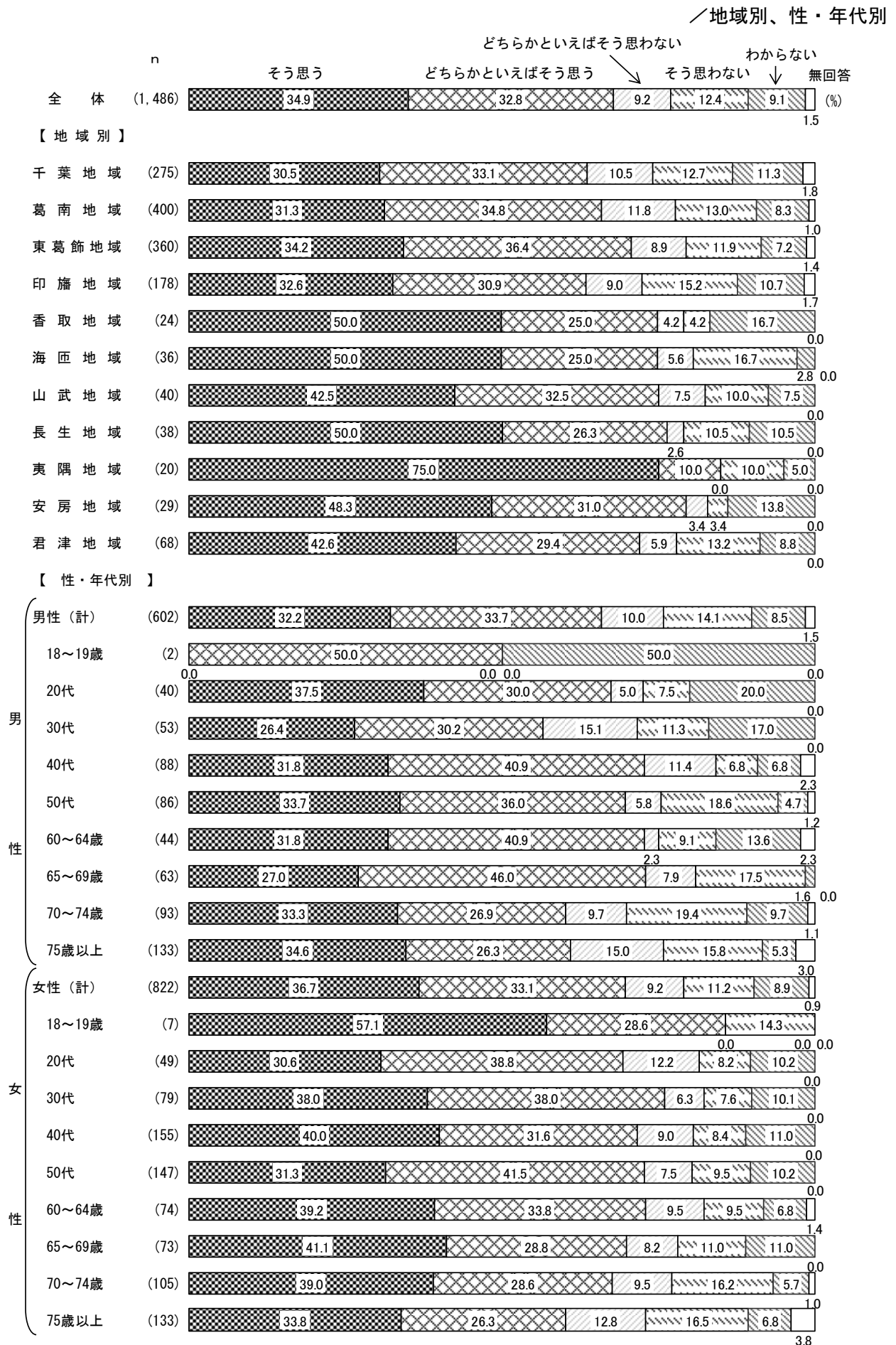
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－18）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思わない（計）』は男性の75歳以上（30.8%）が３割、女性の75歳以上（29.3%）が約３割で高くなっている。（図表 1－18）

<図表 1-18>高齢期に備えた住宅の建て替え、買い替え、リフォームの必要性

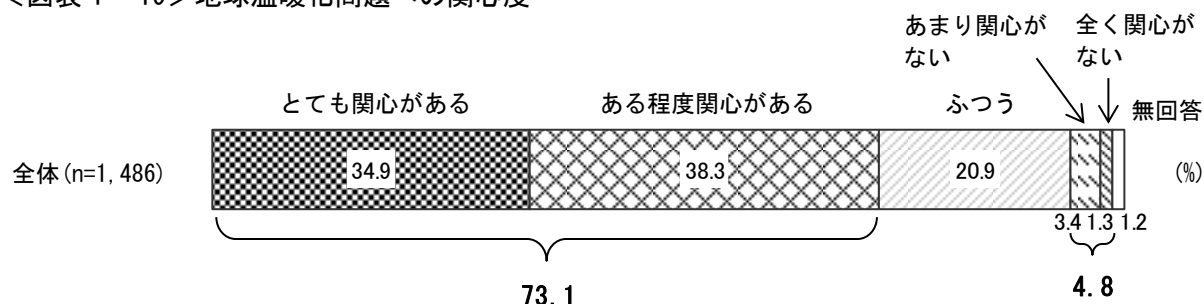


（８）地球温暖化問題の関心度

◇『関心がある（計）』が 7 割を超える

問 8 あなたは、地球温暖化問題にどの程度関心がありますか。（○は 1 つ）

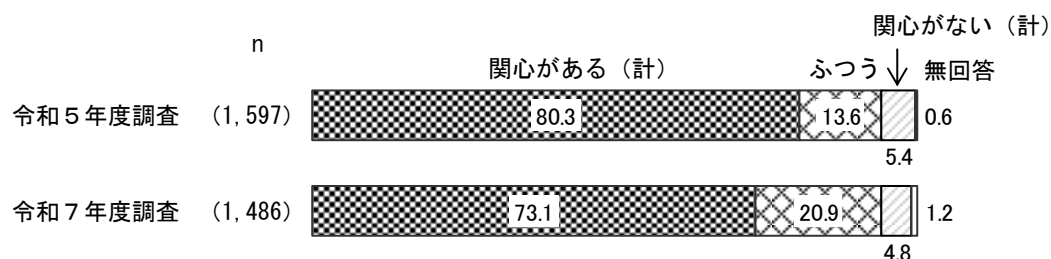
＜図表 1－19＞地球温暖化問題への関心度



地球温暖化問題について、その関心度を聞いたところ、「とても関心がある」（34.9%）と「ある程度関心がある」（38.3%）を合わせた『関心がある（計）』（73.1%）が 7 割を超えている。

一方、「あまり関心がない」（3.4%）と「全く関心がない」（1.3%）をあわせた『関心がない（計）』（4.8%）が 1 割未満、「ふつう」（20.9%）は 2 割となっている。（図表 1－19）

〔参考〕令和 5 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



注）令和 5 年度は、以下の説明を提示して実施

「地球温暖化問題」は、その予想される影響の大きさや深刻さから見て、最も重要な環境問題の 1 つとされており、既に世界的にも平均気温の上昇、雪氷の融解、海面水位の上昇が観測されています。

【地域別】

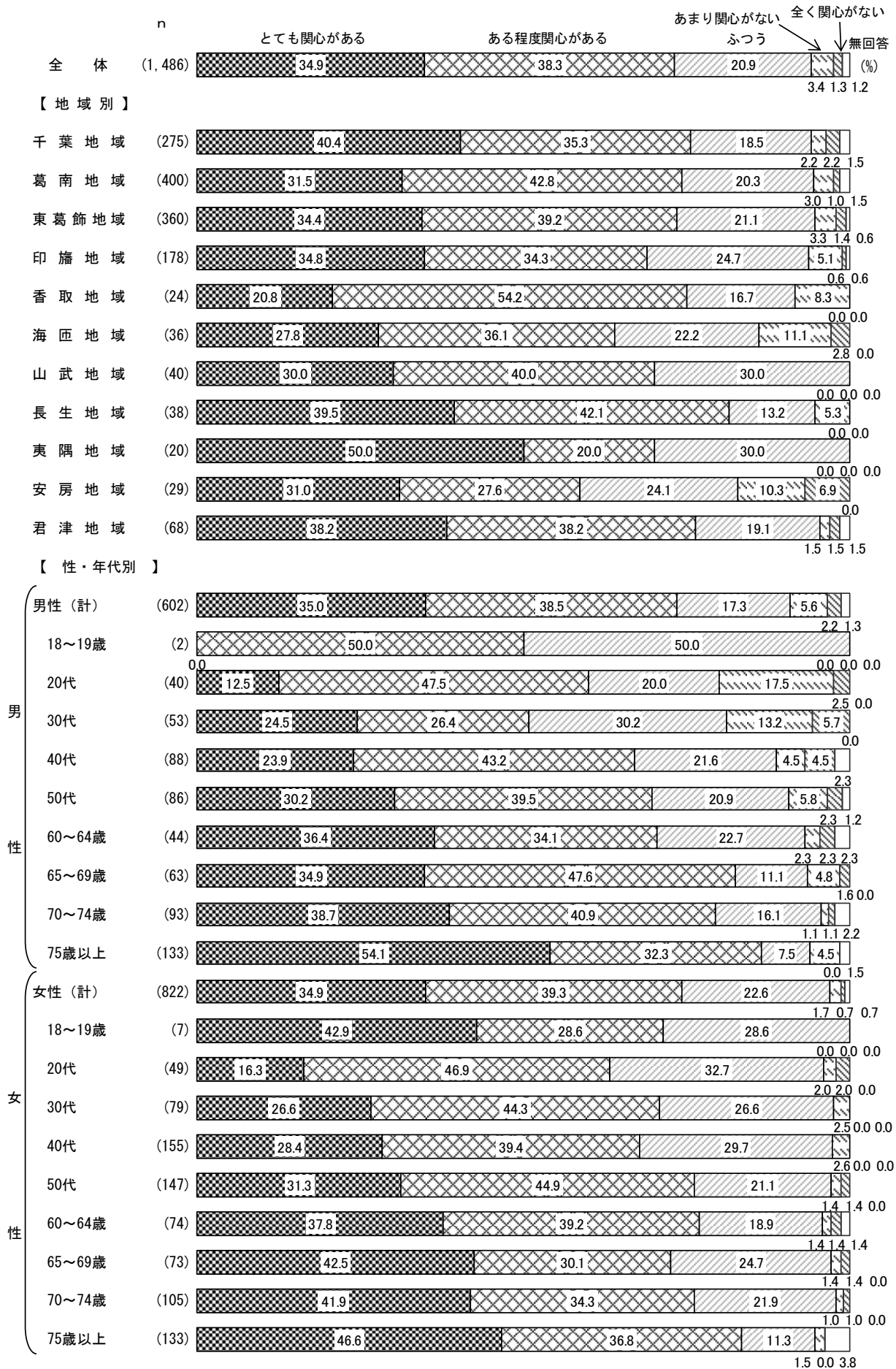
地域別にみると、『関心がない（計）』は“海匝地域”（13.9%）が 1 割台半ばで高くなっている。
（図表 1－20）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある（計）』は、男性の 75 歳以上（86.5%）と女性の 75 歳以上（83.5%）が 8 割台半ばで高くなっている。

一方、『関心がない（計）』は、男性の 20 代（20.0%）が 2 割、男性の 30 代（18.9%）が約 2 割で高くなっている。（図表 1－20）

<図表 1-20>地球温暖化問題への関心度／地域別、性・年代別

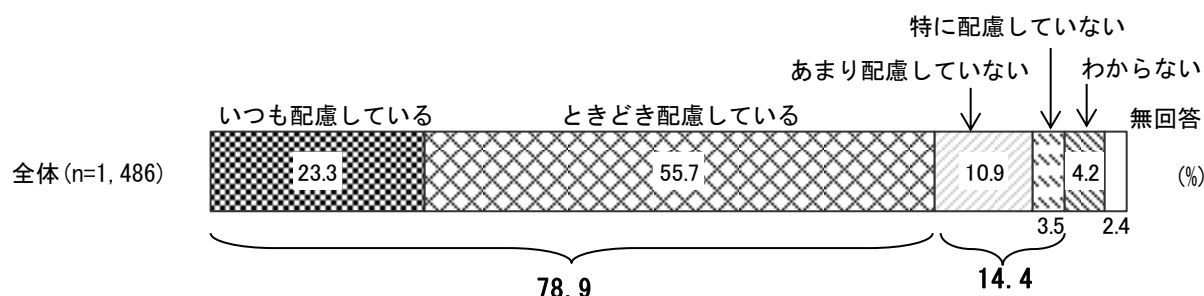


（９）環境に配慮した行動

◇『配慮している（計）』が約 8 割

問 9 日常生活の中で環境に配慮して行動していますか。（○は 1 つ）

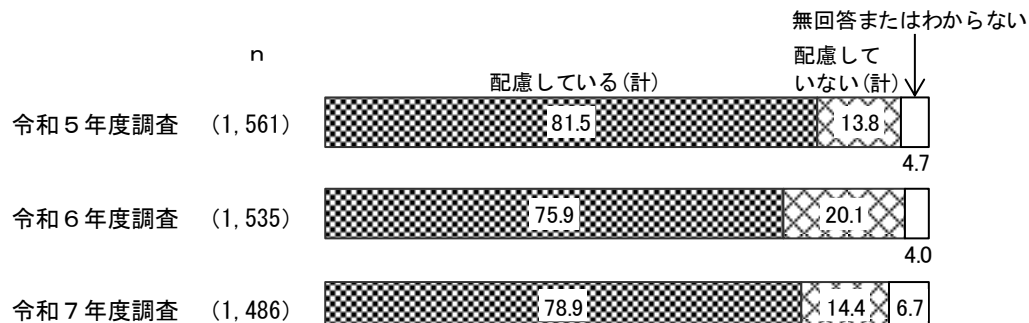
＜図表 1－21＞環境に配慮した行動



日常生活の中で環境に配慮して行動しているか聞いたところ、「いつも配慮している」（23.3%）と「ときどき配慮している」（55.7%）を合わせた『配慮している（計）』（78.9%）が約 8 割となっている。

一方、「あまり配慮していない」（10.9%）と「特に配慮していない」（3.5%）を合わせた『配慮していない（計）』（14.4%）が 1 割台半ばとなっている。（図表 1－21）

〔参考〕令和 5 年度・6 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『配慮していない（計）』は“海匠地域”（27.8%）が約 3 割で高くなっている。（図表 1－22）

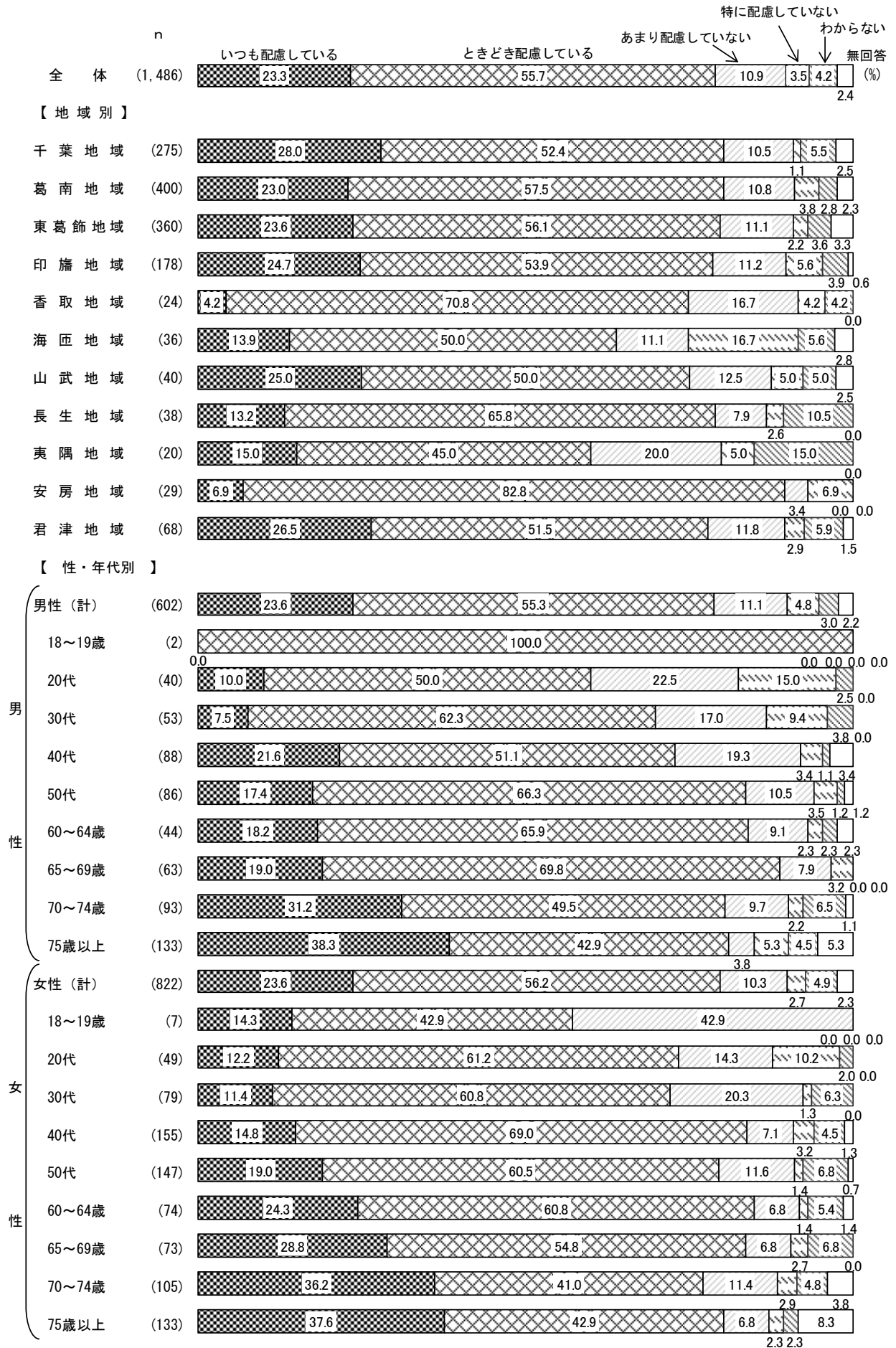
【性・年代別】

性・年代別にみると、『配慮している（計）』は男性の 65～69 歳（88.9%）が約 9 割で高くなっている。

一方、『配慮していない（計）』は男性の 20 代（37.5%）が約 4 割、男性の 30 代（26.4%）と女性の 20 代（24.5%）は 2 割台半ば、男性の 40 代（22.7%）が 2 割を超えて高くなっている。

（図表 1－22）

<図表 1-22>環境に配慮した行動／地域別、性・年代別



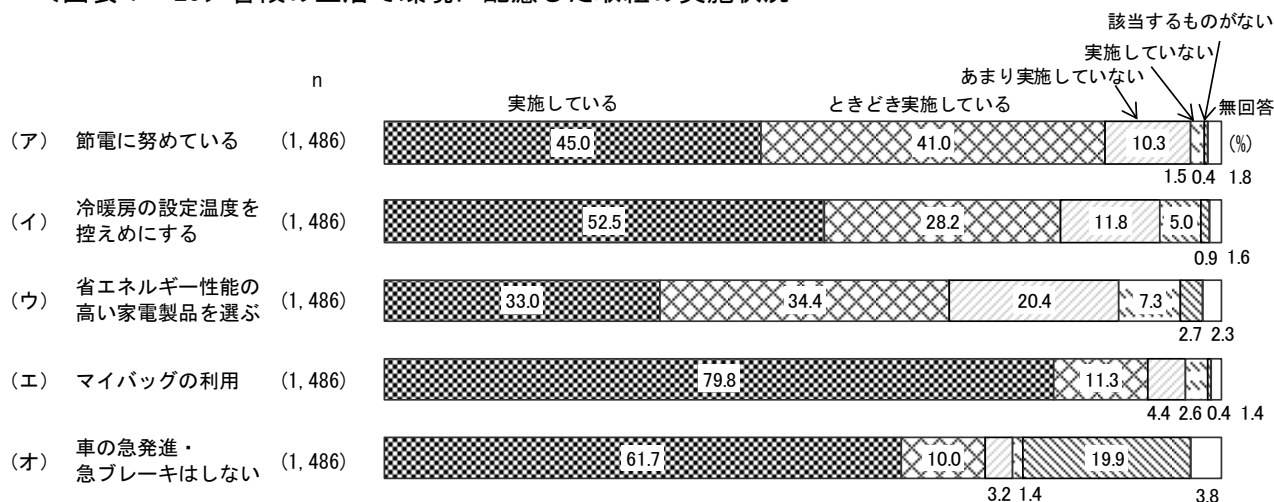
(10) 普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

◇『実施している（計）』が最も高いのは〈マイバッグの利用〉で9割を超える

問10 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。

（○はそれぞれ1つずつ）

＜図表 1－23＞普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況

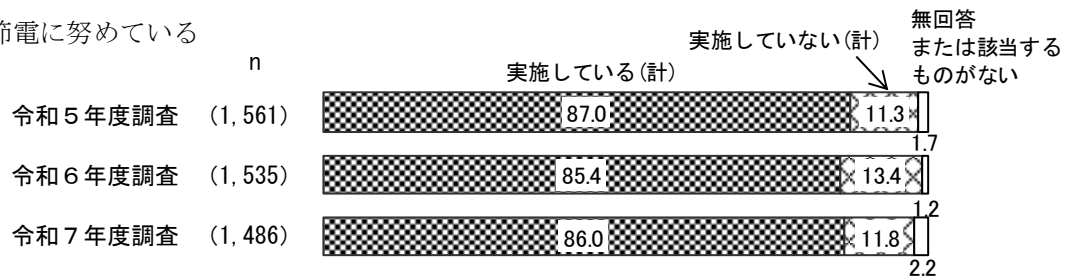


普段の生活で行っている環境保全の取組に関する5つの項目について、それぞれの実施状況を聞いたところ、「実施している」と「ときどき実施している」を合わせた『実施している（計）』が最も高いのは、「(エ) マイバッグの利用」(91.1%)で9割を超え、以下、「(ア) 節電に努めている」(86.0%)が8割台半ば、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(80.7%)が8割で続く。

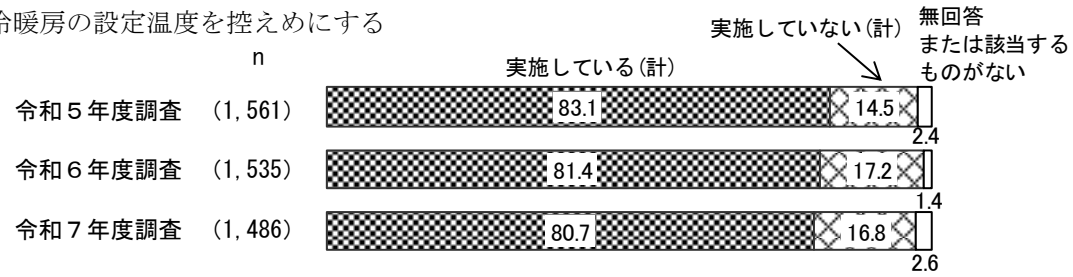
一方、「あまり実施していない」と「実施していない」を合わせた『実施していない（計）』が最も高いのは、「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」(27.7%)で約3割となっており、以下、「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」(16.8%)が1割台半ば、「(ア) 節電に努めている」(11.8%)が1割を超えて続く。(図表 1－23)

[参考] 令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

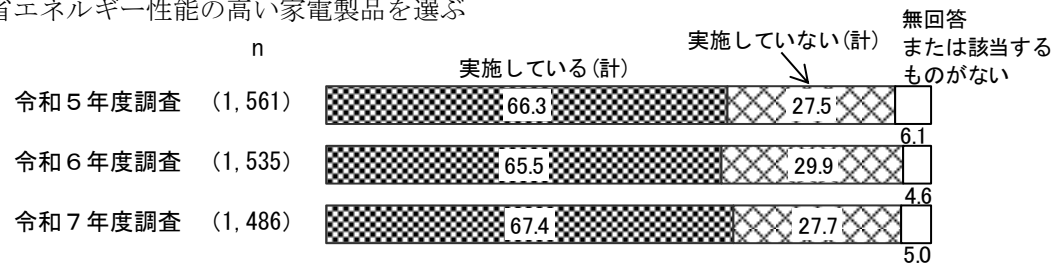
(ア) 節電に努めている



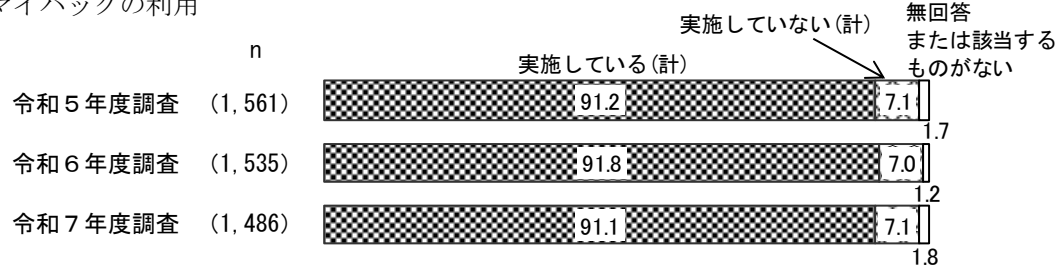
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする



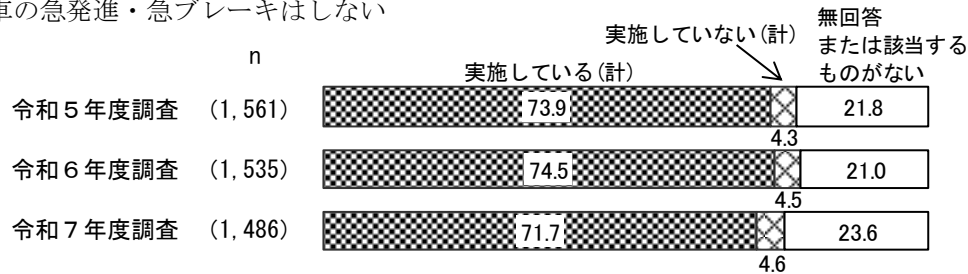
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ



(エ) マイバッグの利用



(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない



【地域別】

地域別にみると、「(ア) 節電に努めている」で大きな傾向の違いは見られない。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している (計)』は“君津地域” (94.1%) が 9 割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施していない (計)』は“山武地域” (42.5%) が 4 割を超えて高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している (計)』は“東葛飾地域” (93.9%) が 9 割台半ばで高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している (計)』は“君津地域” (88.2%) が約 9 割、“長生地域” (86.8%) が 8 割台半ばで高くなっている。(図表 1－24)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 節電に努めている」の『実施している (計)』は女性 60～64 歳 (95.9%) と女性 65～69 歳 (95.9%) が 9 割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない (計)』は男性の 20 代 (30.0%) が 3 割、男性の 30 代 (24.5%) が 2 割台半ばで高くなっている。

「(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする」の『実施している (計)』は男性の 75 歳以上 (91.0%) が 9 割を超え、女性の 70～74 歳 (89.5%) と女性の 75 歳以上 (87.2%) が約 9 割で高くなっている。

一方、『実施していない (計)』は男性の 30 代 (41.5%) が 4 割を超え、男性の 20 代 (37.5%) が約 4 割、女性の 20 代 (30.6%) が 3 割、男性の 50 代 (24.4%) が 2 割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ」の『実施している (計)』は女性の 60～64 歳 (79.7%) が約 8 割、女性の 50 代 (75.5%) が 7 割台半ばで高くなっている。

一方、『実施していない (計)』は女性の 20 代 (59.2%) が約 6 割、男性の 20 代 (52.5%) が 5 割を超え、男性の 30 代 (47.2%) が約 5 割、女性の 30 代 (38.0%) が約 4 割で高くなっている。

「(エ) マイバッグの利用」の『実施している (計)』は女性の 40 代 (98.1%)、女性の 70～74 歳 (98.1%)、女性の 30 代 (97.5%) が約 10 割、女性の 50 代 (96.6%) が 9 割台半ばで高くなっている。

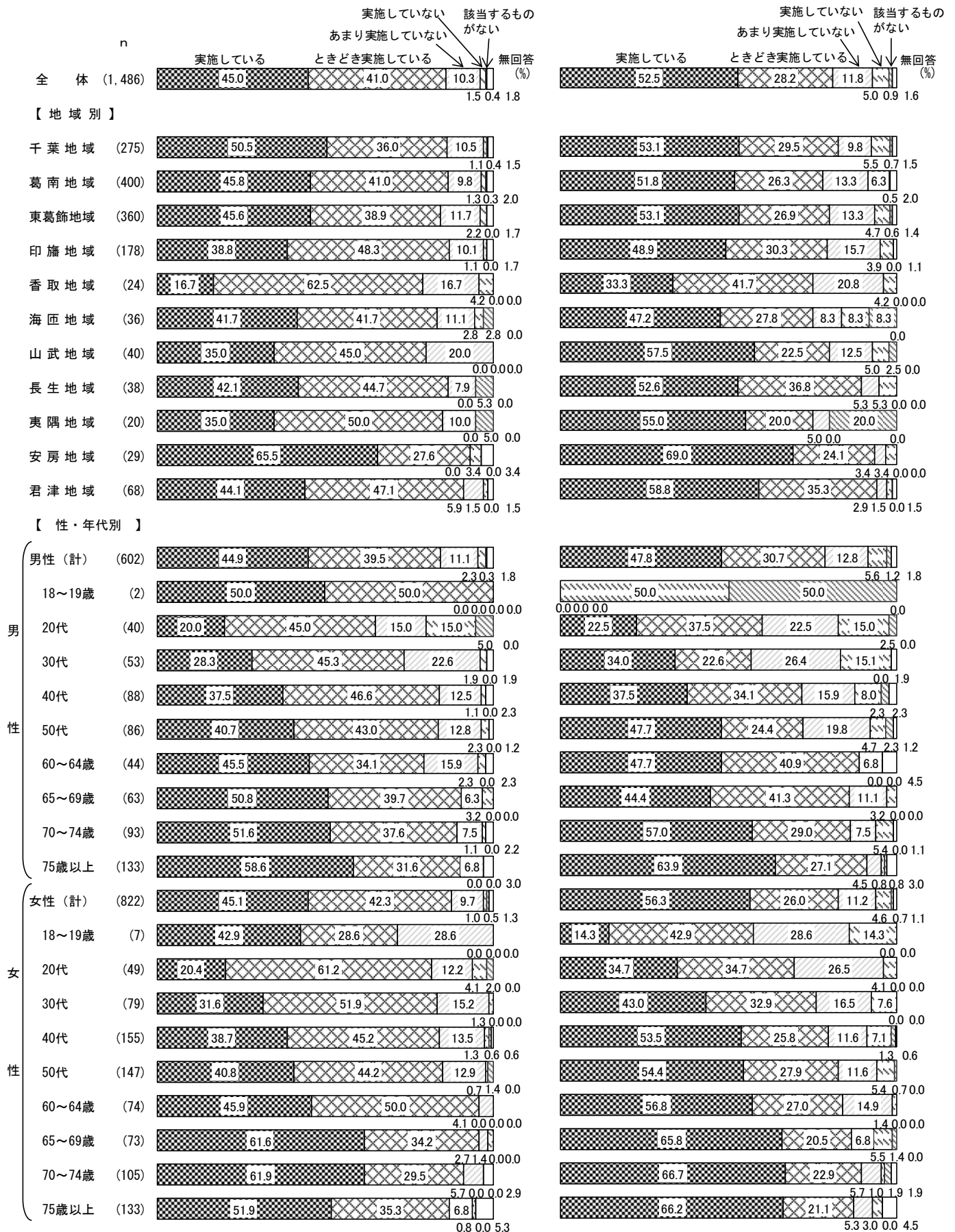
一方、『実施していない (計)』は男性の 20 代 (32.5%) が 3 割を超え、男性の 40 代 (17.0%) が約 2 割、男性の 50 代 (12.8%) が 1 割を超えて高くなっている。

「(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない」の『実施している (計)』は男性の 65～69 歳 (92.1%) が 9 割を超え、男性の 70～74 歳 (86.0%) が 8 割台半ばで高くなっている。(図表 1－24)

＜図表 1－24＞普段の生活で環境に配慮した取組の実施状況／地域別、性・年代別

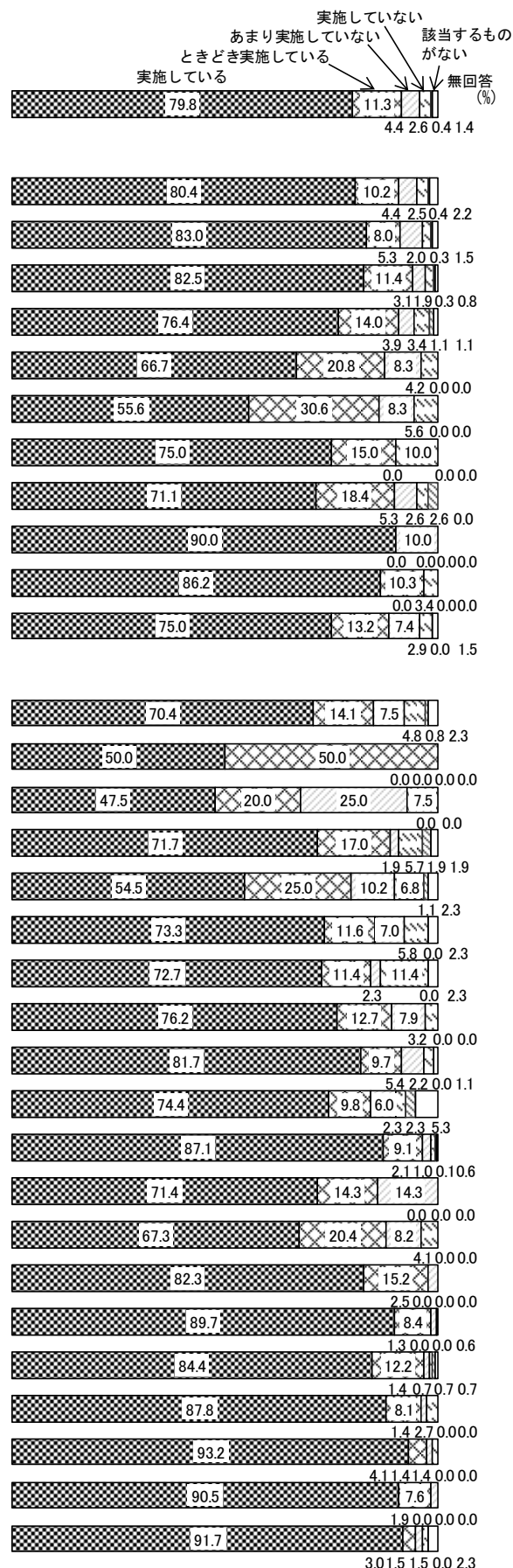
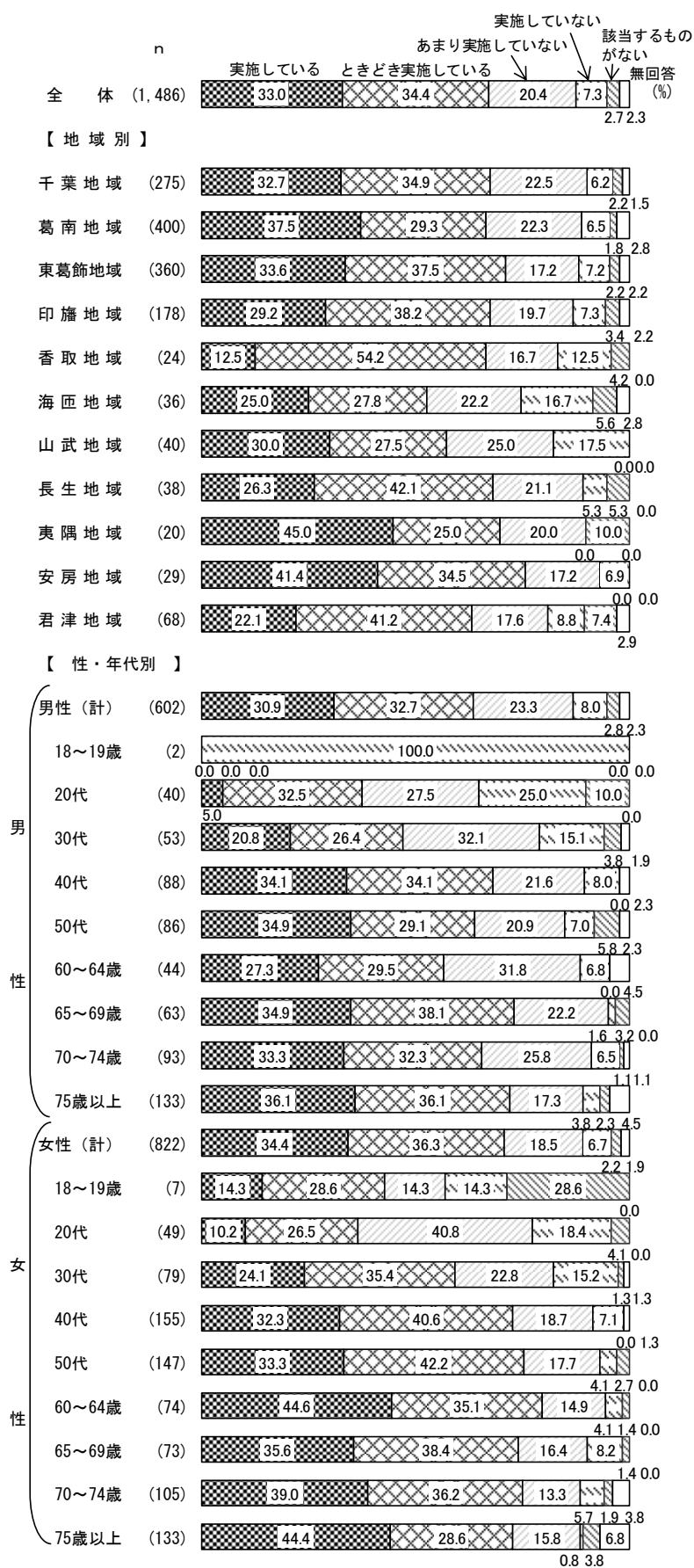
（ア）節電に努めている

（イ）冷暖房の設定温度を控えめにする

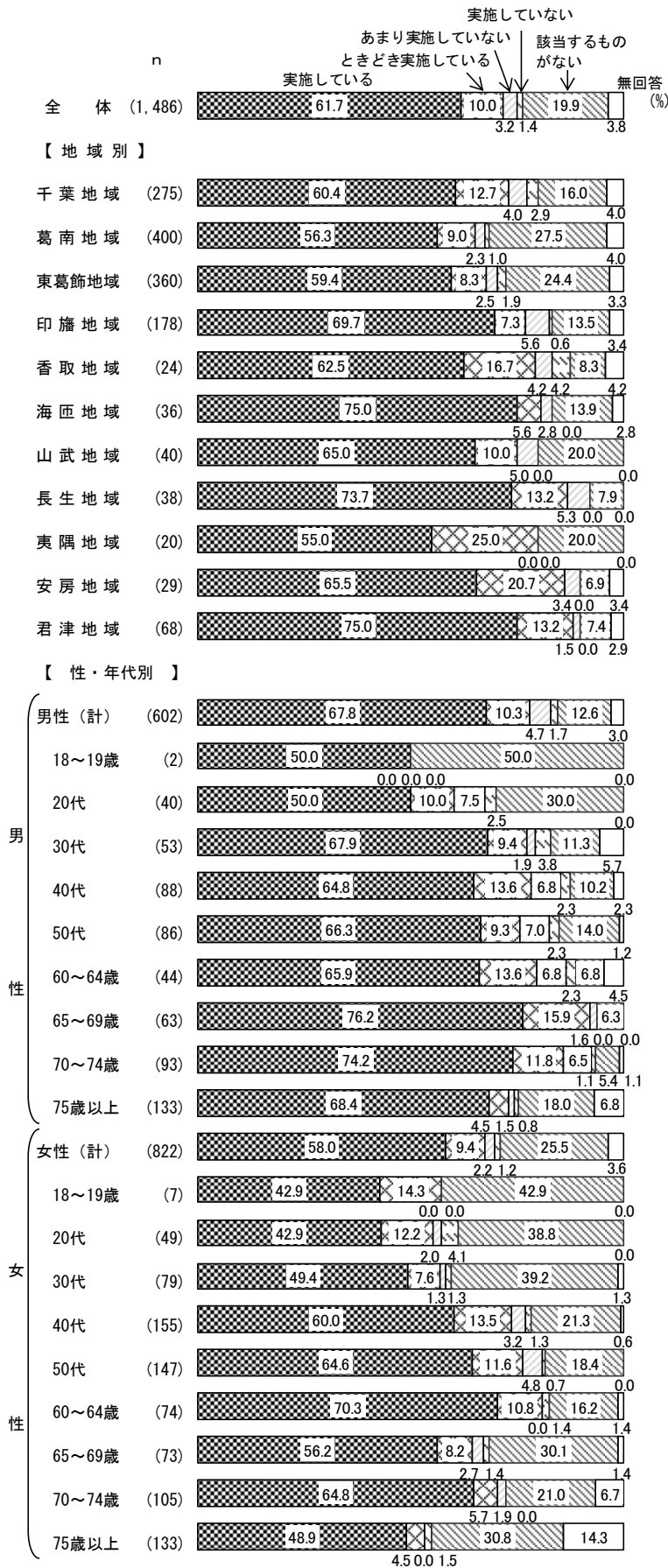


(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ

(エ) マイバッグの利用



(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない

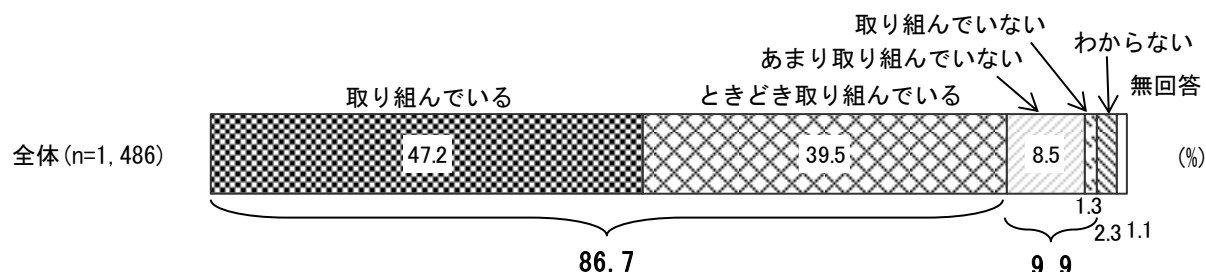


（11）食品ロス削減の取組状況

◇『取り組んでいる（計）』が8割台半ば

問11 あなたは、「食品ロス」の削減に取り組んでいますか。（○は1つ）

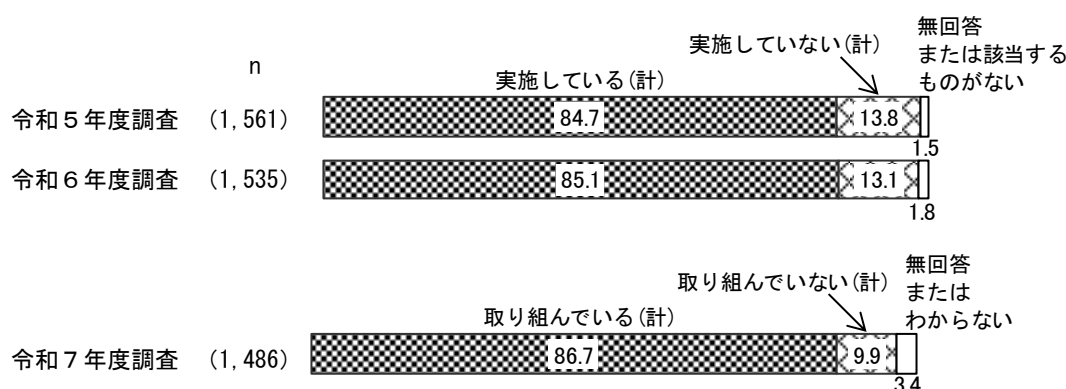
＜図表 1－25＞食品ロス削減の取組状況



食品ロス削減の取組状況を聞いたところ、「取り組んでいる」（47.2％）と「ときどき取り組んでいる」（39.5％）を合わせた『取り組んでいる（計）』（86.7％）が8割台半ばとなっている。

一方、「あまり取り組んでいない」（8.5％）と「取り組んでいない」（1.3％）を合わせた『取り組んでいない（計）』（9.9％）は約1割となっている。（図表 1－25）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



注）令和7年度調査は回答選択肢を変更

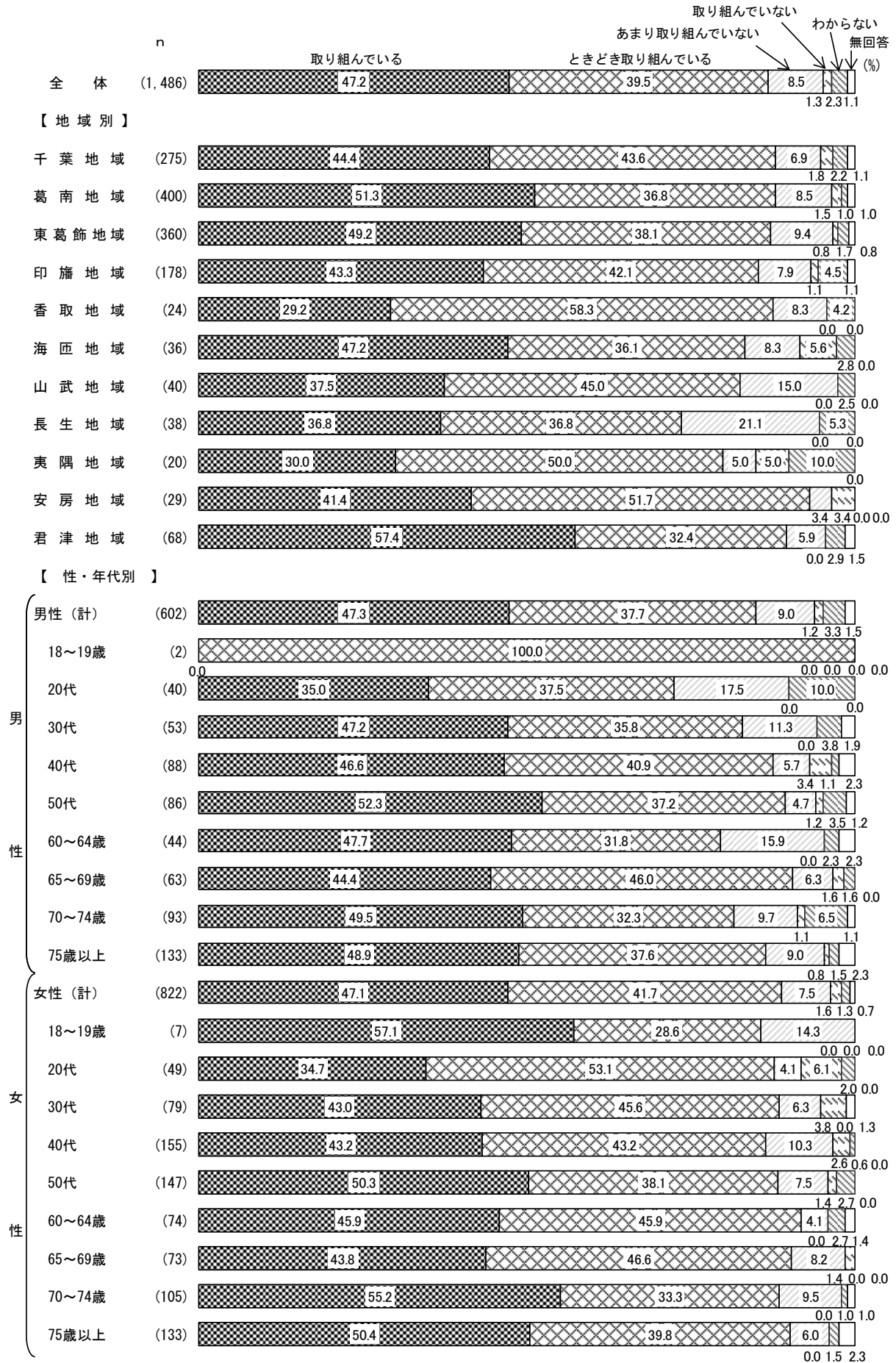
【地域別】

地域別にみると、『取り組んでいない（計）』は“長生地域”（21.1％）が2割を超えて高くなっている。（図表 1－26）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－26）

＜図表 1－26＞食品ロス削減の取組状況／地域別、性・年代別

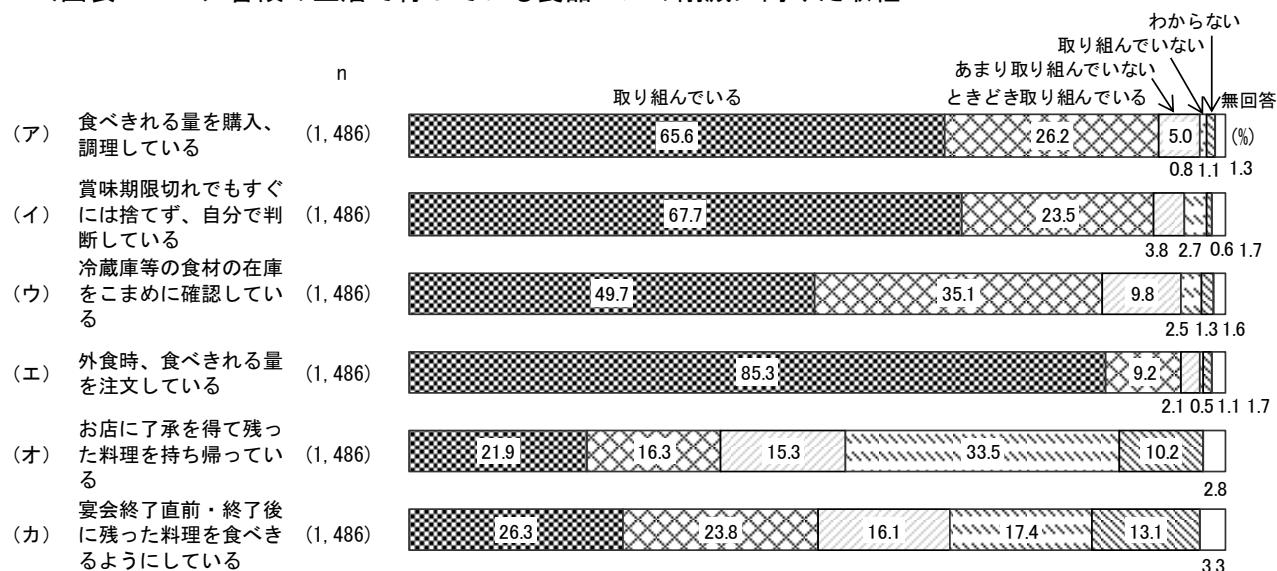


(12) 普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組

◇『取り組んでいる（計）』が最も高いのは〈外食時、食べきれる量を注文している〉で9割台半ば

問12 あなたは、普段の生活で食品ロスの削減に向けた次のような取組を行っていますか。
(○はそれぞれ1つずつ)

<図表 1-27> 普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組



普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組に関する6つの項目について、それぞれの取組状況を聞いたところ、「取り組んでいる」と「ときどき取り組んでいる」を合わせた『取り組んでいる（計）』が最も高いのは、「(エ) 外食時、食べきれる量を注文している」(94.5%)が9割台半ば、以下、「(ア) 食べきれる量を購入、調理している」(91.8%)と「(イ) 賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」(91.2%)が9割を超えて続く。

一方、「あまり取り組んでいない」と「取り組んでいない」を合わせた『取り組んでいない（計）』が最も高いのは、「(オ) お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている」(48.8%)が約5割、以下、「(カ) 宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」(33.4%)が3割を超え、「(ウ) 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している」(12.3%)が1割を超えて続く。

(図表 1-27)

【地域別】

地域別にみると、「(ア) 食べきれる量を購入、調理している」の『取り組んでいる（計）』は“葛南地域”(95.3%)が9割台半ばで高くなっている。一方、『取り組んでいない（計）』は“山武地域”(15.0%)が1割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している」の『取り組んでいない（計）』は“山武地域”(22.5%)が2割を超えて高くなっている。

「(イ) 賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」、「(エ) 外食時、食べきれる量を注文している」、「(オ) お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている」は大きな傾向の違いは見られない。

「(カ)宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」の『取り組んでいる(計)』は“君津地域”(64.7%)が6割台半ばで高くなっている。(図表1-28)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア)食べきれる量を購入、調理している」の『取り組んでいる(計)』は女性の30代(98.7%)が約10割で高くなっている。一方、『取り組んでいない(計)』は男性の40代(11.4%)が1割を超えて高くなっている。

「(イ)賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している」の『取り組んでいない(計)』は男性の20代(15.0%)が1割台半ばで高くなっている。

「(ウ)冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している」の『取り組んでいる(計)』は女性の65～69歳(94.5%)が9割台半ば、女性の50代(93.2%)、女性の70～74歳(91.4%)、女性の75歳以上(91.0%)が9割を超えて高くなっている。一方、『取り組んでいない(計)』は男性の20代(22.5%)が2割を超え、男性の40代(20.5%)が2割で高くなっている。

「(エ)外食時、食べきれる量を注文している」の『取り組んでいる(計)』は男性の65～69歳(100.0%)が10割、女性の40代(99.4%)が約10割で高くなっている。

「(オ)お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている」の『取り組んでいない(計)』は男性の70～74歳(62.4%)が6割を超えて高くなっている。

「(カ)宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている」の『取り組んでいる(計)』は女性の20代(67.3%)が約7割、男性の30代(66.0%)が6割台半ばで高くなっている。

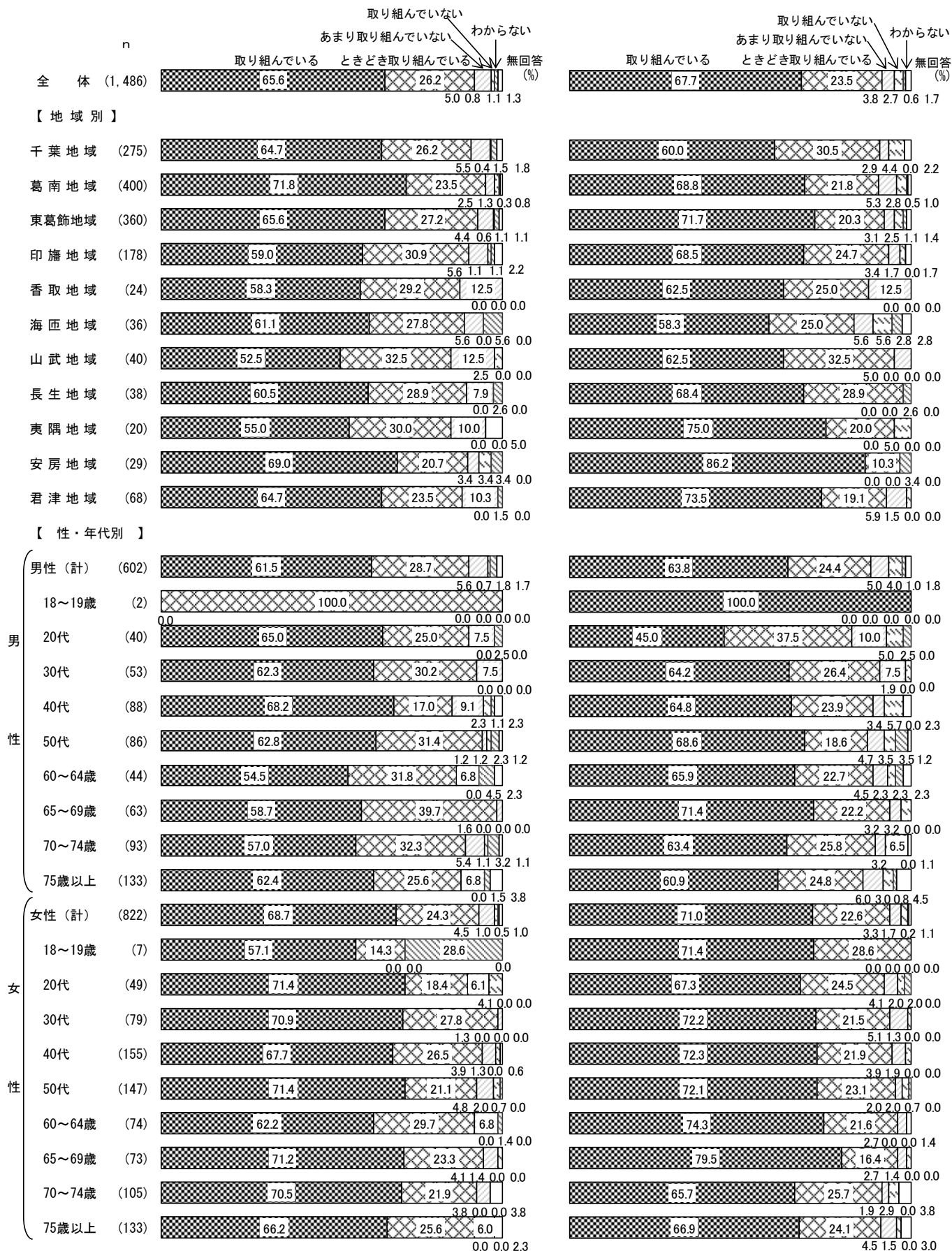
一方、『取り組んでいない(計)』は男性の70～74歳(51.6%)が5割を超え、男性の75歳以上(41.4%)が4割を超えて高くなっている。(図表1-28)

＜図表 1-28＞普段の生活で行っている食品ロスの削減に向けた取組／地域別、性・年代別

(ア) 食べきれる量を購入、調理している

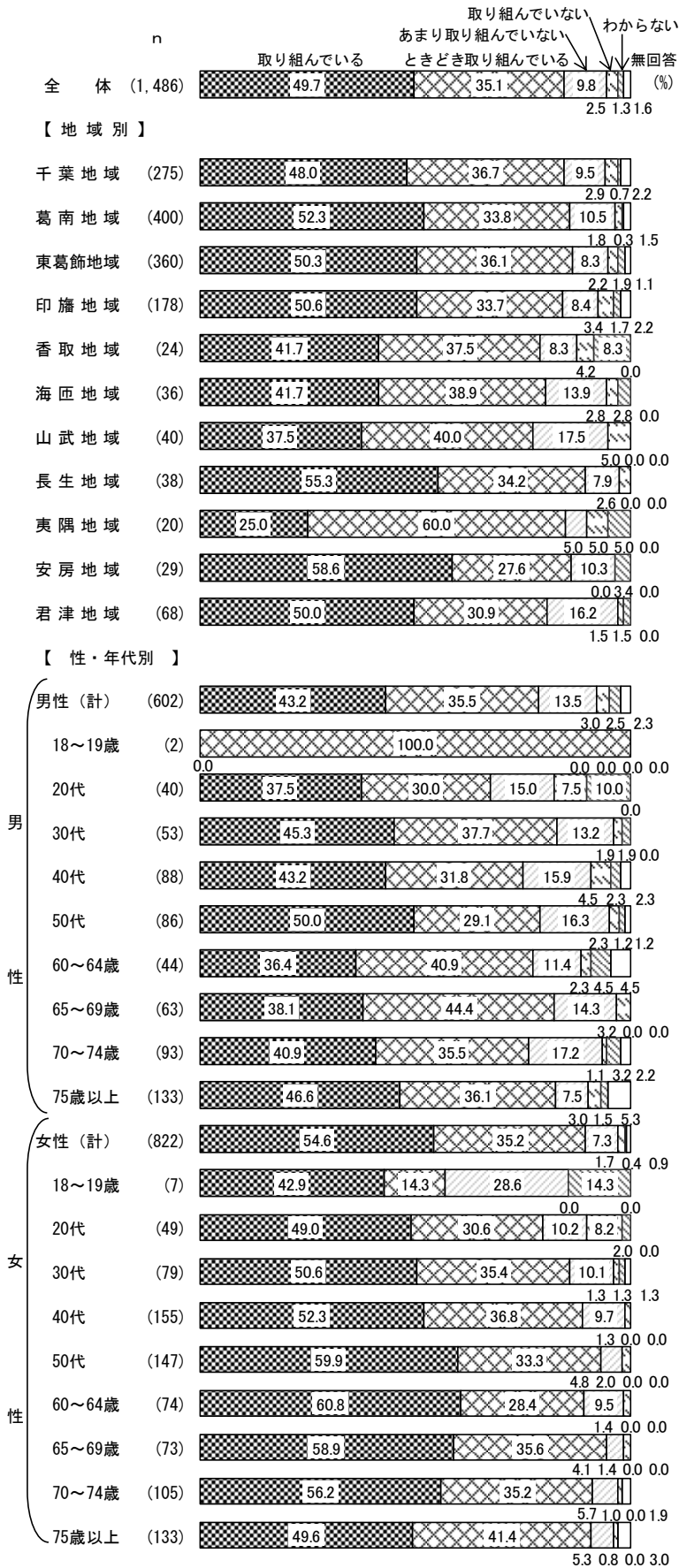
(イ) 賞味期限切れでもすぐには捨てず、

自分で判断している

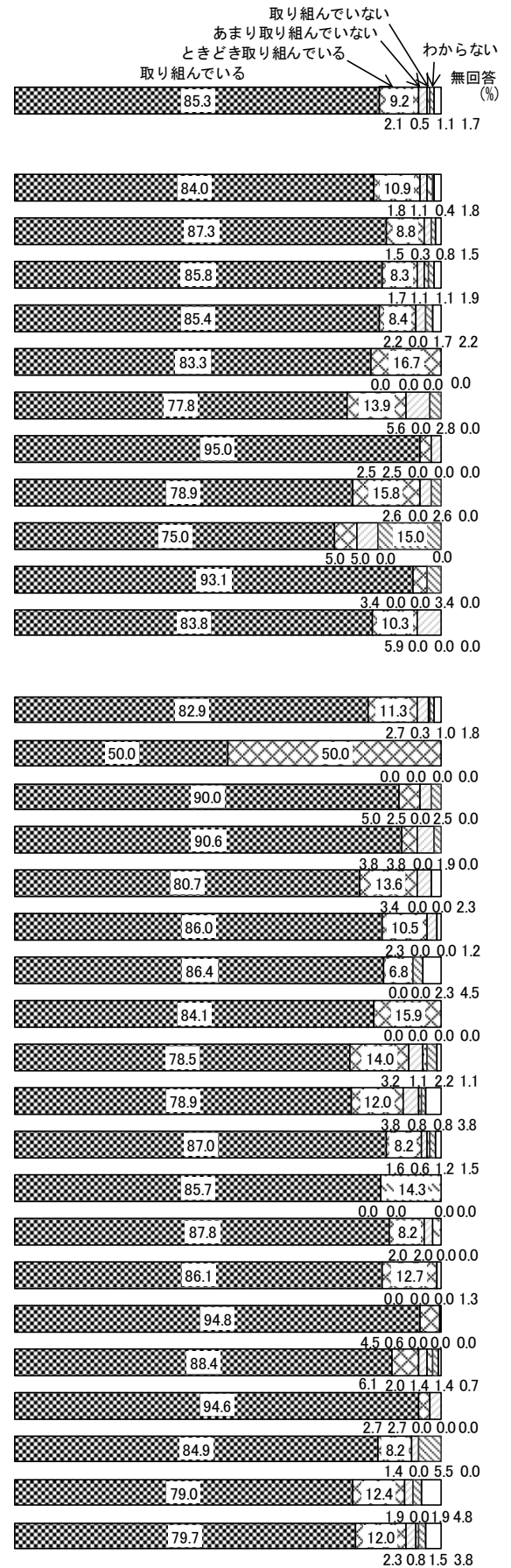


(ウ) 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに

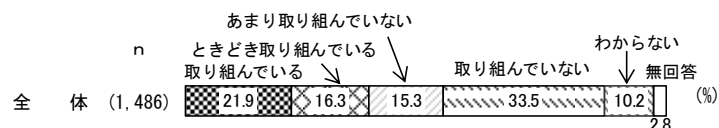
確認している



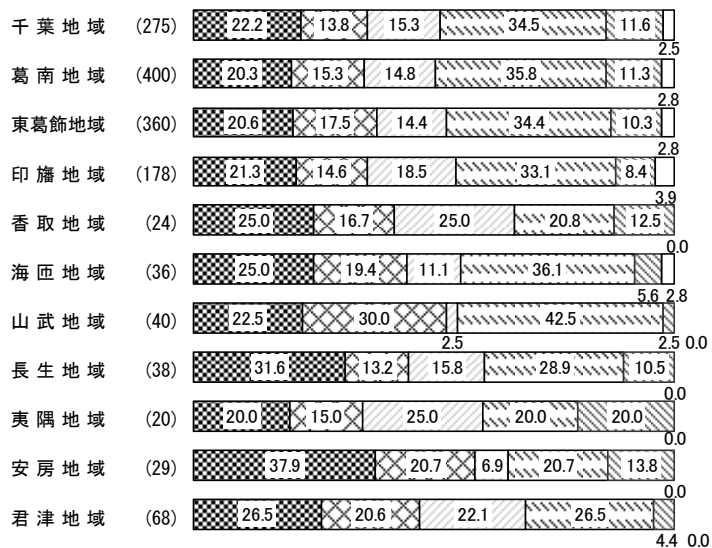
(エ) 外食時、食べきれる量を注文している



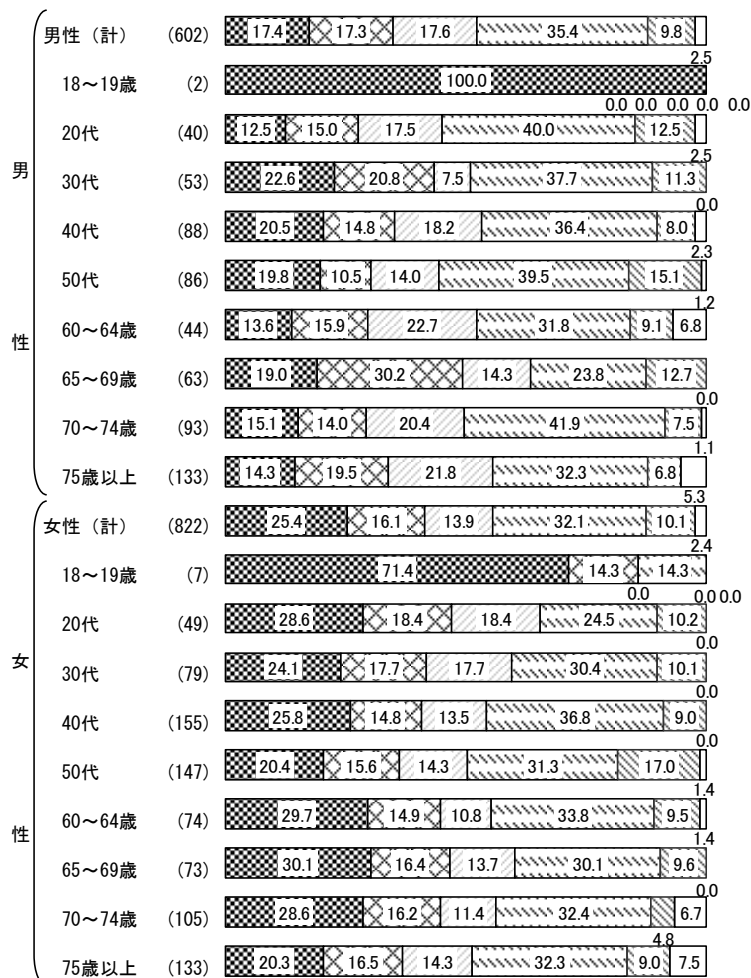
(オ) お店に了承を得て残った料理を
持ち帰っている



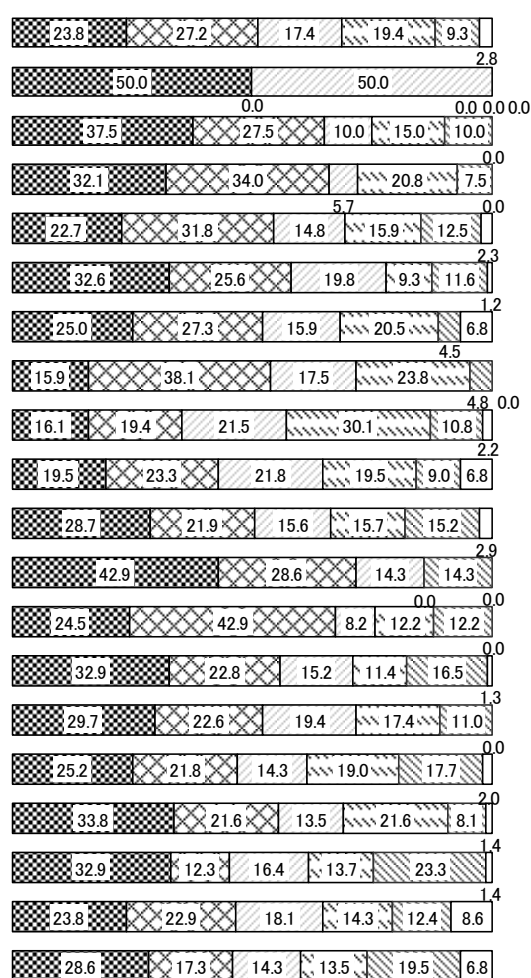
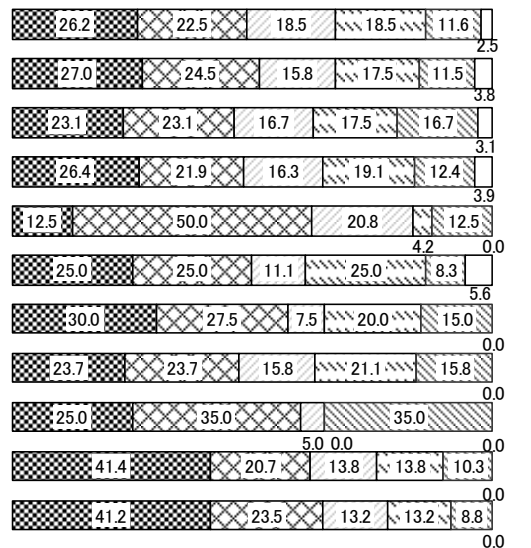
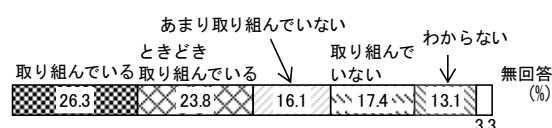
【地域別】



【性・年代別】



(カ) 宴会終了直前・終了後に残った料理を
食べきるようにしている



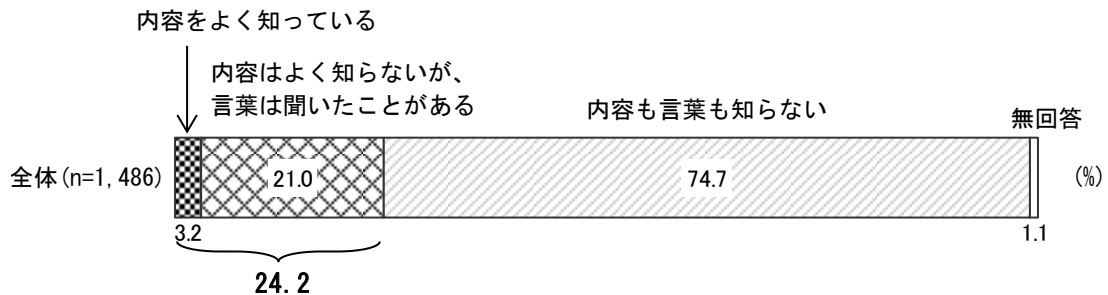
(13) 「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が2割台半ば

問13 「ちば食品ロス削減エコスタイル」※を知っていますか。（○は1つ）

※ 「ちば食品ロス削減エコスタイル」とは、食品ロスを減らすために、身の回りでできることを実践するライフスタイルのことです。

<図表1-29> 「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度



「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知を聞いたところ、「内容をよく知っている」（3.2%）と「内容はよく知らないが、言葉は聞いたことがある」（21.0%）を合わせた『聞いたことがある（計）』（24.2%）が2割台半ばとなっている。

一方、「内容も言葉も知らない」（74.7%）は7割台半ばとなっている。（図表1-29）

【地域別】

地域別にみると、『聞いたことがある（計）』は“千葉地域”（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

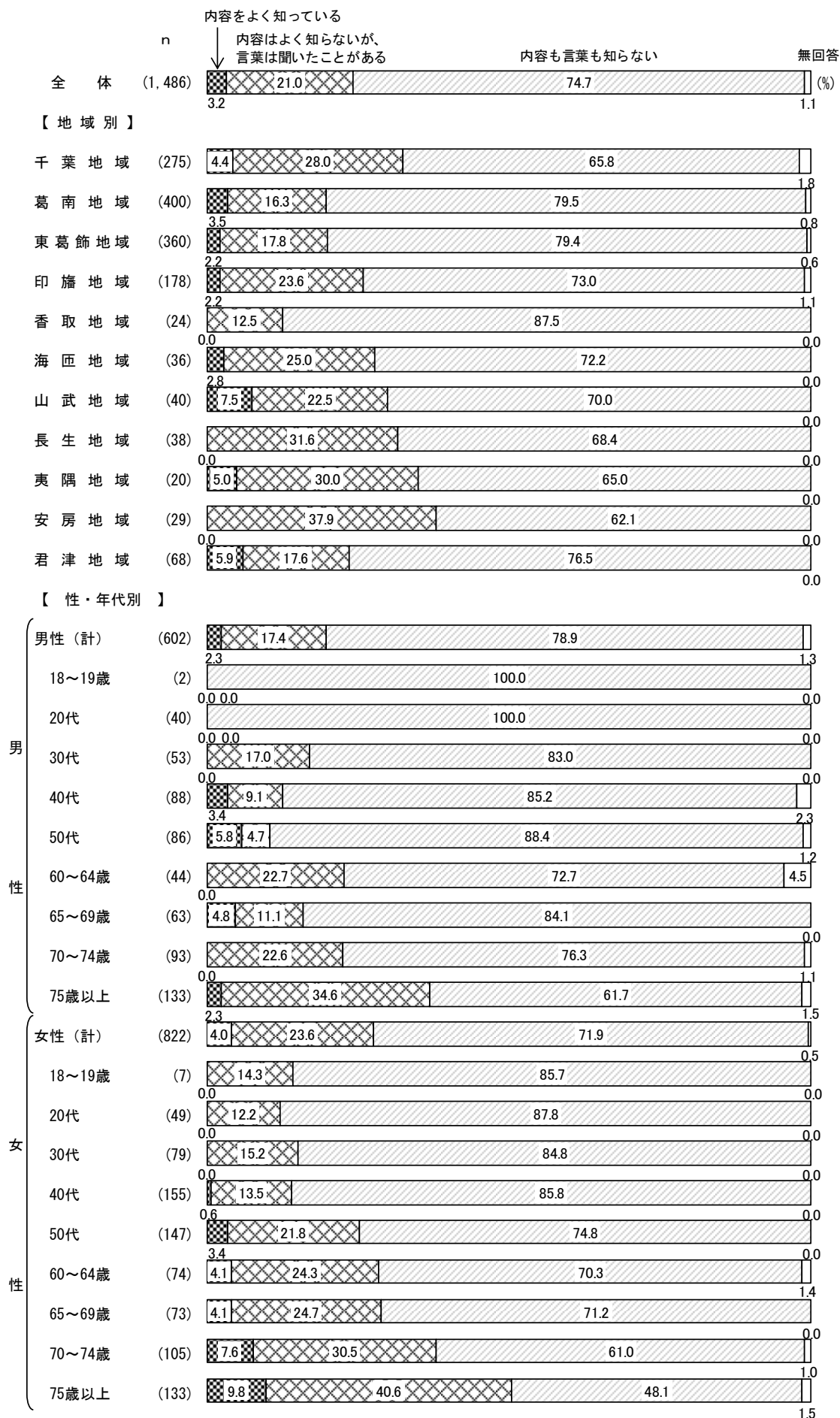
一方、「内容も言葉も知らない」は、“葛南地域”（79.5%）と“東葛飾地域”（79.4%）が約8割で高くなっている。（図表1-30）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は女性の75歳以上（50.4%）が5割、女性の70～74歳（38.1%）が約4割、男性の75歳以上（36.8%）が3割台半ばで高くなっている。

一方、「内容も言葉も知らない」は男性の20代（100.0%）が10割、男性の50代（88.4%）と女性の20代（87.8%）が約9割、女性の40代（85.8%）、男性の40代（85.2%）、女性の30代（84.8%）が8割台半ばで高くなっている。（図表1-30）

＜図表 1－30＞「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知度／地域別、性・年代別



（13－１）「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路

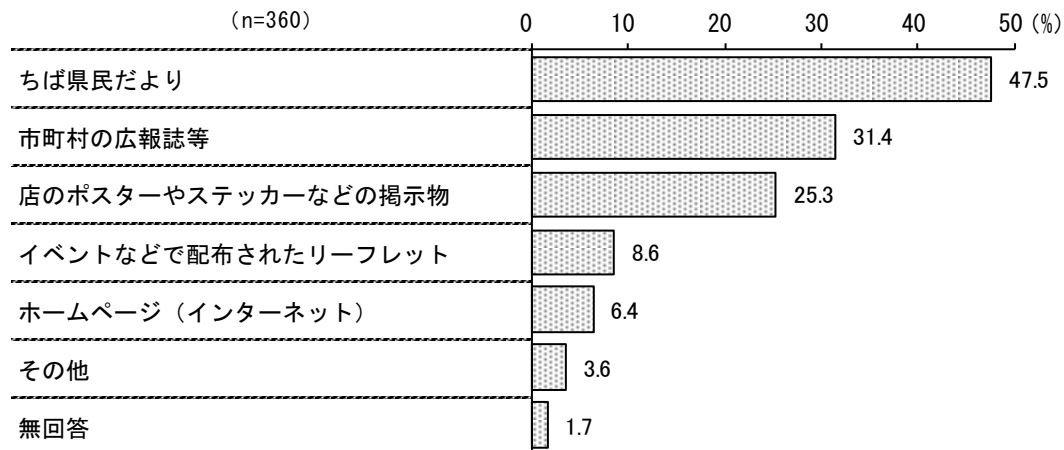
◇「ちば県民だより」が約５割

（問13で「内容をよく知っている」「内容はよく知らないが、言葉は聞いたことがある」のいずれかをお答えの方に）

問13－１ どのような方法で「ちば食品ロス削減エコスタイル」を知りましたか。

（○はいくつでも）

＜図表１－31＞「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路（複数回答）

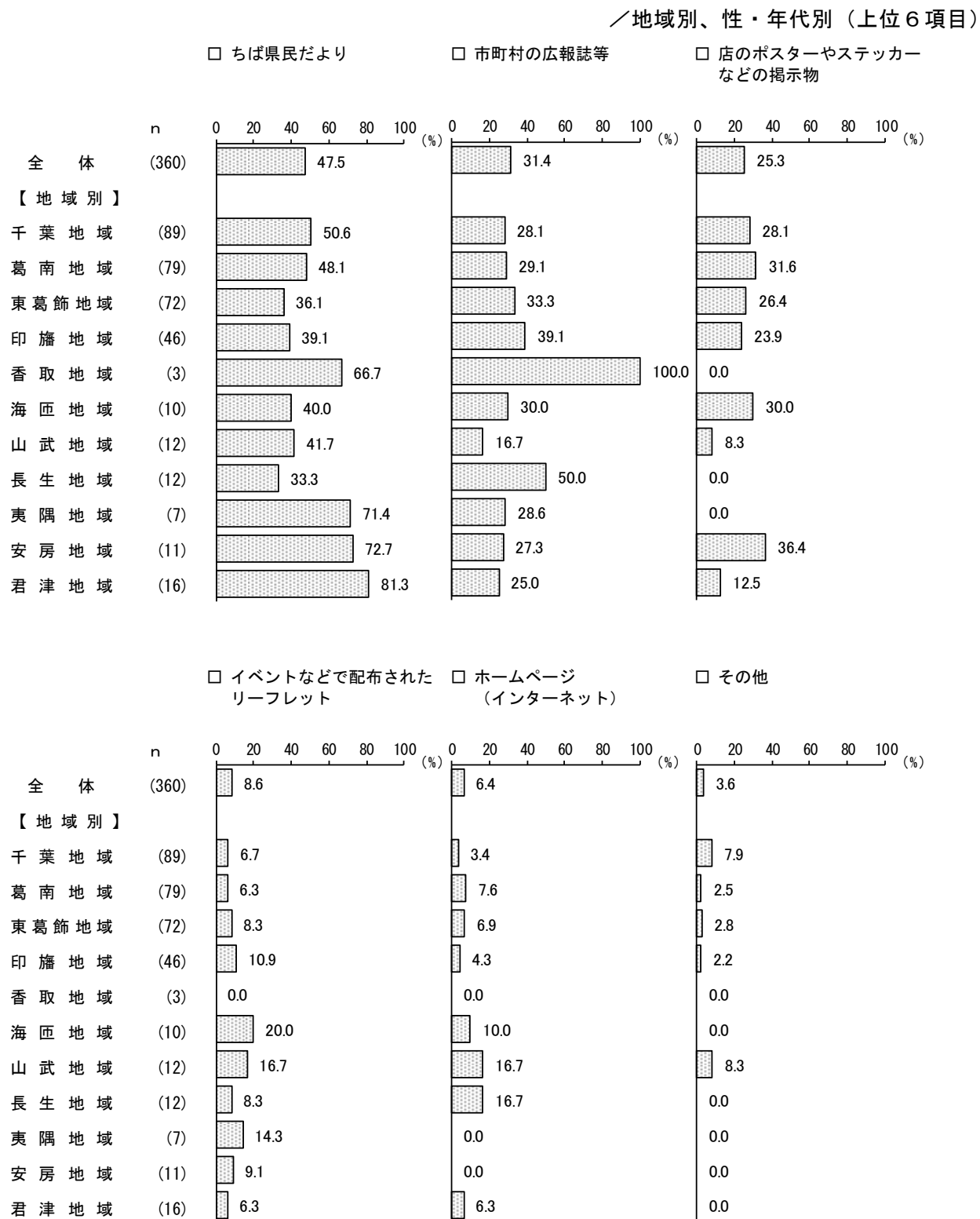


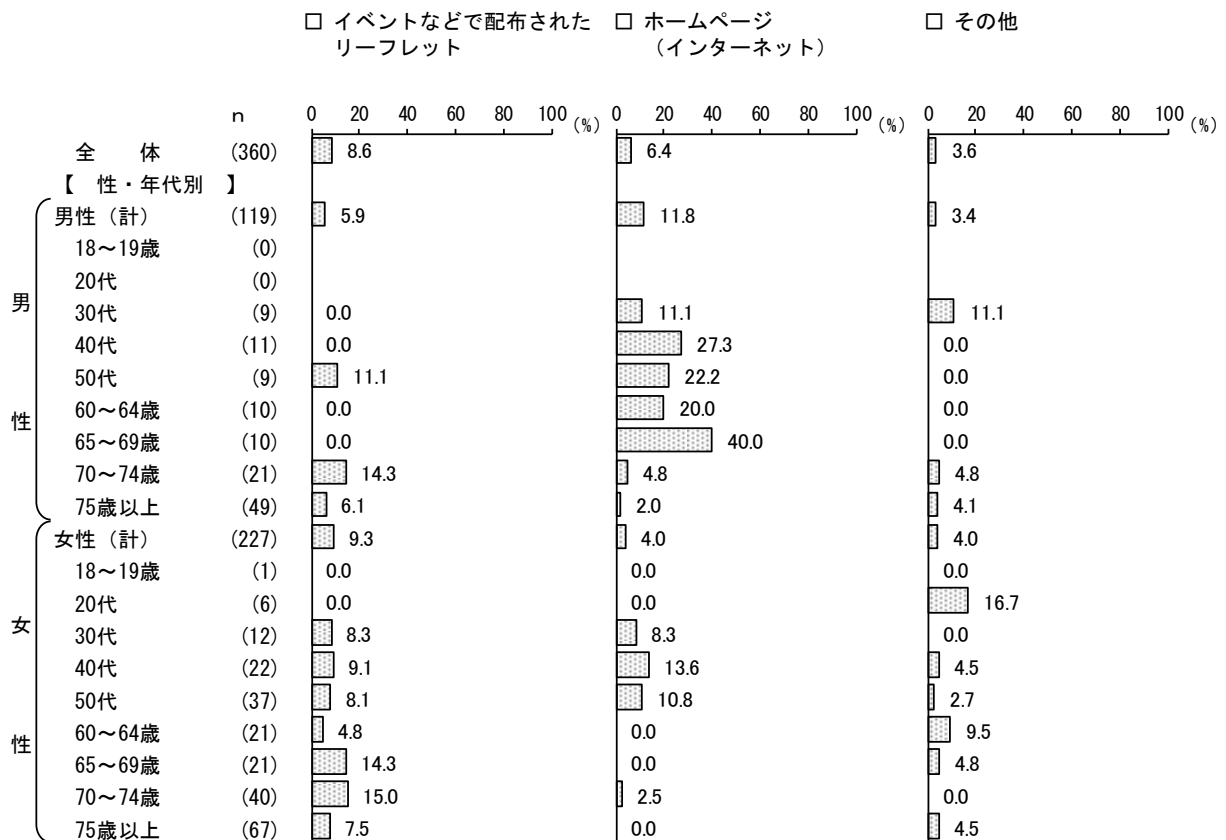
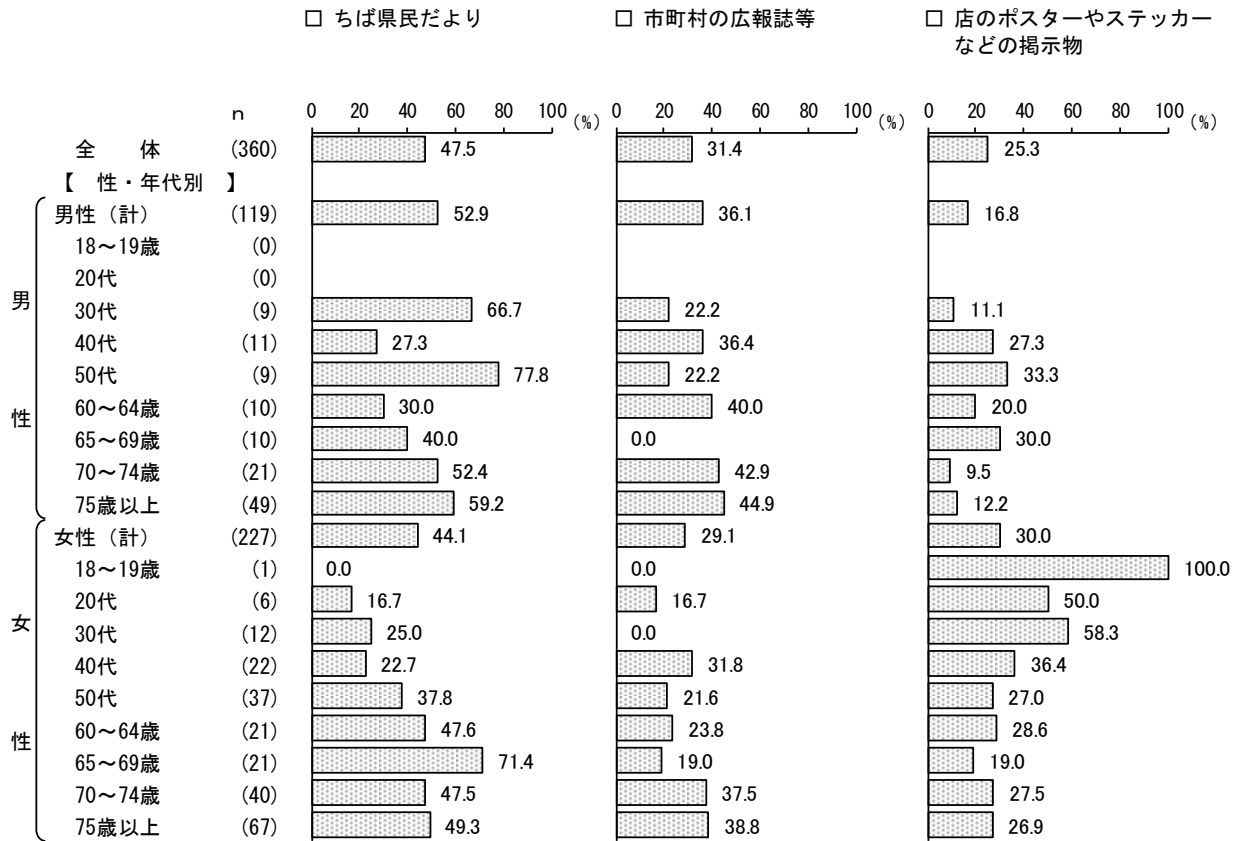
「ちば食品ロス削減エコスタイル」を「聞いたことがある」と回答した360人を対象に、認知経路を聞いたところ、「ちば県民だより」（47.5％）が約５割で最も高く、以下、「市町村の広報誌等」（31.4％）、「店のポスターやステッカーなどの掲示物」（25.3％）が続く。（図表１－31）

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表１－32）

[参考]＜図表 1－32＞「ちば食品ロス削減エコスタイル」の認知経路（複数回答）





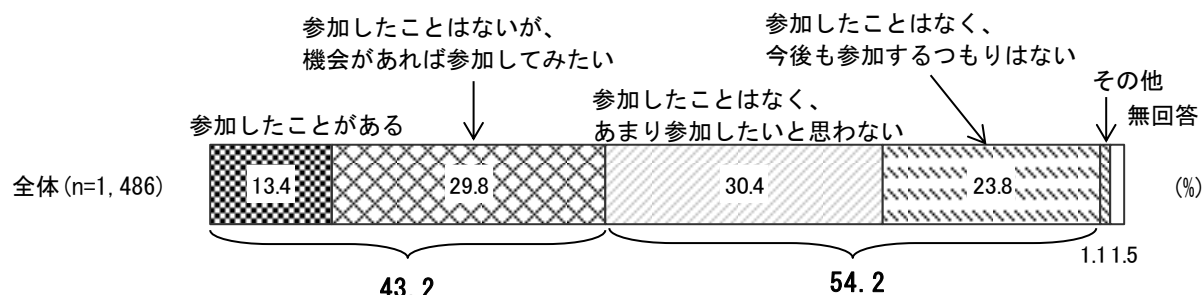
(14) 環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

◇『参加意向あり（計）』が4割を超える

問14 これまでに環境保全に関する講演やセミナー（オンラインでの参加を含む）、あるいは環境ボランティア活動（植林や清掃活動など）に参加したことがありますか。

（○は1つ）

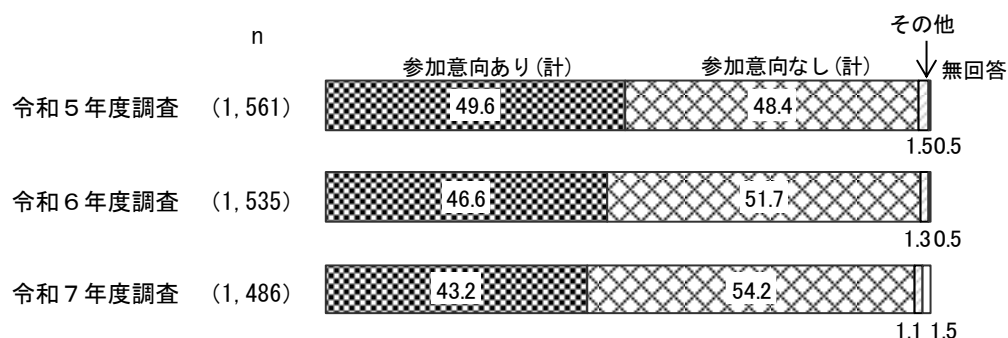
＜図表 1－33＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況



環境保全に関する講演やセミナー（オンライン参加含む）、環境ボランティア活動への参加状況を聞いたところ、「参加したことがある」（13.4%）が1割を超えており、これと「参加したことはないが、機会があれば参加してみたい」（29.8%）を合わせた『参加意向あり（計）』（43.2%）が4割を超えている。

一方、「参加したことはなく、あまり参加したいと思わない」（30.4%）と「参加したことはなく、今後も参加するつもりはない」（23.8%）を合わせた『参加意向なし（計）』（54.2%）が5割台半ばとなっている。（図表 1－33）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：%）



【地域別】

地域別にみると、『参加意向なし（計）』は“山武地域”（80.0%）が8割で高くなっている。

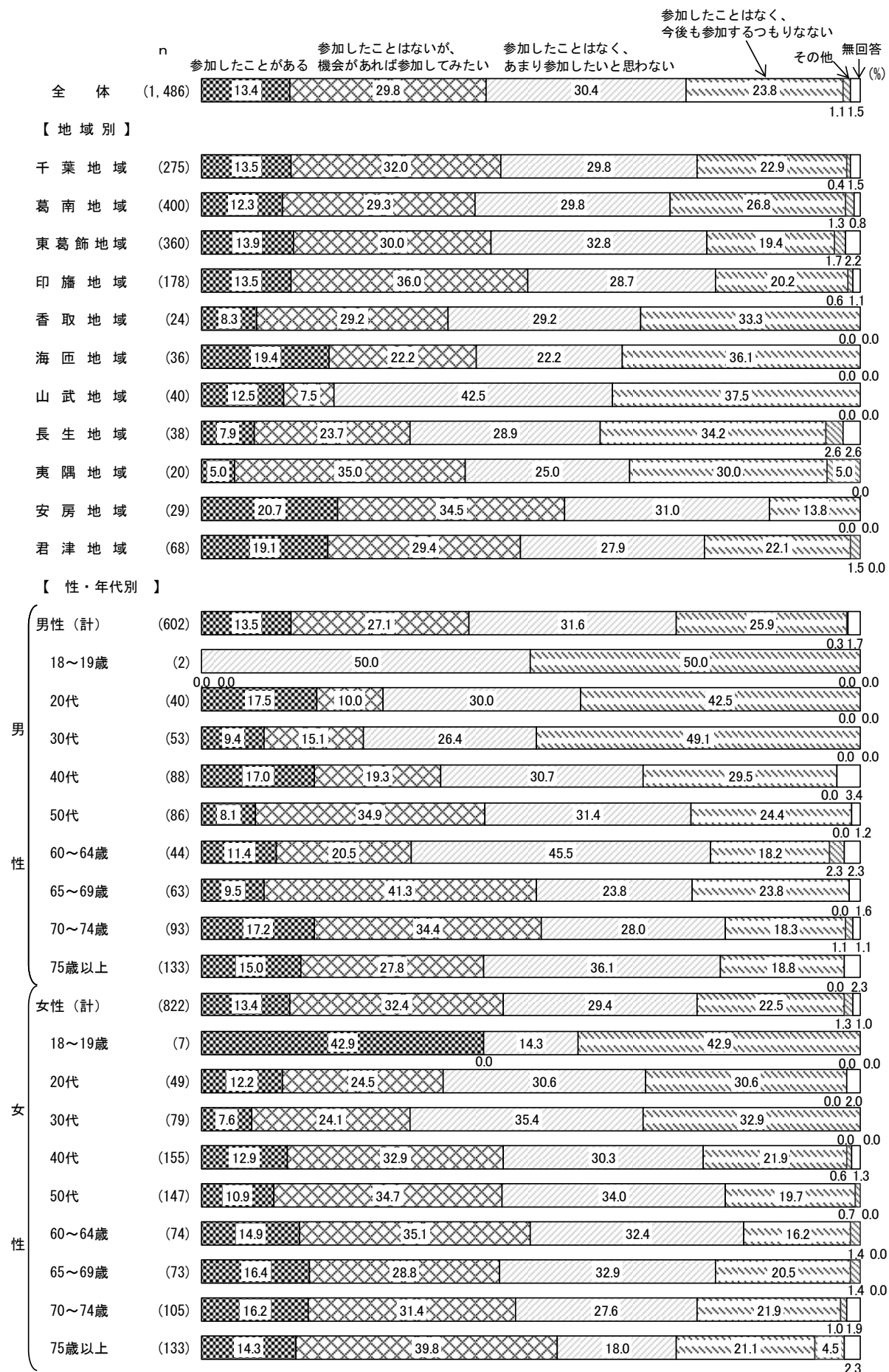
（図表 1－34）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加意向あり（計）』は女性の75歳以上（54.1%）が5割台半ばで高くなっている。一方、『参加意向なし（計）』は男性の30代（75.5%）が7割台半ば、男性の20代（72.5%）が7割を超え、女性の30代（68.4%）が約7割で高くなっている。（図表 1－34）

＜図表 1－34＞環境保全に関する講演やセミナー、環境ボランティア活動への参加状況

／地域別、性・年代別

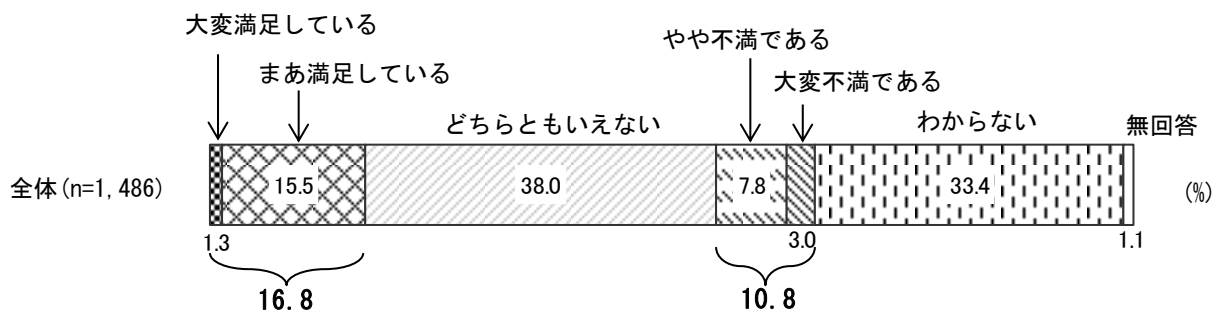


（15）消費生活全般の満足度

◇『満足している（計）』が1割台半ば

問15 消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、どうお感じですか。（○は1つ）

＜図表 1－35＞消費生活全般の満足度



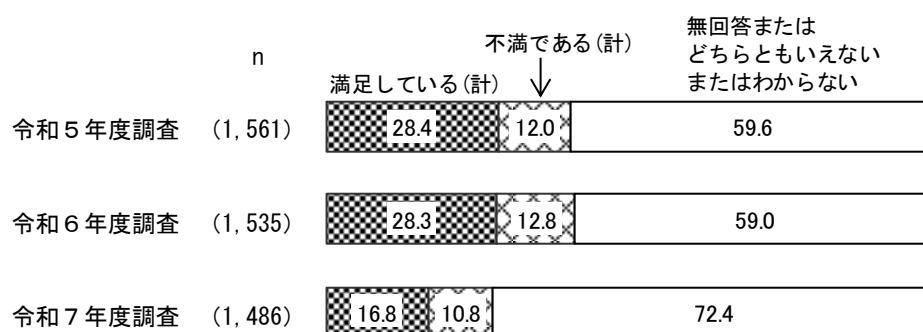
消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.3%）と「まあ満足している」（15.5%）を合わせた『満足している（計）』（16.8%）が1割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（7.8%）と「大変不満である」（3.0%）を合わせた『不満である（計）』（10.8%）が1割となっている。

また、「どちらともいえない」（38.0%）が約4割、「わからない」（33.4%）が3割を超えている。

（図表 1－35）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『不満である（計）』は“千葉地域”（14.2%）が1割台半ばで高くなっている。

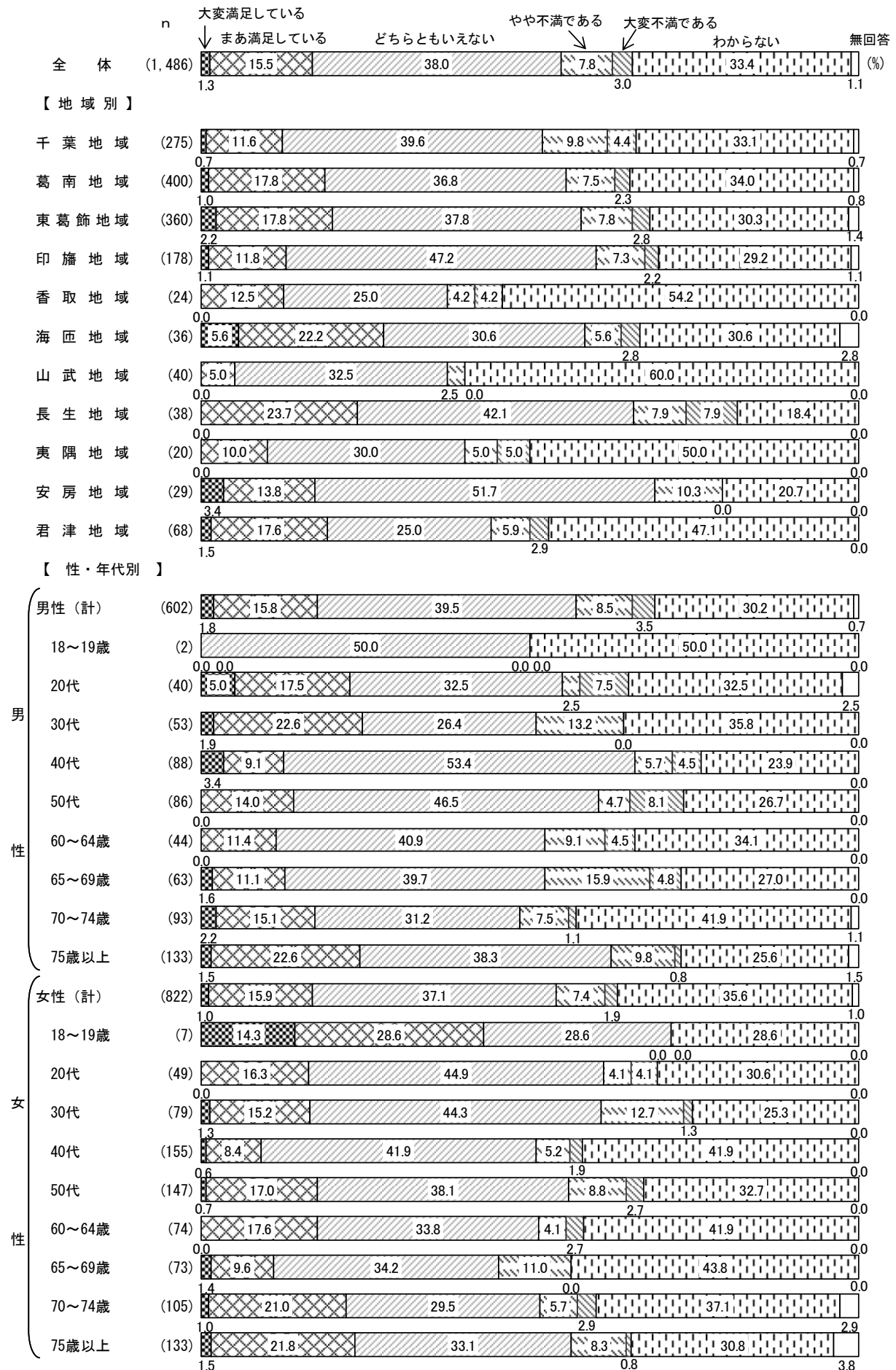
（図表 1－36）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（24.1%）が2割台半ば、女性の75歳以上（23.3%）が2割を超えて高くなっている。

一方、『不満である（計）』は男性の65～69歳（20.6%）が2割で高くなっている。（図表 1－36）

<図表 1-36>消費生活全般の満足度／地域別、性・年代別

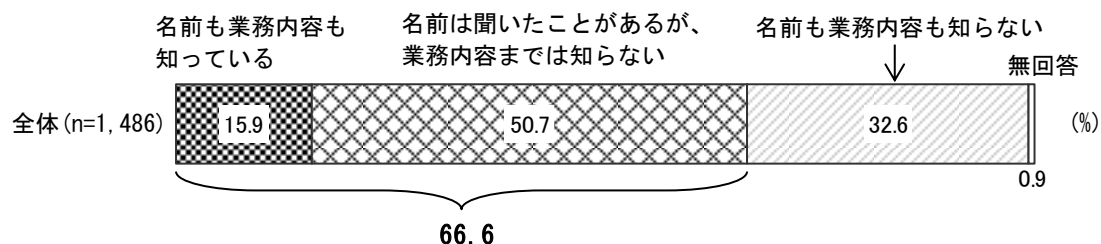


(16) 「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

◇『名前を聞いたことがある（計）』が6割台半ば

問16 あなたは、消費者トラブルなどの相談窓口であり、出前講座等も実施している「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っていますか。（○は1つ）

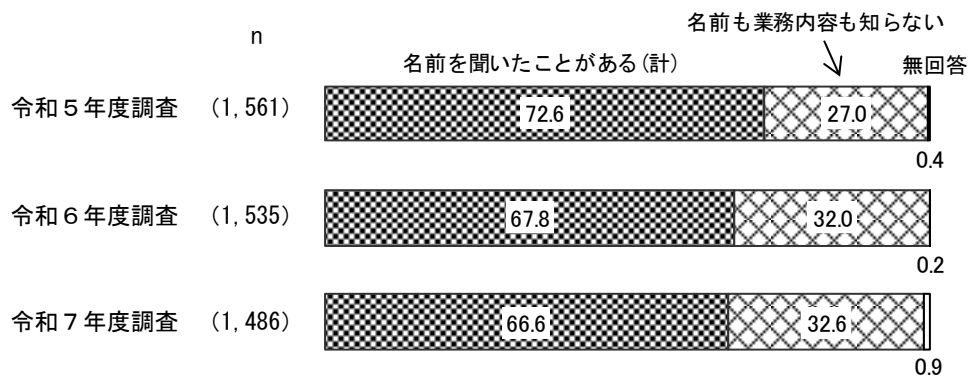
＜図表 1－37＞「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度



「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っているか聞いたところ、「名前も業務内容も知っている」(15.9%)と「名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない」(50.7%)を合わせた『名前を聞いたことがある（計）』(66.6%)が6割台半ばとなっている。

一方、「名前も業務内容も知らない」(32.6%)が3割を超えている。(図表 1－37)

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表 1－38)

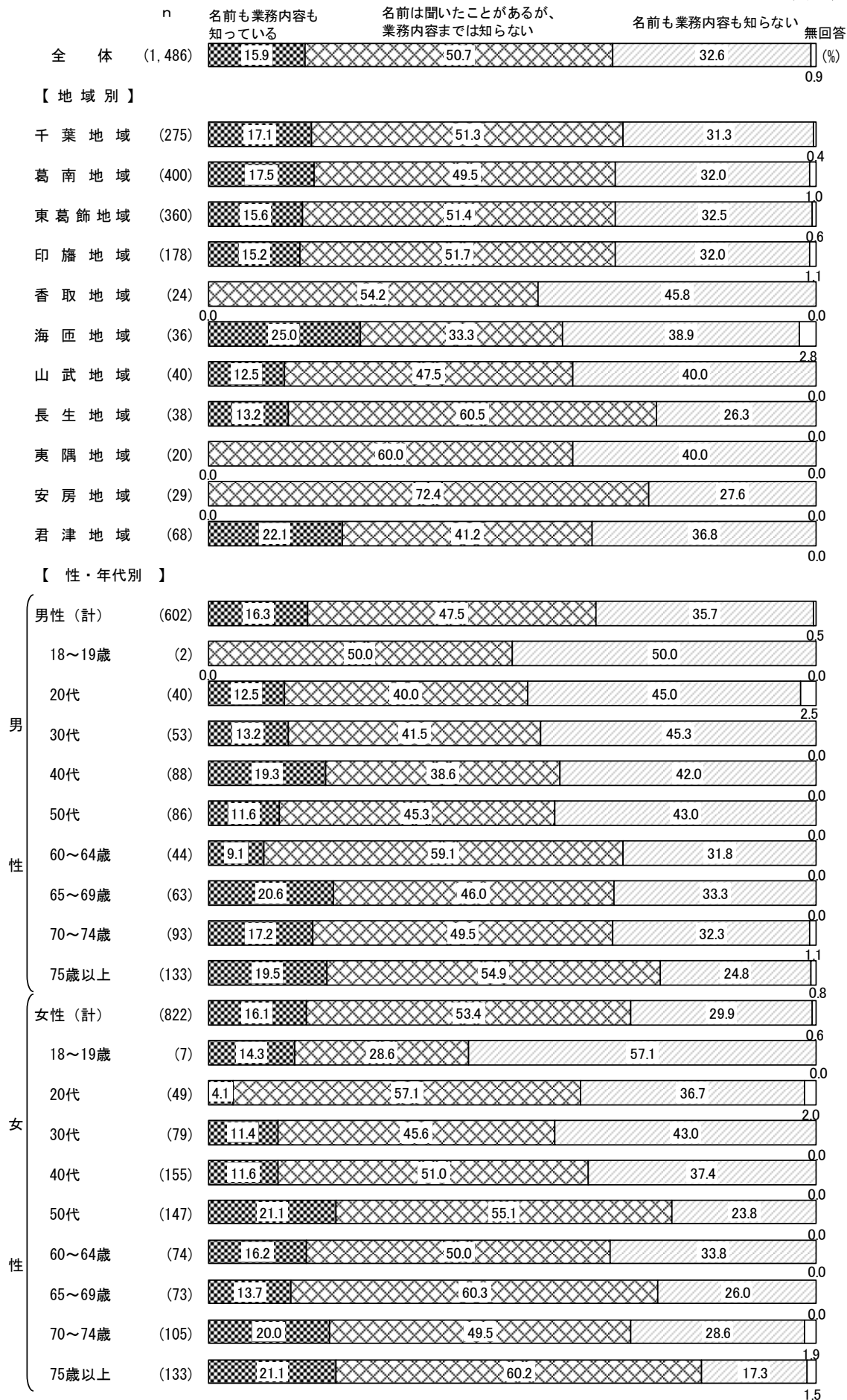
【性・年代別】

性・年代別にみると、『名前を聞いたことがある（計）』は女性の75歳以上(81.2%)が8割を超え、女性の50代(76.2%)と男性の75歳以上(74.4%)が7割台半ばで高くなっている。

一方、「名前も業務内容も知らない」は男性の30代(45.3%)が4割台半ば、男性の50代(43.0%)と女性の30代(43.0%)が4割を超えて高くなっている。(図表 1－38)

<図表 1-38> 「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」の認知度

／地域別、性・年代別



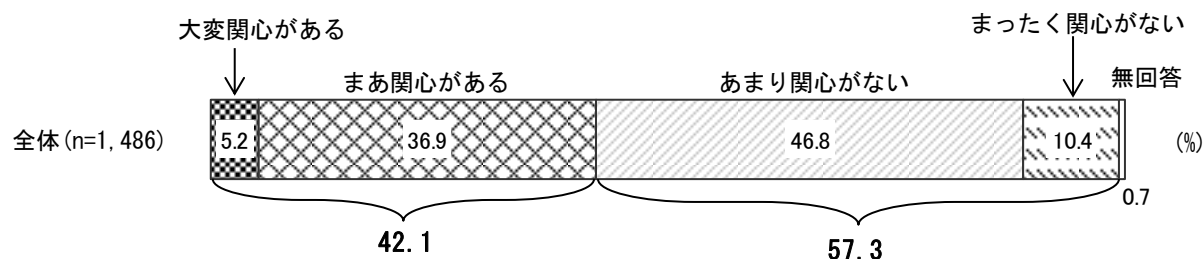
(17) 市民活動団体やボランティア活動の関心度

◇『関心がある（計）』が4割を超える

問17 市民活動団体※の活動や、ボランティア活動に関心がありますか。（○は1つ）

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）です。

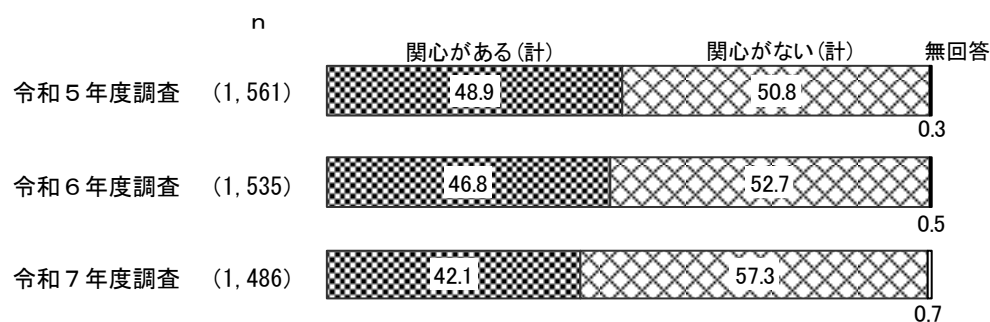
<図表 1－39>市民活動団体やボランティア活動の関心度



市民活動団体の活動や、ボランティア活動への関心度を聞いたところ、「大変関心がある」(5.2%)と「まあ関心がある」(36.9%)を合わせた『関心がある(計)』(42.1%)が4割を超えている。

一方、「あまり関心がない」(46.8%)と「まったく関心がない」(10.4%)を合わせた『関心がない(計)』(57.3%)が約6割となっている。(図表 1－39)

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



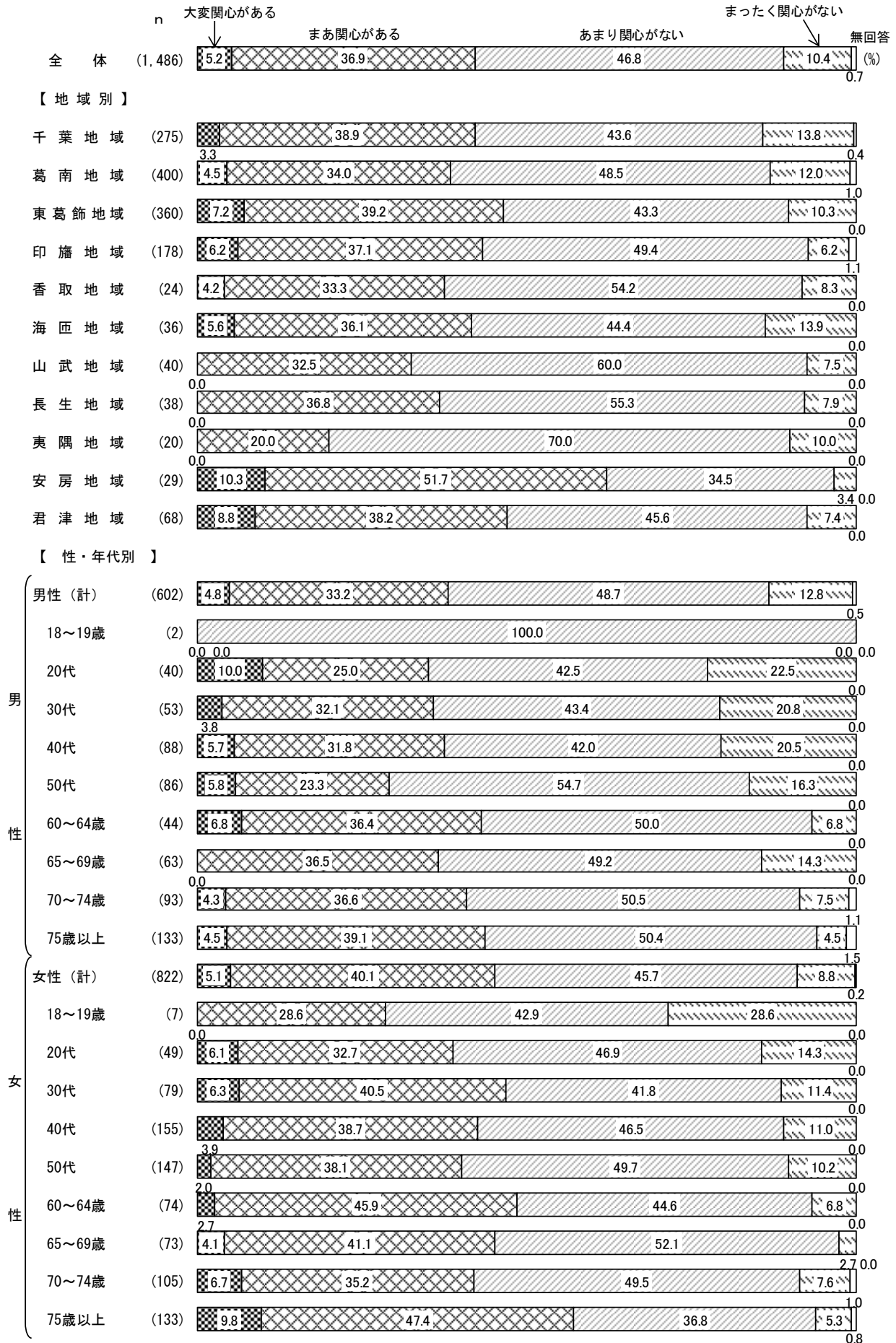
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。(図表 1－40)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『関心がある(計)』は女性の75歳以上(57.1%)が約6割で高くなっている。一方、『関心がない(計)』は男性の50代(70.9%)が7割で高くなっている。(図表 1－40)

＜図表 1－40＞市民活動団体やボランティア活動の関心度／地域別、性・年代別



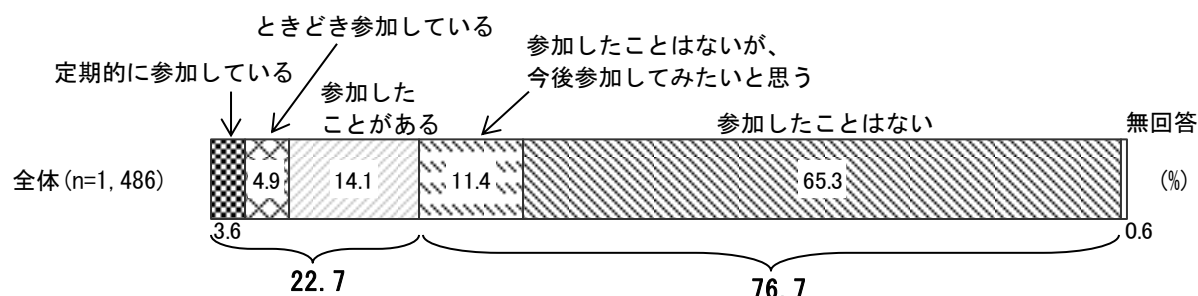
（18）市民活動団体の活動への参加経験

◇『参加したことがある（計）』が2割を超える

問18 市民活動団体の活動に参加※したことがありますか。（○は1つ）

※ ここでいう「参加」とは、団体の会員やボランティアとしての参加のみならず、団体への資金・物品・技術・場所等の提供・寄付などの支援を通しての参加や、団体が提供するサービスの利用・イベントへの参加などを指します。

＜図表 1－41＞市民活動団体の活動への参加経験

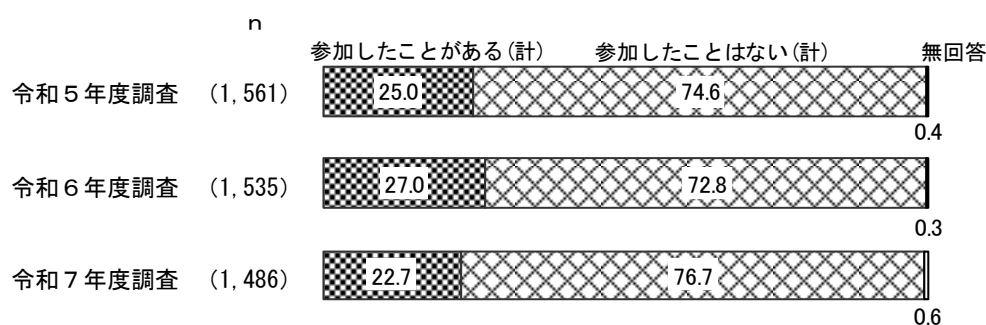


市民活動団体の活動への参加経験を聞いたところ、「定期的に参加している」（3.6%）、「ときどき参加している」（4.9%）、「参加したことがある」（14.1%）の3つを合わせた『参加したことがある（計）』（22.7%）が2割を超えている。

一方、「参加したことはないが、今後参加してみたいと思う」（11.4%）と「参加したことはない」（65.3%）を合わせた『参加したことはない（計）』（76.7%）が7割台半ばとなっている。

（図表 1－41）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

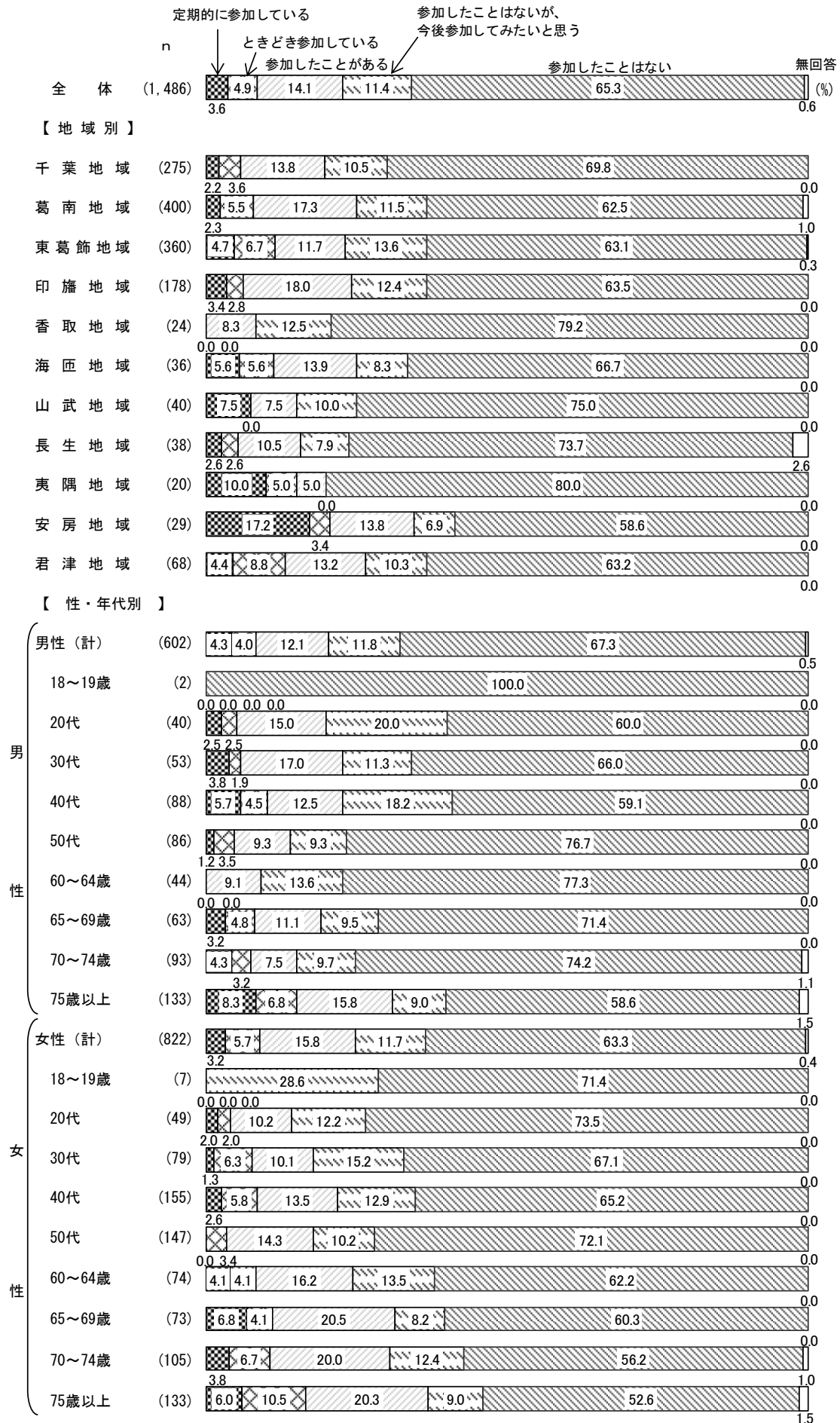
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－42）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『参加したことがある（計）』は女性の75歳以上（36.8%）が3割台半ば、男性の75歳以上（30.8%）と女性の70～74歳（30.5%）が3割で高くなっている。

一方、『参加したことはない（計）』は男性の60～64歳（90.9%）が9割、男性の50代（86.0%）が8割台半ばで高くなっている。（図表 1－42）

<図表 1-42> 市民活動団体の活動への参加経験／地域別、性・年代別



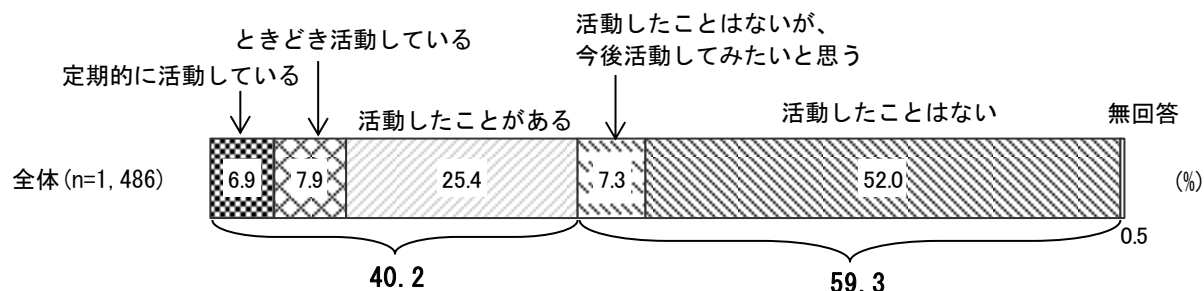
(19) ボランティア活動経験

◇『活動したことがある（計）』が 4 割

問19 ボランティアとして活動※したことがありますか。（○は 1 つ）

※ ここでいう「ボランティア活動」とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（町会・自治会の活動、PTA活動や学校行事の手伝い、子ども会の活動、交通安全運動、道路や公園等の清掃なども含む）のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。

＜図表 1－43＞ボランティア活動経験

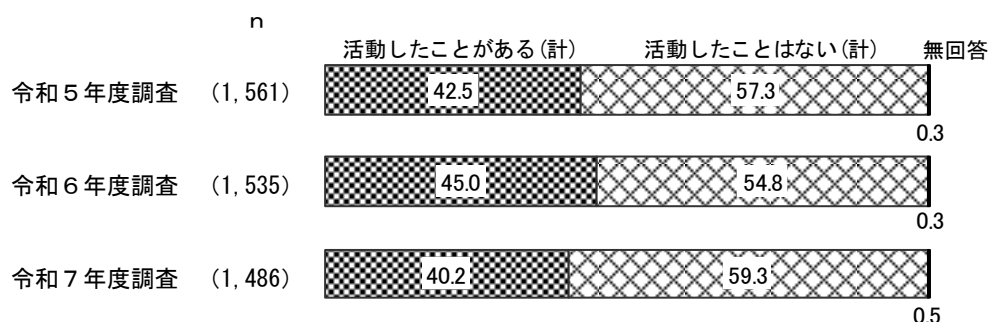


ボランティアとして活動したことがあるか聞いたところ、「定期的に活動している」（6.9%）、「ときどき活動している」（7.9%）、「活動したことがある」（25.4%）の 3 つを合わせた『活動したことがある（計）』（40.2%）が 4 割となっている。

一方、「活動したことはないが、今後活動してみたいと思う」（7.3%）と「活動したことはない」（52.0%）を合わせた『活動したことはない（計）』（59.3%）が約 6 割となっている。

（図表 1－43）

〔参考〕令和 5 年度・6 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

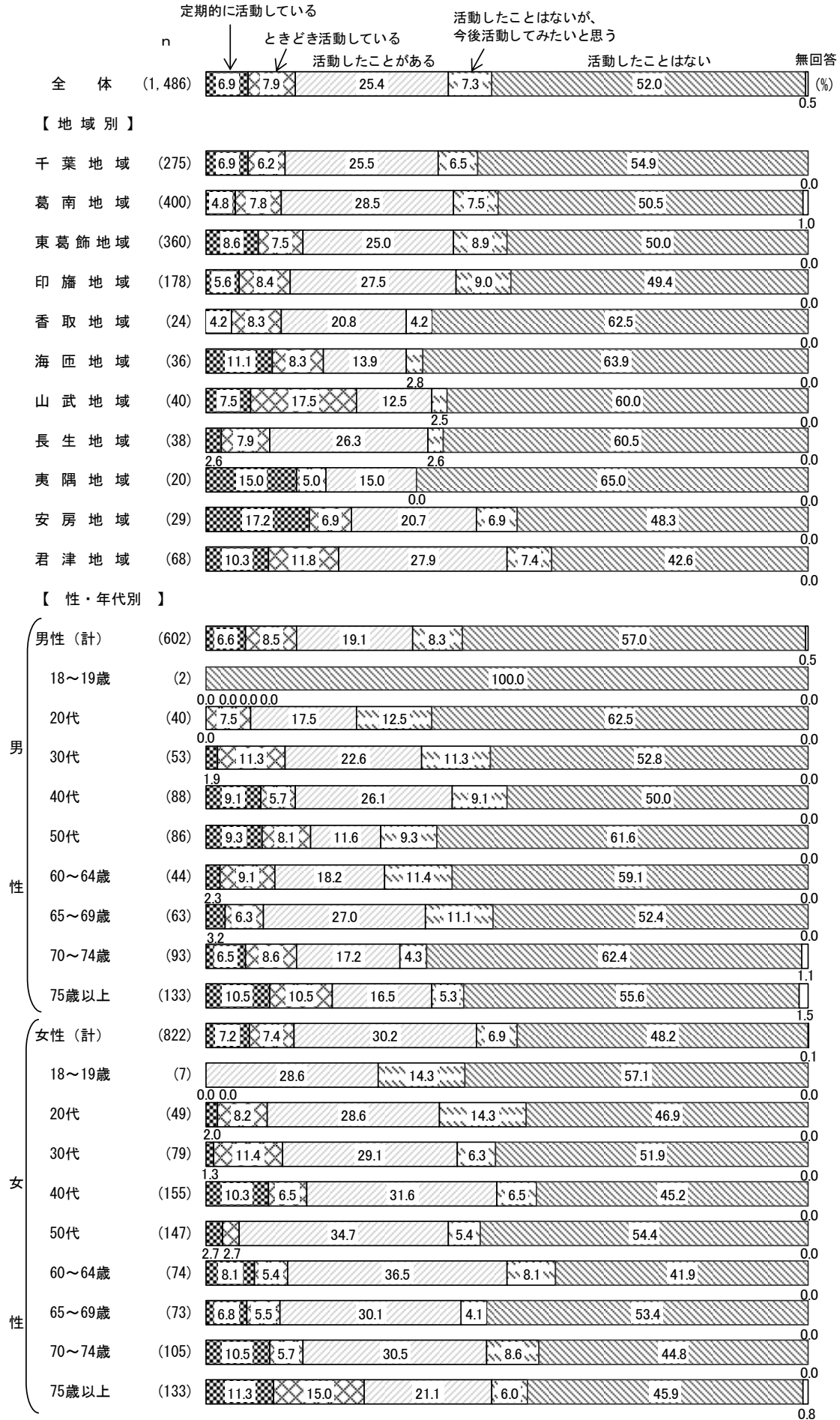
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 1－44）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『活動したことがある（計）』は女性の 40 代（48.4%）が約 5 割で高くなっている。

一方、『活動したことはない（計）』は男性の 20 代（75.0%）が 7 割台半ば、男性の 50 代（70.9%）が 7 割で高くなっている。（図表 1－44）

<図表 1-44> ボランティア活動経験／地域別、性・年代別



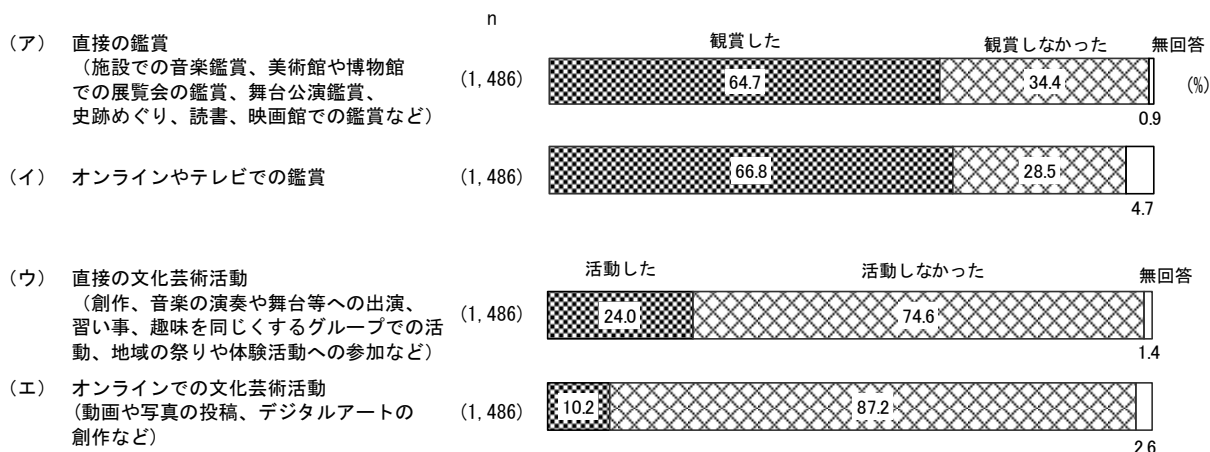
(20) この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

◇鑑賞は〈オンラインやテレビ〉〈直接〉がともに 6 割台半ば、活動は〈直接〉が 2 割台半ば

問20 あなたは、この 1 年間に、文化芸術※を鑑賞しましたか。また、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動をしましたか。（○はそれぞれ 1 つずつ）

※ 「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（全てのジャンル）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道・書道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財などを指します。

＜図表 1－45＞この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験

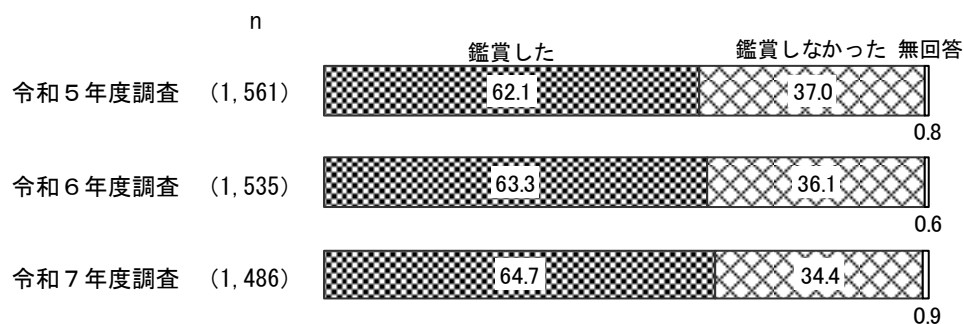


この 1 年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験を聞いたところ、鑑賞については「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」(66.8%)、「(ア) 直接の鑑賞」(64.7%) がともに 6 割台半ばとなっており、(ア) か (イ) いずれか、又はその両方を通じて鑑賞した県民の割合は 78.5% となった。

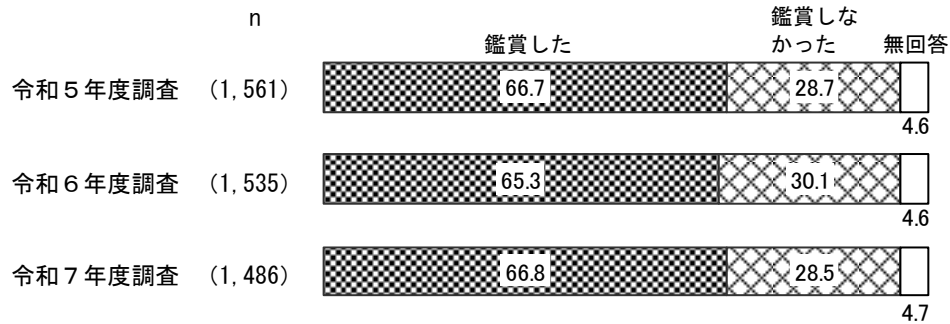
活動については「(ウ) 直接の文化芸術活動」(24.0%) が 2 割台半ば、「(エ) オンラインでの文化芸術活動」(10.2%) が 1 割となっており、(ウ) か (エ) いずれか、又はその両方を通じて活動した県民の割合は 26.9% となった。(図表 1－45)

【参考】 令和 5 年度・6 年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

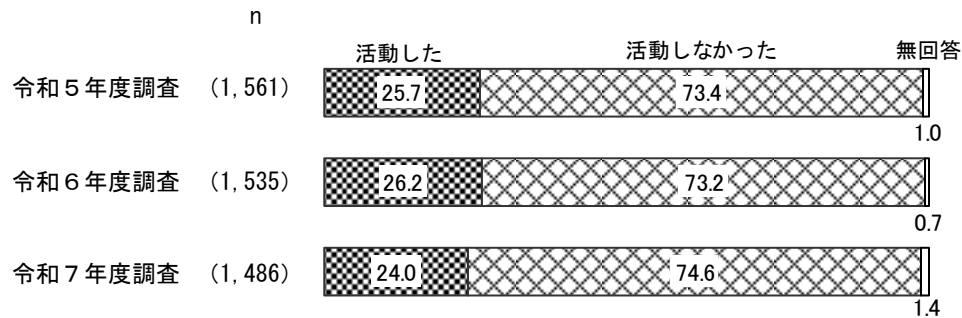
(ア) 直接の鑑賞（施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、読書、映画館での鑑賞など）



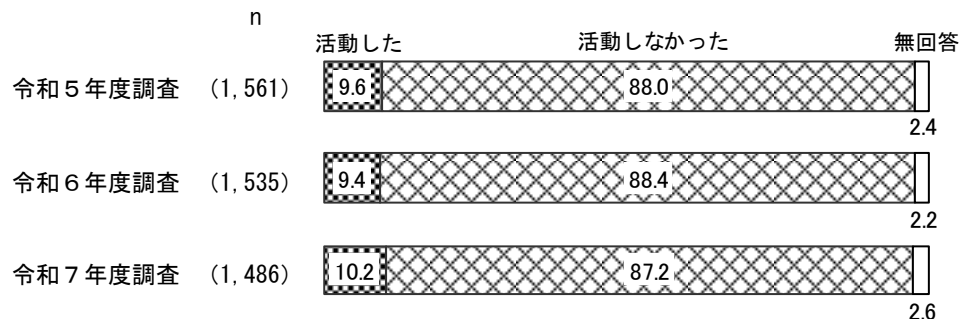
（イ） オンラインやテレビでの鑑賞



（ウ） 直接の文化芸術活動（創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など）



（エ） オンラインでの文化芸術活動（動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など）



【地域別】

地域別にみると、鑑賞について「(ア) 直接の鑑賞」で「鑑賞した」は“東葛飾地域” (69.4%) と“葛南地域” (69.3%) が約7割で高くなっている。一方、「鑑賞しなかった」は“海匝地域” (52.8%) が5割を超えて高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」は大きな傾向の違いはみられない。

活動については、「(ウ) 直接の文化芸術活動」で「活動しなかった」は“山武地域” (92.5%) が9割を超えて高くなっている。

「(エ) オンラインでの文化芸術活動」は大きな傾向の違いはみられない。(図表 1－46)

【性・年代別】

性・年代別にみると、鑑賞について「(ア) 直接の鑑賞」で「鑑賞した」は男性の20代（82.5%）が8割を超え、女性の30代（78.5%）と女性の40代（77.4%）が約8割、女性の50代（76.9%）が7割台半ばで高くなっている。

一方、「鑑賞しなかった」は男性の70～74歳（51.6%）が5割を超え、男性の75歳以上（46.6%）が4割台半ば、女性の75歳以上（42.9%）が4割を超えて高くなっている。

「(イ) オンラインやテレビでの鑑賞」で「鑑賞した」は女性の30代（84.8%）が8割台半ば、男性の20代（82.5%）が8割を超え、女性の50代（74.1%）は7割台半ばで高くなっている。

一方、「鑑賞しなかった」は男性の70～74歳（40.9%）が4割、男性の75歳以上（37.6%）が約4割で高くなっている。

活動について「(ウ) 直接の文化芸術活動」で「活動した」は女性の75歳以上（32.3%）が3割を超えて高くなっている。

一方、「活動しなかった」は男性の50代（86.0%）と男性の70～74歳（84.9%）が8割台半ばで高くなっている。

「(エ) オンラインでの文化芸術活動」で「活動した」は女性の20代（30.6%）が3割、女性の30代（25.3%）が2割台半ば、男性の20代（22.5%）が2割を超え、女性の40代（17.4%）が約2割で高くなっている。

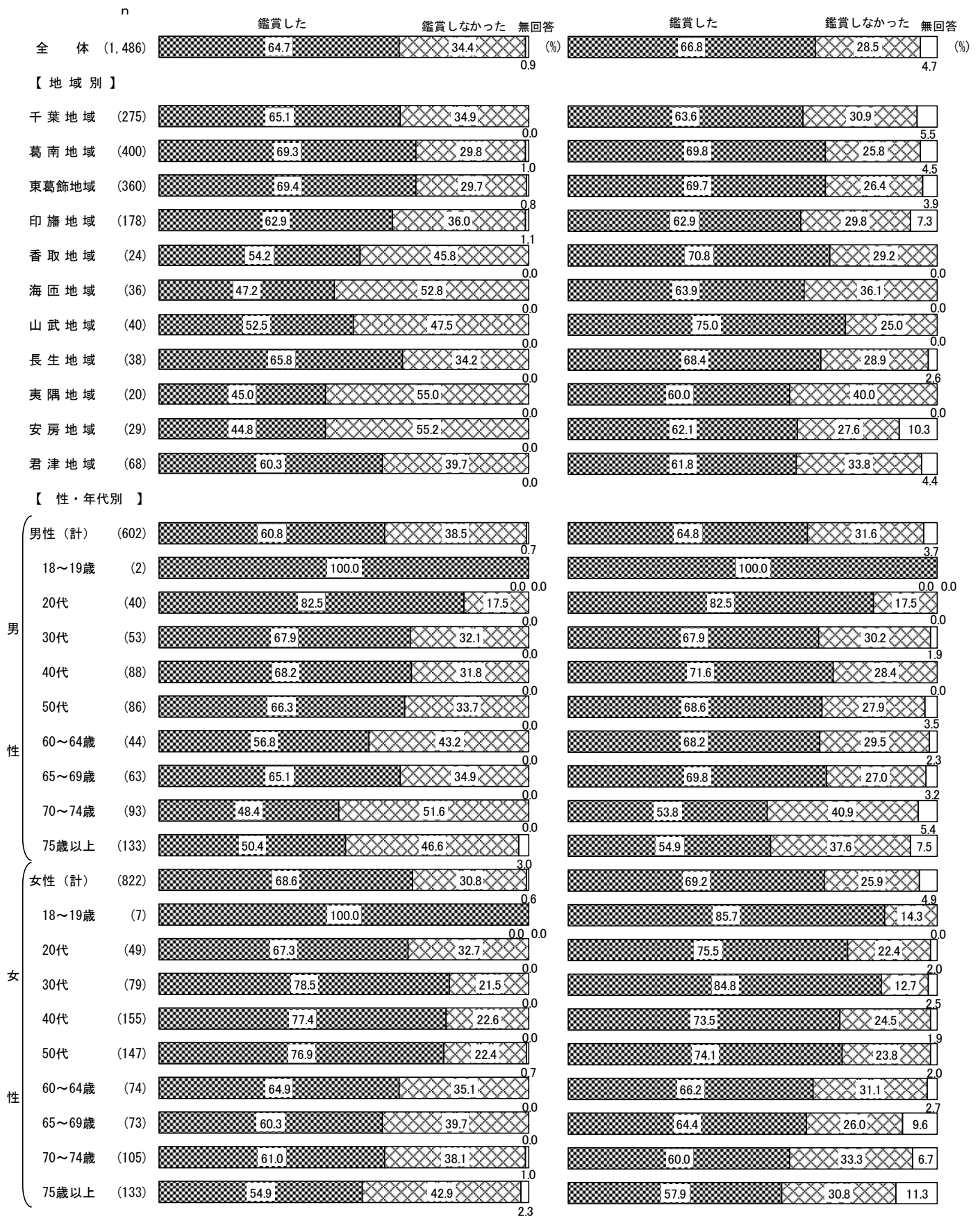
一方、「活動しなかった」は女性の50代（92.5%）が9割を超えて高くなっている。

（図表 1－46）

<図表 1-46>この1年間の文化芸術の鑑賞及び活動の経験／地域別、性・年代別

(ア) 直接の鑑賞

(イ) オンラインやテレビでの鑑賞

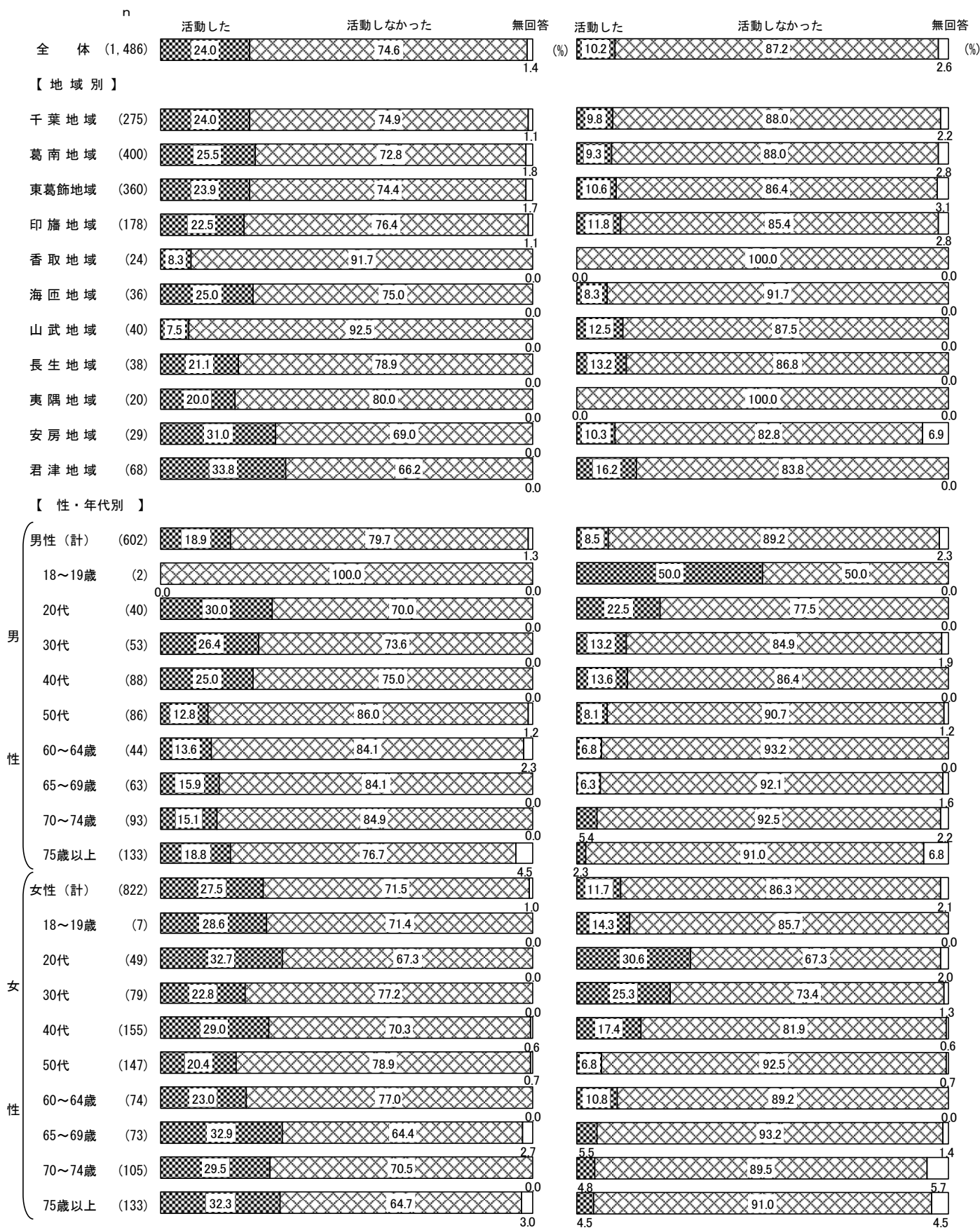
(施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での
展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、
読書、映画館での鑑賞など)

（ウ）直接の文化芸術活動

（創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など）

（エ）オンラインでの文化芸術活動

（動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など）



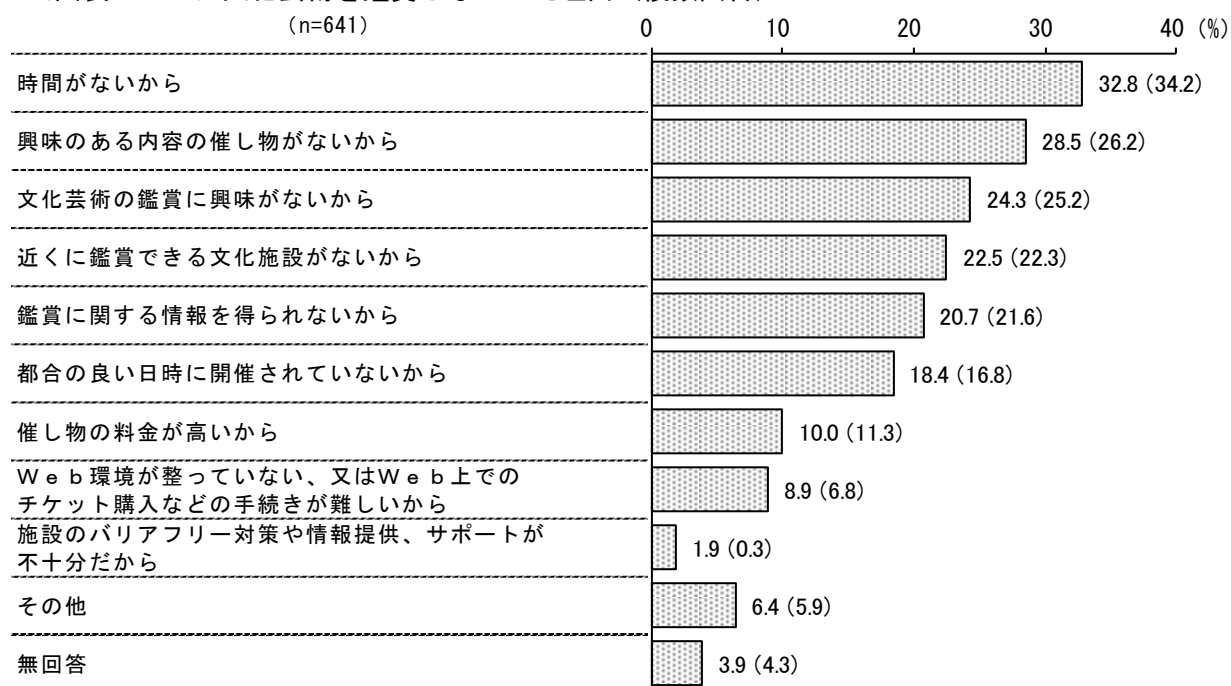
(20－1) 文化芸術を鑑賞しなかった理由

◇「時間がないから」が3割を超える

(問20 (ア) (イ) のいずれかで「鑑賞しなかった」をお答えの方に)

問20－1 「鑑賞しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。(○はいくつでも)

<図表 1－47>文化芸術を鑑賞しなかった理由（複数回答）



注) () の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=690

この1年間の文化芸術の鑑賞について、直接またはオンラインやテレビで鑑賞しなかったと回答した641人を対象に、鑑賞しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」(32.8%)が3割を超えて最も高く、以下、「興味のある内容の催し物がないから」(28.5%)、「文化芸術の鑑賞に興味がないから」(24.3%)、「近くに鑑賞できる文化施設がないから」(22.5%)が続く。(図表1－47)

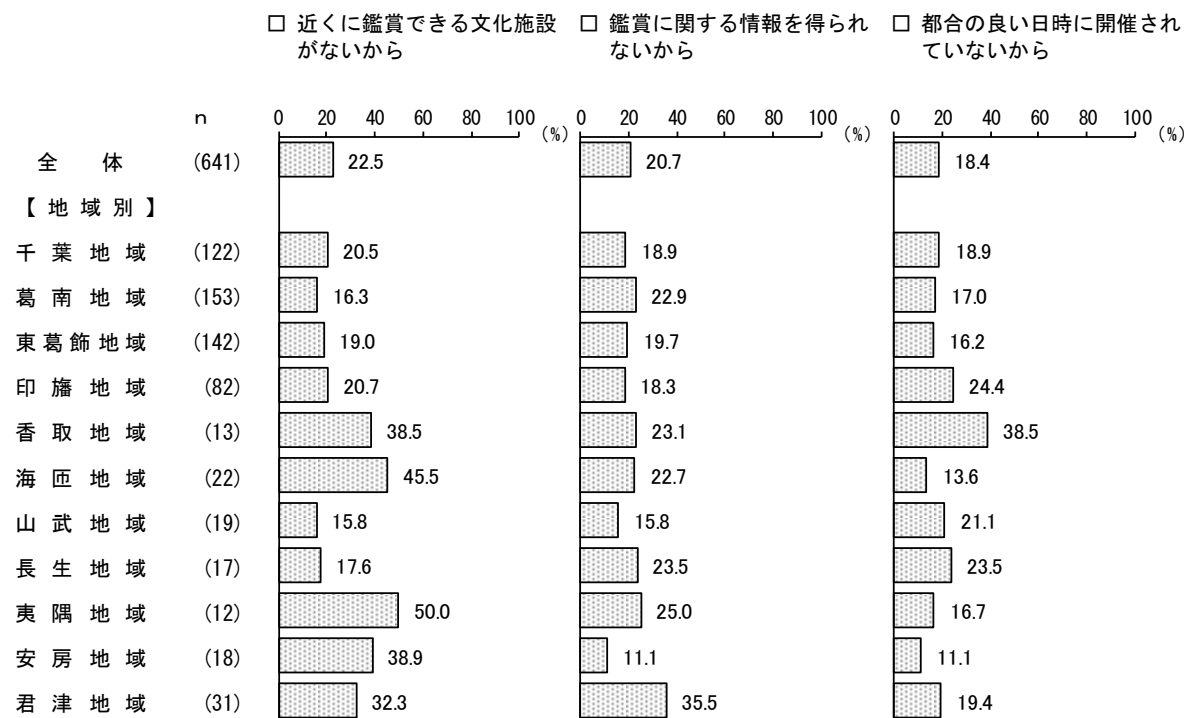
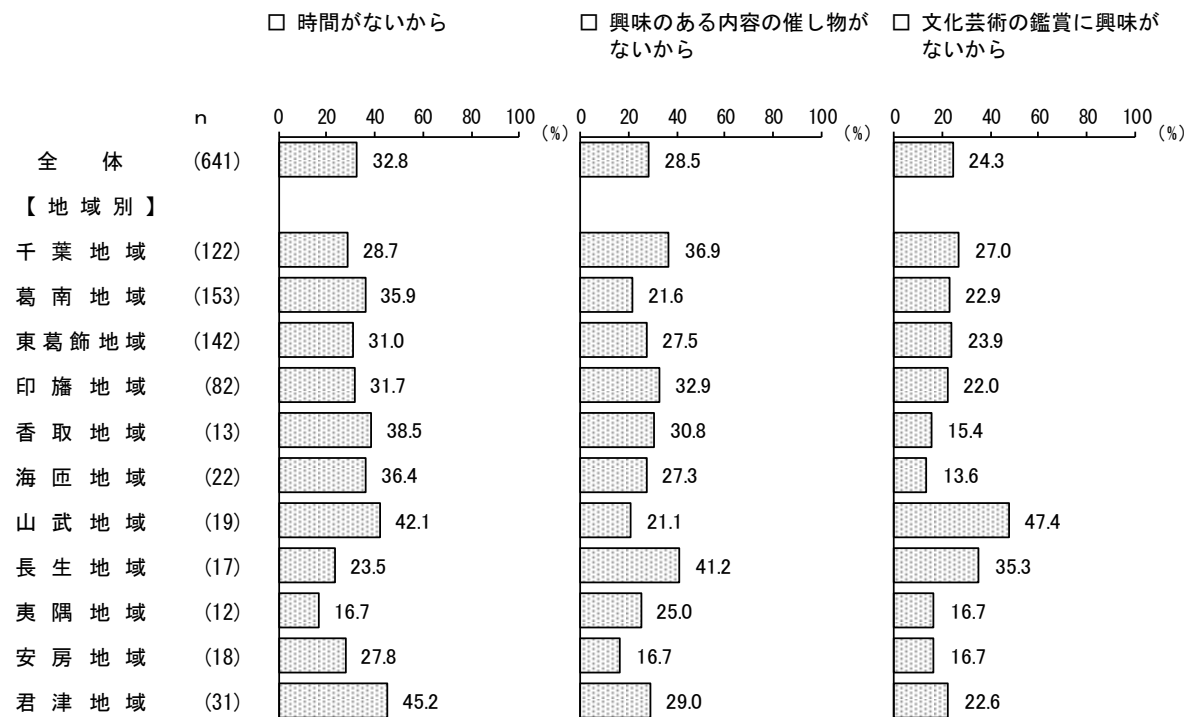
【地域別】

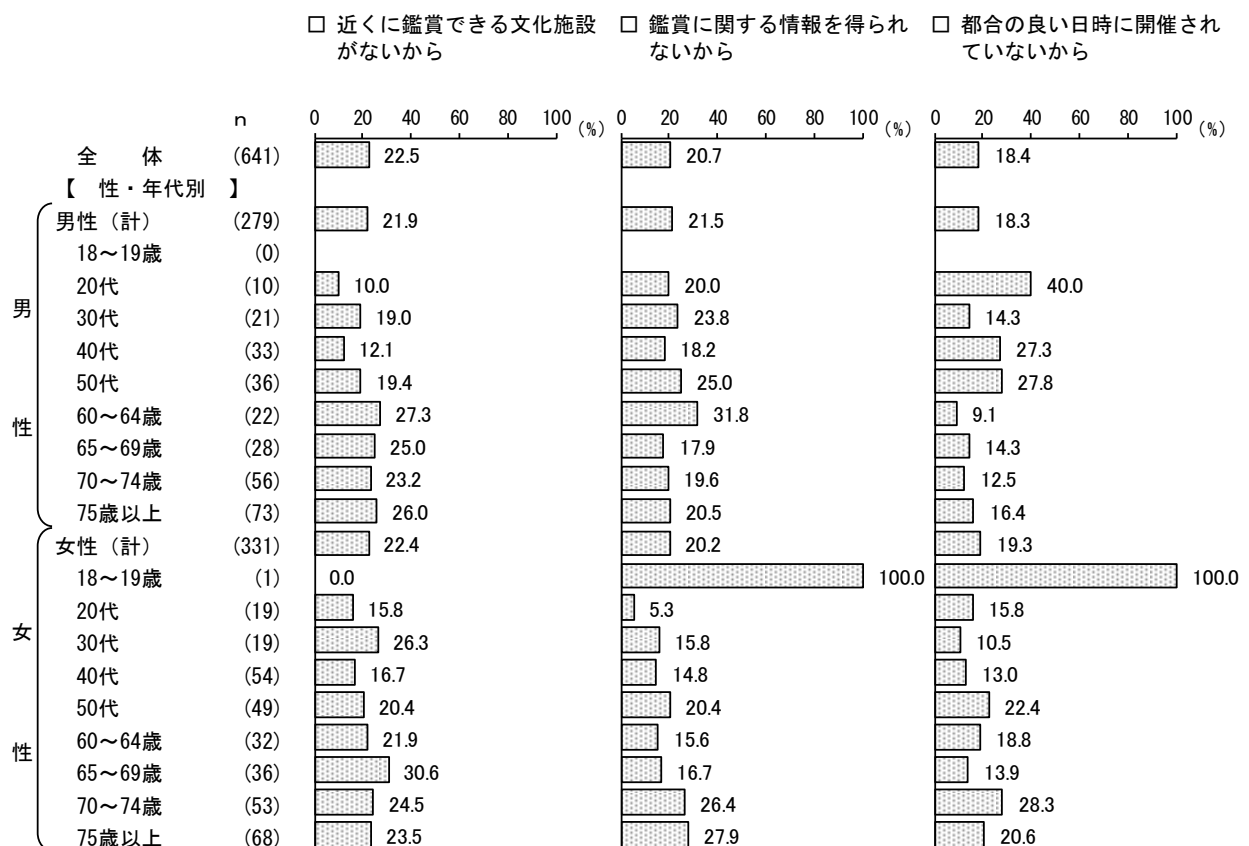
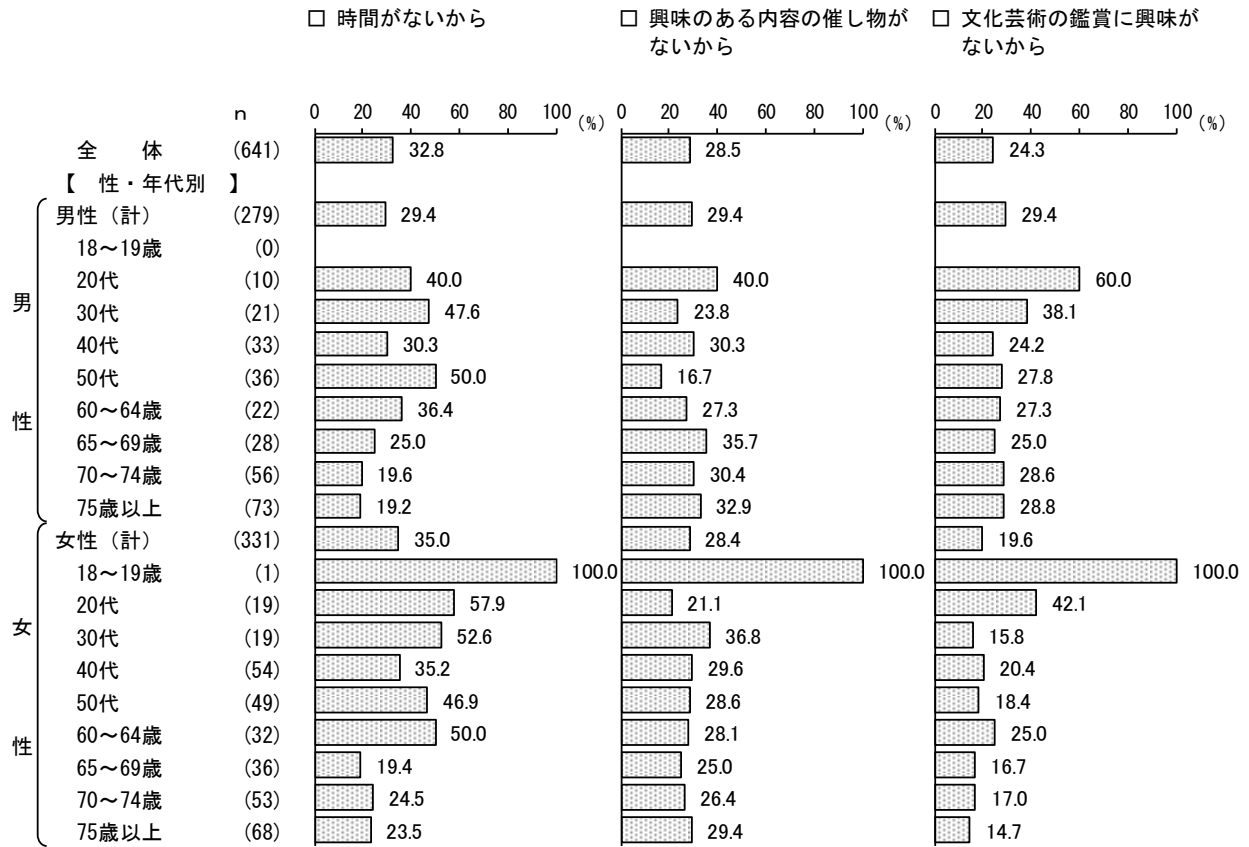
地域別にみると、「興味のある内容の催し物がないから」は“千葉地域”(36.9%)が3割台半ばで高くなっている。(図表1－48)

【性・年代別】

性・年代別にみると「時間がないから」は男性の50代(50.0%)と女性の60～64歳(50.0%)が5割、女性の50代(46.9%)が4割台半ばで高くなっている。(図表1－48)

＜図表 1－48＞文化芸術を鑑賞しなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）





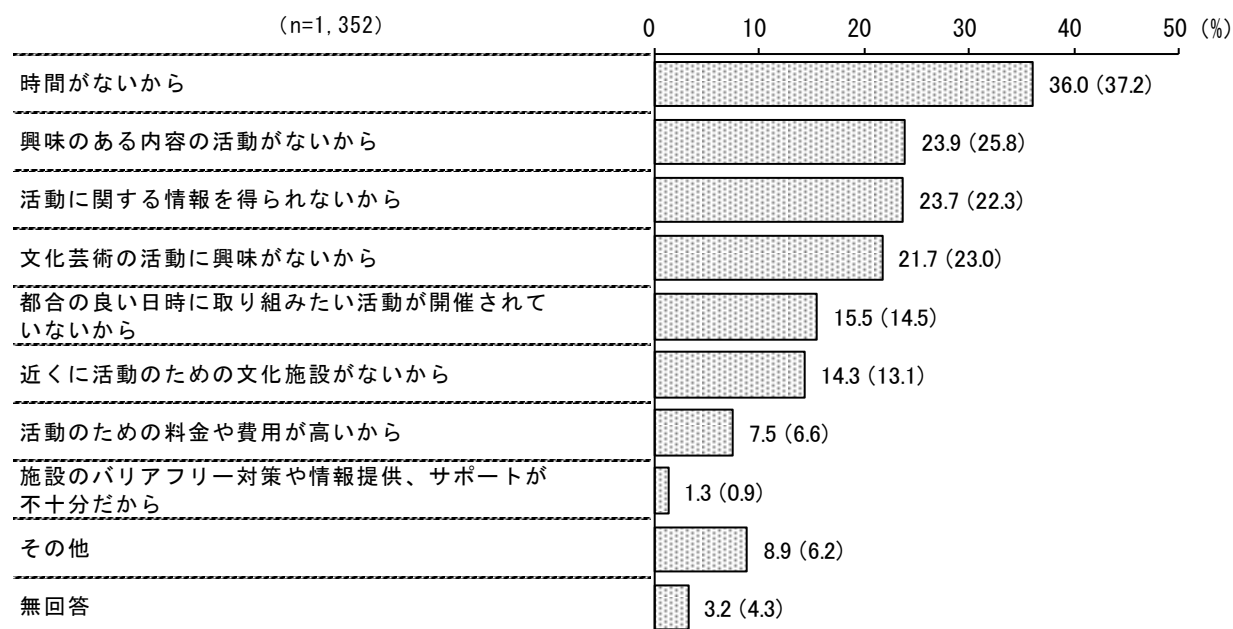
（20－2）文化芸術活動をしなかった理由

◇「時間がないから」が3割台半ば

（問20（ウ）（エ）のいずれかで「活動しなかった」をお答えの方に）

問20－2 「活動しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。（○はいくつでも）

＜図表 1－49＞文化芸術活動をしなかった理由（複数回答）



注）（ ）の数字は令和 6 年度の同様の項目による調査結果 n=1,409

この 1 年間の文化芸術活動について、直接またはオンラインで活動しなかったと回答した 1,352 人を対象に、活動しなかった理由を聞いたところ、「時間がないから」（36.0%）が 3 割台半ばで最も高く、以下、「興味のある内容の活動がないから」（23.9%）、「活動に関する情報を得られないから」（23.7%）、「文化芸術の活動に興味がないから」（21.7%）が続く。（図表 1－49）

【地域別】

地域別にみると、「活動に関する情報を得られないから」は“君津地域”（36.7%）が 3 割台半ばで高くなっている。（図表 1－50）

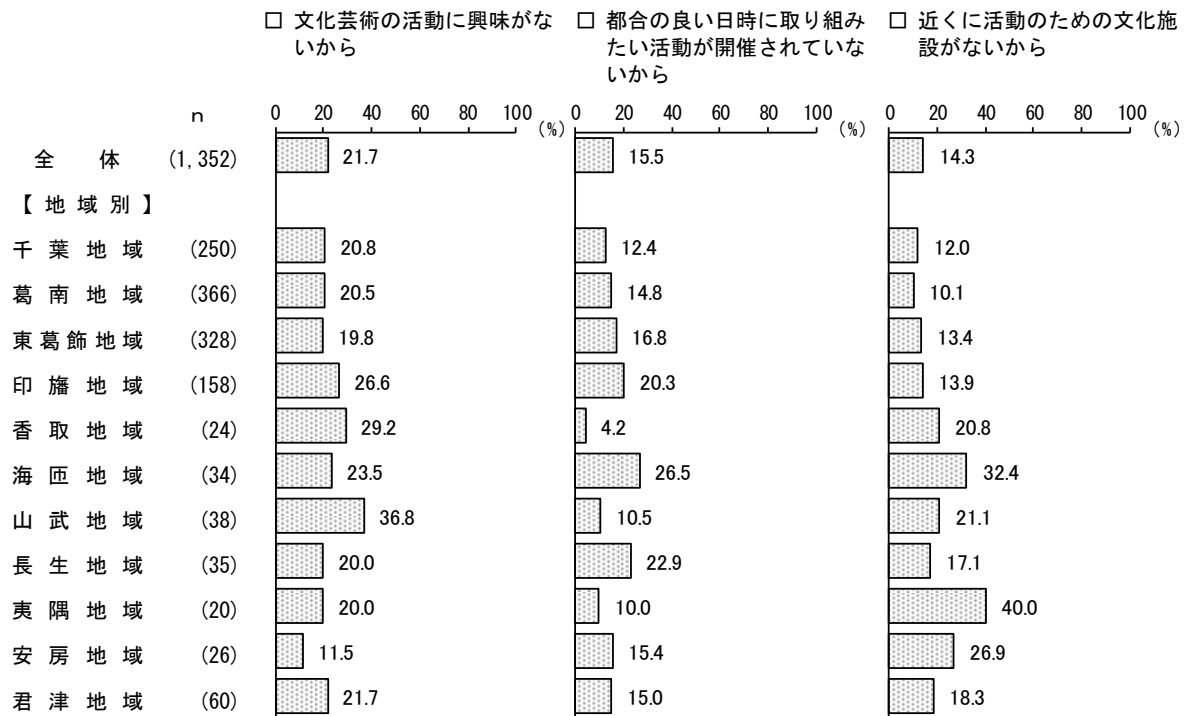
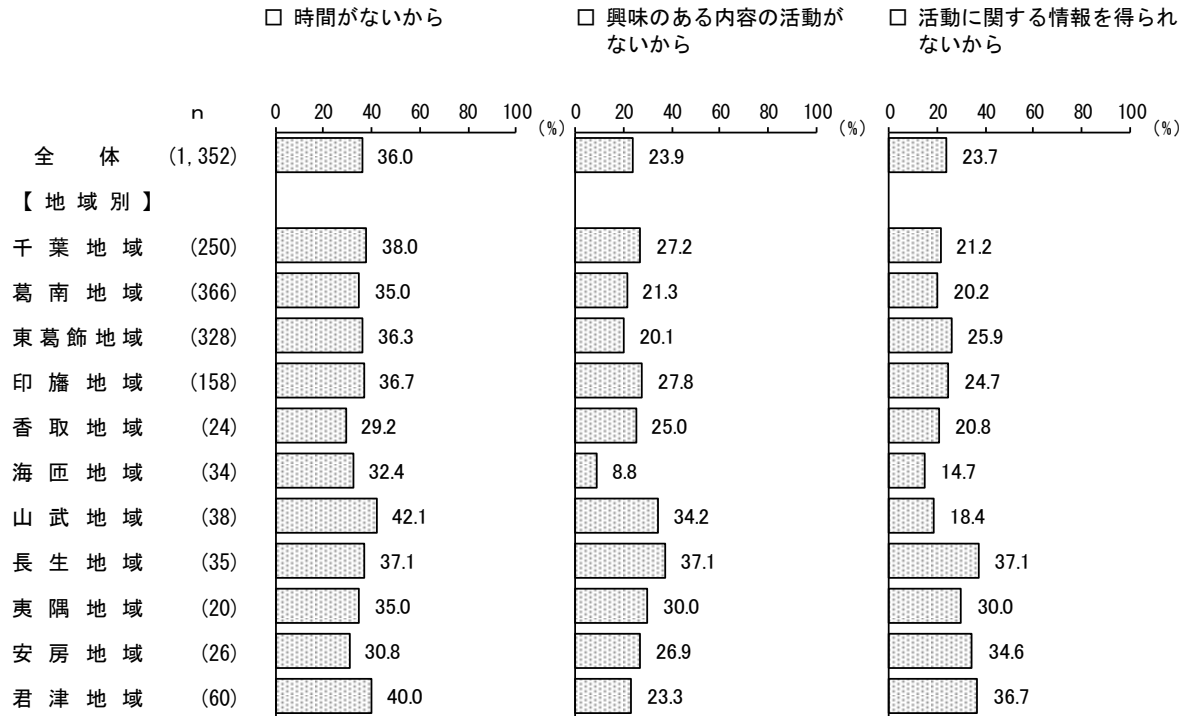
【性・年代別】

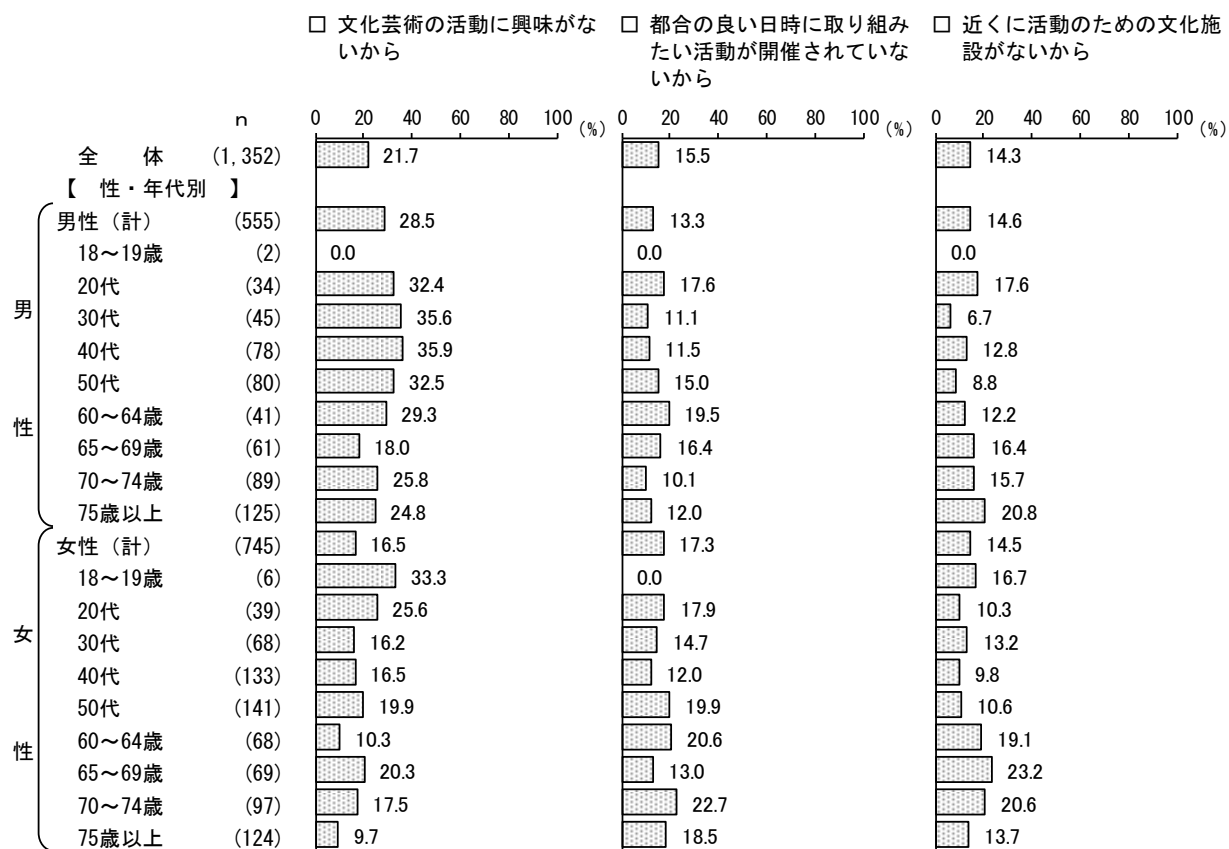
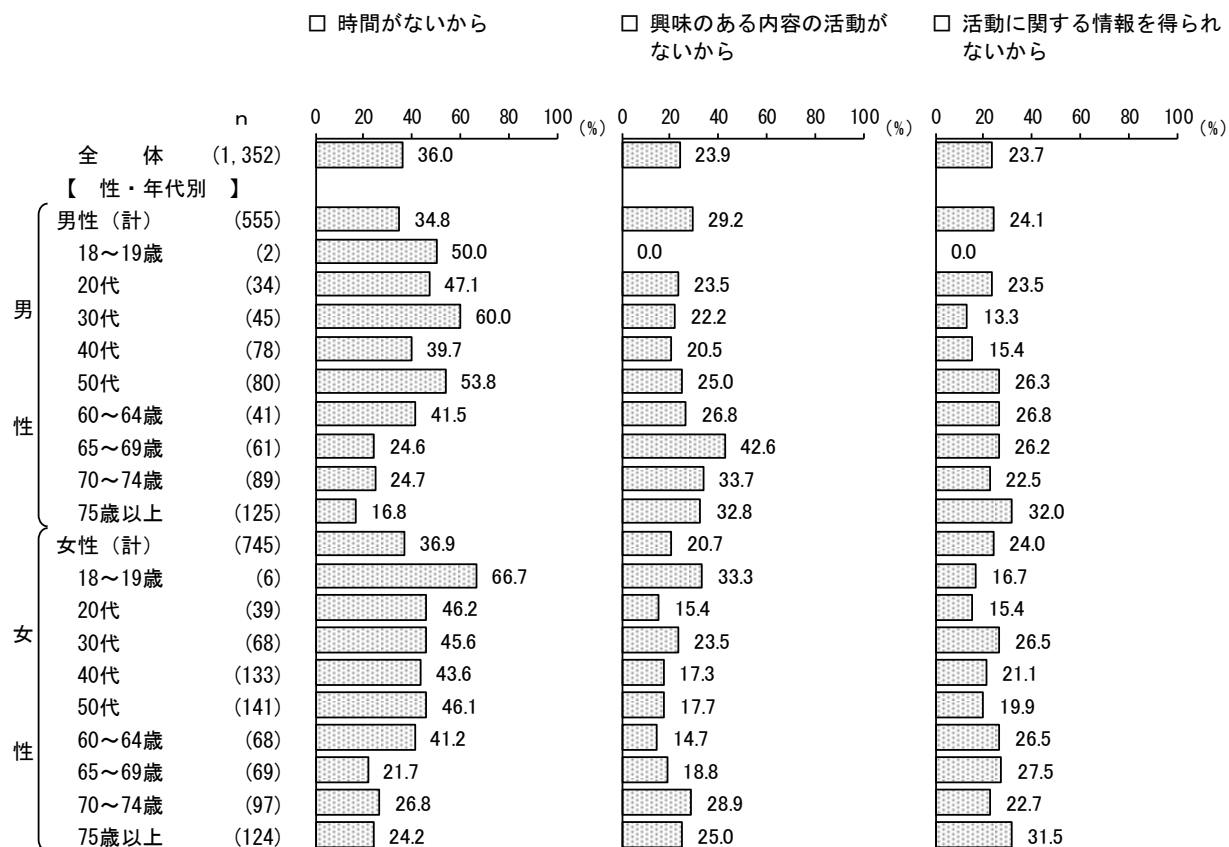
性・年代別にみると、「時間がないから」は男性の 30 代（60.0%）が 6 割、男性の 50 代（53.8%）が 5 割台半ば、女性の 50 代（46.1%）が 4 割台半ばで高くなっている。

「興味のある内容の活動がないから」は男性の 65～69 歳（42.6%）が 4 割を超え、男性の 70～74 歳（33.7%）が 3 割台半ば、男性の 75 歳以上（32.8%）が 3 割を超えて高くなっている。

「活動に関する情報を得られないから」は男性の 75 歳以上（32.0%）と女性の 75 歳以上（31.5%）が 3 割を超えて高くなっている。（図表 1－50）

＜図表 1－50＞文化芸術活動をしなかった理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）



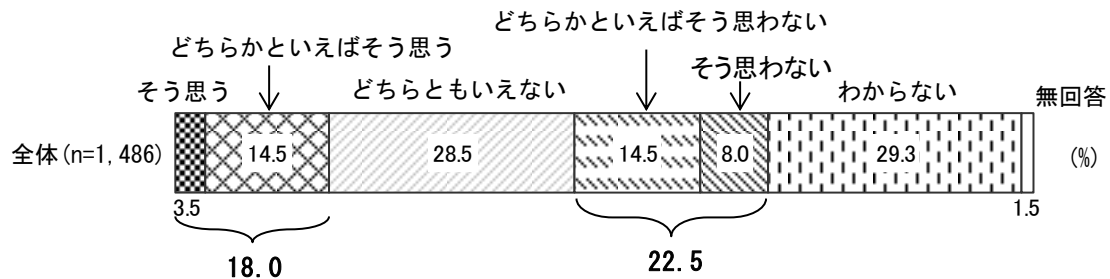


(21) 文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況

◇『そう思う（計）』が約2割

問21 あなたは、千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思いますか。（○は1つ）

＜図表 1－51＞文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況



千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると思うか聞いたところ、「そう思う」(3.5%)と「どちらかといえばそう思う」(14.5%)を合わせた『そう思う(計)』(18.0%)が約2割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」(14.5%)と「そう思わない」(8.0%)を合わせた『そう思わない(計)』(22.5%)が2割を超えている。

また、「どちらともいえない」(28.5%)が約3割、「わからない」(29.3%)が約3割となっている。(図表 1－51)

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

	n	そう思う (計)	そう思わない (計)	無回答 またはどちらともいえない またはわからない
令和5年度調査	(1,561)	22.1	24.1	53.8
令和6年度調査	(1,535)	21.2	23.3	55.5
令和7年度調査	(1,486)	18.0	22.5	59.4

【地域別】

地域別にみると、『そう思わない(計)』は“君津地域”(33.8%)が3割台半ばで高くなっている。

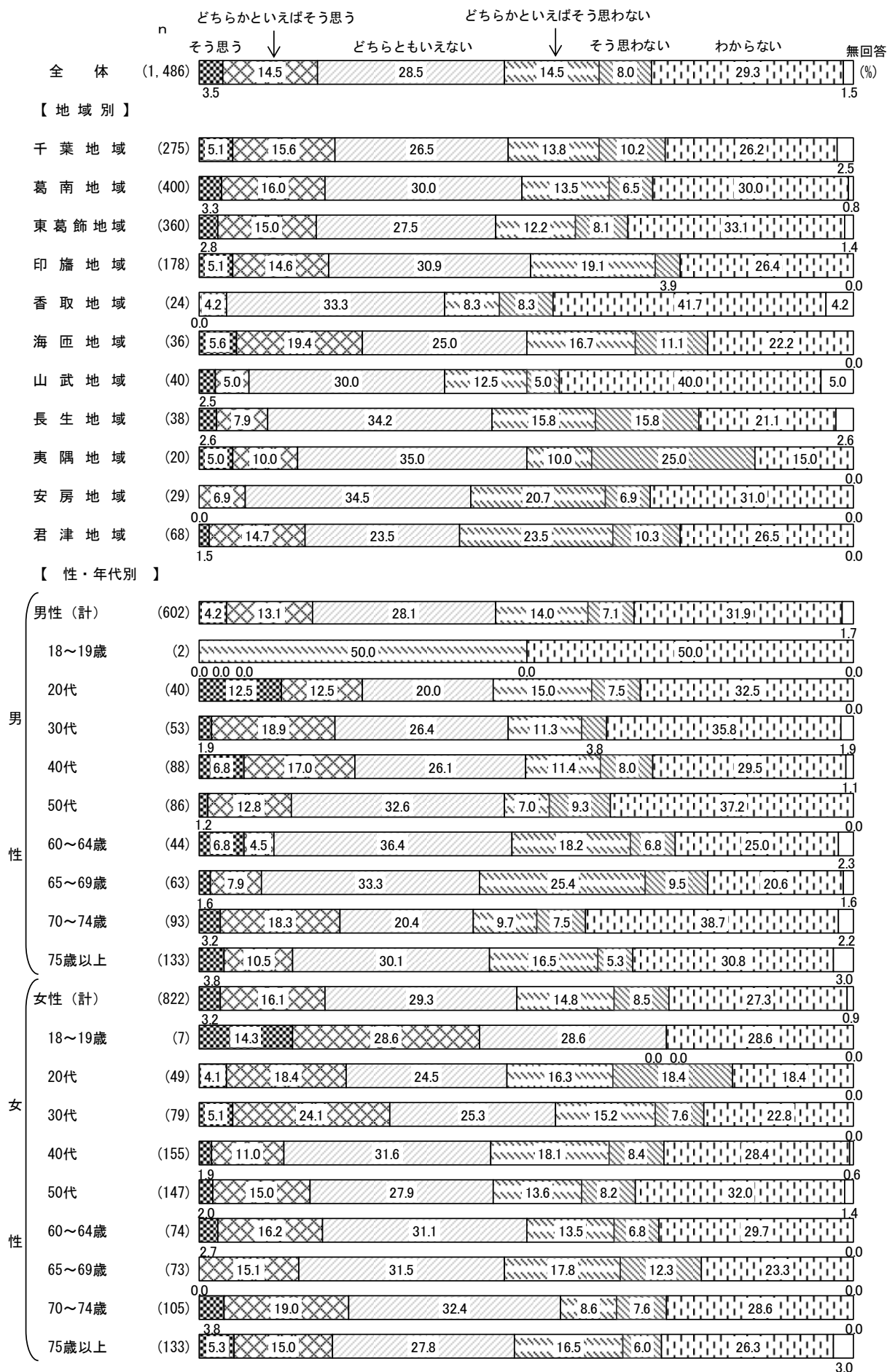
(図表 1－52)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う(計)』は女性の30代(29.1%)が約3割で高くなっている。

一方、『そう思わない(計)』は男性の65～69歳(34.9%)と女性の20代(34.7%)が3割台半ばで高くなっている。(図表 1－52)

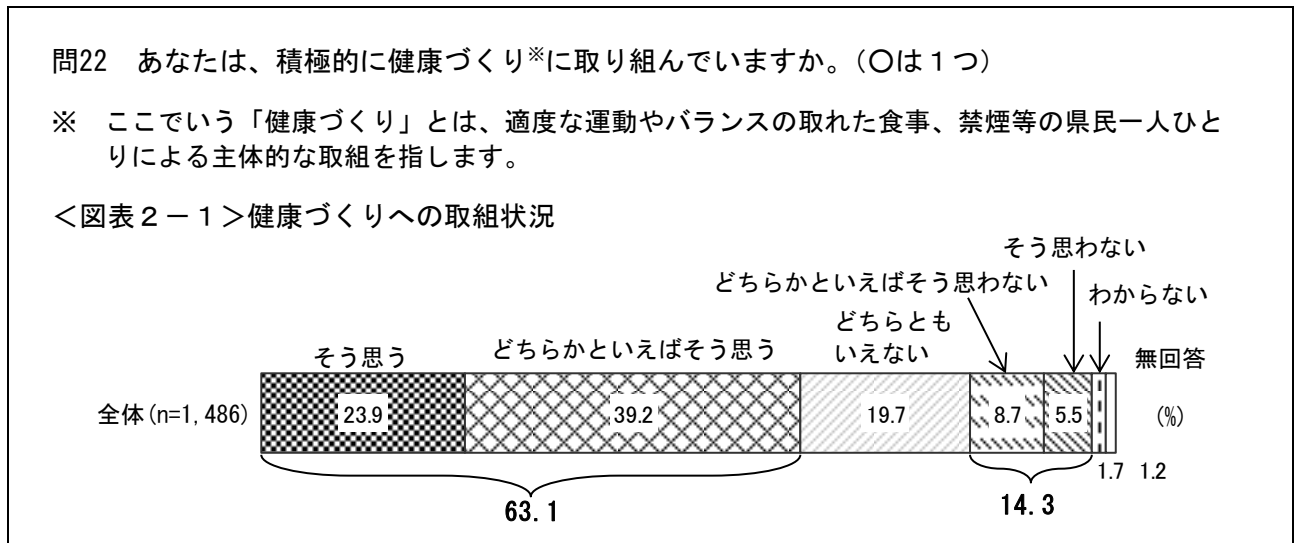
＜図表 1－52＞文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境の整備状況／地域別、性・年代別



2 健康について

（１）健康づくりへの取組状況

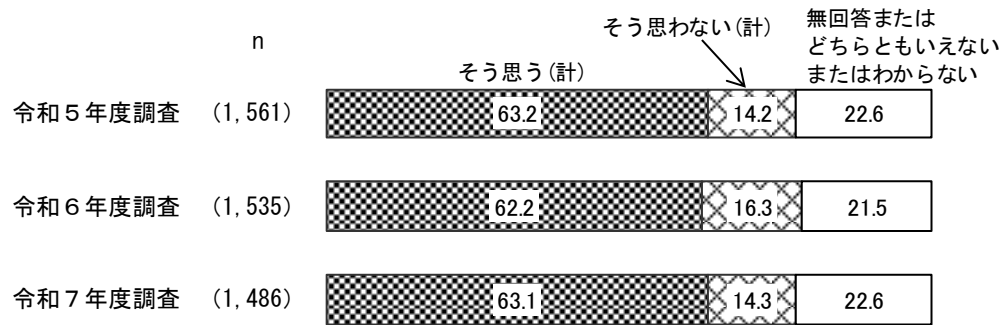
◇『そう思う（計）』が６割を超える



積極的に健康づくりに取り組んでいるか聞いたところ、「そう思う」（23.9%）と「どちらかといえばそう思う」（39.2%）を合わせた『そう思う（計）』（63.1%）が６割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（8.7%）と「そう思わない」（5.5%）を合わせた『そう思わない（計）』（14.3%）が１割台半ばとなっている。（図表２－１）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

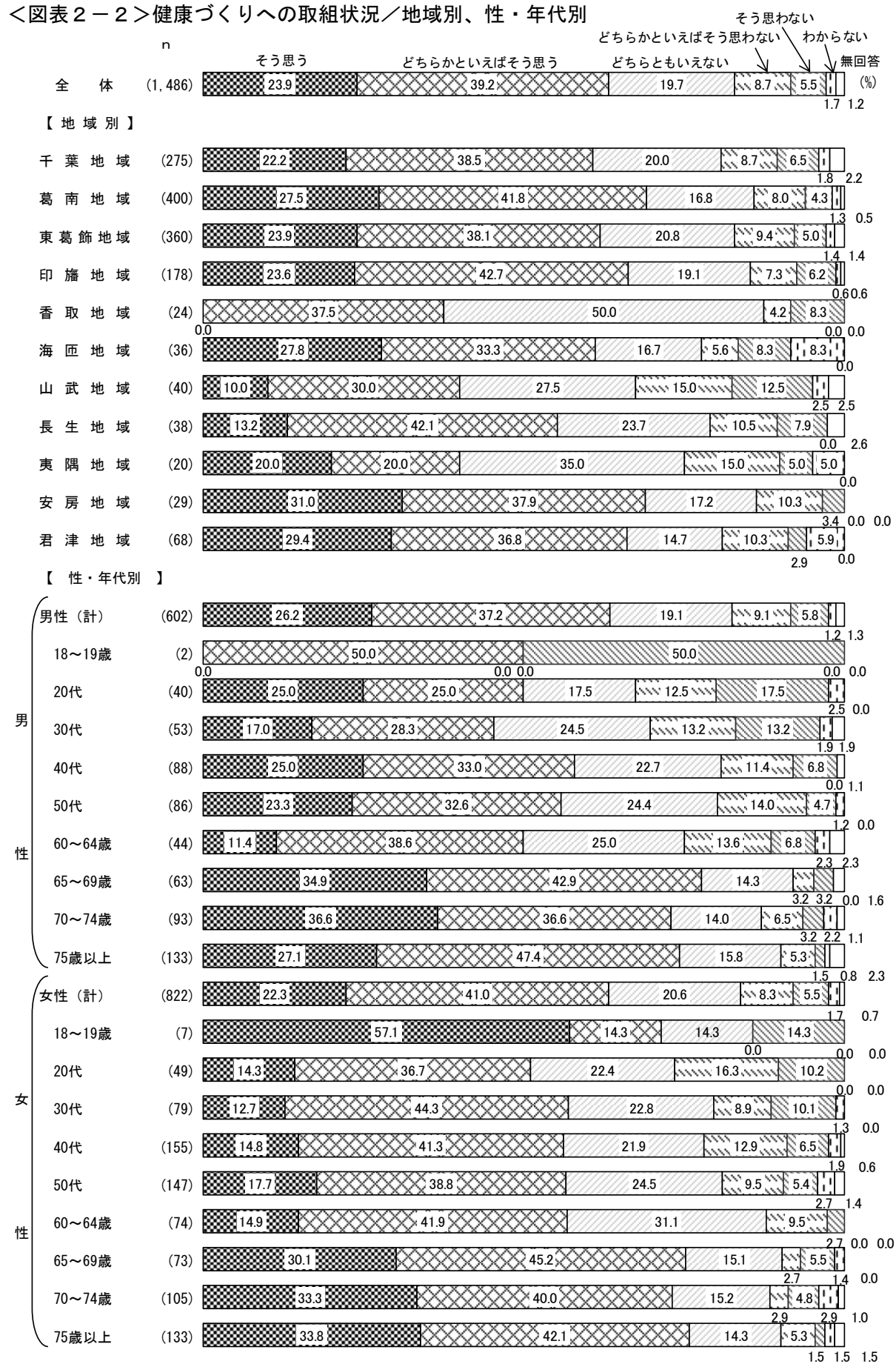
地域別にみると、『そう思う（計）』は“葛南地域”（69.3%）が約７割で高くなっている。
一方、『そう思わない（計）』は“山武地域”（27.5%）が約３割で高くなっている。（図表２－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は男性の65～69歳（77.8%）が約８割、女性の75歳以上（75.9%）、女性の65～69歳（75.3%）、男性の75歳以上（74.4%）が７割台半ば、女性の70～74歳（73.3%）と男性の70～74歳（73.1%）が７割を超えて高くなっている。

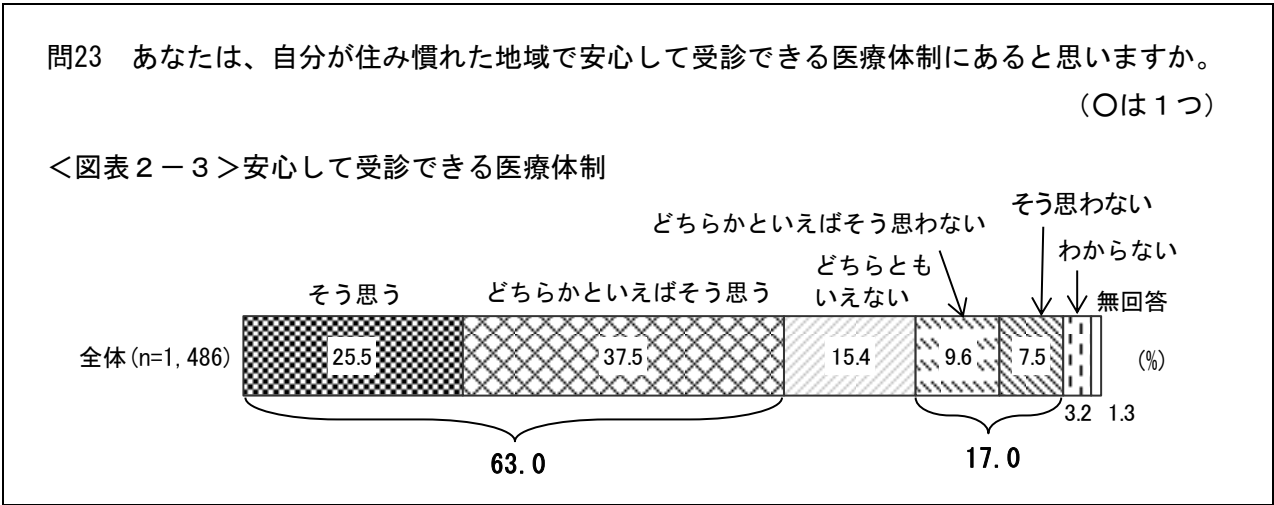
一方、『そう思わない（計）』は男性の20代（30.0%）が３割、女性の20代（26.5%）と男性の30代（26.4%）が２割台半ばで高くなっている。（図表２－２）

＜図表 2－2＞健康づくりへの取組状況／地域別、性・年代別



（２）安心して受診できる医療体制

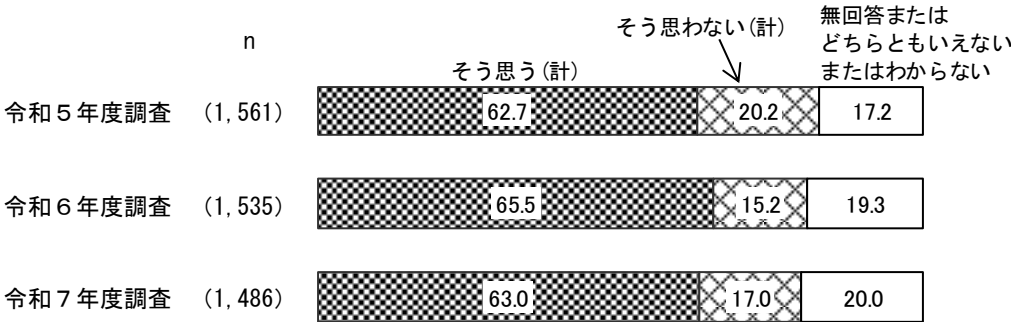
◇『そう思う（計）』が６割を超える



住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思うか聞いたところ、「そう思う」（25.5%）と「どちらかといえばそう思う」（37.5%）を合わせた『そう思う（計）』（63.0%）が６割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（9.6%）と「そう思わない」（7.5%）を合わせた『そう思わない（計）』（17.0%）が約２割となっている。（図表２－３）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『そう思う（計）』は“葛南地域”（68.5%）が約７割で高くなっている。

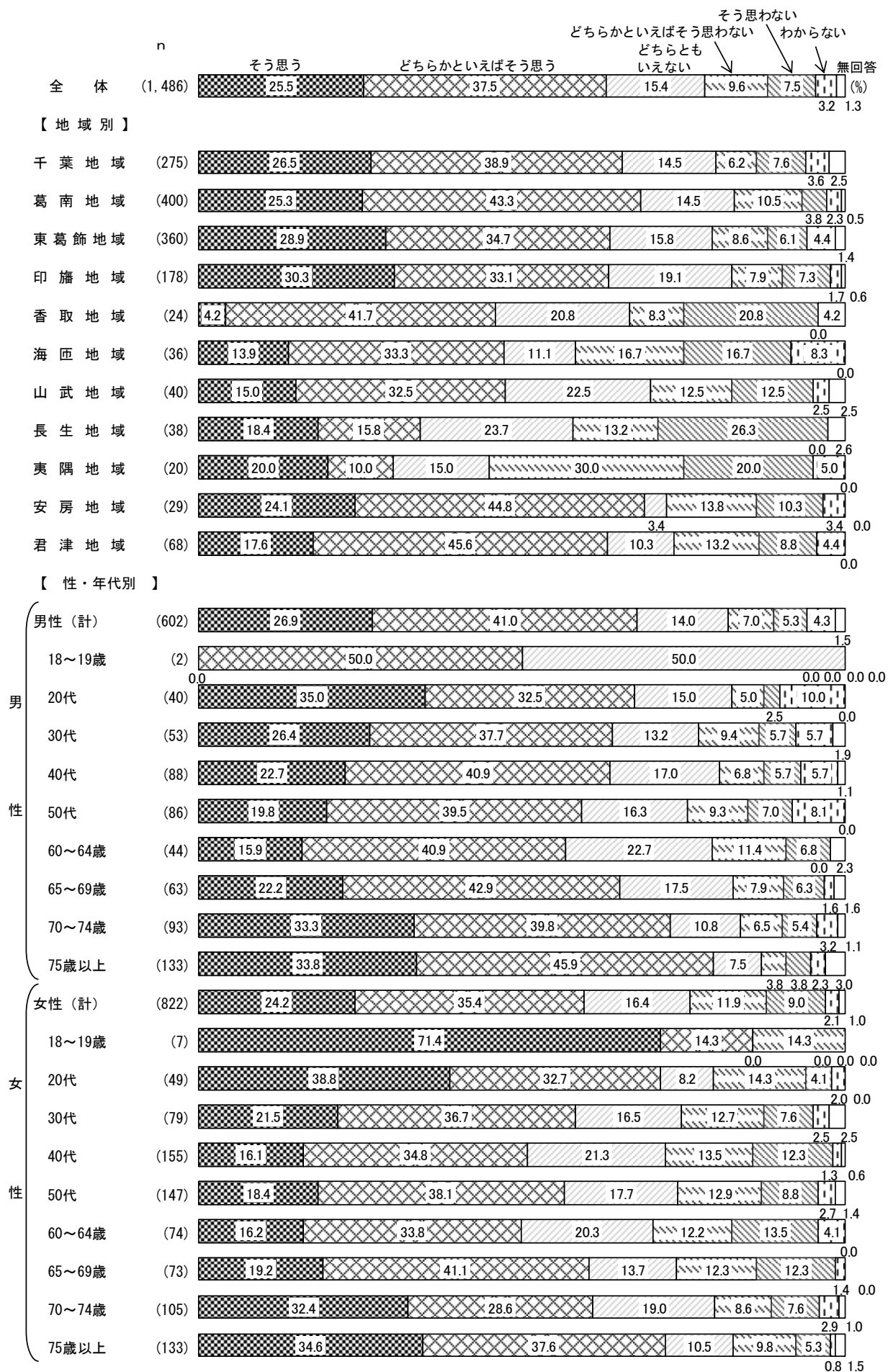
一方、『そう思わない（計）』は“長生地域”（39.5%）が約４割、“海匝地域”（33.3%）が３割を超えて高くなっている。（図表２－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は男性の75歳以上（79.7%）が約８割、男性の70～74歳（73.1%）と女性の75歳以上（72.2%）が７割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は女性の40代（25.8%）と女性の60～64歳（25.7%）が２割台半ばで高くなっている。（図表２－４）

<図表 2-4>安心して受診できる医療体制／地域別、性・年代別

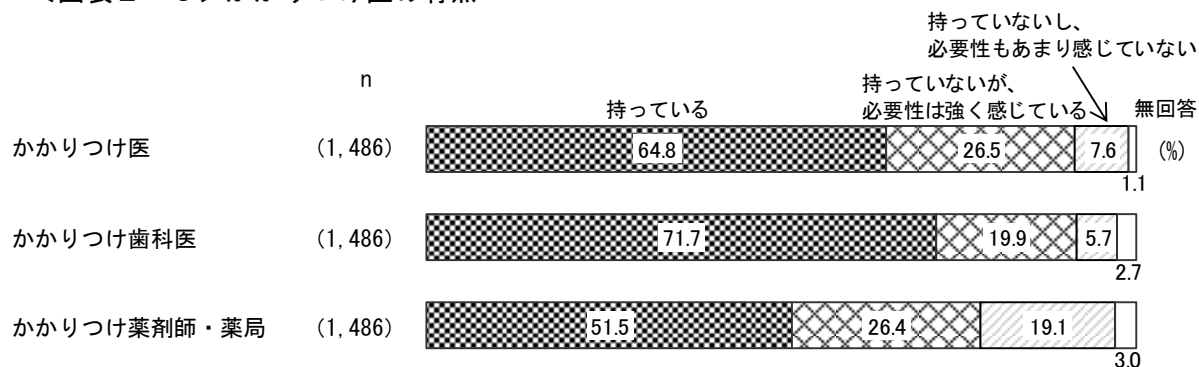


（３）かかりつけ医の有無

◇かかりつけ歯科医を持っているが７割を超え、かかりつけ医を持っているが６割台半ば

問24 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬剤師・薬局」をお持ちですか。
（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表２－５＞かかりつけ医の有無



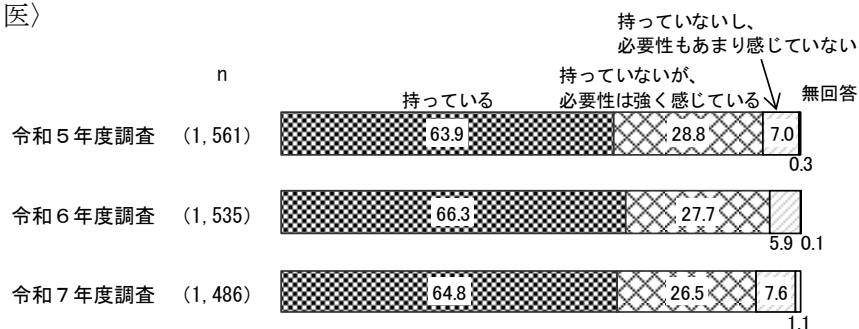
かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬剤師・薬局を持っているかどうかを聞いたところ、「持っている」は〈かかりつけ歯科医〉（71.7%）が７割を超え、〈かかりつけ医〉（64.8%）が６割台半ば、〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（51.5%）が５割を超えている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は〈かかりつけ医〉（26.5%）と〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（26.4%）が２割台半ば、〈かかりつけ歯科医〉（19.9%）が約２割となっている。

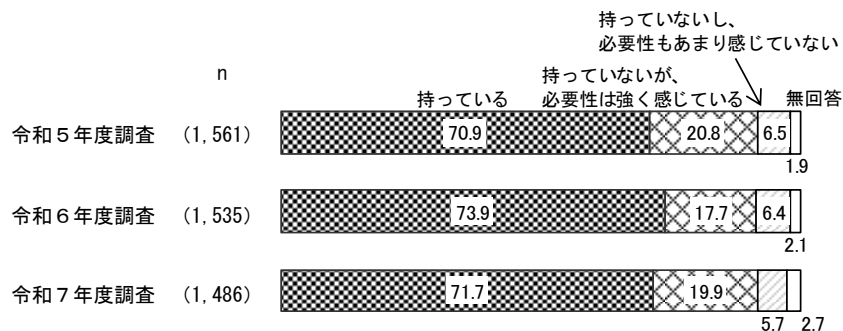
「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は〈かかりつけ薬剤師・薬局〉（19.1%）が約２割となっている。（図表２－５）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

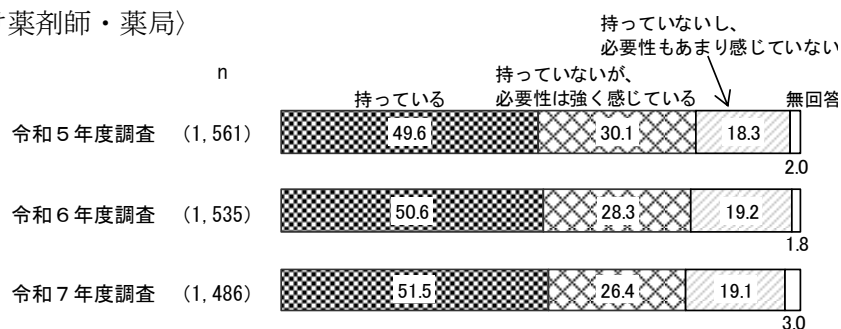
〈かかりつけ医〉



〈かかりつけ歯科医〉



〈かかりつけ薬剤師・薬局〉



【地域別】

地域別にみると、〈かかりつけ医〉について大きな傾向の違いは見られない。

〈かかりつけ歯科医〉を「持っている」は“君津地域”（83.8%）が8割台半ばで高くなっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は“千葉地域”（24.7%）が2割台半ばで高くなっている。

〈かかりつけ薬剤師・薬局〉について大きな傾向の違いは見られない。（図表2－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、〈かかりつけ医〉を「持っている」は女性の75歳以上（86.5%）と男性の75歳以上（84.2%）が8割台半ば、女性の70～74歳（81.0%）が8割を超えて高くなっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は男性の30代（41.5%）が4割を超え、女性の30代（40.5%）が4割、女性の50代（38.8%）と女性の40代（38.7%）が約4割で高くなっている。

また、「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の20代（27.5%）が約3割、男性の40代（22.7%）が2割を超え、男性の30代（17.0%）が約2割、男性の50代（16.3%）が1割台半ばで高くなっている。

〈かかりつけ歯科医〉を「持っている」は女性の75歳以上（86.5%）が8割台半ば、女性の60～64歳（82.4%）が8割を超え、女性の40代（80.0%）が8割で高くなっている。

また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は男性の30代（37.7%）が約4割、女性の20代（32.7%）が3割を超えて高くなっている。

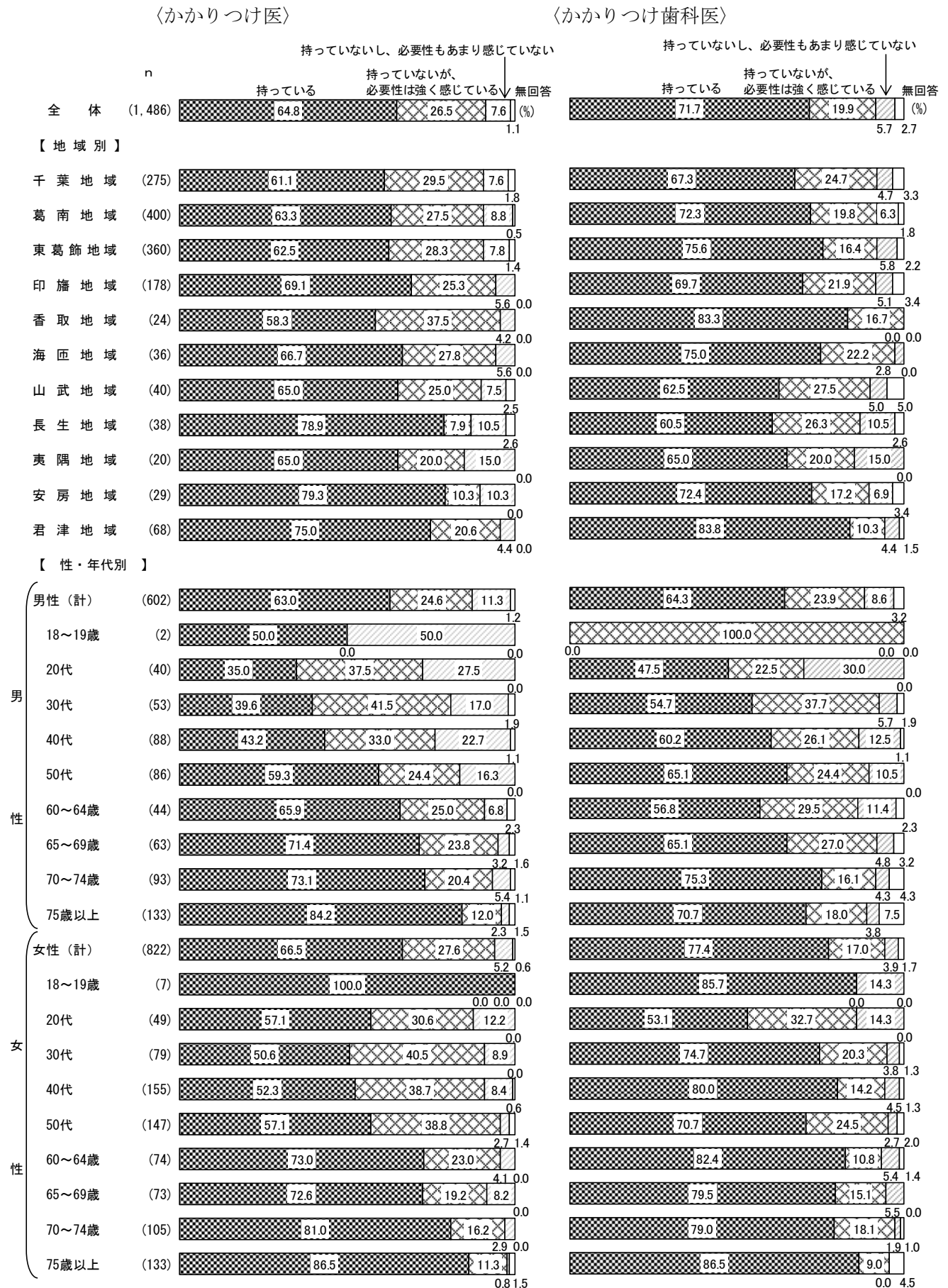
また、「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の20代（30.0%）が3割、女性の20代（14.3%）が1割台半ば、男性の40代（12.5%）が1割を超え、男性の50代（10.5%）が1割で高くなっている。

〈かかりつけ薬剤師・薬局〉を「持っている」は女性の75歳以上（76.7%）が7割台半ば、女性の70～74歳（67.6%）が約7割、女性の60～64歳（63.5%）が6割台半ば、男性の75歳以上（61.7%）が6割を超えて高くなっている。

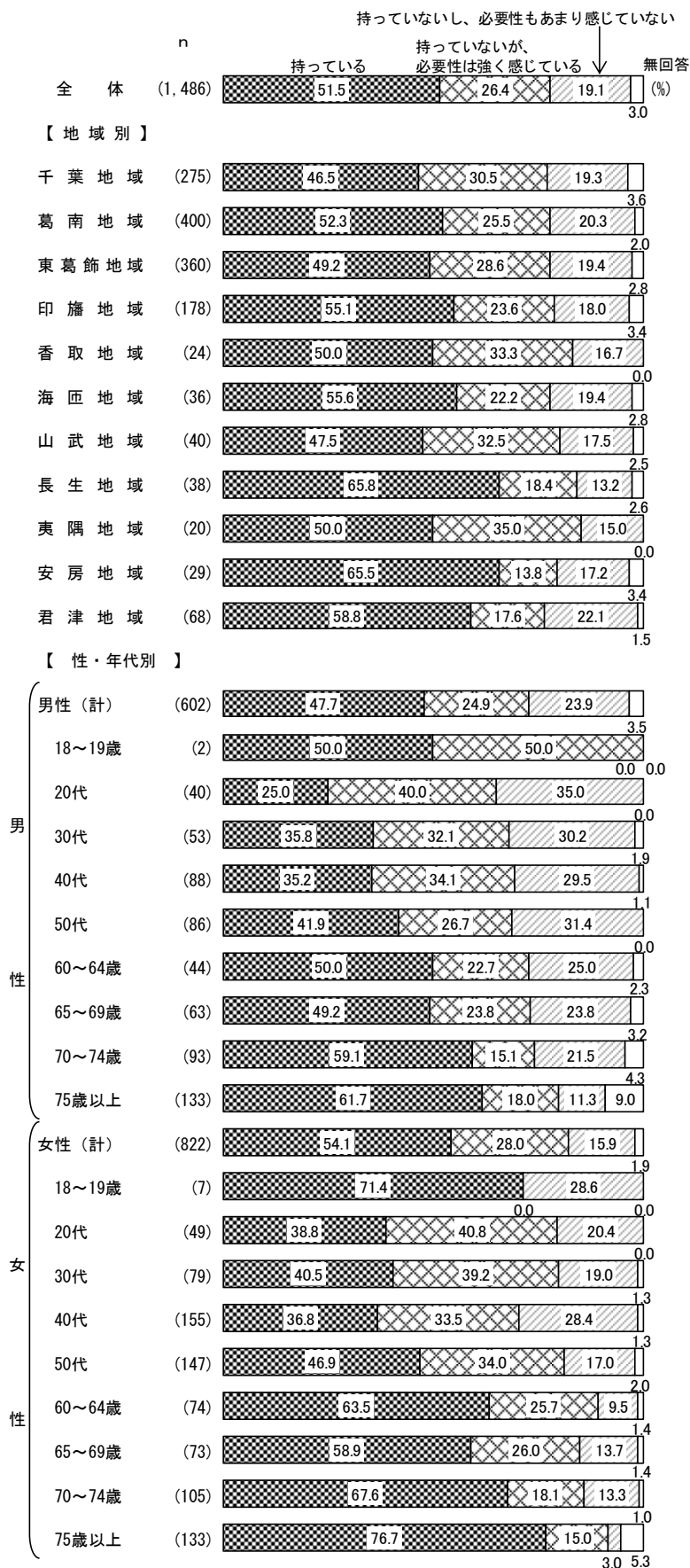
また、「持っていないが、必要性は強く感じている」は女性の20代（40.8%）と男性の20代（40.0%）が4割、女性の30代（39.2%）が約4割、女性の50代（34.0%）と女性の40代（33.5%）が3割台半ばで高くなっている。

また、「持っていないし、必要性もあまり感じていない」は男性の20代（35.0%）が3割台半ば、男性の50代（31.4%）が3割を超え、男性の30代（30.2%）が3割、男性の40代（29.5%）と女性の40代（28.4%）が約3割で高くなっている。（図表2－6）

＜図表２－６＞かかりつけ医の有無／地域別、性・年代別



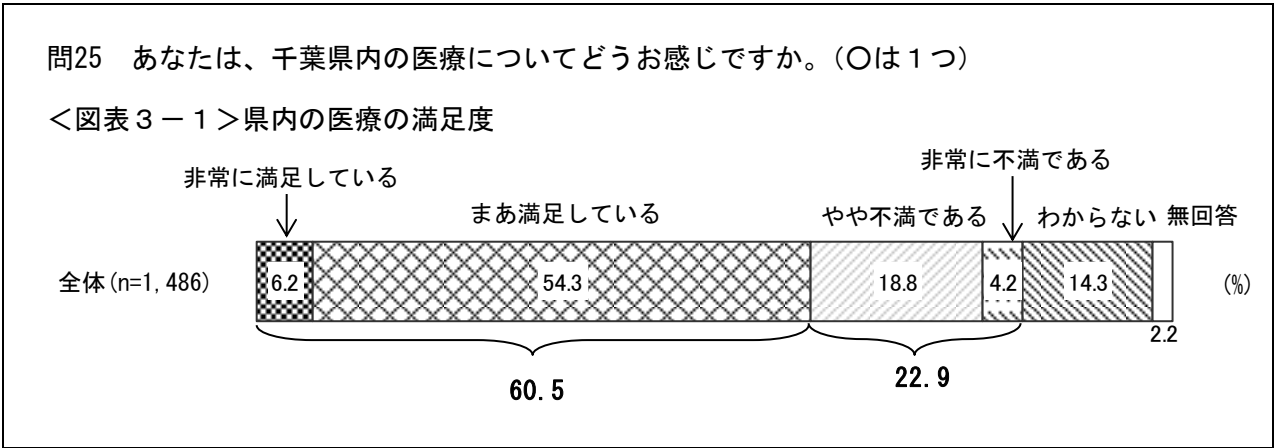
〈かかりつけ薬剤師・薬局〉



3 医療について

(1) 県内の医療の満足度

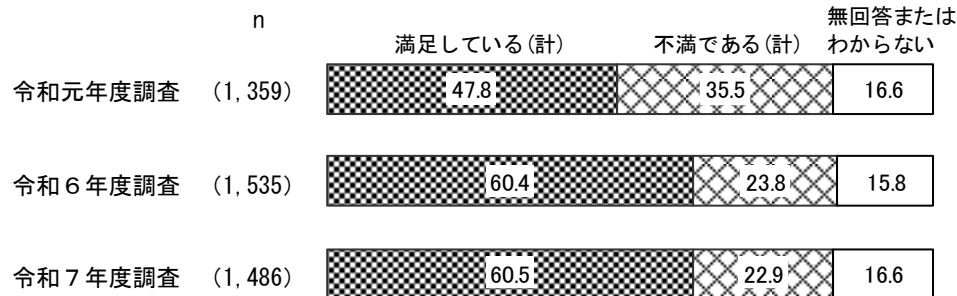
◇『満足している（計）』が6割



県内の医療の満足度を聞いたところ、「非常に満足している」（6.2%）と「まあ満足している」（54.3%）を合わせた『満足している（計）』（60.5%）が6割となっている。

一方、「やや不満である」（18.8%）と「非常に不満である」（4.2%）を合わせた『不満である（計）』（22.9%）は2割を超えている。（図表 3－1）

〔参考〕令和元年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

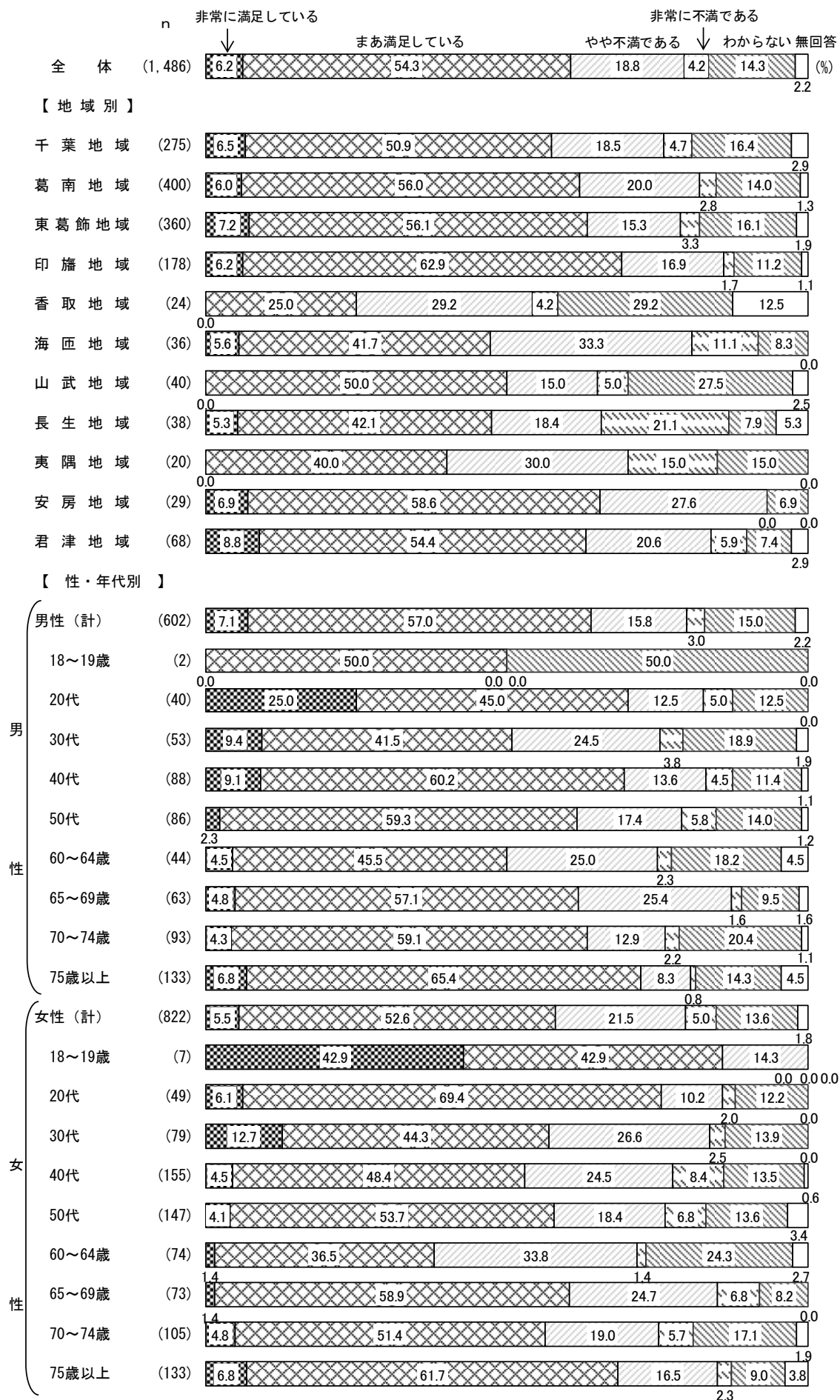
地域別にみると、『満足している（計）』は“印旛地域”（69.1%）が約7割で高くなっている。
一方、『不満である（計）』は“海匝地域”（44.4%）が4割台半ば、“長生地域”（39.5%）が約4割で高くなっている。（図表 3－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は女性の20代（75.5%）が7割台半ば、男性の75歳以上（72.2%）が7割を超えて高くなっている。

一方、『不満である（計）』は女性の60～64歳（35.1%）が3割台半ば、女性の40代（32.9%）が3割を超えて高くなっている。（図表 3－2）

＜図表 3－2＞県内の医療の満足度／地域別、性・年代別



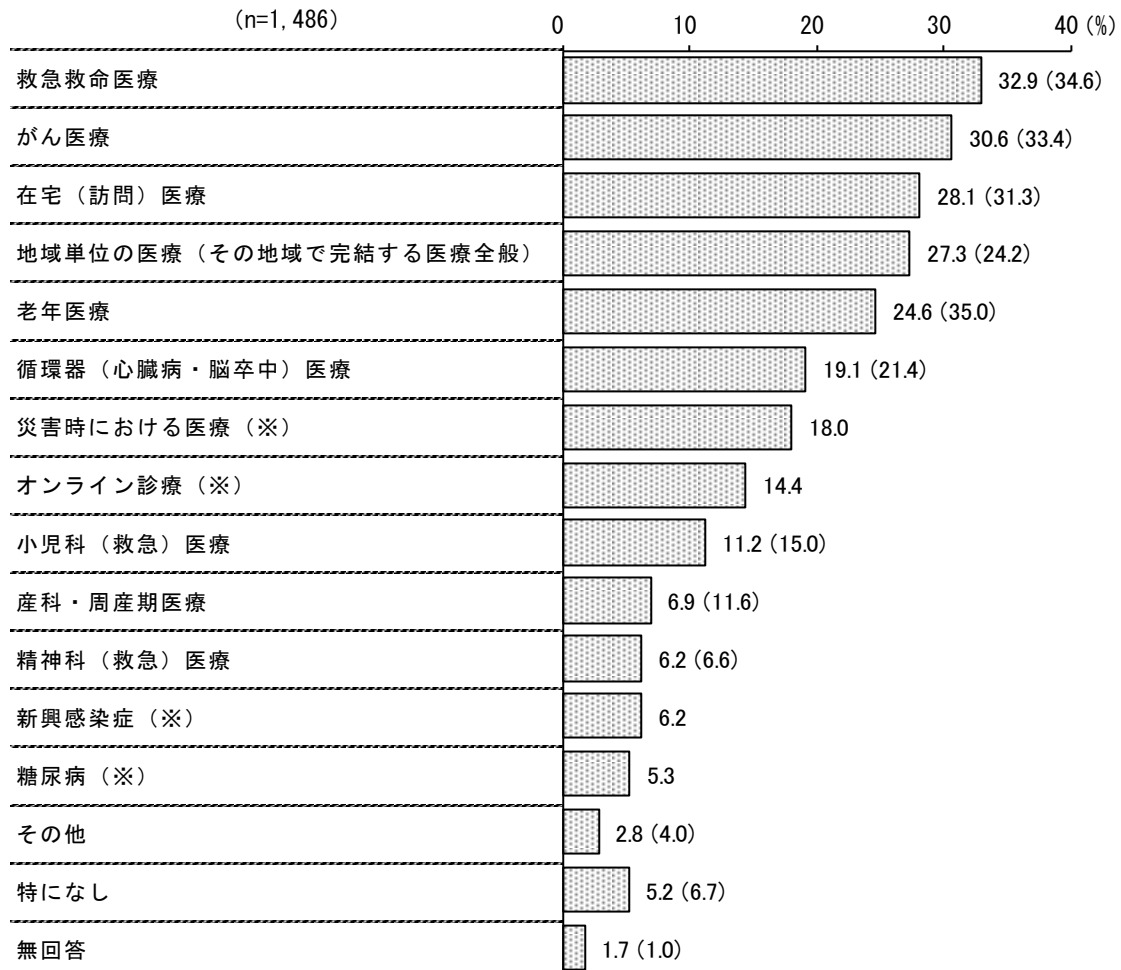
（２）今後、県に力を入れて欲しい医療

◇「救急救命医療」が３割を超える

問26 あなたが今後、県に力を入れて欲しい医療について次の中から選んでください。

（○は３つまで）

＜図表３－３＞今後、県に力を入れて欲しい医療（３つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

（※）今回調査からの新規項目

今後、県に力を入れて欲しい医療について聞いたところ、「救急救命医療」（32.9%）が３割を超えて最も高く、以下、「がん医療」（30.6%）、「在宅（訪問）医療」（28.1%）、「地域単位の医療（その地域で完結する医療全般）」（27.3%）が続く。（図表３－３）

【地域別】

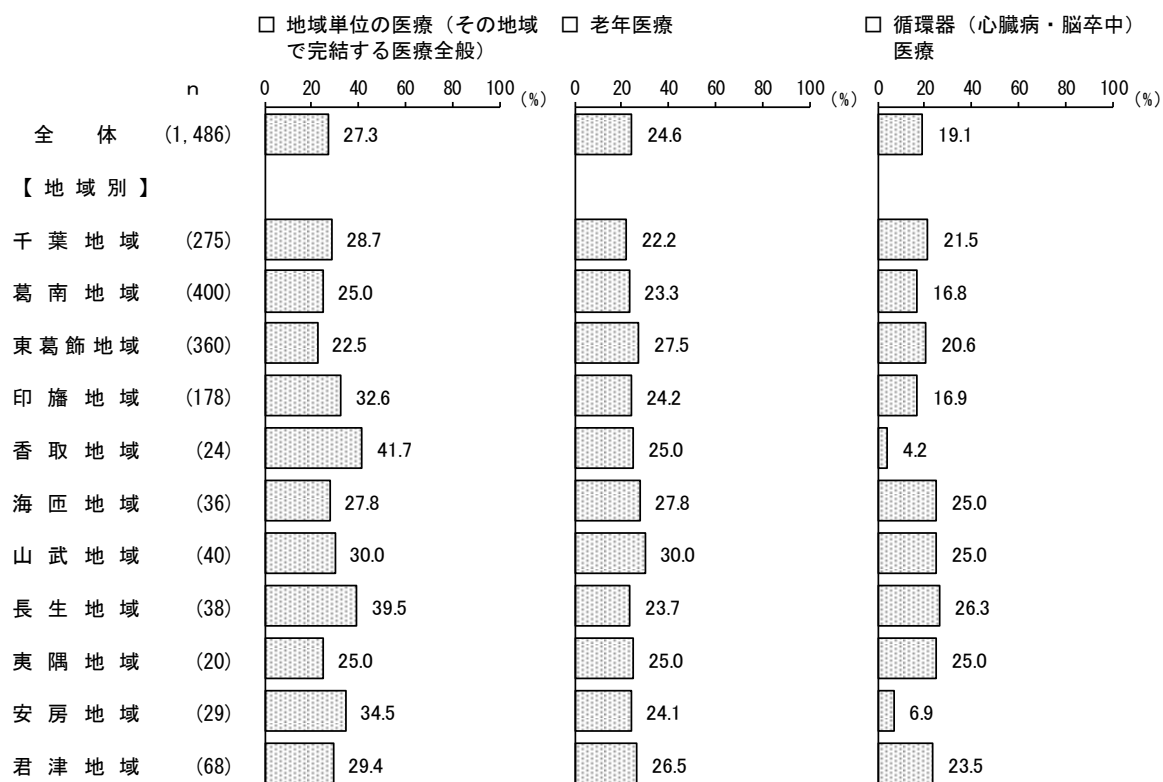
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表３－４）

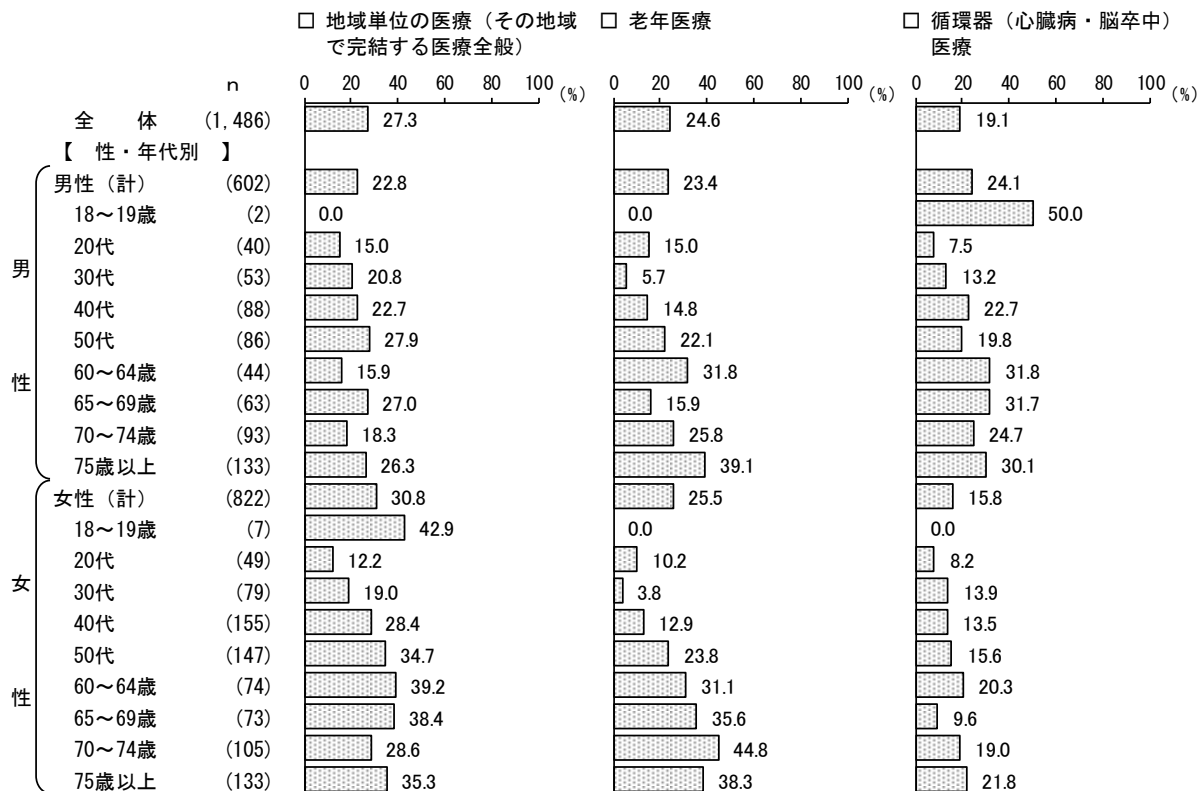
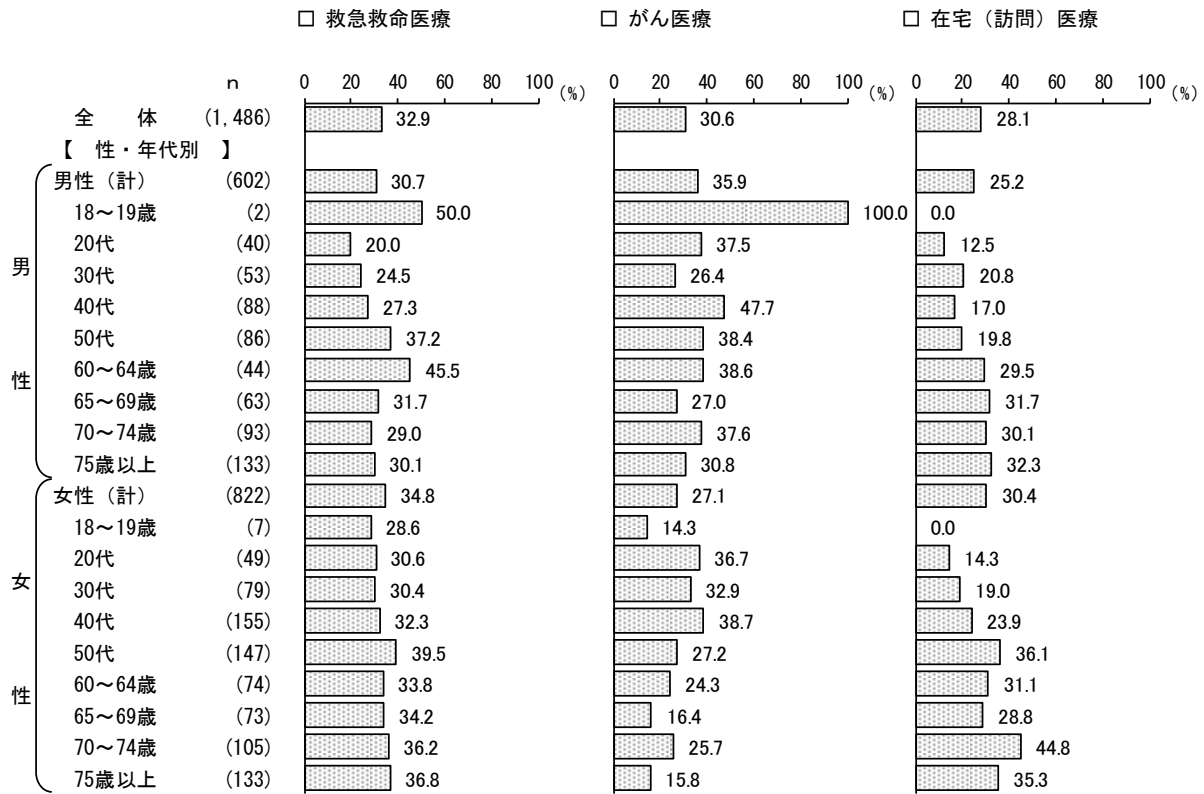
【性・年代別】

性・年代別にみると、「がん医療」は男性の40代（47.7%）が約５割、女性の40代（38.7%）が約４割で高くなっている。

「在宅（訪問）医療」は女性の70～74歳（44.8%）が４割台半ば、女性の50代（36.1%）が３割台半ばで高くなっている。

／地域別、性・年代別（上位6項目）





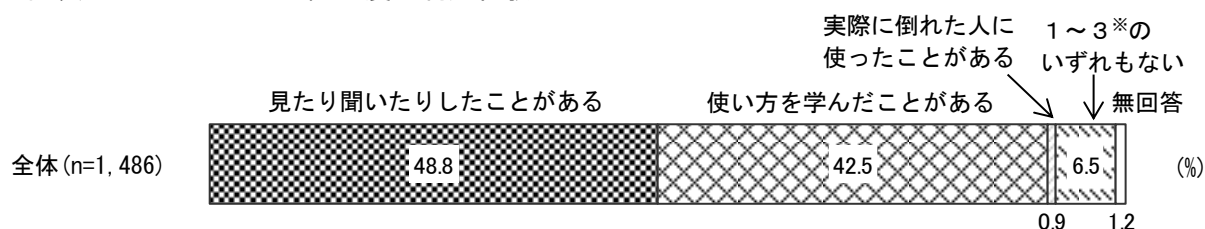
（３）ＡＥＤの認知度・利用経験

◇「見たり聞いたりしたことがある」が約５割

問27 あなたは、ＡＥＤ（自動体外式除細動器）※という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。（○は１つ）

※ ＡＥＤ（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

＜図表３－５＞ＡＥＤの認知度・利用経験

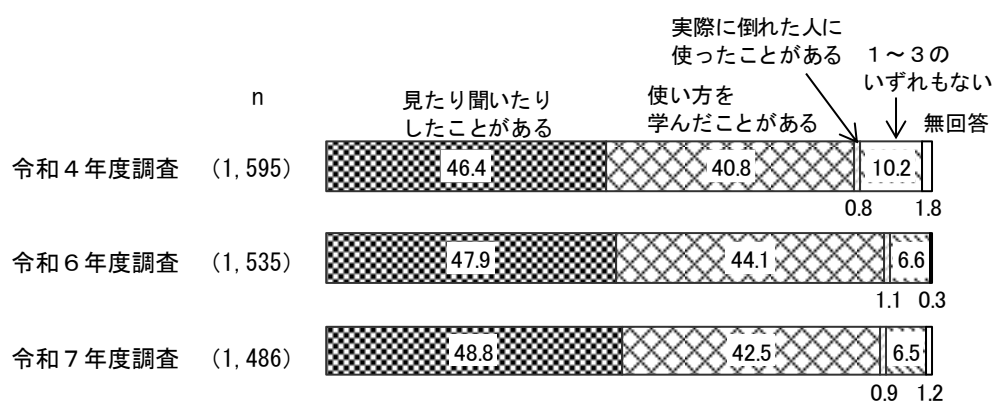


※ 1～3とは、「見たり聞いたりしたことがある」、「使い方を学んだことがある」、「実際に倒れた人に使ったことがある」を指します。

ＡＥＤ（自動体外式除細動器）について見聞きしたり、使ったことがあるか聞いたところ、「見たり聞いたりしたことがある」（48.8％）が約５割、「使い方を学んだことがある」（42.5％）が４割を超えている。

一方、「1～3のいずれもない」（6.5％）は１割未満となっている。（図表３－５）

〔参考〕令和４年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

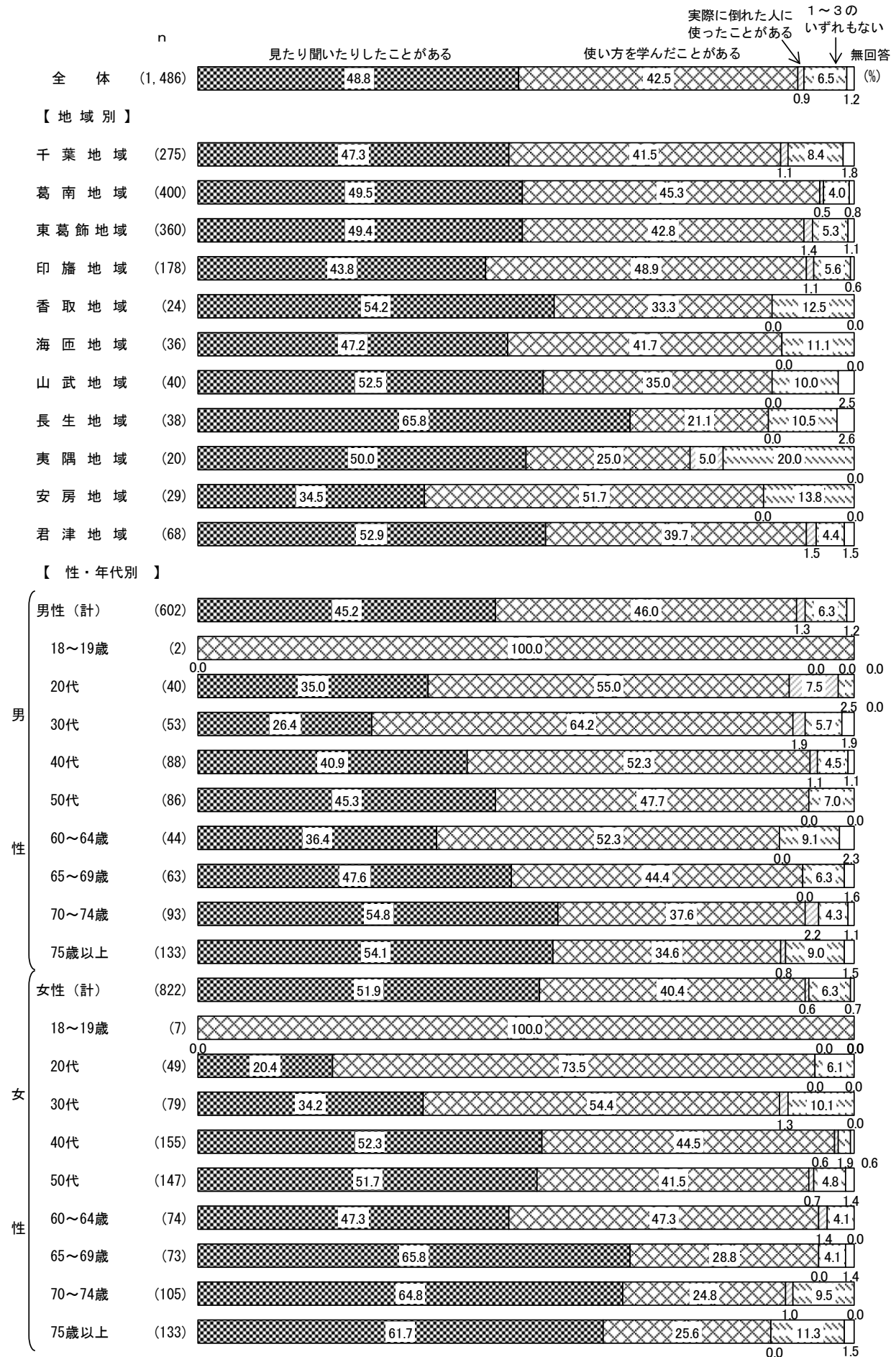
地域別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は“長生地域”（65.8％）が６割台半ばで高くなっている。（図表３－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「見たり聞いたりしたことがある」は女性の65～69歳（65.8％）と女性の70～74歳（64.8％）が６割台半ば、女性の75歳以上（61.7％）が６割を超えて高くなっている。

また、「使い方を学んだことがある」は女性の20代（73.5％）が７割台半ば、男性の30代（64.2％）が６割台半ば、女性の30代（54.4％）が５割台半ばで高くなっている。（図表３－６）

＜図表 3－6＞A E D の認知度・利用経験／地域別、性・年代別

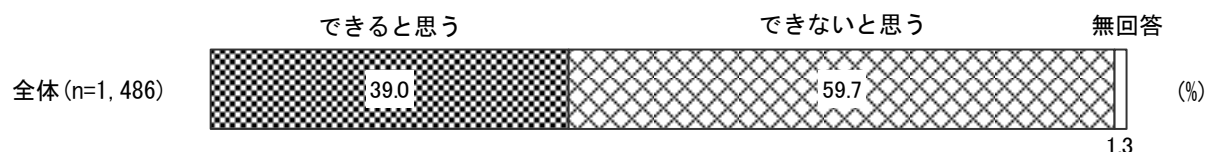


（４）ＡＥＤを使用できるか

◇「できると思う」が約４割

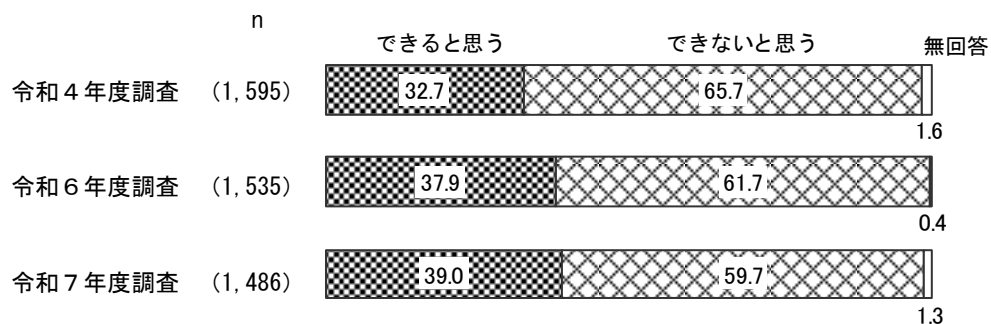
問28 あなたは、もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にＡＥＤがあれば、その人にＡＥＤを使用することができると考えますか。（○は１つ）

＜図表３－７＞ＡＥＤを使用できるか



ＡＥＤを使用できるか聞いたところ、「できると思う」（39.0％）が約４割となっている。一方、「できないと思う」（59.7％）は約６割となっている。（図表３－７）

〔参考〕令和４年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



※令和４年度では「できると思う」は「できる」、「できないと思う」は「できない」で実施

【地域別】

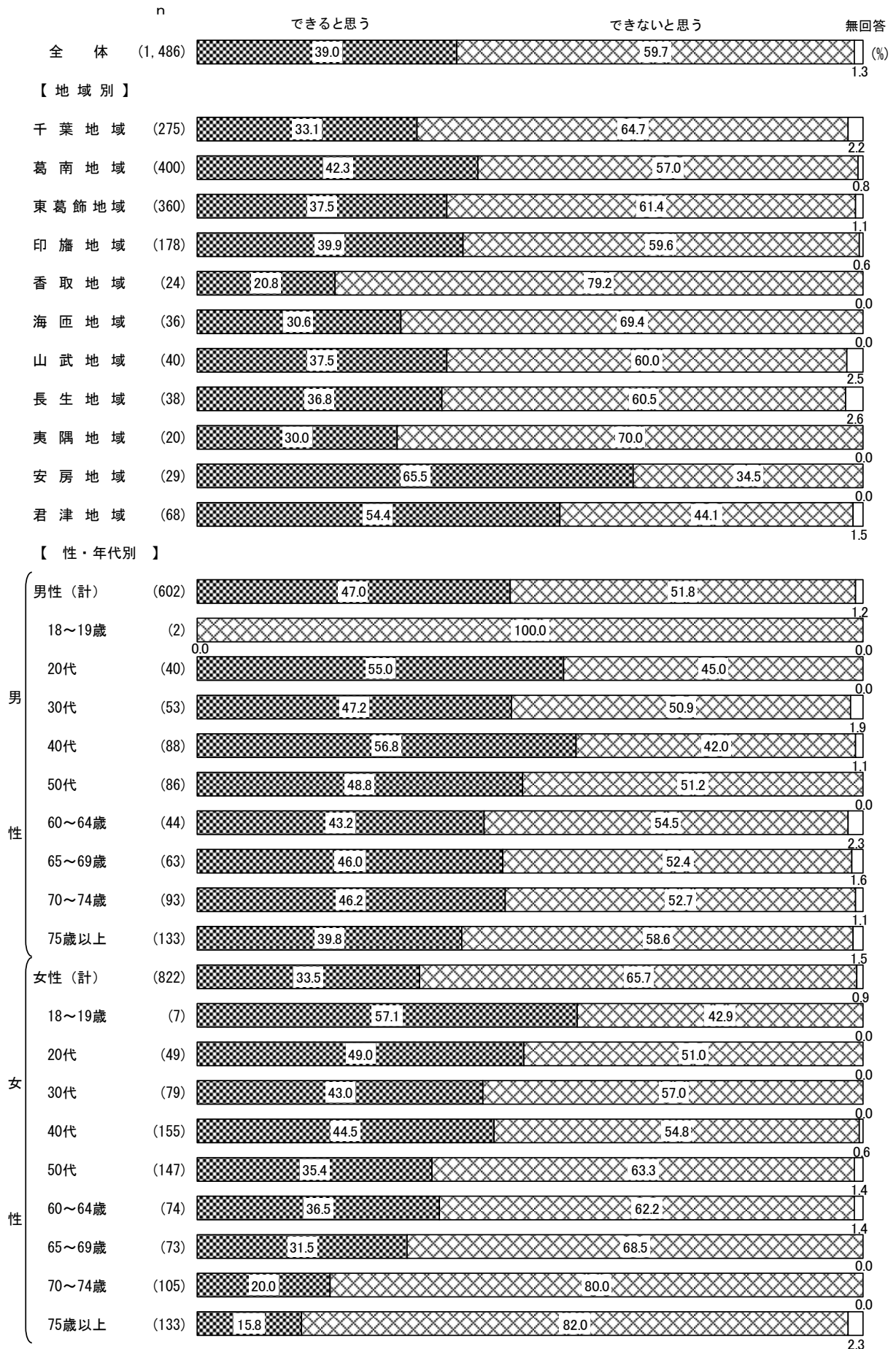
地域別にみると、「できると思う」は“君津地域”（54.4％）が５割台半ばで高くなっている。
（図表３－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「できると思う」は男性の４０代（56.8％）と男性の２０代（55.0％）が５割台半ばで高くなっている。

一方、「できないと思う」は女性の７５歳以上（82.0％）が８割を超え、女性の７０～７４歳（80.0％）が８割で高くなっている。（図表３－８）

＜図表３－８＞ＡＥＤを使用できるか／地域別、性・年代別



4 福祉について

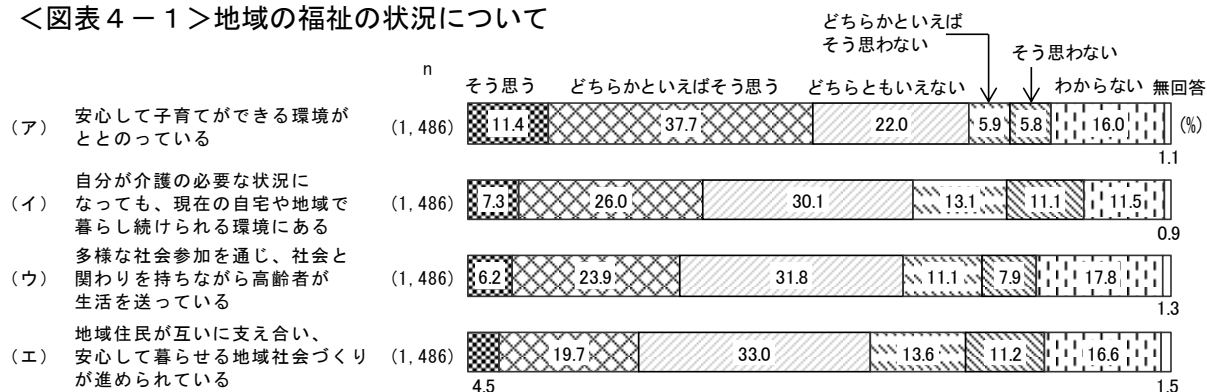
（１）地域の福祉の状況について

◇『そう思う（計）』が＜安心して子育てができる環境がととのっている＞で約５割

問29 以下について、お住まいの地域はどのような状況だと思いますか。

（○はそれぞれ１つずつ）

＜図表４－１＞地域の福祉の状況について

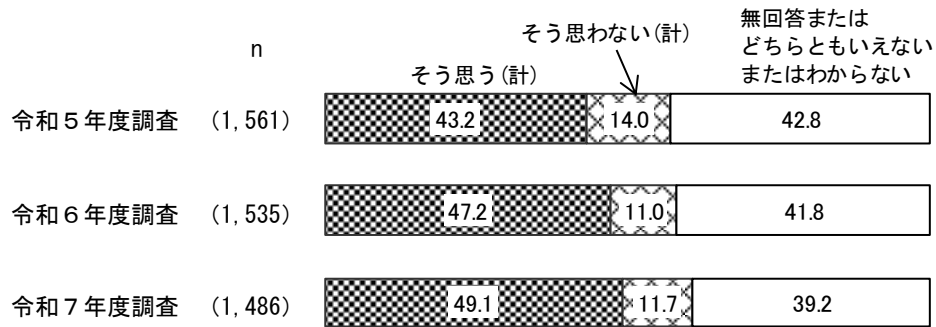


地域の福祉の状況に関する４項目について、お住まいの地域がどのような状況か聞いたところ、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた『そう思う（計）』は、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」(49.1%) が約５割、「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(33.4%) が３割を超え、「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(30.1%) が３割となっている。

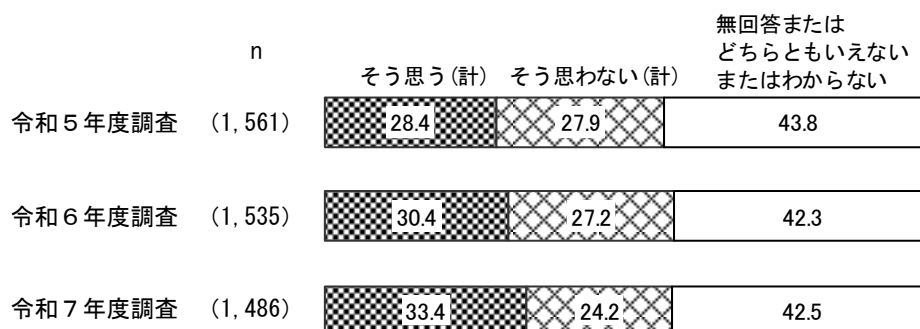
一方、「どちらかといえばそう思わない」と「そう思わない」を合わせた『そう思わない（計）』は、「(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」(24.8%) と「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」(24.2%) が２割台半ば、「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」(19.0%) が約２割となっている。（図表４－１）

〔参考〕 令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

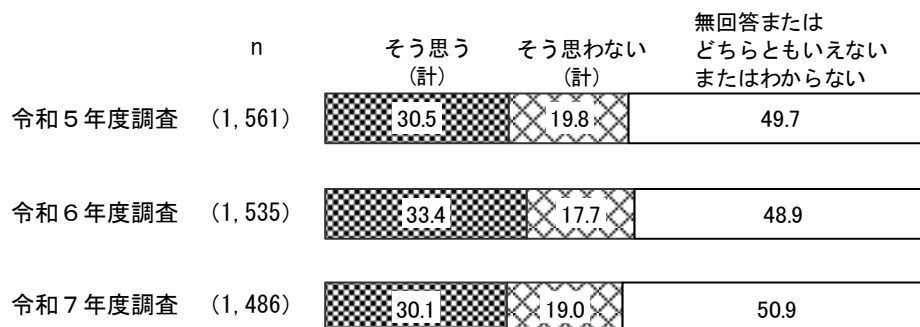
安心して子育てができる環境がととのっている



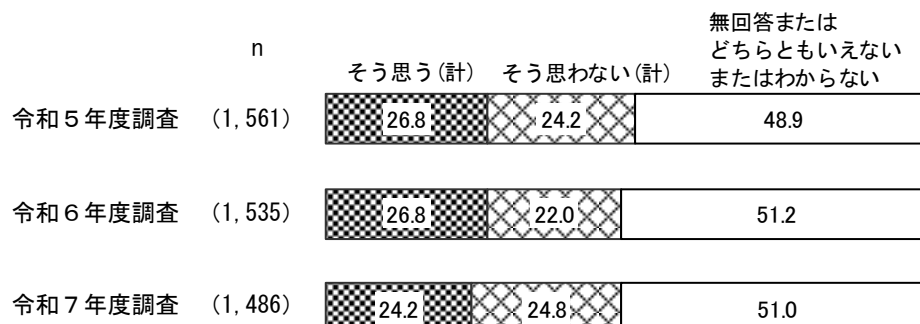
自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある



多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている



地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている



【地域別】

地域別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思う（計）』は“葛南地域”（56.3%）と“東葛飾地域”（53.9%）が5割台半ばで高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“海匝地域”（33.3%）が3割を超え、“山武地域”（25.0%）が2割台半ばで高くなっている。

「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思わない（計）』は“海匝地域”（38.9%）と“山武地域”（37.5%）が約4割、“君津地域”（36.8%）が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思う（計）』は“東葛飾地域”（34.4%）が3割を超えて高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は“山武地域”（37.5%）が約4割、“君津地域”（32.4%）が3割を超えて高くなっている。

「(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」の『そう思わない（計）』は“千葉地域”（29.5%）が約3割で高くなっている。（図表４－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている」の『そう思わない（計）』は女性の65～69歳（20.5%）が2割で高くなっている。

「(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある」の『そう思う（計）』は男性の75歳以上（46.6%）と女性の75歳以上（44.4%）が4割台半ばで高くなっている。

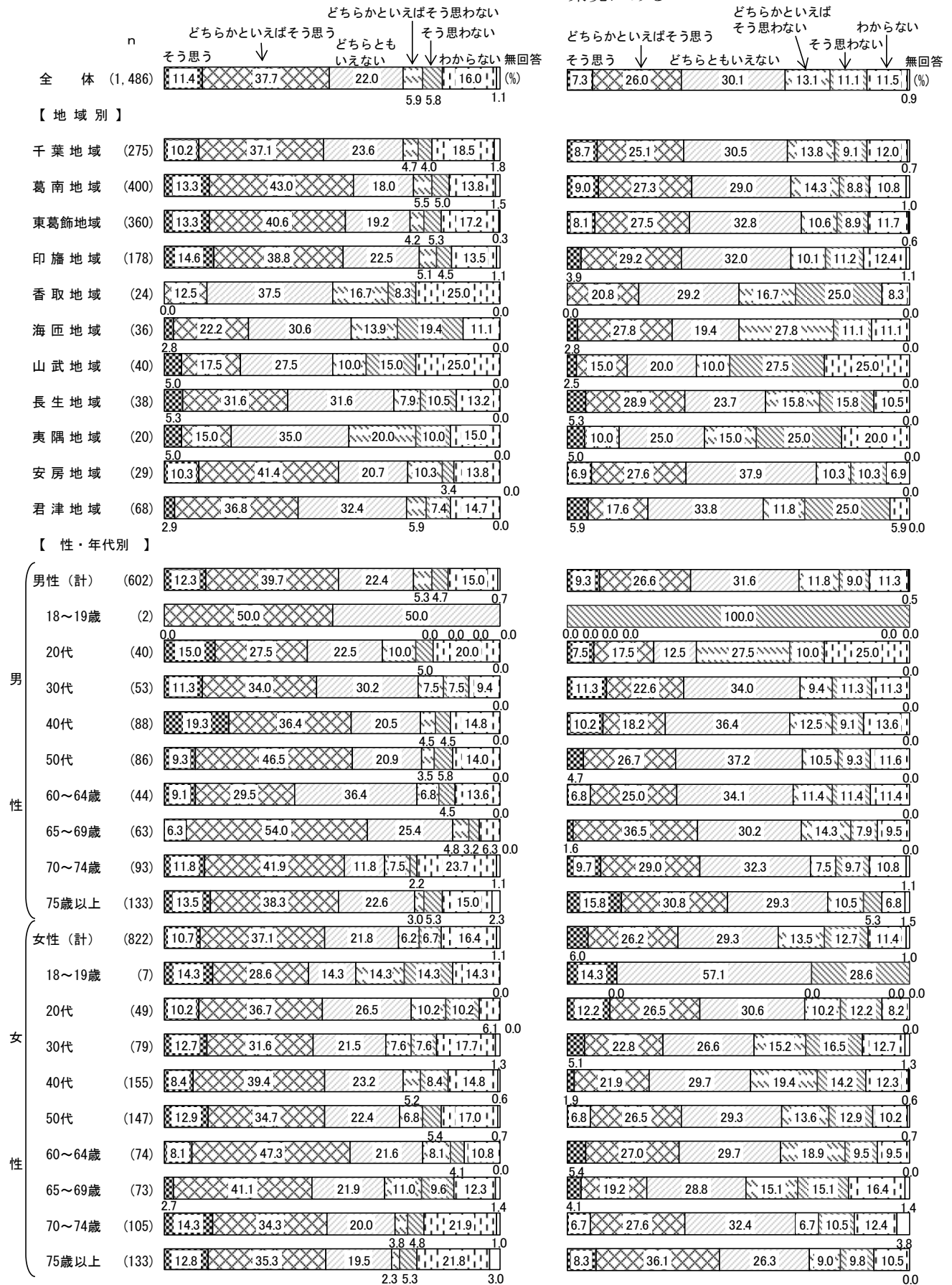
一方、『そう思わない（計）』は男性の20代（37.5%）が約4割、女性の40代（33.5%）が3割台半ばで高くなっている。

「(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている」の『そう思う（計）』は女性の20代（42.9%）が4割を超え、男性の75歳以上（38.3%）が約4割で高くなっている。

一方、『そう思わない（計）』は女性の60～64歳（28.4%）が約3割で高くなっている。

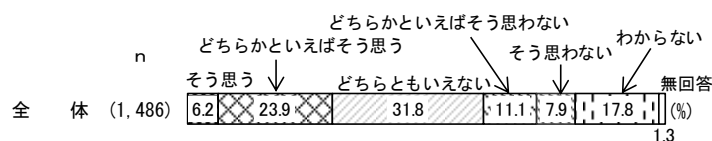
「(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている」の『そう思う（計）』は男性の75歳以上（33.1%）が3割を超えて高くなっている。（図表４－２）

<図表 4-2>地域の福祉の状況について／地域別、性・年代別

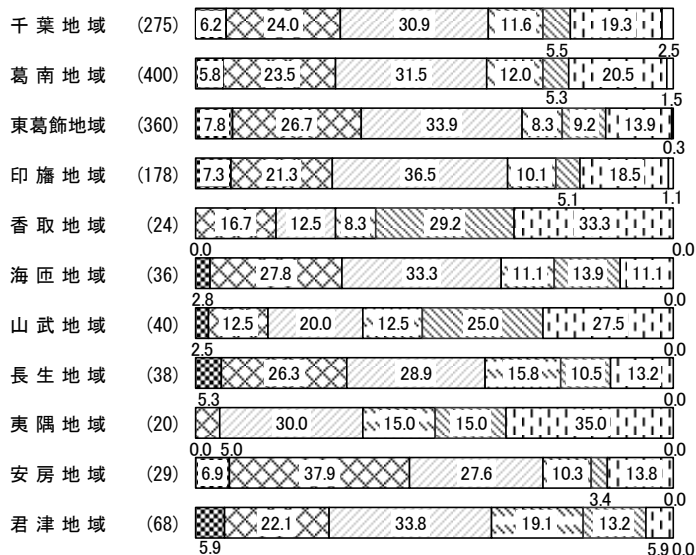
(ア) 安心して子育てができる
環境がととのっている(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、
現在の自宅や地域で暮らし続けられる
環境にある

(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを
持ちながら高齢者が生活を送っている

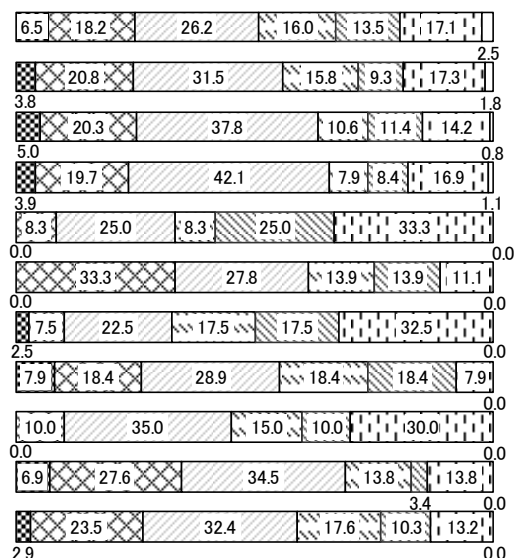
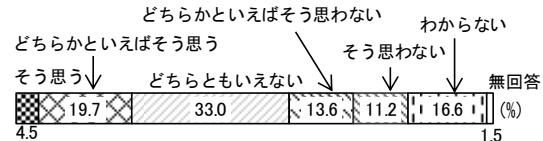
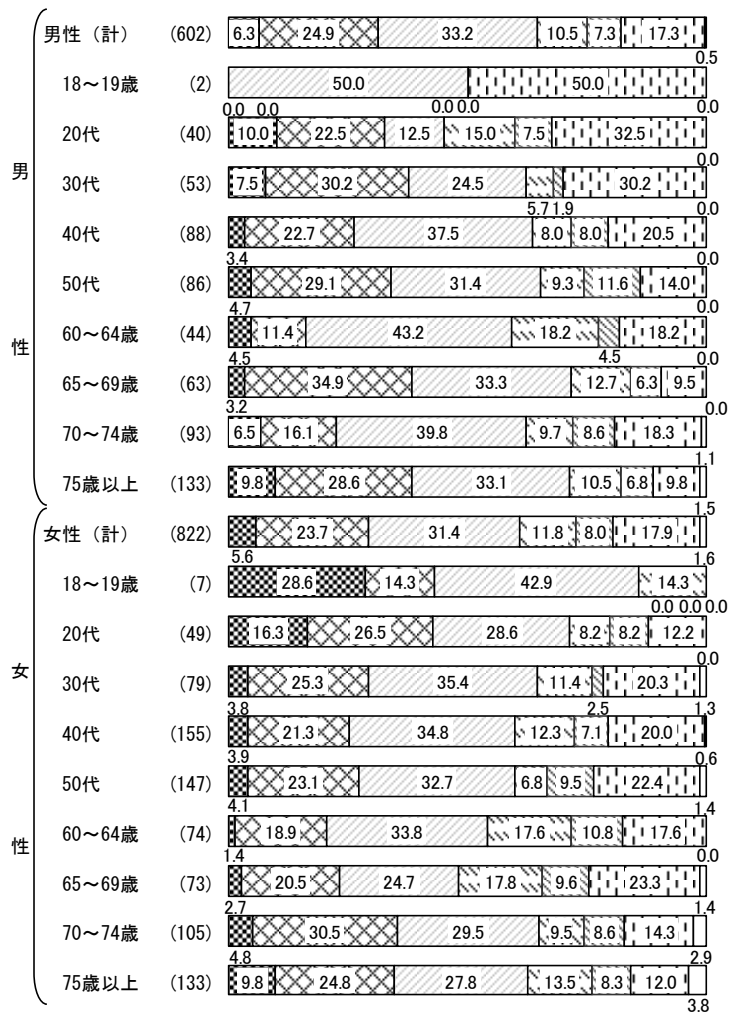
(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して
暮らせる地域社会づくりが進められて
いる



【 地域 別 】



【 性・年代別 】

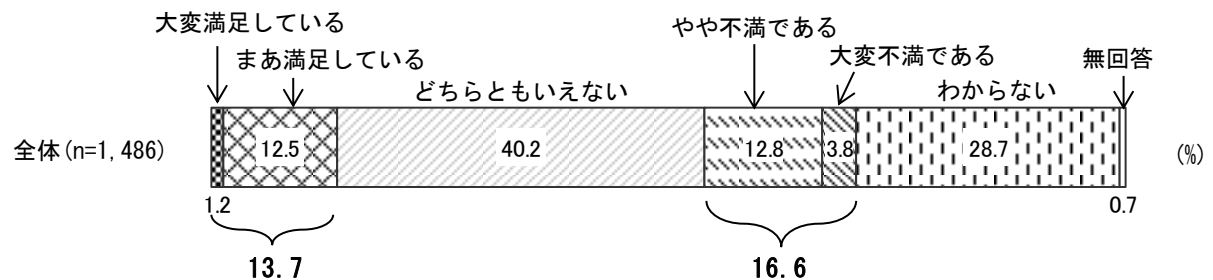


（２）お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

◇『満足している（計）』が１割台半ば

問30 あなたは、県が進めている「お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策」についてどうお感じですか。ご自身以外でも、ご家族やご近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。（○は１つ）

＜図表４－３＞お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について

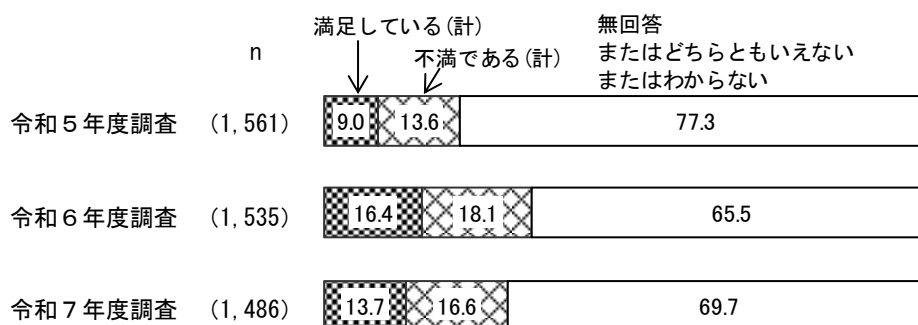


県が進めている「お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策」について、その満足度を聞いたところ、「大変満足している」（1.2%）と「まあ満足している」（12.5%）を合わせた『満足している（計）』（13.7%）が１割台半ばとなっている。

一方、「やや不満である」（12.8%）と「大変不満である」（3.8%）を合わせた『不満である（計）』（16.6%）が１割台半ばとなっている。

また、「どちらともいえない」（40.2%）が４割となっている。（図表４－３）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



※設問文の「ご自身以外でも、ご家族やご近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。」は、令和６年度調査から追加

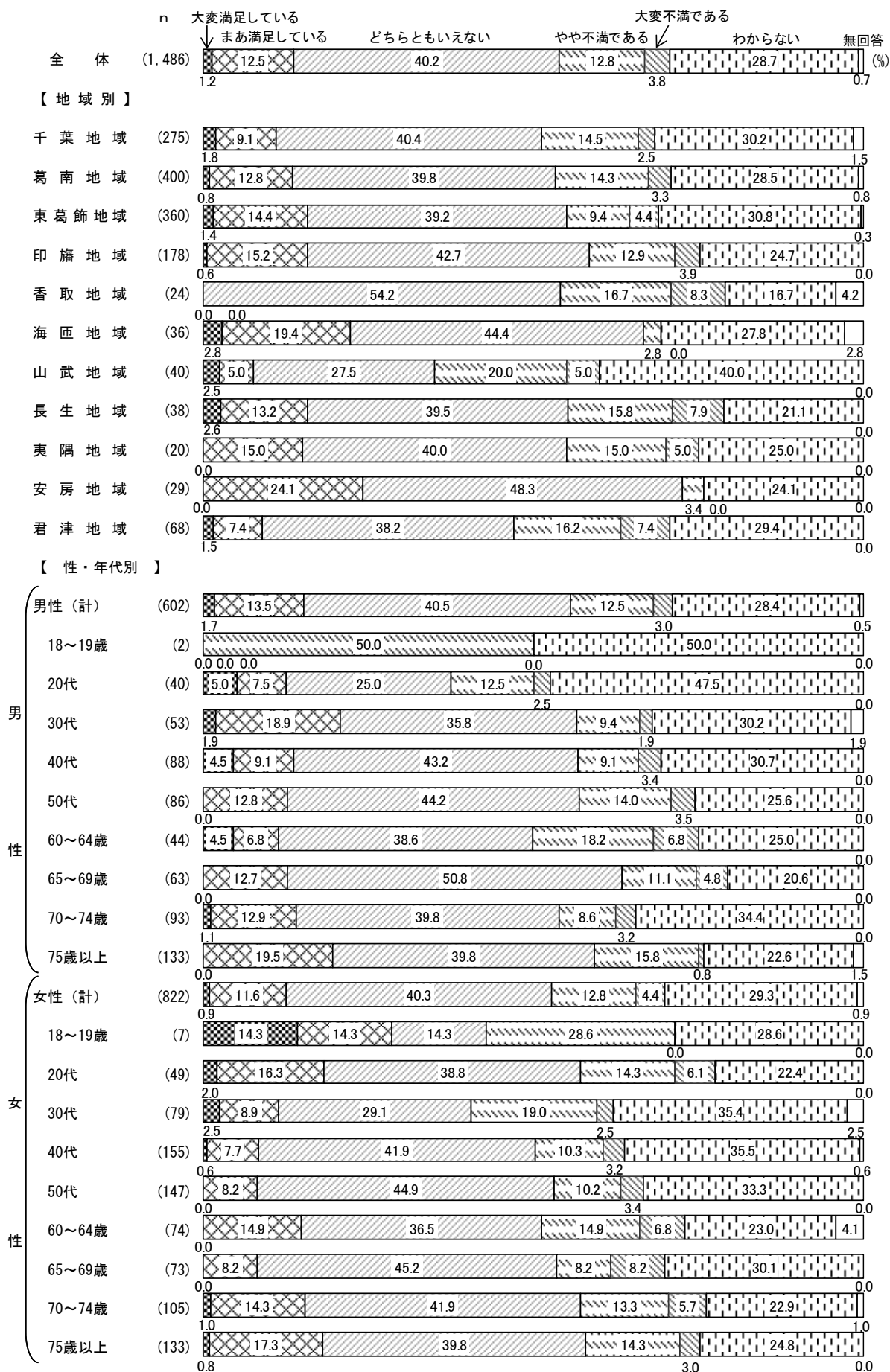
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表４－４）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『満足している（計）』は男性の75歳以上（19.5%）が約２割で高くなっている。（図表４－４）

＜図表 4－4＞お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策について／地域別、性・年代別

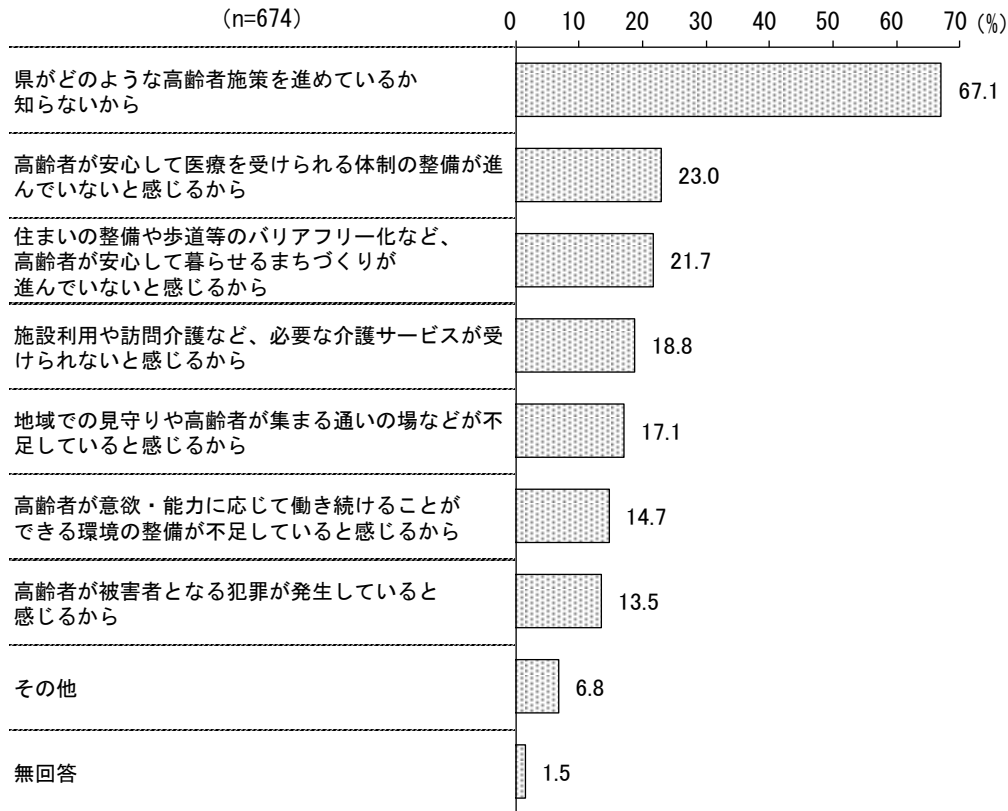


（２－１）お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策への不満点

◇「県がどのような高齢者施策を進めているか知らないから」が約７割

（問30で「やや不満である」、「大変不満である」、「わからない」のいずれかをお答えの方に）
問30－１ その主な理由は何ですか。（○は３つまで）

＜図表４－５＞お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策への不満点（３つまでの複数回答）



お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策への不満点について聞いたところ、「県がどのような高齢者施策を進めているか知らないから」（67.1%）が約７割で最も高く、以下、「高齢者が安心して医療を受けられる体制の整備が進んでいないと感じるから」（23.0%）、「住まいの整備や歩道等のバリアフリー化など、高齢者が安心して暮らせるまちづくりが進んでいないと感じるから」（21.7%）、「施設利用や訪問介護など、必要な介護サービスが受けられないと感じるから」（18.8%）が続く。（図表４－５）

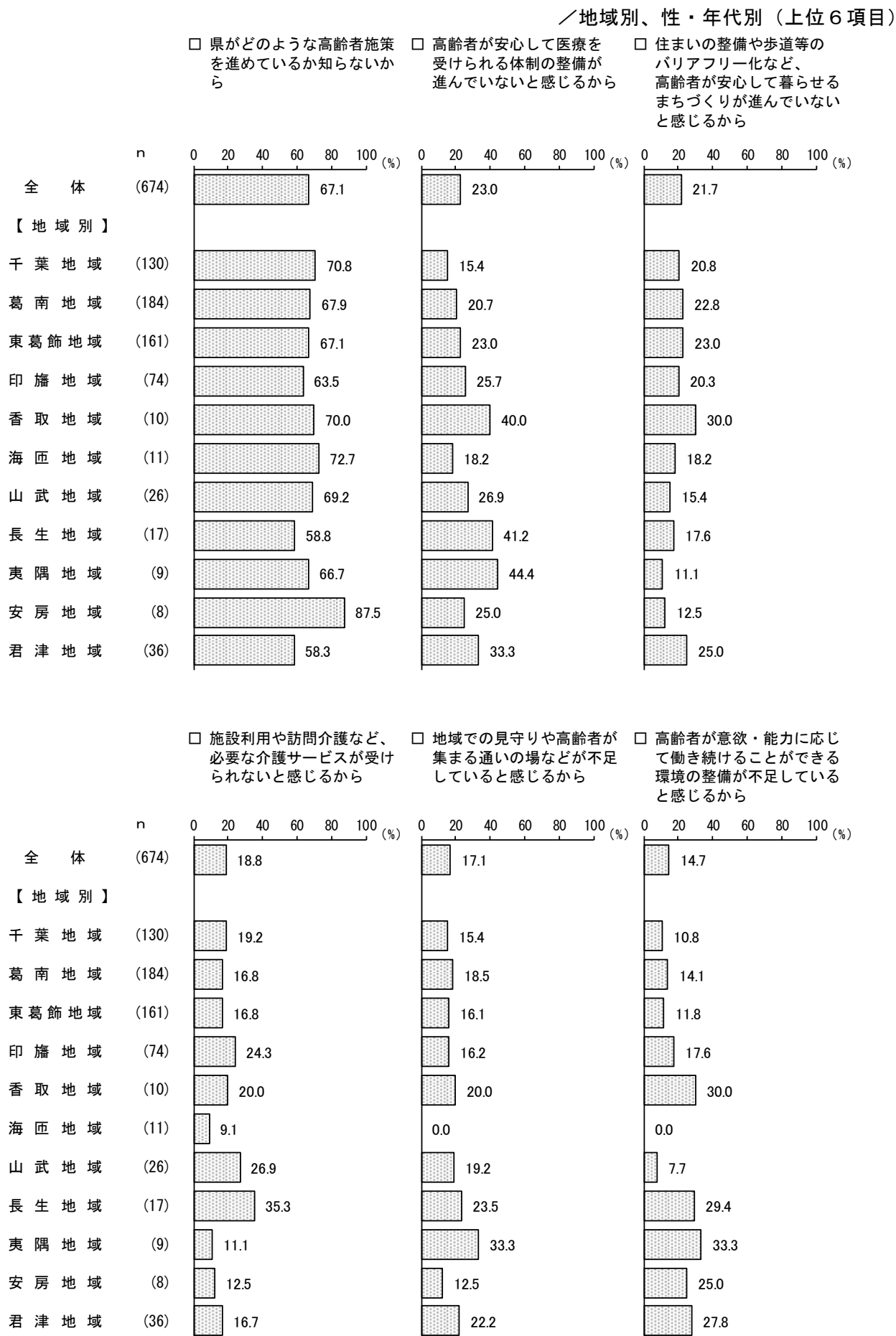
【地域別】

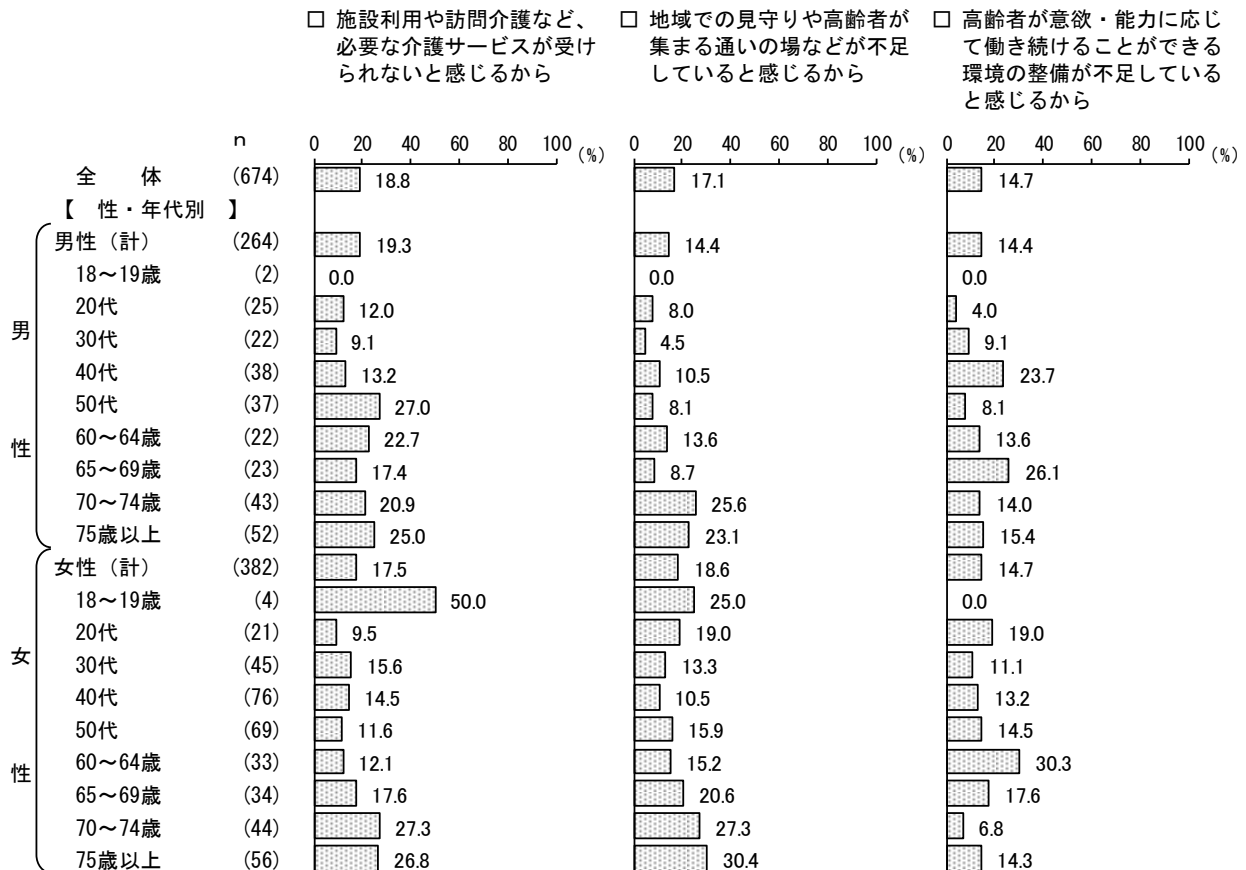
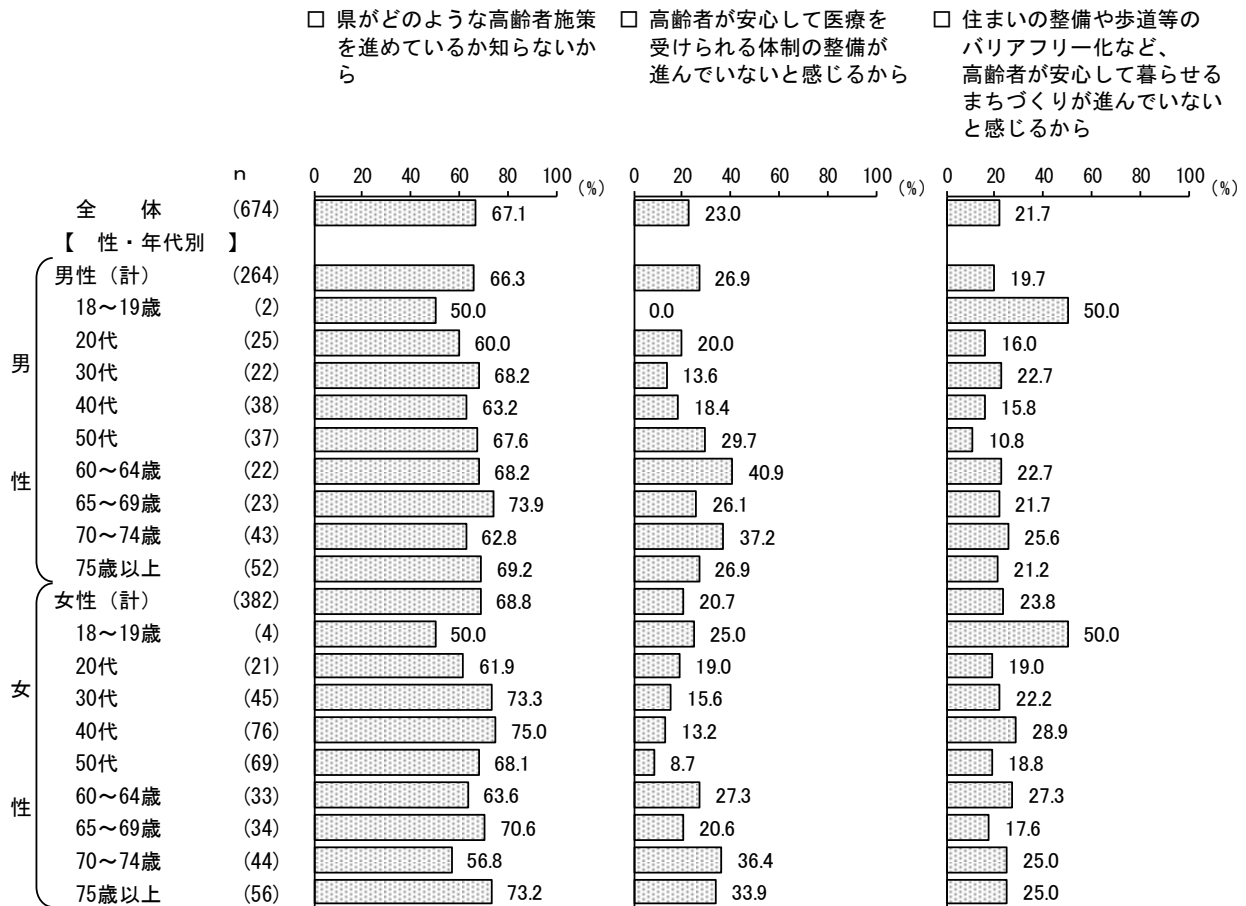
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表４－６）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「高齢者が安心して医療を受けられる体制の整備が進んでいないと感じるから」は男性の60～64歳（40.9%）が４割、男性の70～74歳（37.2%）が約４割、女性の70～74歳（36.4%）と女性の75歳以上（33.9%）が３割台半ばで高くなっている。（図表４－６）

＜図表４－６＞お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策への不満点（３つまでの複数回答）



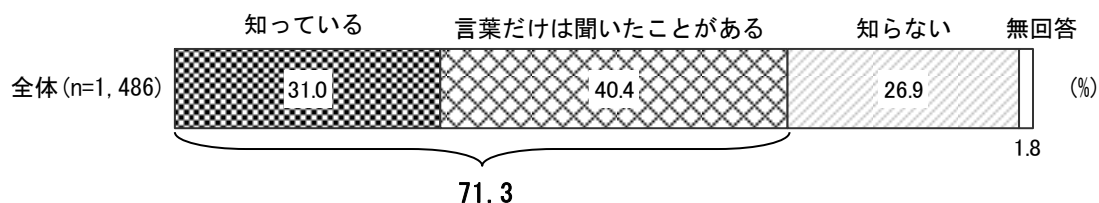


（３）「共生社会」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が7割を超える

問31 障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らす「共生社会」という考え方を知っていますか。（○は1つ）

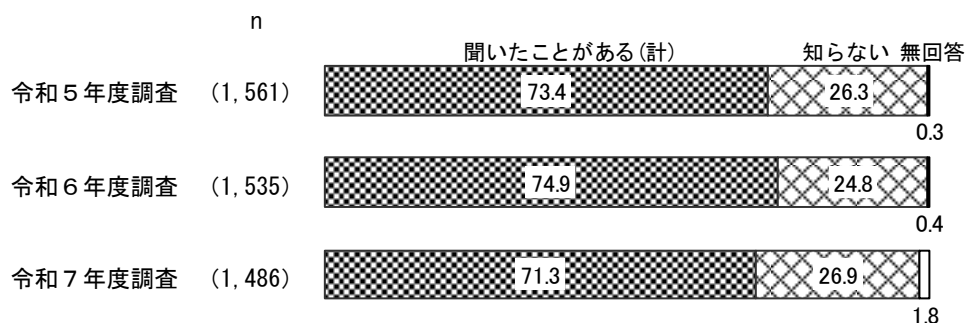
＜図表４－７＞「共生社会」の認知度



「共生社会」という考え方を知っているか聞いたところ、「知っている」（31.0％）と「言葉だけは聞いたことがある」（40.4％）を合わせた『聞いたことがある（計）』（71.3％）が7割を超えている。

一方、「知らない」（26.9％）が2割台半ばとなっている。（図表４－７）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

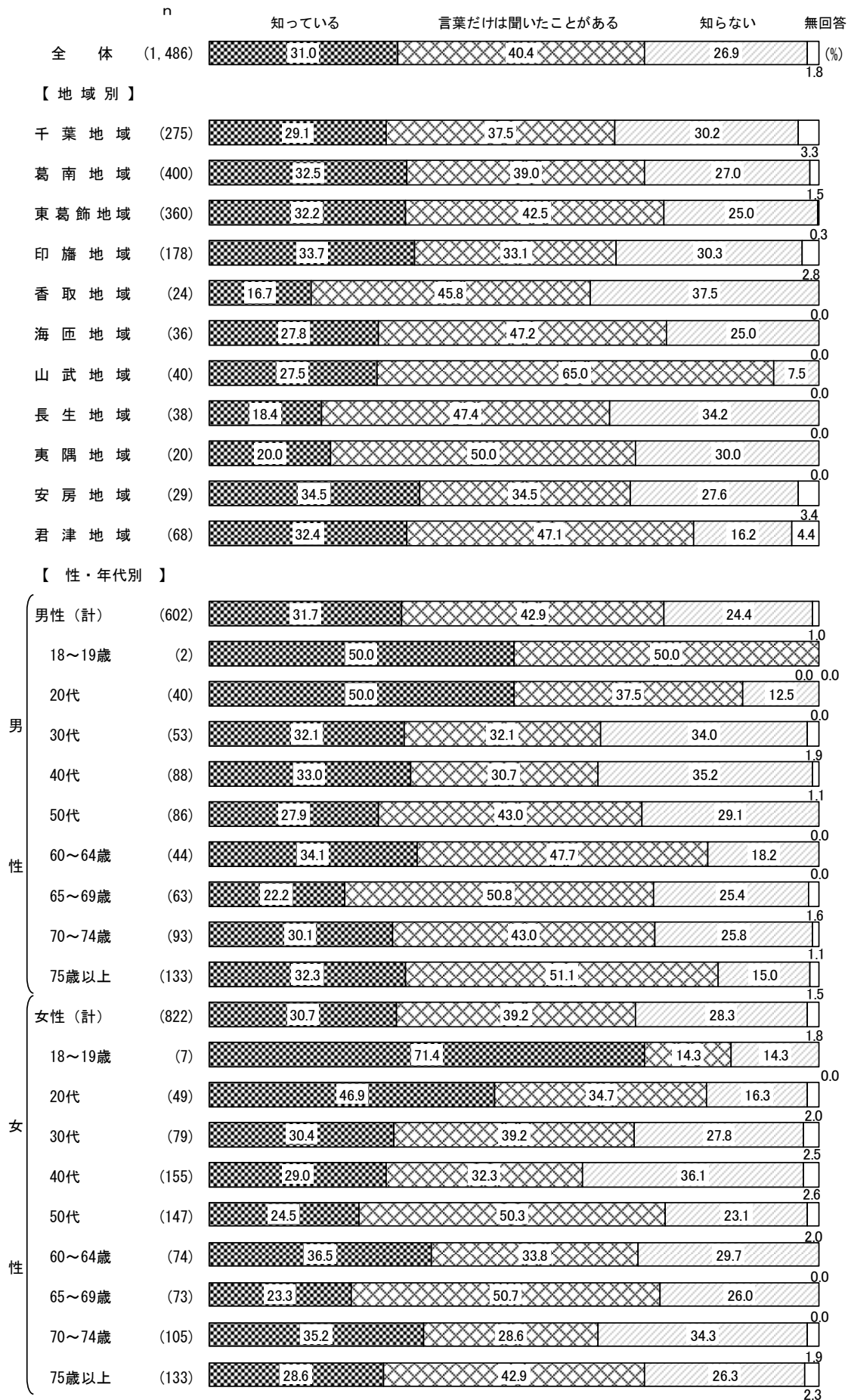
地域別にみると、『聞いたことがある（計）』は“山武地域”（92.5％）が9割を超えて高くなっている。（図表４－８）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は男性の20代（87.5％）が約9割、男性の75歳以上（83.5％）が8割台半ばで高くなっている。

一方、「知らない」は女性の40代（36.1％）が3割台半ばで高くなっている。（図表４－８）

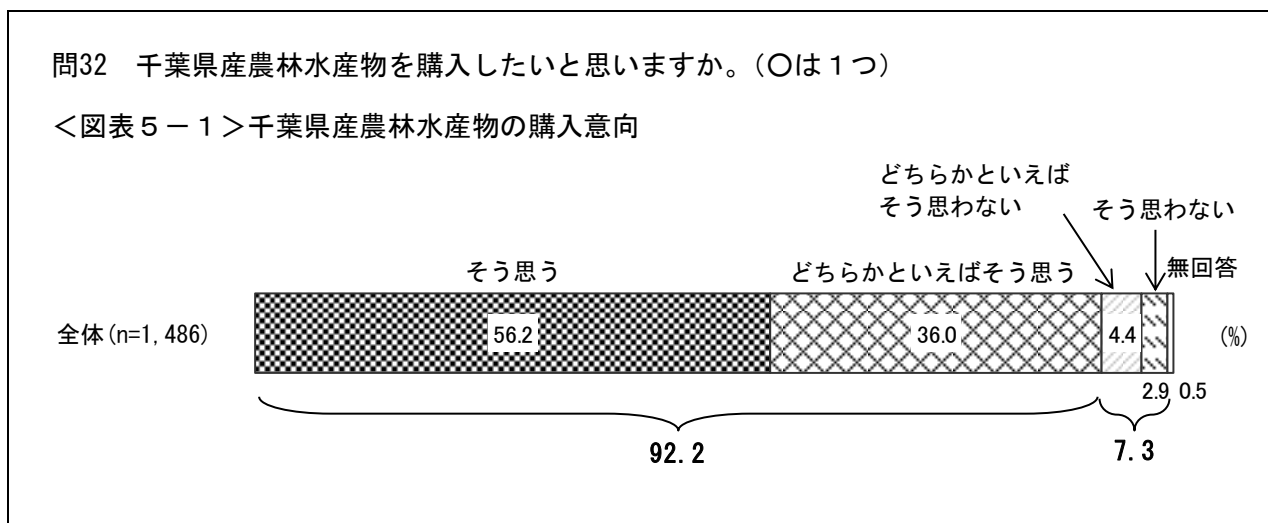
<図表 4－8> 「共生社会」の認知度／地域別、性・年代別



5 県の農林水産物について

（1）千葉県産農林水産物の購入意向

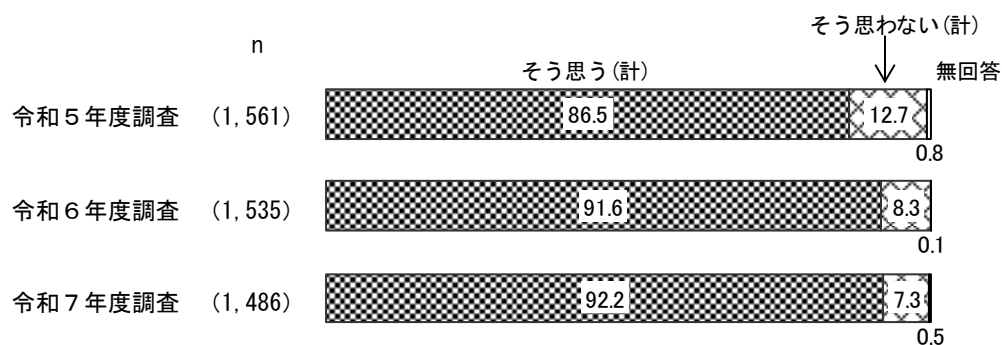
◇『そう思う（計）』が9割を超える



千葉県産農林水産物を購入したいと思うか聞いたところ、「そう思う」（56.2%）と「どちらかといえばそう思う」（36.0%）を合わせた『そう思う（計）』（92.2%）が9割を超えている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（4.4%）と「そう思わない」（2.9%）を合わせた『そう思わない（計）』（7.3%）は約1割となっている。（図表5－1）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



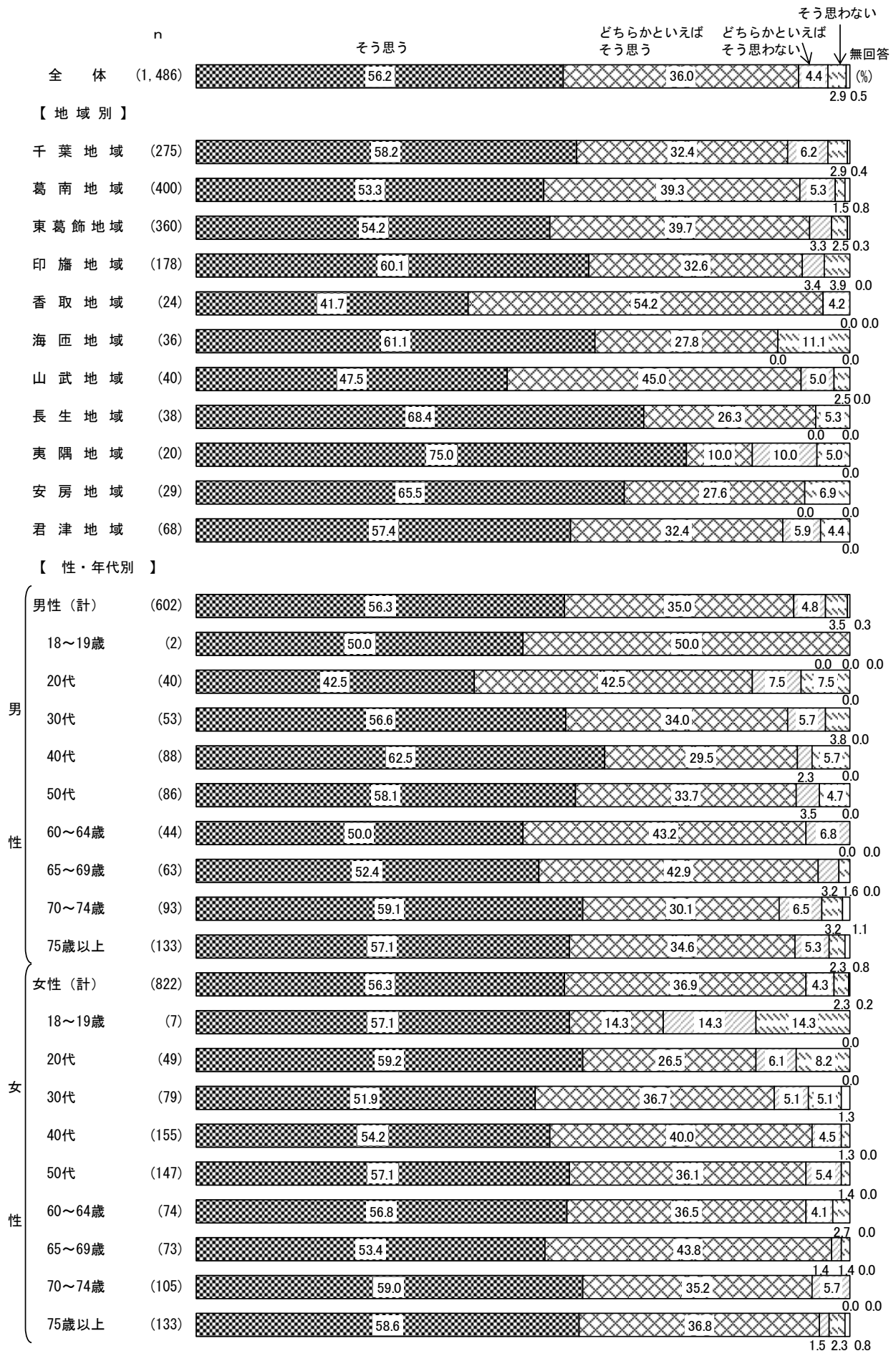
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表5－2）

＜図表 5－2＞千葉県産農林水産物の購入意向／地域別、性・年代別



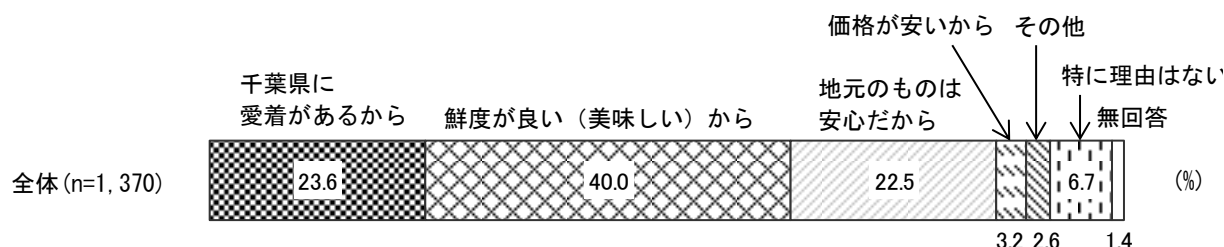
（１－１）千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由

◇「鮮度が良い（美味しい）から」が４割

（問32で「そう思う」、「どちらかといえばそう思う」のいずれかをお答えの方に）

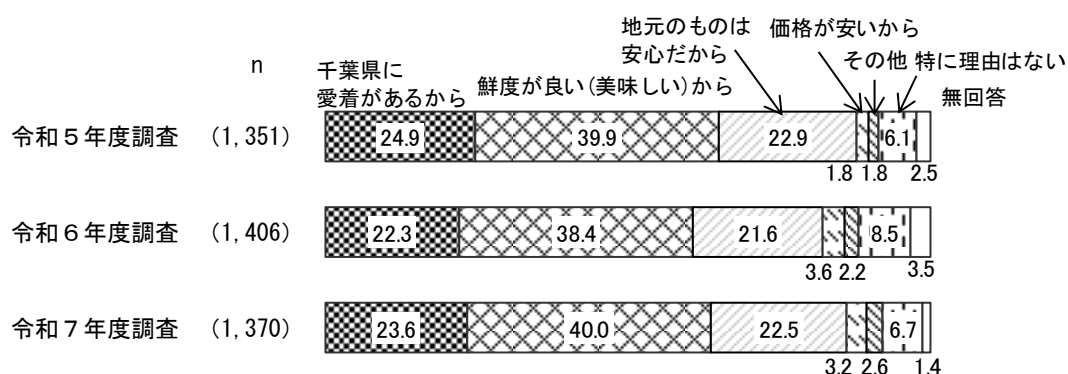
問32－１ その主な理由は何ですか。（○は１つ）

＜図表５－３＞千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由



千葉県産農林水産物を購入したいと回答した1,370人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「鮮度が良い（美味しい）から」（40.0%）が４割で最も高く、以下、「千葉県に愛着があるから」（23.6%）、「地元のものは安心だから」（22.5%）が続く。（図表５－３）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「千葉県に愛着があるから」は“葛南地域”（29.2%）が約３割で高くなっている。（図表５－４）

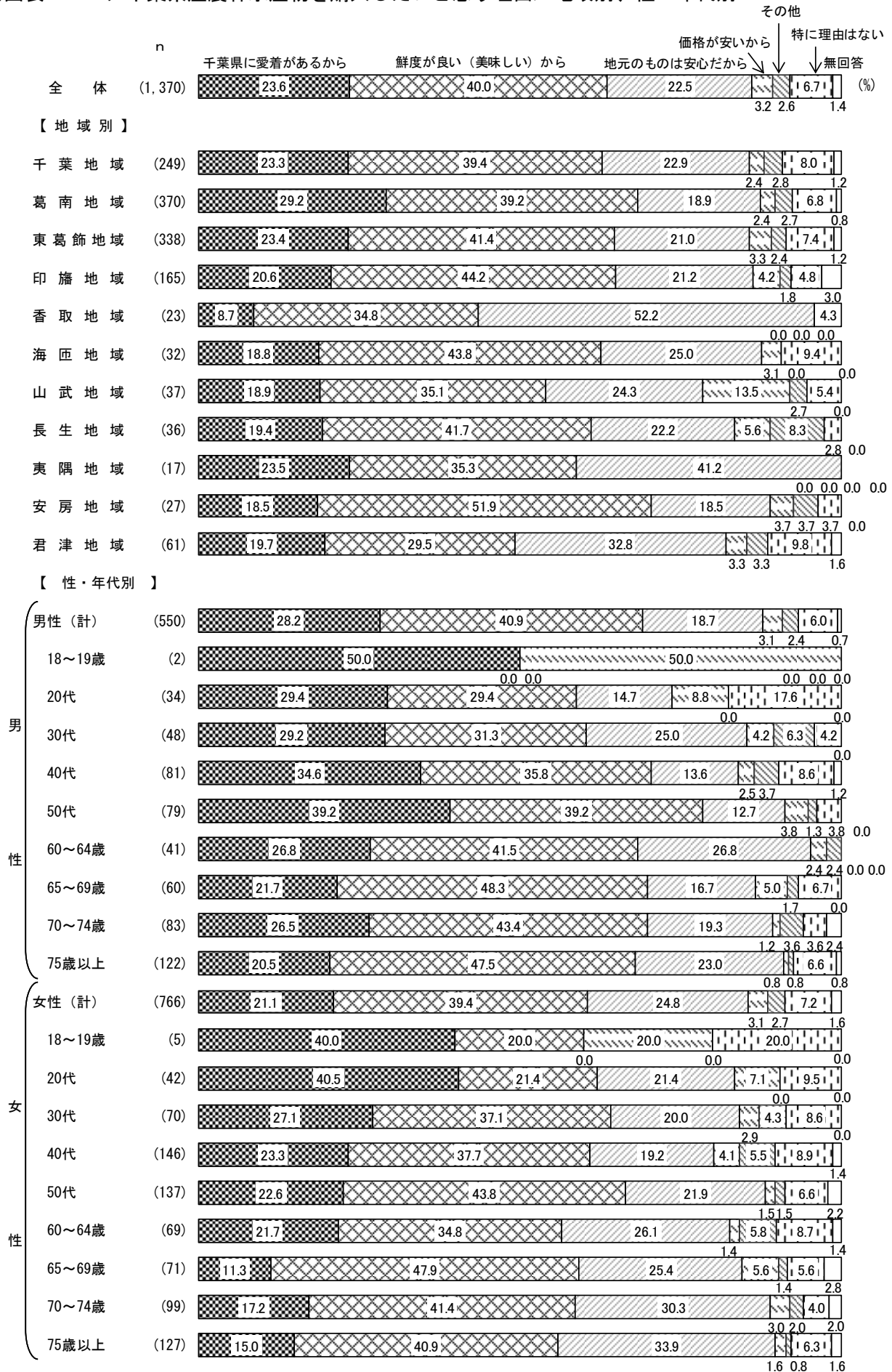
【性・年代別】

性・年代別にみると、「千葉県に愛着があるから」は女性の20代（40.5%）が４割、男性の50代（39.2%）が約４割、男性の40代（34.6%）が３割台半ばで高くなっている。

「地元のものは安心だから」は女性の75歳以上（33.9%）が３割台半ばで高くなっている。

（図表５－４）

＜図表５－４＞千葉県産農林水産物を購入したいと思う理由／地域別、性・年代別

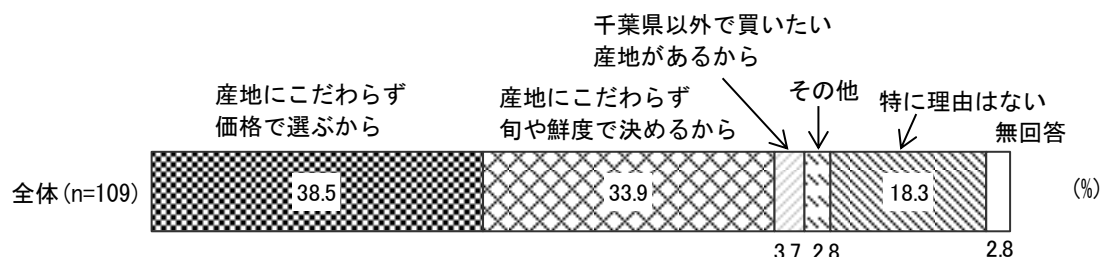


（１－２）千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由

◇「産地にこだわらず価格で選ぶから」が約４割

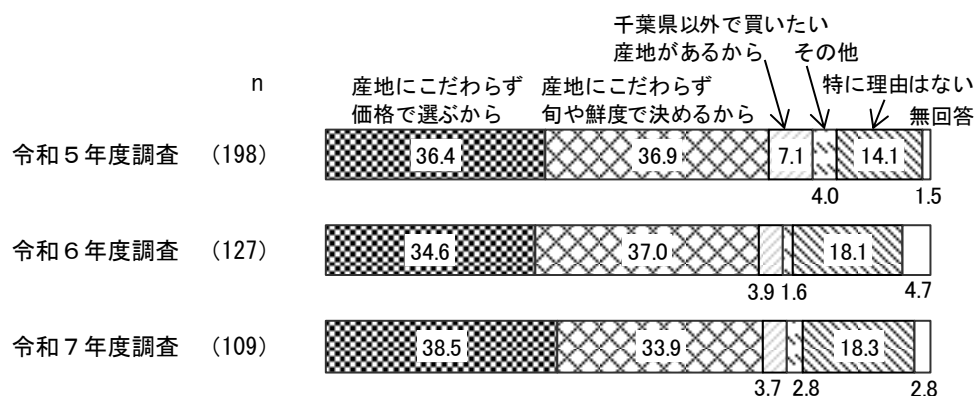
（問32で「どちらかといえばそう思わない」、「そう思わない」のいずれかをお答えの方に）
問32－２ その主な理由は何ですか。（○は１つ）

＜図表５－５＞千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由



千葉県産農林水産物を購入したいと思わないと回答した109人を対象に、その主な理由を聞いたところ、「産地にこだわらず価格で選ぶから」（38.5%）が約４割で最も高く、以下、「産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから」（33.9%）、「千葉県以外で買いたい産地があるから」（3.7%）が続く。一方、「特に理由はない」（18.3%）が約２割となっている。（図表５－５）

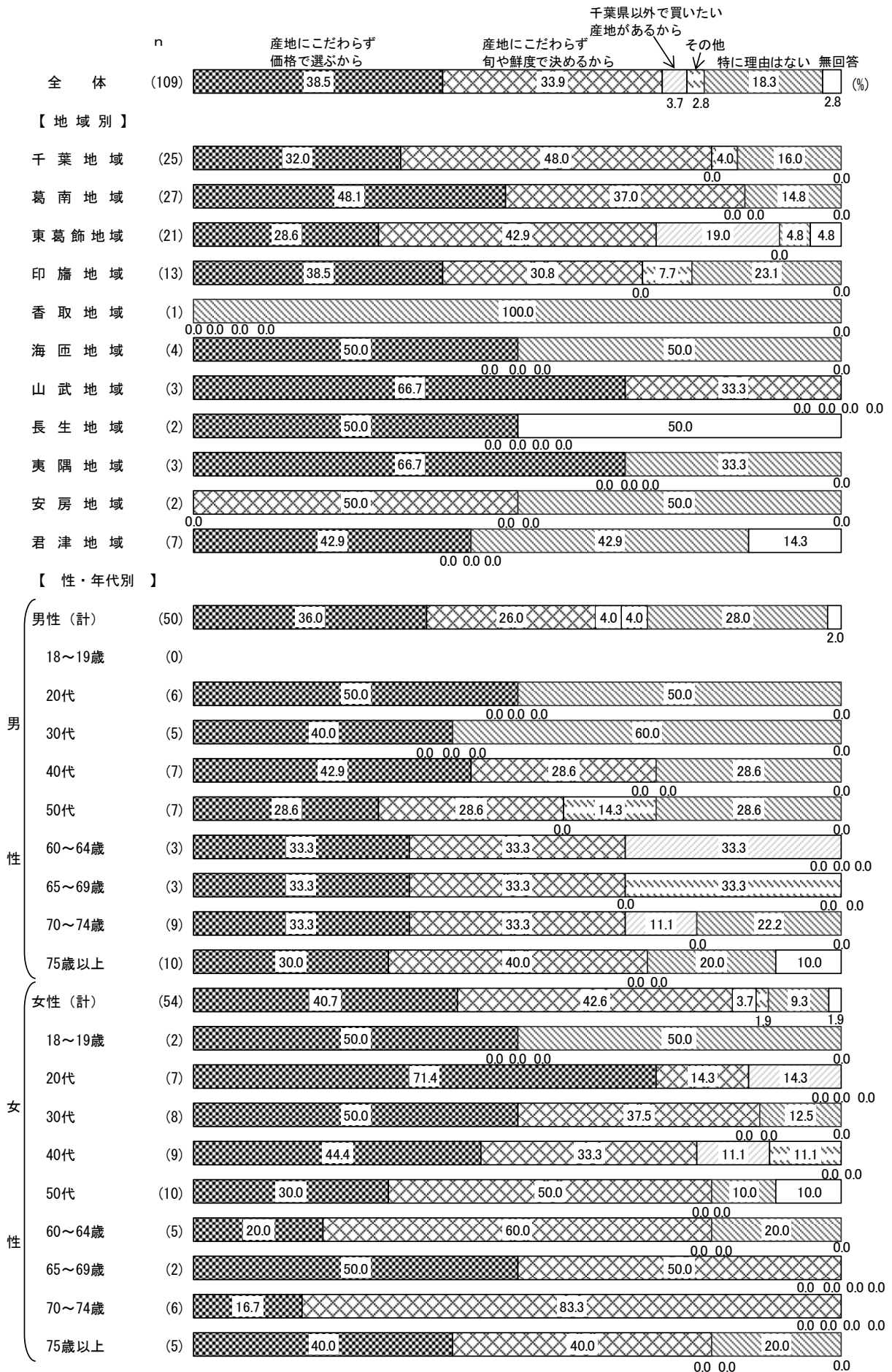
〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（８ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表５－６）

〔参考〕＜図表 5－6＞千葉県産農林水産物を購入したいと思わない理由／地域別、性・年代別



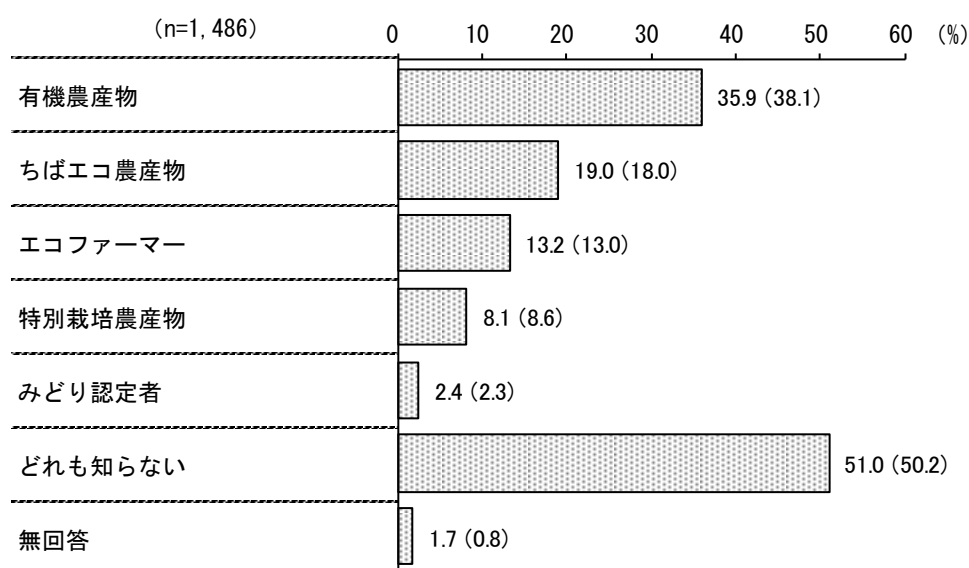
（２）環境にやさしい農産物や制度の認知度

◇「有機農産物」が３割台半ば

問33 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。（○はいくつでも）

- （※）「有機農産物」 ⇒化学肥料・化学合成農薬を使用せずに栽培した農産物
 ※「有機農産物の日本農林規格（有機JAS規格）」に基づいて生産していることを認証された農業者は有機農産物と表示できる
- 「ちばエコ農産物」⇒県の基準に基づいて、化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の５割以下に減らして栽培し、これを県が認証した農産物
- 「エコファーマー」⇒たい肥等による土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減技術に取り組む農業者
 ※農業者が作成した計画を県が認定
 ※令和４年７月１日に「みどり認定」の制度に移行
- 「特別栽培農産物」⇒化学肥料・化学合成農薬の使用を通常の５割以下に減らして栽培した農産物
 ※国のガイドラインに基づいて、生産者が定める責任者が確認
- 「みどり認定者」⇒土づくり、化学肥料・化学合成農薬の使用低減や、温室効果ガスの削減など、農業に由来する環境負荷の低減に取り組む農業者
 ※農業者が作成した計画を県が認定

＜図表５－７＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）



注）（ ）の数字は令和６年度の同様の項目による調査結果 n＝1,535

農薬や化学肥料の使用量の低減などに取り組む農業者・農産物や認証する制度を聞いたことがあるか聞いたところ、「有機農産物」（35.9％）が３割台半ばで最も高く、以下、「ちばエコ農産物」（19.0％）、「エコファーマー」（13.2％）、「特別栽培農産物」（8.1％）が続く。（図表５－７）

【地域別】

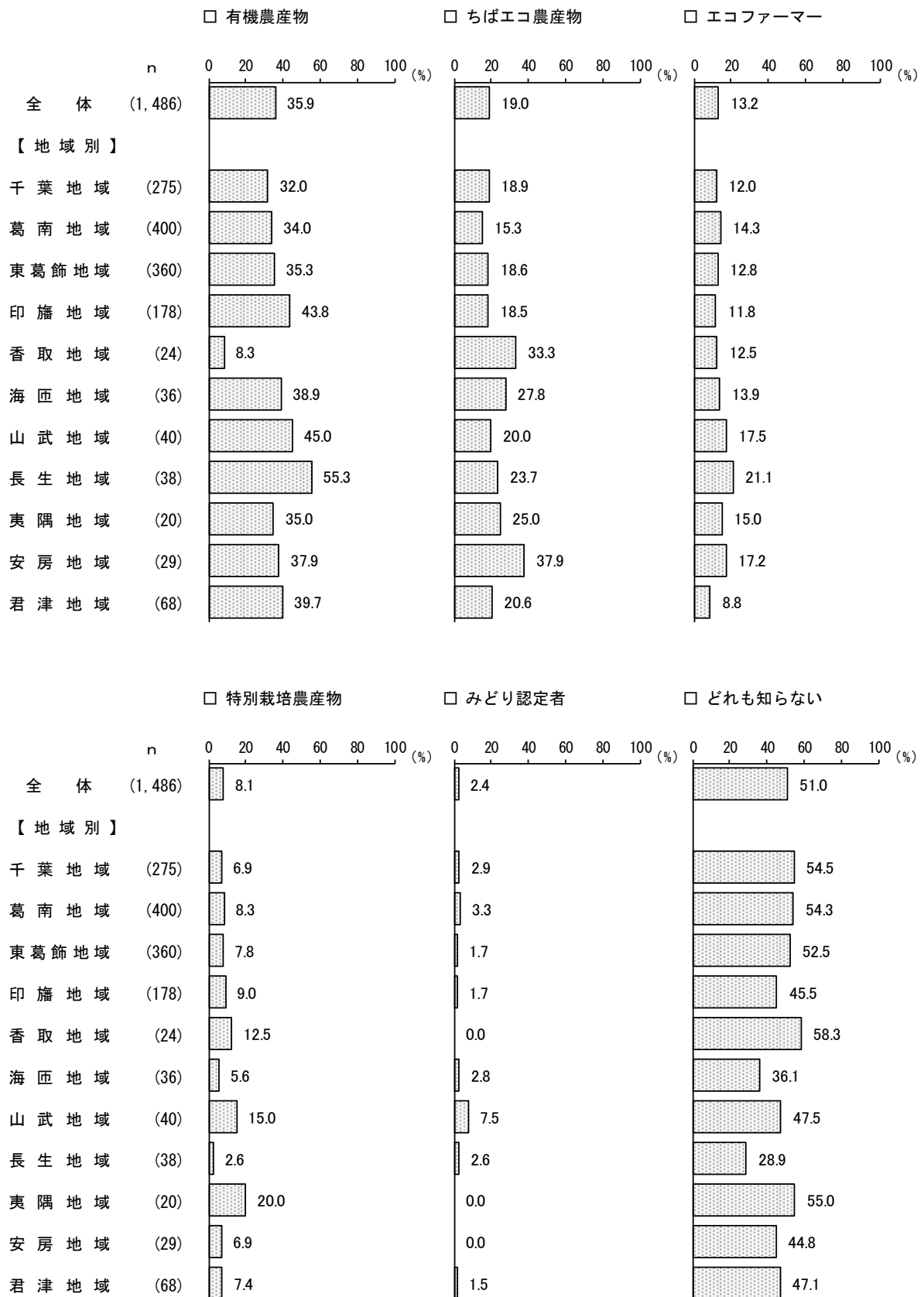
地域別にみると、「有機農産物」は“長生地域”（55.3％）が５割台半ば、“印旛地域”（43.8％）が４割台半ばで高くなっている。（図表５－８）

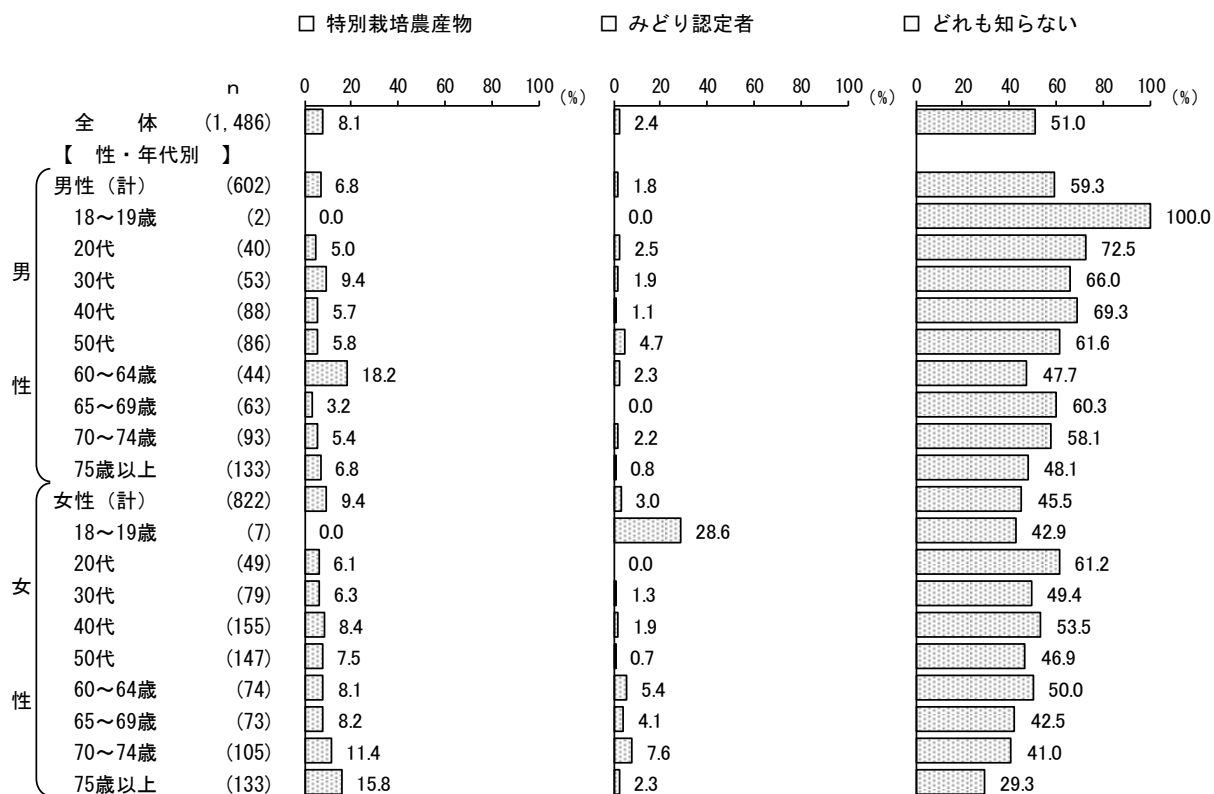
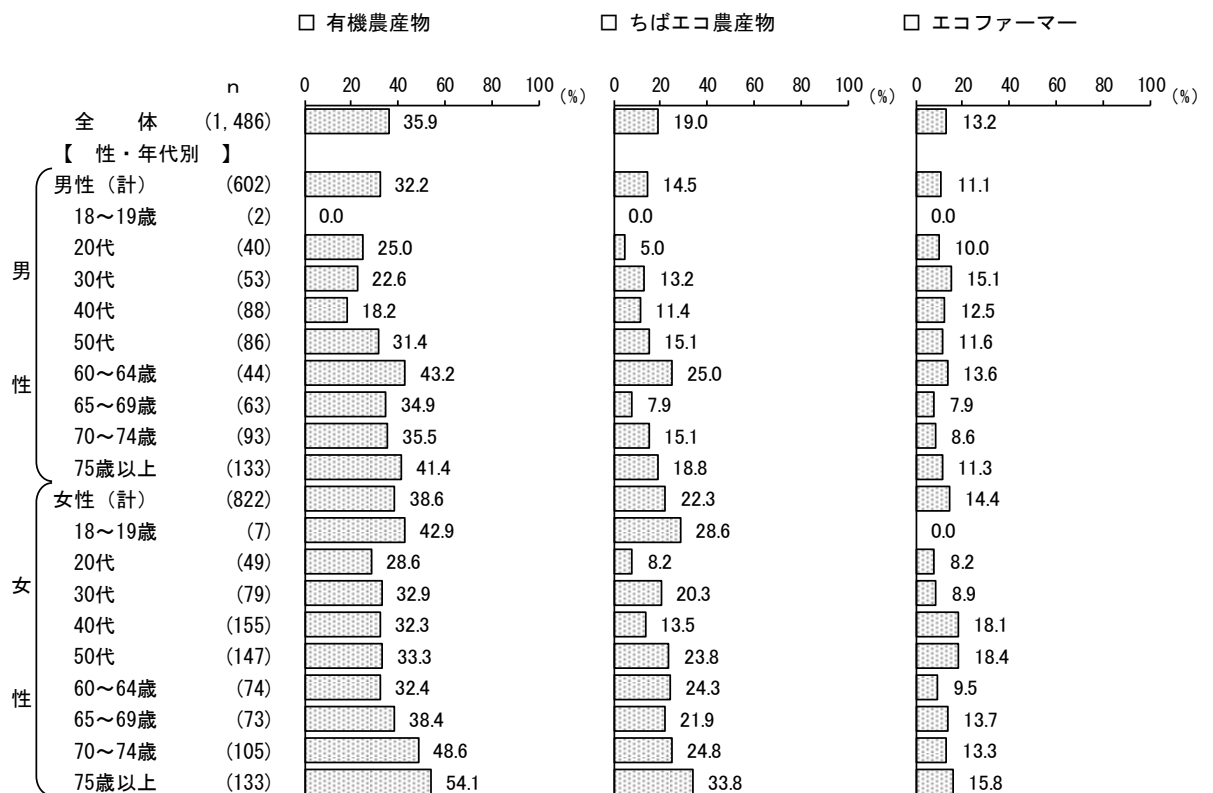
【性・年代別】

性・年代別にみると、「有機農産物」は女性の75歳以上（54.1%）が5割台半ば、女性の70～74歳（48.6%）が約5割で高くなっている。

「ちばエコ農産物」は女性の75歳以上（33.8%）が3割台半ばで高くなっている。（図表5－8）

＜図表5－8＞環境にやさしい農産物や制度の認知度（複数回答）／地域別、性・年代別





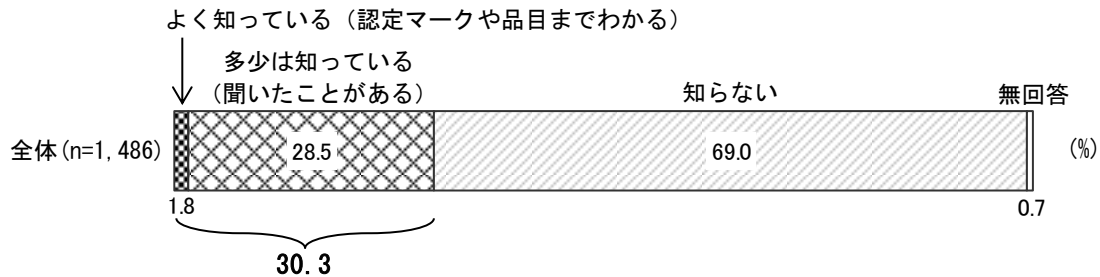
（３）「千葉ブランド水産物」の認知度

◇『知っている（計）』が３割

問34 「千葉ブランド水産物」を知っていますか。（○は１つ）

※千葉県では、千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするため、「銚子つりきんめ」、「外房イセエビ」、「九十九里地はまぐり」などの優良な県産水産物を「千葉ブランド水産物」として認定しています。

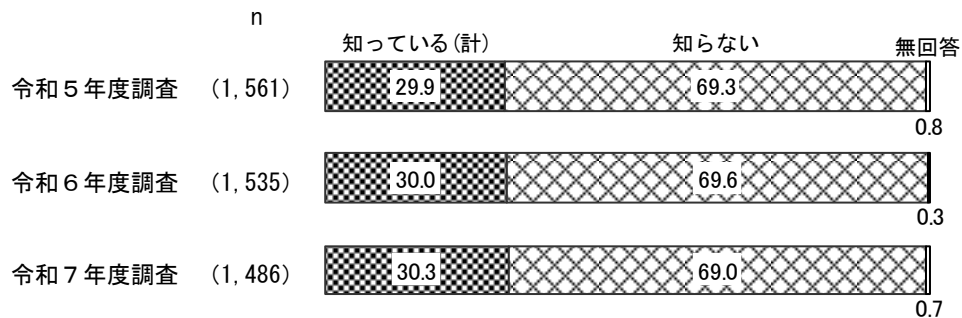
＜図表５－９＞「千葉ブランド水産物」の認知度



「千葉ブランド水産物」を知っているか聞いたところ、「よく知っている（認定マークや品目までわかる）」（1.8％）と「多少は知っている（聞いたことがある）」（28.5％）を合わせた『知っている（計）』（30.3％）が３割となっている。

一方、「知らない」（69.0％）が約７割となっている。（図表５－９）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

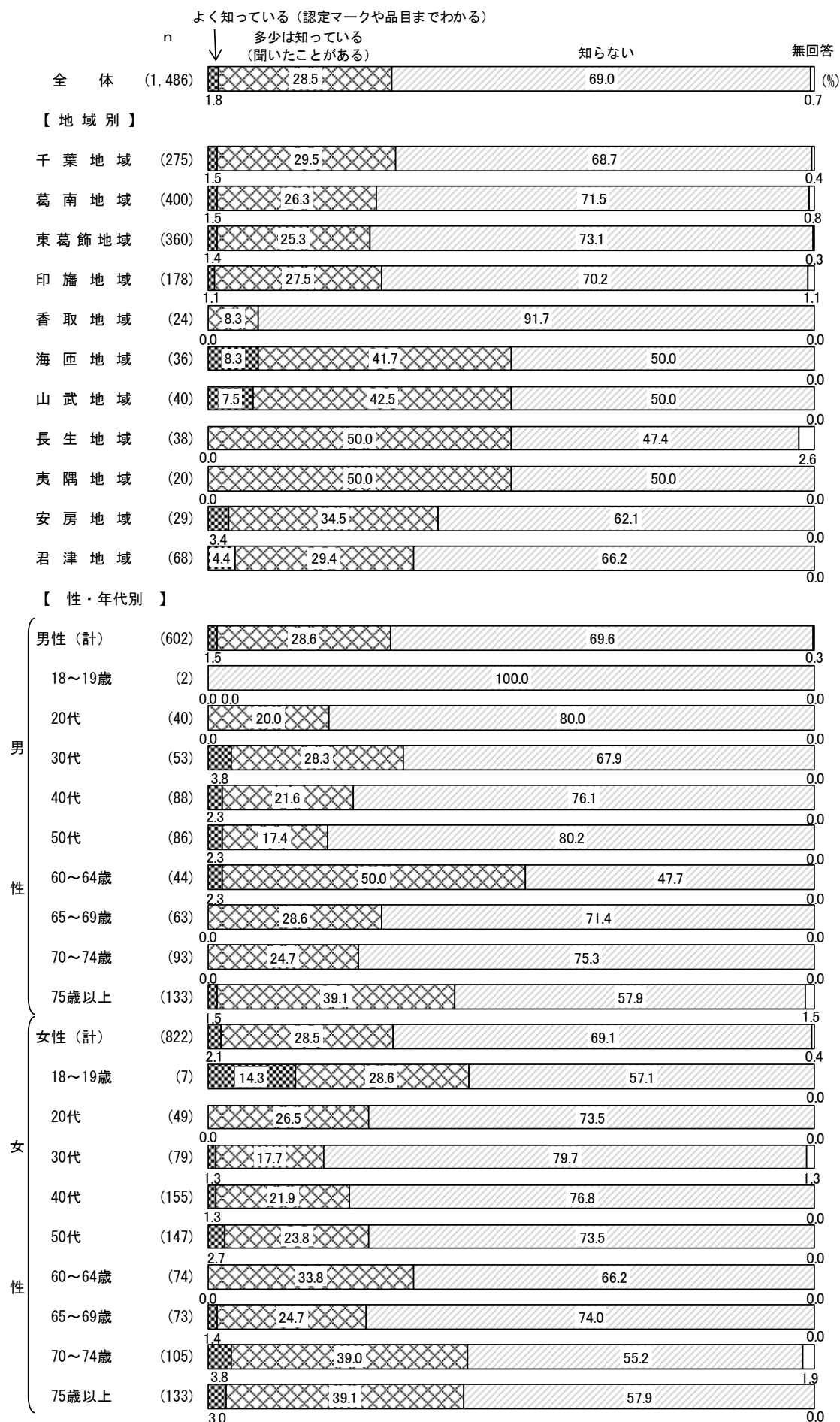
地域別にみると、『知っている（計）』は“海匝地域”（50.0％）、“山武地域”（50.0％）、“長生地域”（50.0％）が５割で高くなっている。（図表５－10）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『知っている（計）』は男性の60～64歳（52.3％）が５割を超え、女性の70～74歳（42.9％）と女性の75歳以上（42.1％）が４割を超え、男性の75歳以上（40.6％）が４割で高くなっている。

一方、「知らない」は男性の50代（80.2％）が８割、女性の30代（79.7％）が約８割、女性の40代（76.8％）が７割台半ばで高くなっている。（図表５－10）

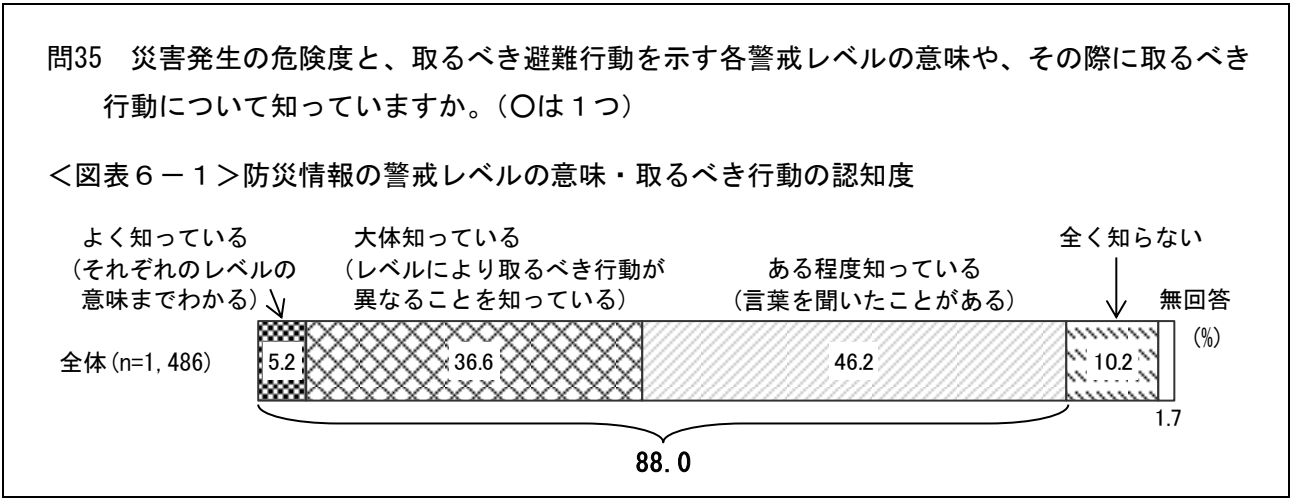
＜図表５－１０＞「千葉ブランド水産物」の認知度／地域別、性・年代別



6 防災に関する取組について

（１）防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度

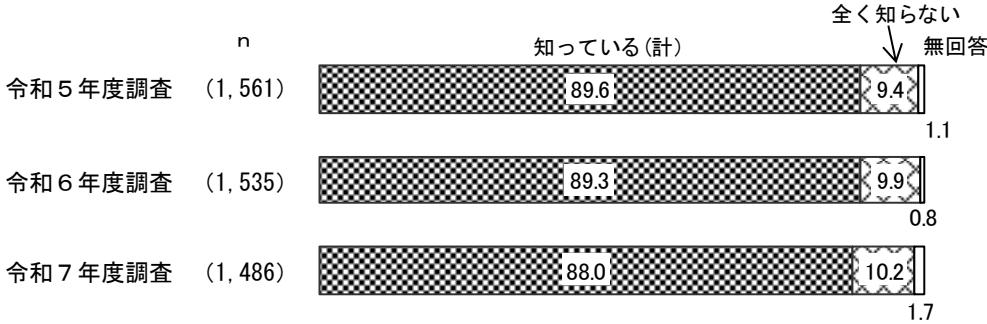
◇『知っている（計）』が約９割



水害・土砂災害の防災情報の伝え方で、各警戒レベルの意味や、その際に取るべき行動について知っているか聞いたところ、「よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）」（5.2％）と「大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）」（36.6％）、「ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）」（46.2％）の３つを合わせた『知っている（計）』（88.0％）が約９割となっている。

一方、「全く知らない」（10.2％）が１割となっている。（図表 6－１）

【参考】 令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果（単位：％）



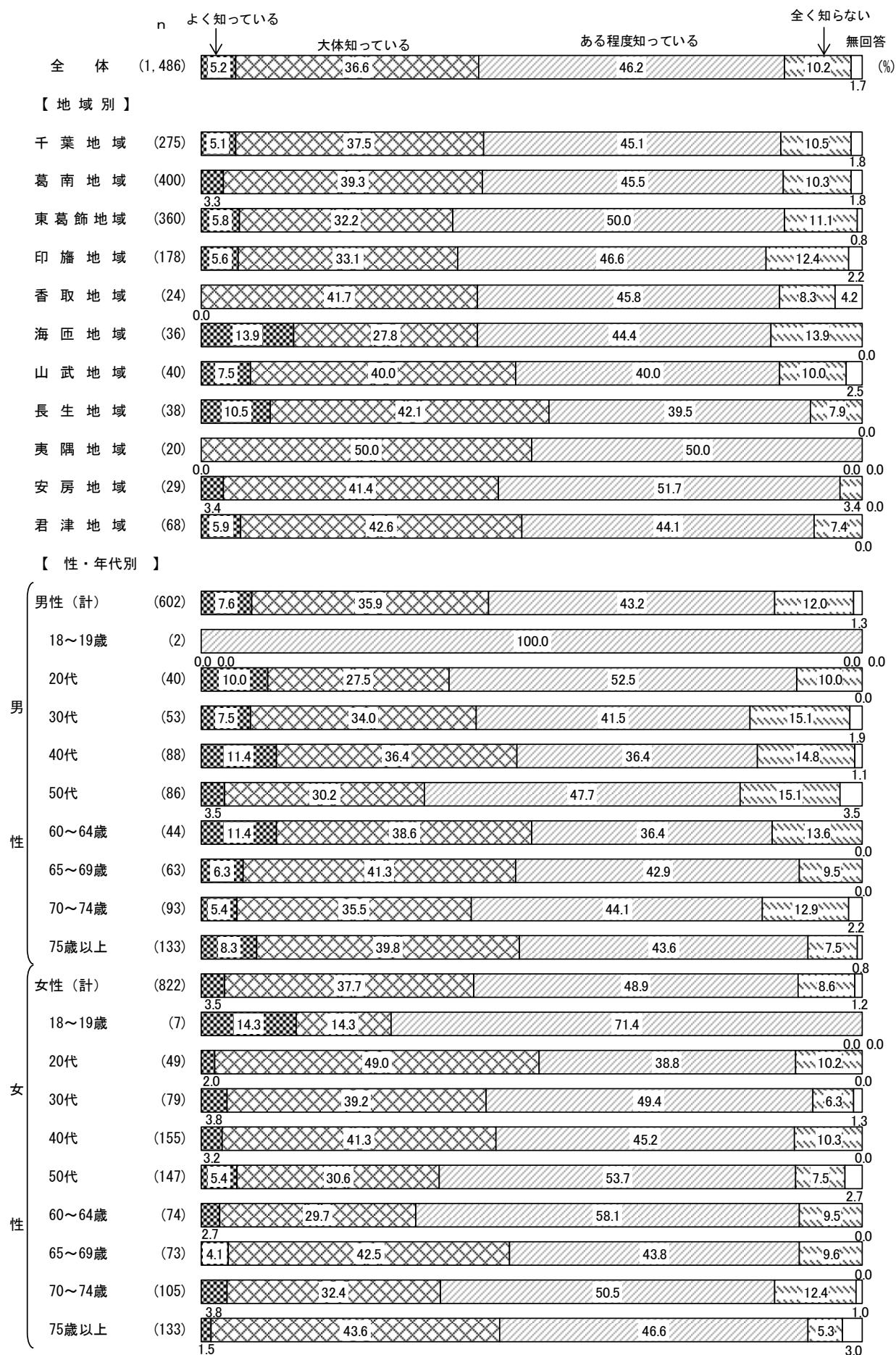
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 6－２）

【性・年代別】

性・年代別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 6－２）

＜図表６－２＞防災情報の警戒レベルの意味・取るべき行動の認知度／地域別、性・年代別



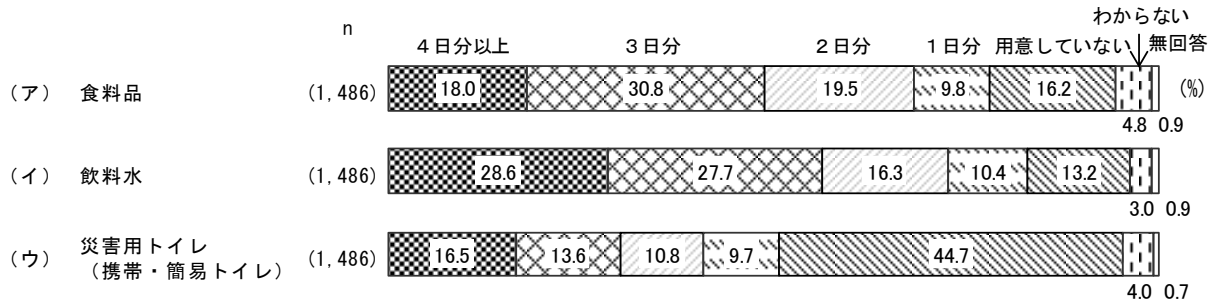
（２）飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況

◇『用意している（計）』が最も高いのは＜飲料水＞で８割を超える

問36 あなたの家では、災害時に利用できる食料品等を何日分用意していますか。

（○はそれぞれ１つずつ）

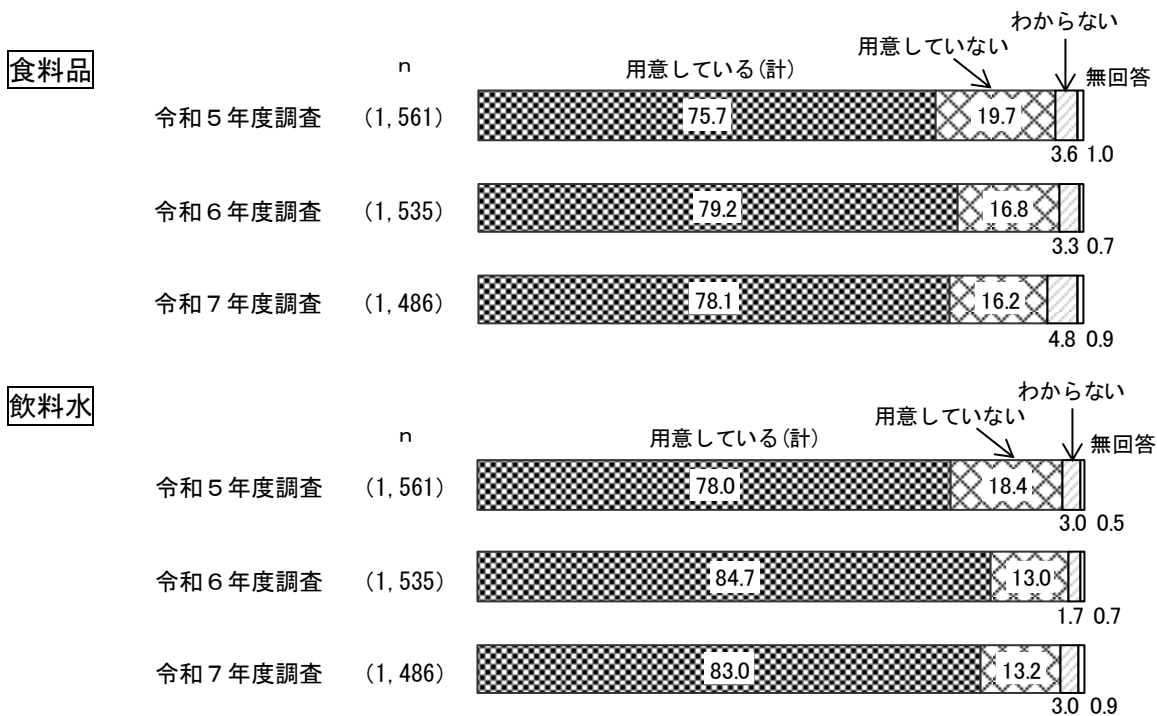
＜図表６－３＞飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況



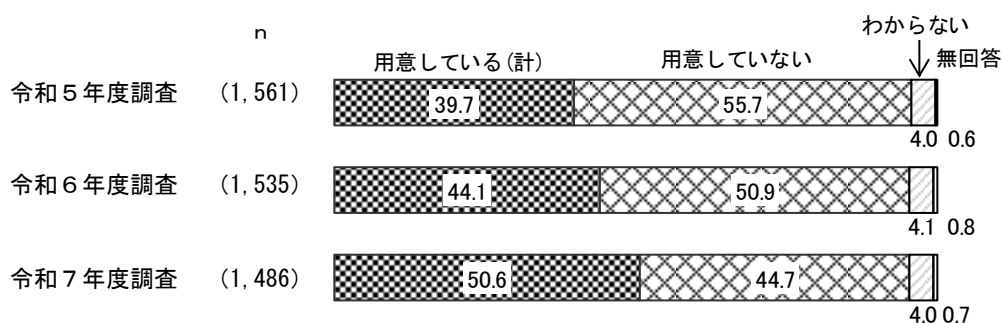
災害時に利用できる食料品等を何日分用意しているか聞いたところ、「４日分以上」、「３日分」、「２日分」、「１日分」の４つを合わせた『用意している（計）』が最も高いのは、「（イ）飲料水」（83.0％）で８割を超え、以下、「（ア）食料品」（78.1％）が約８割、「（ウ）災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（50.6％）が５割となっている。

一方、「用意していない」が最も高いのは、「（ウ）災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」（44.7％）で４割台半ばとなっており、以下、「（ア）食料品」（16.2％）が１割台半ば、「（イ）飲料水」（13.2％）が１割を超えている。（図表６－３）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



【地域別】

地域別にみると、「(ア) 食料品」を「用意していない」は“海匝地域”（33.3%）と“長生地域”（31.6%）が3割を超えて高くなっている。

「(イ) 飲料水」で大きな傾向の違いは見られない。

「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」を『用意している（計）』は“東葛飾地域”（57.2%）が約6割で高くなっている。

一方、「用意していない」は“海匝地域”（69.4%）と“長生地域”（68.4%）が約7割で高くなっている。（図表6－4）

【性・年代別】

性・年代別にみると、「(ア) 食料品」を『用意している（計）』は女性の60～64歳（89.2%）が約9割で高くなっている。

「(イ) 飲料水」を『用意している（計）』は男性の65～69歳（92.1%）が9割を超えて高くなっている。

一方、「用意していない」は女性の40代（19.4%）が約2割で高くなっている。

「(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）」を『用意している（計）』は女性の50代（61.2%）が6割を超えて高くなっている。

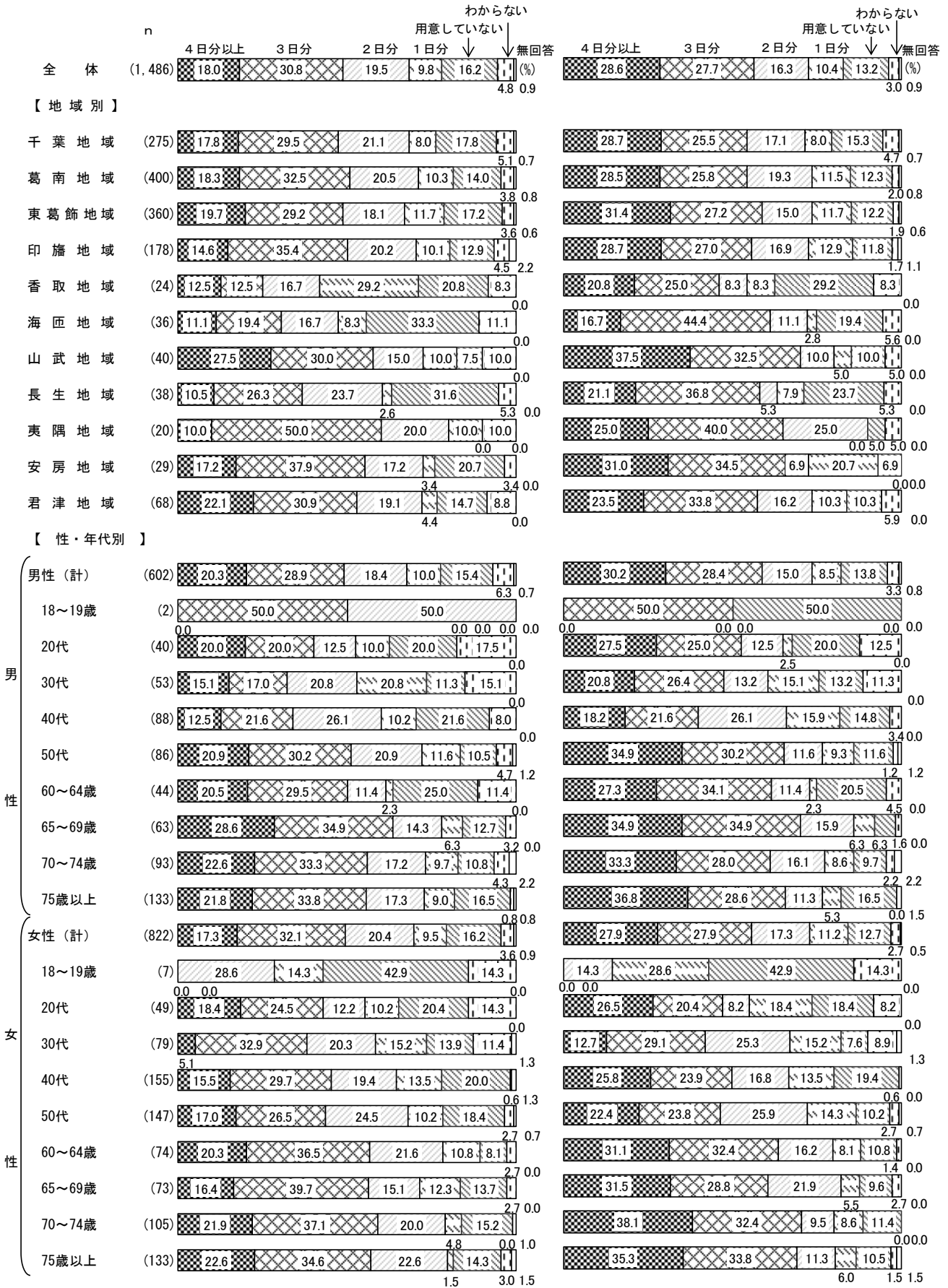
一方、「用意していない」は男性の75歳以上（56.4%）が5割台半ばで高くなっている。

（図表6－4）

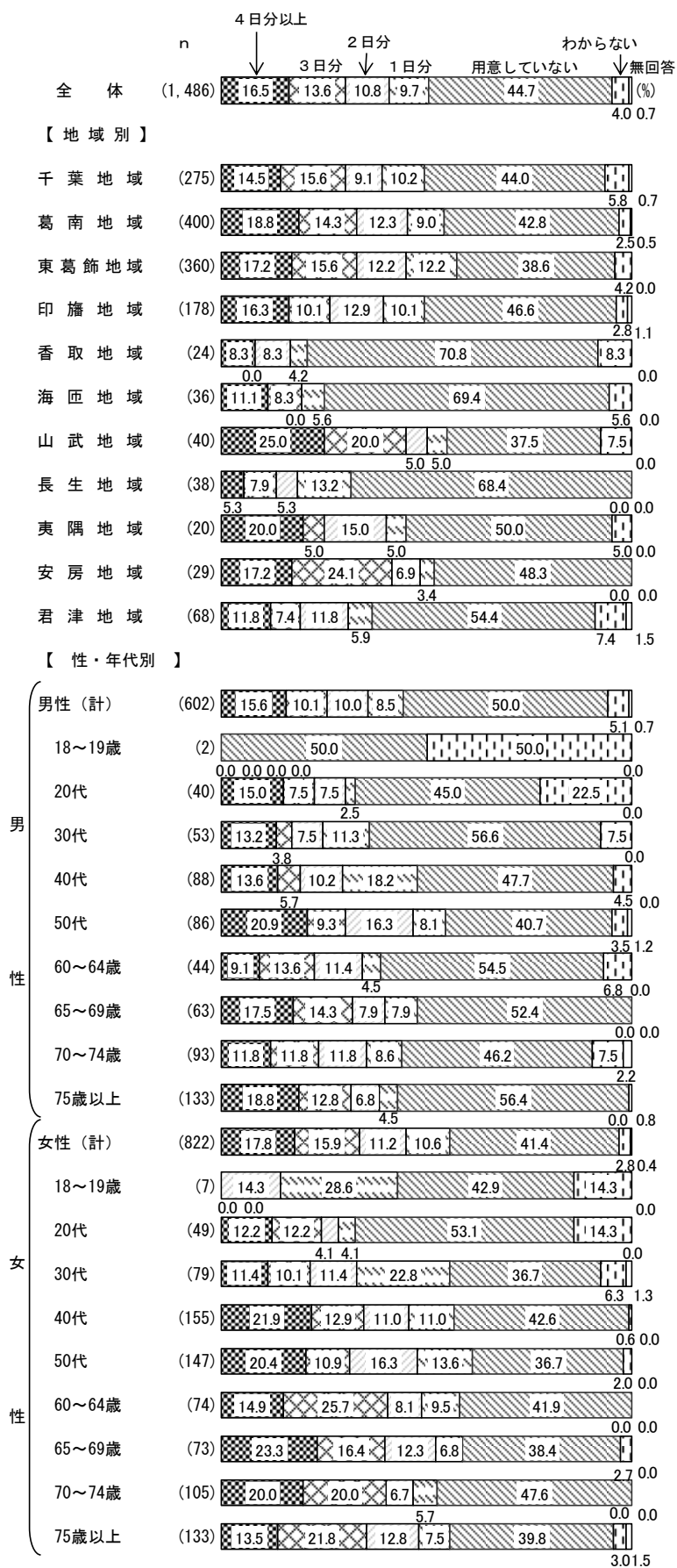
＜図表 6－4＞飲料水や食料、災害用トイレ（簡易・携帯）の備蓄状況／地域別、性・年代別

（ア）食料品

（イ）飲料水



（ウ）災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）



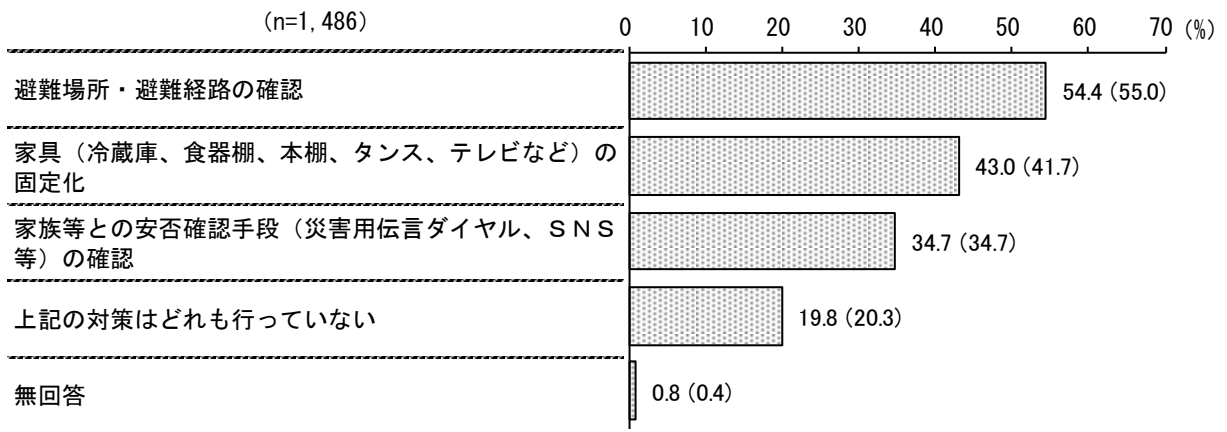
（３）地震や台風などの災害への対策

◇「避難場所・避難経路の確認」が５割台半ば

問37 あなたは、地震や台風などの災害に備えて、次の対策を行っていますか。

（○はいくつでも）

＜図表 6－5＞地震や台風などの災害への対策（複数回答）



注）（ ）の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

地震や台風などの災害に備えて、どのような対策を行っているか聞いたところ、「避難場所・避難経路の確認」（54.4%）が５割台半ばで最も高く、以下、「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」（43.0%）、「家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS等）の確認」（34.7%）が続く。

一方、「上記の対策はどれも行っていない」（19.8%）が約２割となっている。（図表 6－5）

【地域別】

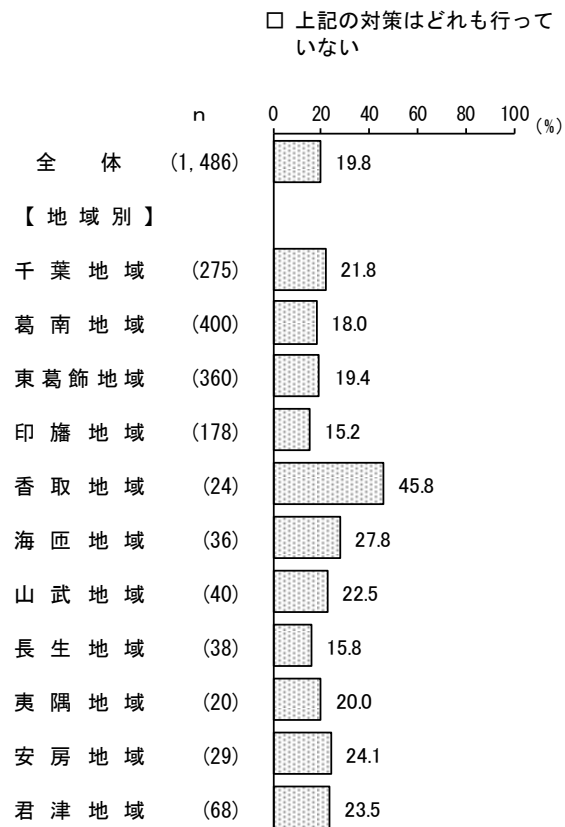
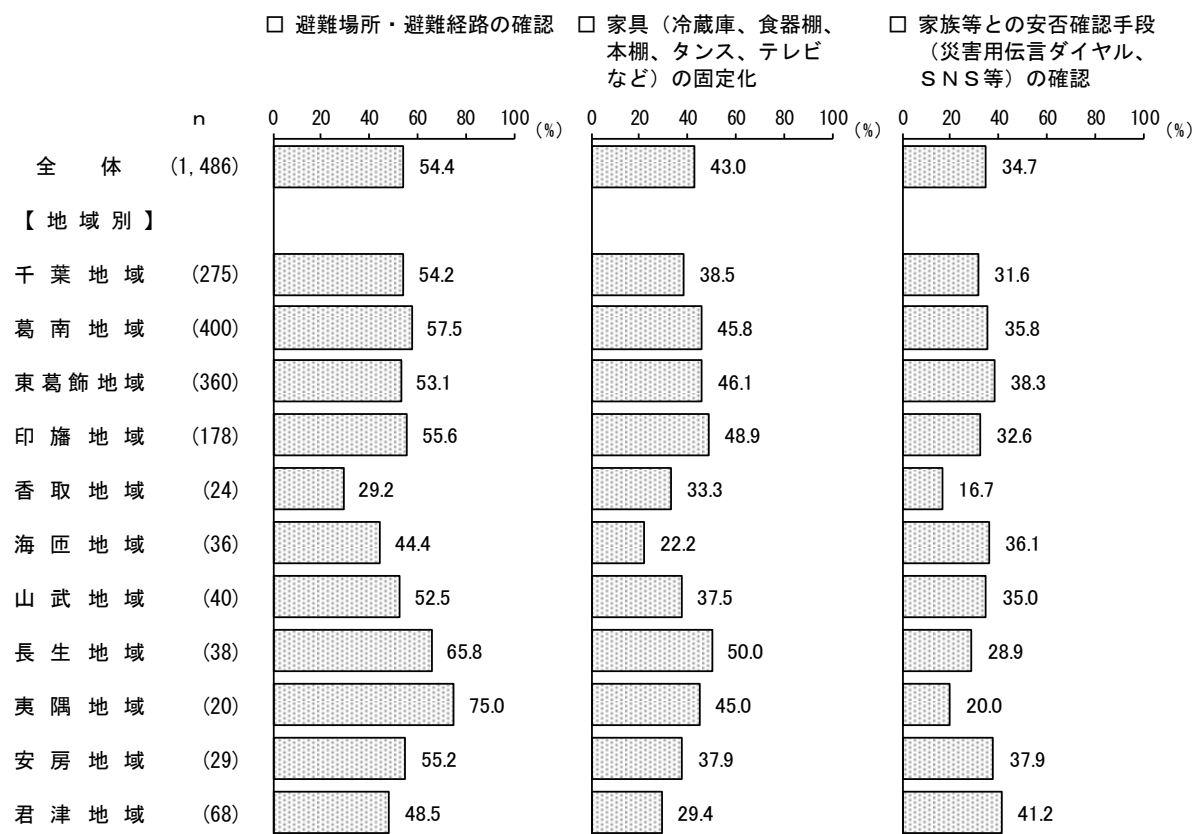
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 6－6）

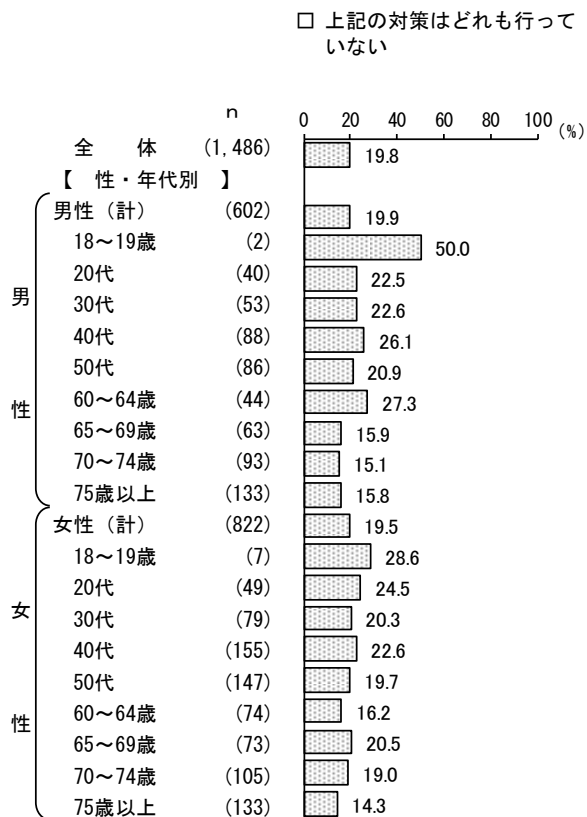
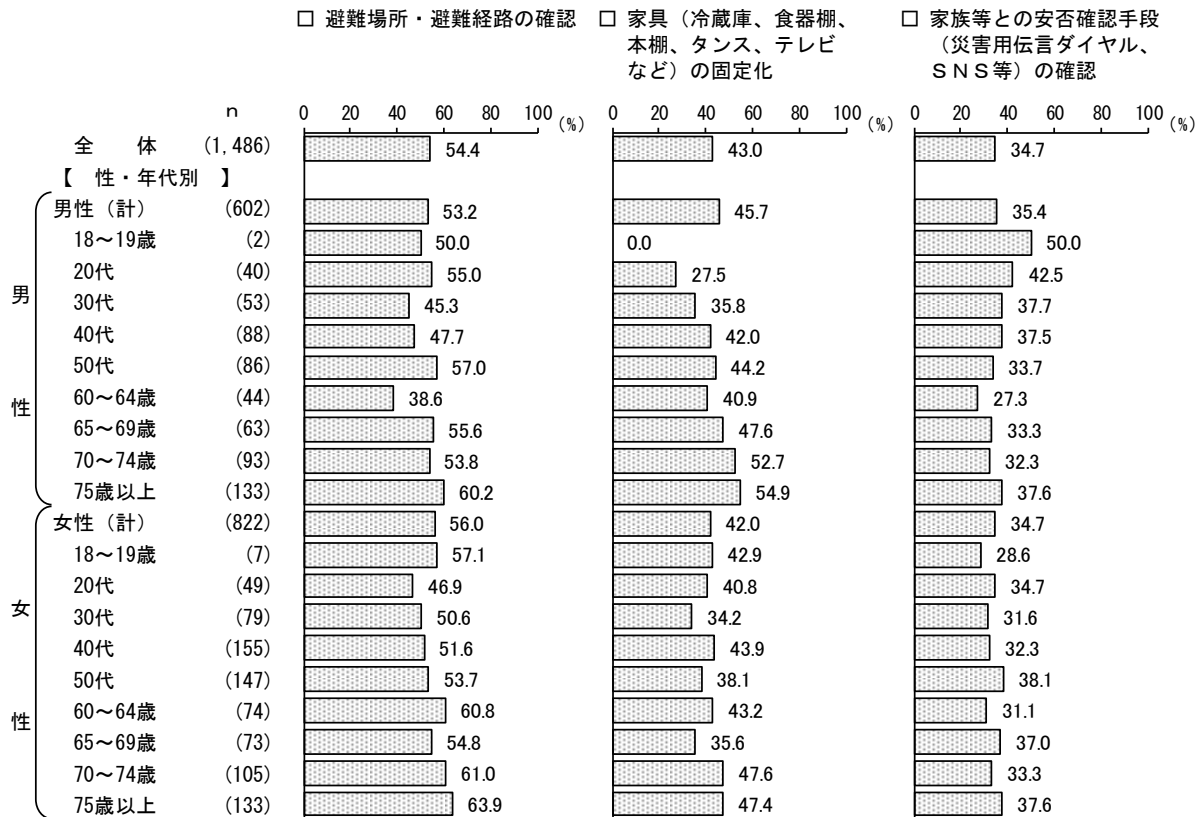
【性・年代別】

性・年代別にみると、「避難場所・避難経路の確認」は女性の75歳以上（63.9%）が６割台半ばで高くなっている。

「家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化」は男性の75歳以上（54.9%）が５割台半ばで高くなっている。（図表 6－6）

＜図表６－６＞地震や台風などの災害への対策（複数回答）／地域別、性・年代別





7 公金のキャッシュレス化の推進について

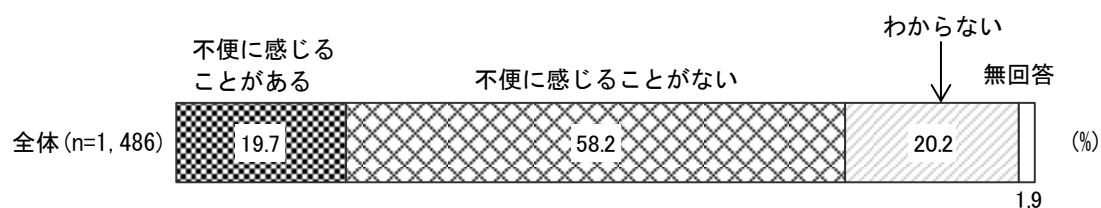
（1）公金の納付に当たり不便と感ずることの有無

◇「不便に感ずることがある」が約2割

県では、収納方法について、県民の皆様の利便性や事務の効率性の観点から「キャッシュレス化の推進」に向けて取り組んでいます。

問38 あなたは、税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感ずることがありますか。（○は1つ）

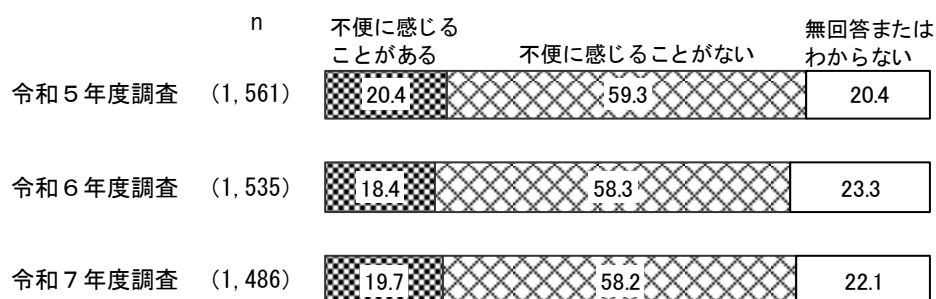
＜図表7－1＞公金の納付に当たり不便と感ずることの有無



税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感ずることがあるかを聞いたところ、「不便に感ずることがある」（19.7%）が約2割となっている。

一方、「不便に感ずることがない」（58.2%）が約6割となっている。（図表7－1）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、「わからない」は“山武地域”（32.5%）が3割を超えて高くなっている。

（図表7－2）

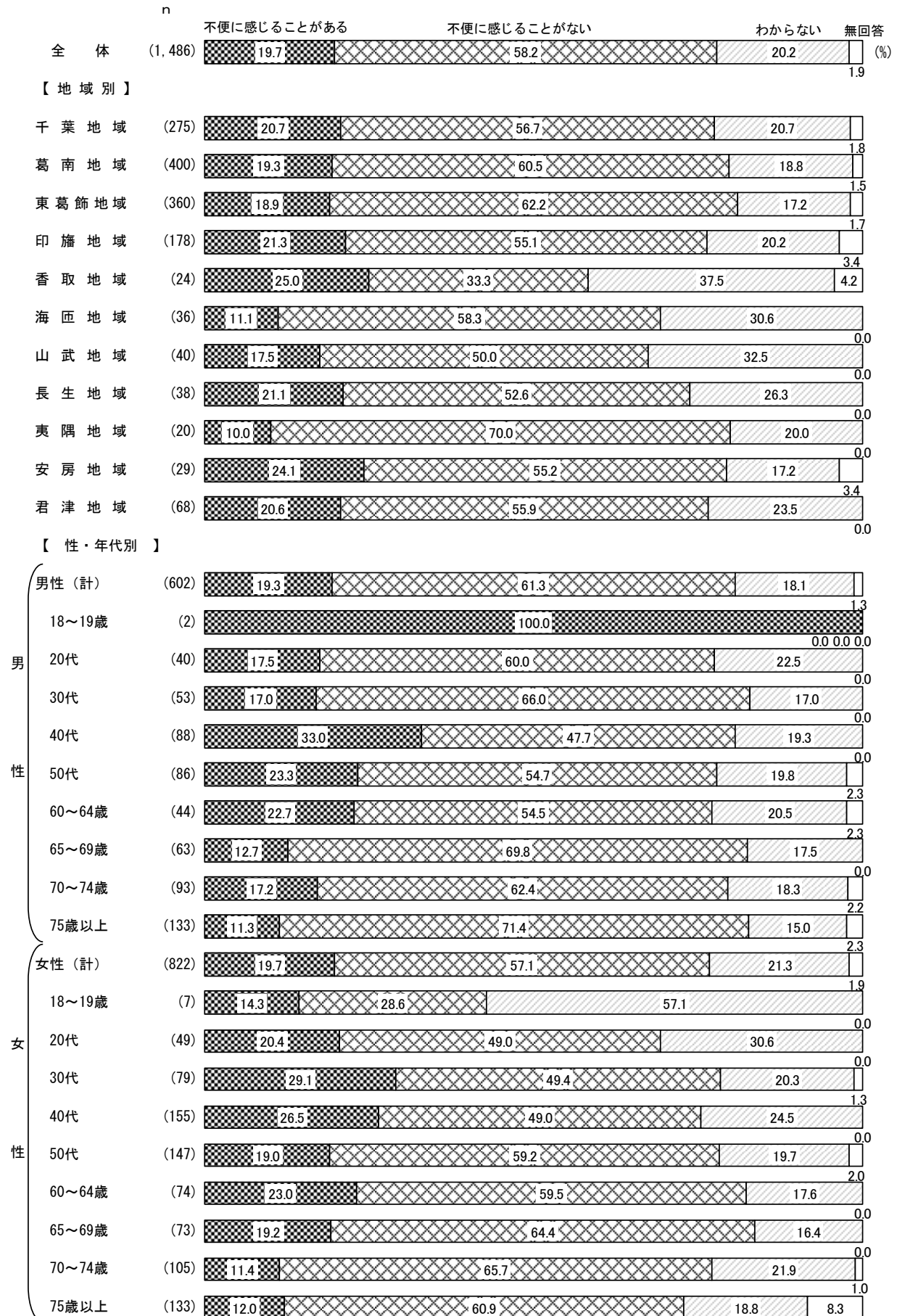
【性・年代別】

性・年代別にみると、「不便に感ずることがある」は男性の40代（33.0%）が3割を超え、女性の30代（29.1%）が約3割、女性の40代（26.5%）が2割台半ばで高くなっている。

一方、「不便に感ずることがない」は男性の75歳以上（71.4%）が7割を超えて高くなっている。

（図表7－2）

<図表 7-2> 公金の納付に当たり不便と感ずることの有無／地域別、性・年代別



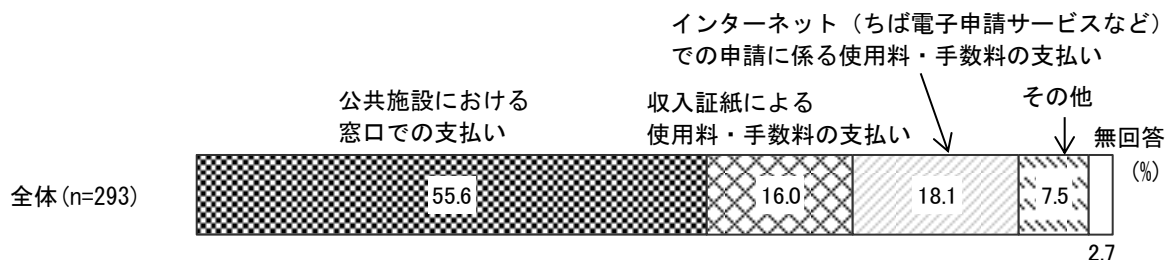
（１－１）キャッシュレス決済を拡大すべきだと思う場面

◇「公共施設における窓口での支払い」が５割台半ば

（問38で「不便に感じることもある」とお答えの方に）

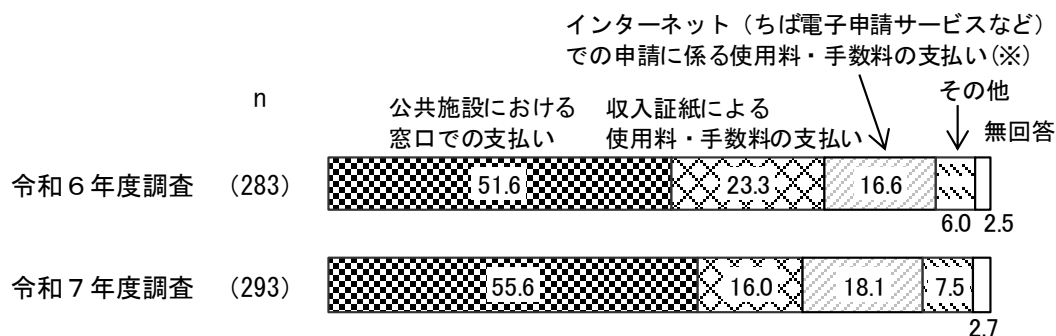
問38－１ あなたは、公金の納付に関して、特に、どの場面のキャッシュレス決済を拡大すべきだと思いますか。（○は１つ）

＜図表 7－3＞キャッシュレス決済を拡大すべきだと思う場面



公金の納付にあたり「不便に感じることもある」と回答した293人を対象に、特に、どの場面のキャッシュレス決済を拡大すべきだと思うかを聞いたところ、「公共施設における窓口での支払い」（55.6%）が５割台半ばで最も高く、以下、「インターネット（ちば電子申請サービスなど）での申請に係る使用料・手数料の支払い」（18.1%）、「収入証紙による使用料・手数料の支払い」（16.0%）が続く。（図表 7－3）

〔参考〕令和６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）

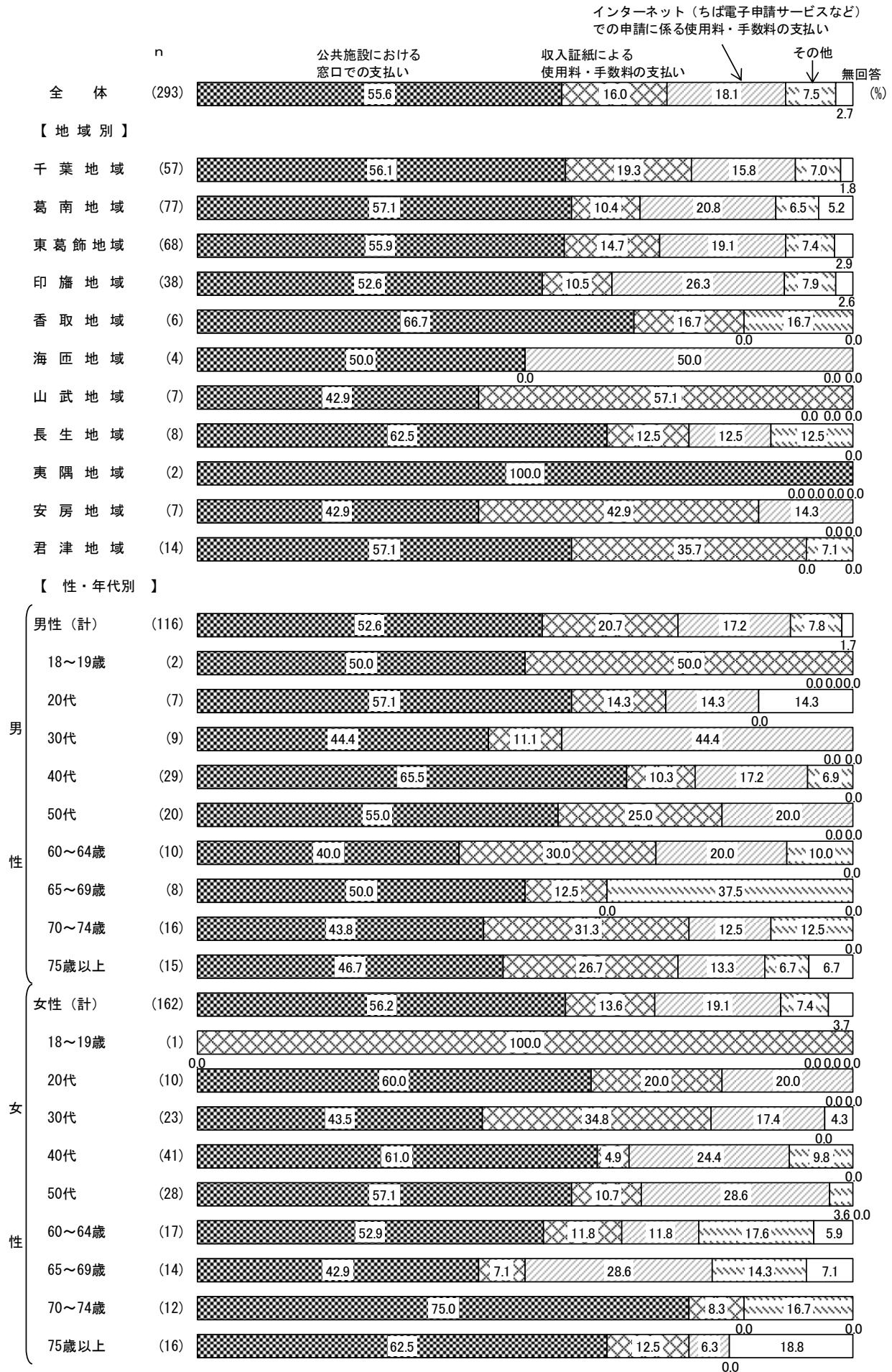


（※）令和 6 年度調査では「インターネット（ちば電子システムなど）での申請に係る使用料・手数料の支払い」

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8 ページ「報告書の見方（５）」を参照）（図表 7－4）

【参考】＜図表 7-4＞キャッシュレス決済を拡大すべきだと思う場面／地域別、性・年代別

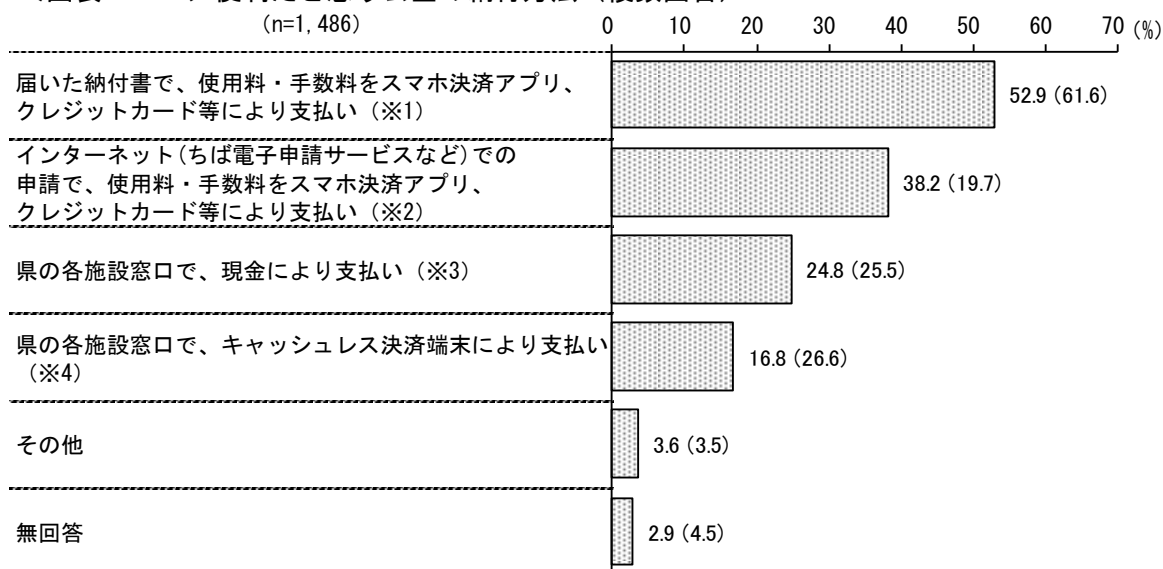


（２）便利だと思う公金の納付方法

◇「届いた納付書で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」が５割を超える

問39 あなたは、公金の納付に関し、収入証紙に代えて、どのような納付方法が便利だと思いますか。（○はいくつでも）

＜図表 7－5＞便利だと思う公金の納付方法（複数回答）



注）（ ）の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

（※1）令和6年度調査では「県の各施設窓口以外での、スマホ決済アプリ（PayPay、LINEPay、PayBなど）、クレジットカード（Visa、Master、JCBなど）による支払い」

（※2）令和6年度調査では「インターネット（ちば電子システムなど）での申請による使用料・手数料の支払い」

（※3）令和6年度調査では「県の各施設窓口での現金による支払い」

（※4）令和6年度調査では「県の各施設窓口でのキャッシュレス決済端末による支払い」

便利だと思う公金の納付方法を聞いたところ、「届いた納付書で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」（52.9%）が５割を超えて最も高く、以下、「インターネット（ちば電子申請サービスなど）での申請で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」（38.2%）、「県の各施設窓口で、現金により支払い」（24.8%）、「県の各施設窓口で、キャッシュレス決済端末により支払い」（16.8%）が続く。（図表 7－5）

【地域別】

地域別にみると、「届いた納付書で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」は“葛南地域”（59.0%）が約６割で高くなっている。（図表 7－6）

【性・年代別】

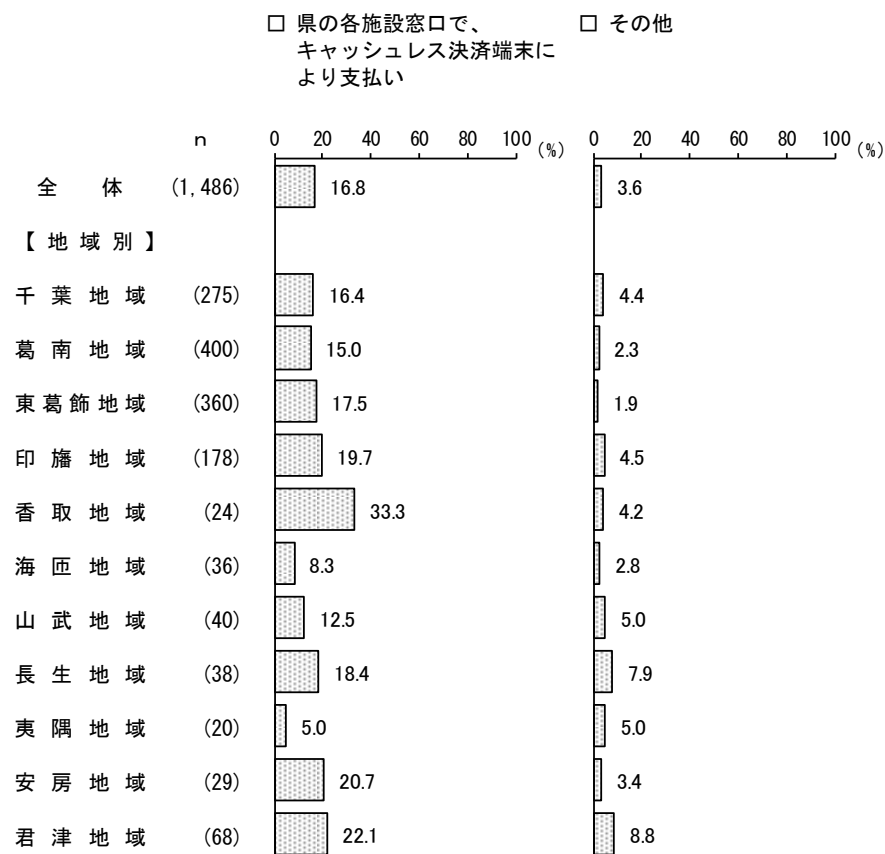
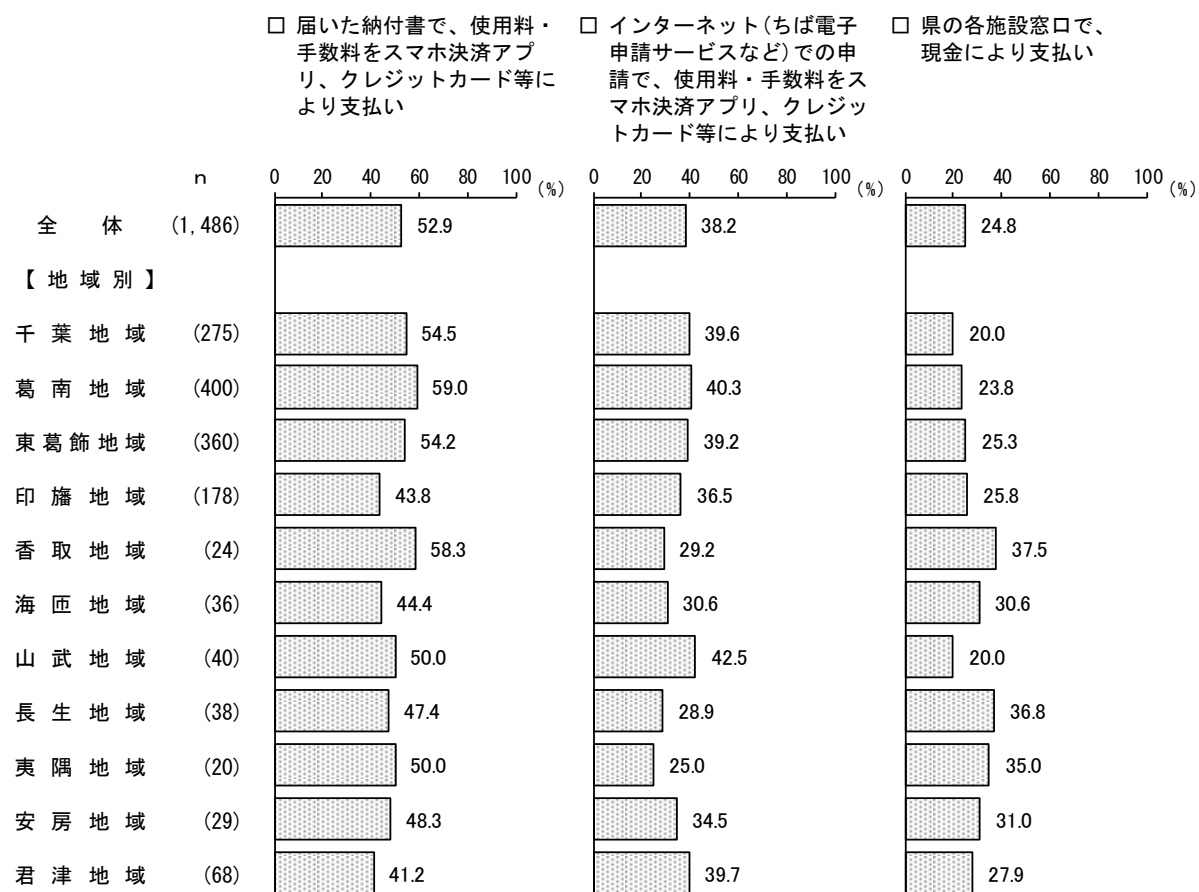
性・年代別にみると、「届いた納付書で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」は女性の20代（71.4%）が７割を超え、女性の30代（70.9%）が７割、女性の40代（67.7%）が約７割、女性の50代（61.9%）が６割を超えて高くなっている。

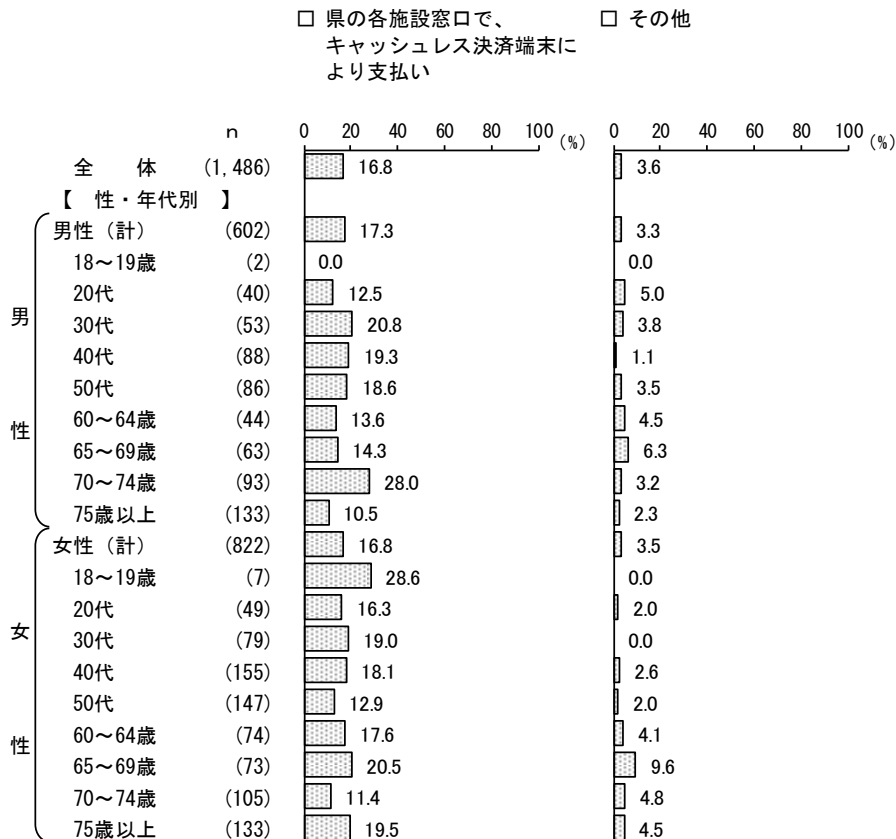
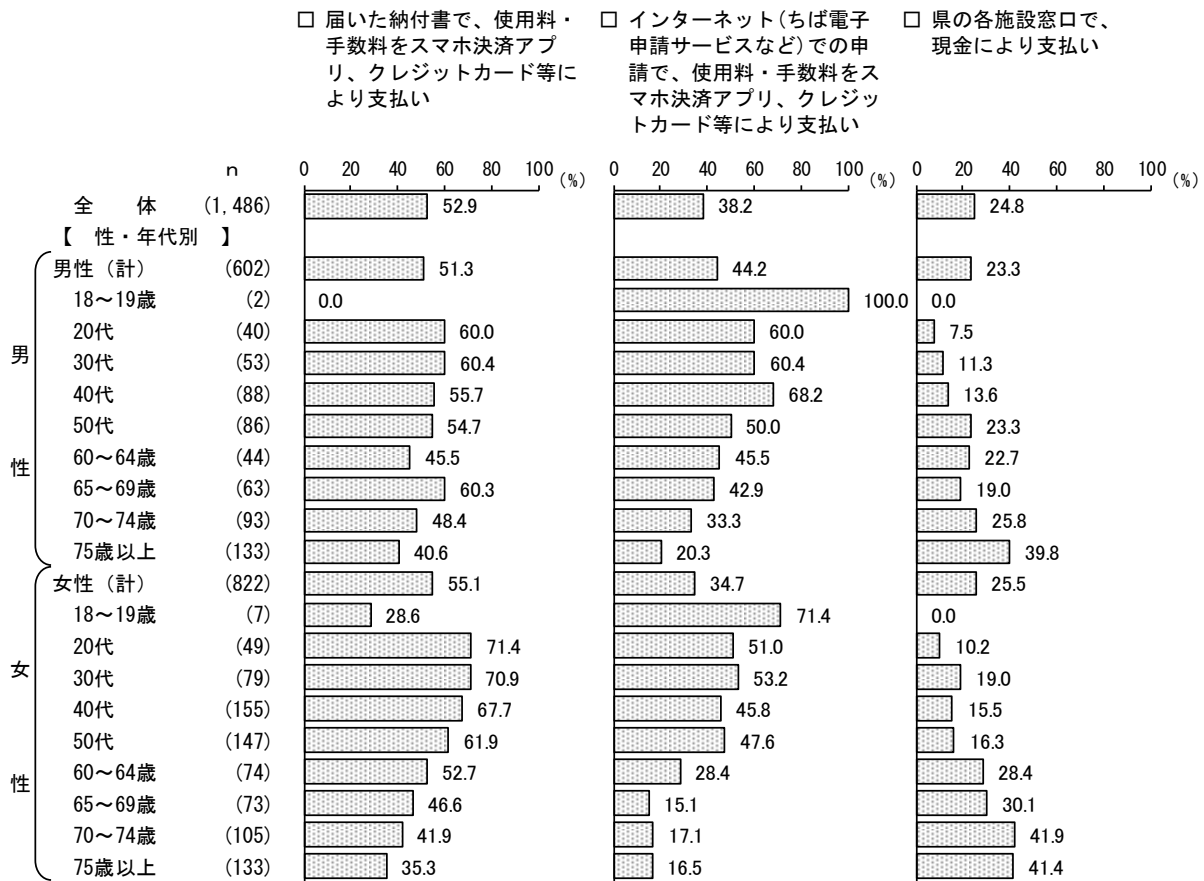
「インターネット（ちば電子申請サービスなど）での申請で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い」は男性の40代（68.2%）が約７割、男性の30代（60.4%）

と男性の20代（60.0％）が6割、女性の30代（53.2％）が5割を超え、男性の50代（50.0％）が5割、女性の50代（47.6％）が約5割、女性の40代（45.8％）が4割台半ばで高くなっている。

「県の各施設窓口で、現金により支払い」は女性の70～74歳（41.9％）と女性の75歳以上（41.4％）が4割を超え、男性の75歳以上（39.8％）が約4割で高くなっている。（図表7－6）

＜図表７－６＞便利だと思う公金の納付方法（単一回答）／地域別、性・年代別（上位６項目）





8 生涯学習について

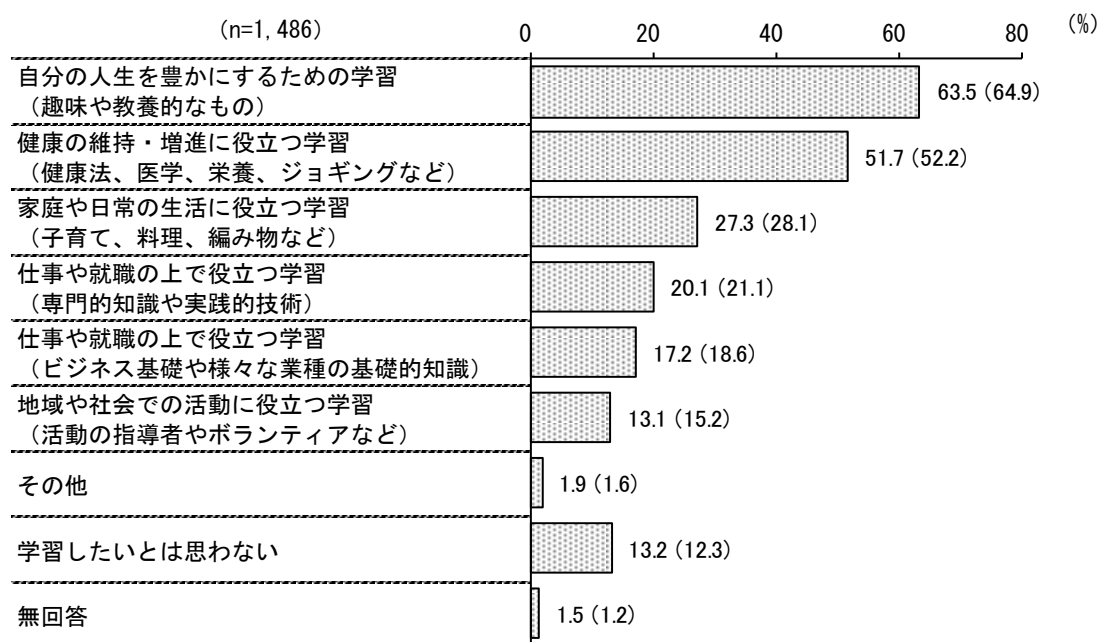
（１）今後学習したいと思うこと

◇「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」が６割台半ば

県では、人生100年時代到来や技術革新など、社会が大きく変化する中、新しい時代に合った生涯学習を推進していくため、今後の施策推進の参考にいたします。

問40 あなたは、今後、学習したいと思うことはありますか。（〇はいくつでも）

＜図表 8－1＞今後学習したいと思うこと（複数回答）



注) () の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

今後、学習したいと思うことを聞いたところ、「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」(63.5%) が6割台半ばで最も高く、以下、「健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど）」(51.7%)、「家庭や日常生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など）」(27.3%)、「仕事や就職の上で役立つ学習（専門的知識や実践的技術）」(20.1%) が続く。

一方、「学習したいとは思わない」(13.2%) が1割を超えている。（図表 8－1）

【地域別】

地域別にみると、「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」は“東葛飾地域” (68.9%) が約7割で高くなっている。（図表 8－2）

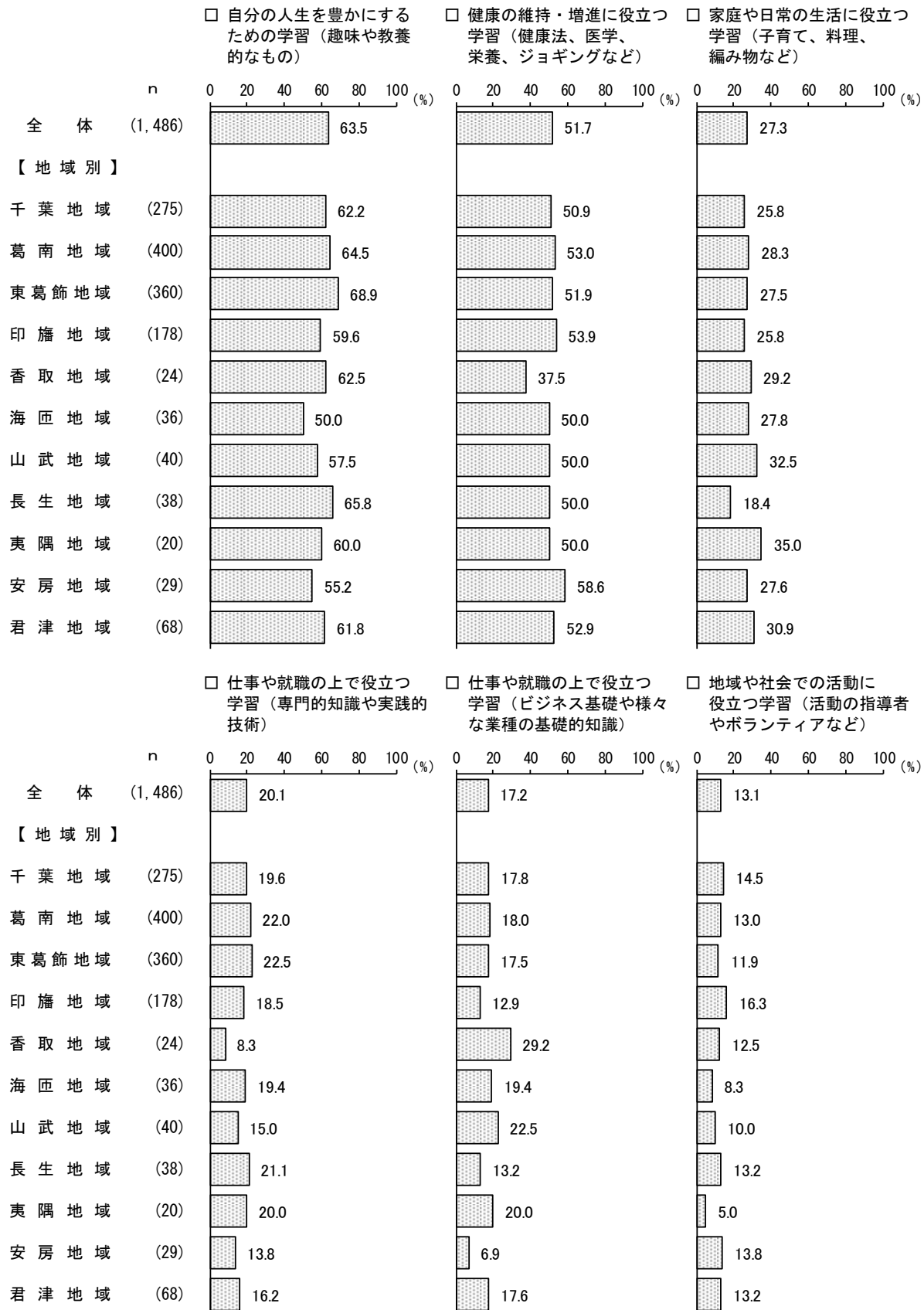
【性・年代別】

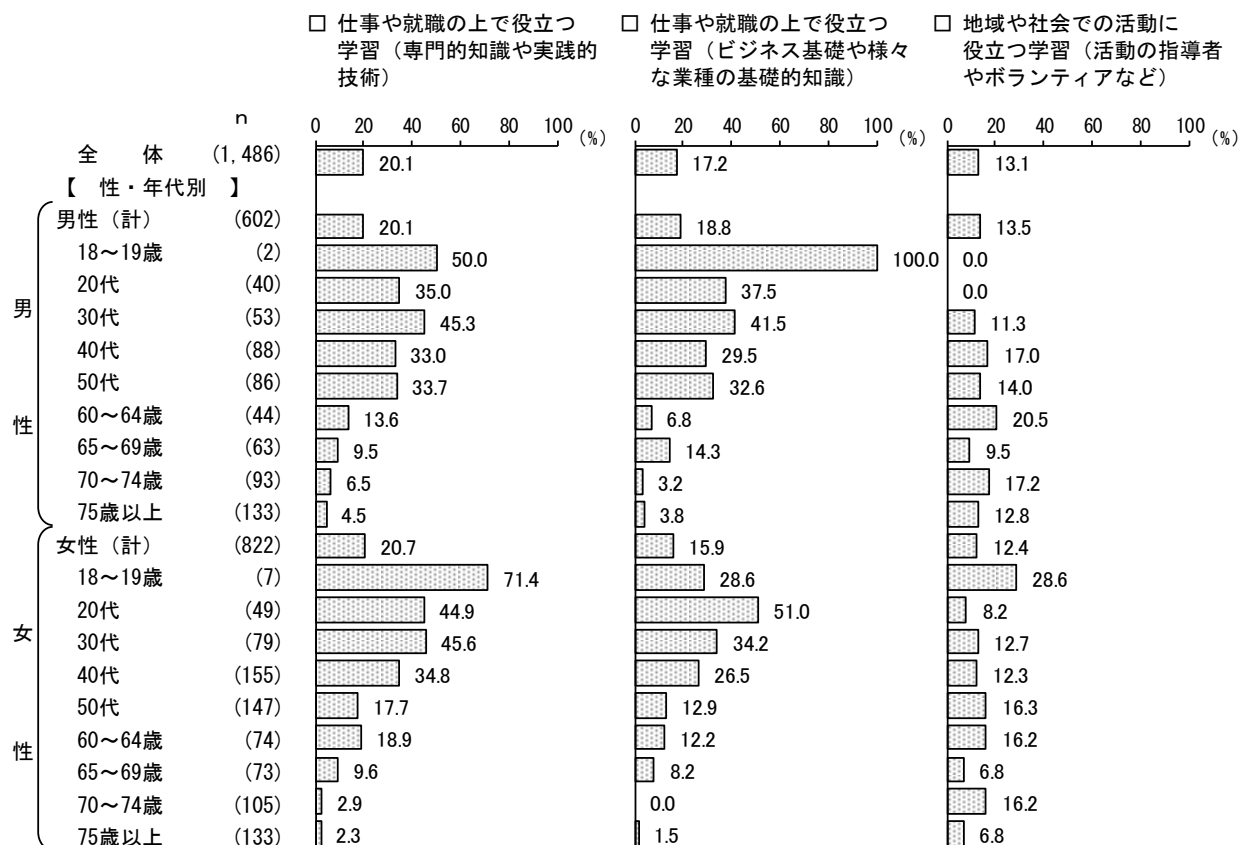
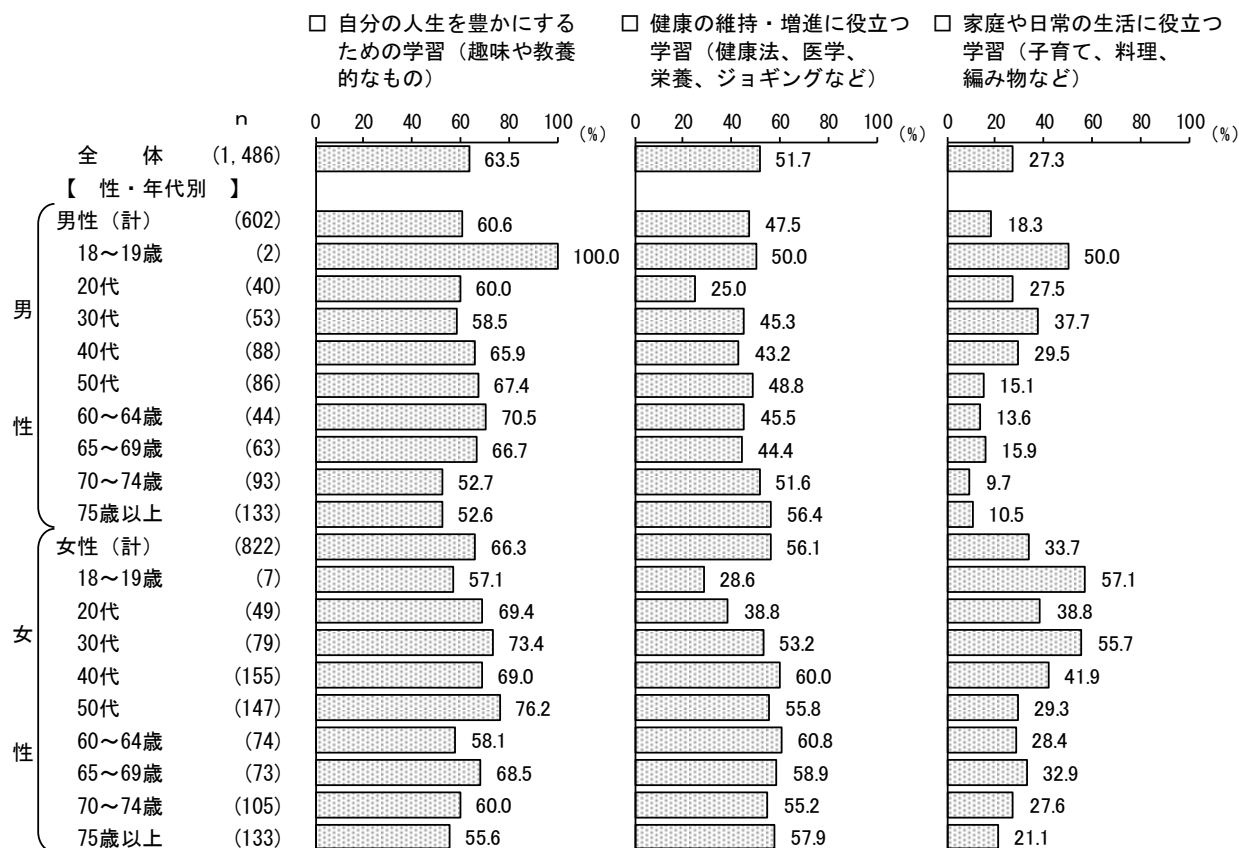
性・年代別にみると、「自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）」は女性の50代 (76.2%) が7割台半ばで高くなっている。

「健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど）」は女性の40代 (60.0%) が6割で高くなっている。

「家庭や日常生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など）」は女性の30代（55.7%）が5割台半ば、女性の40代（41.9%）が4割を超えて高くなっている。（図表8－2）

＜図表8－2＞今後学習したいと思うこと（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





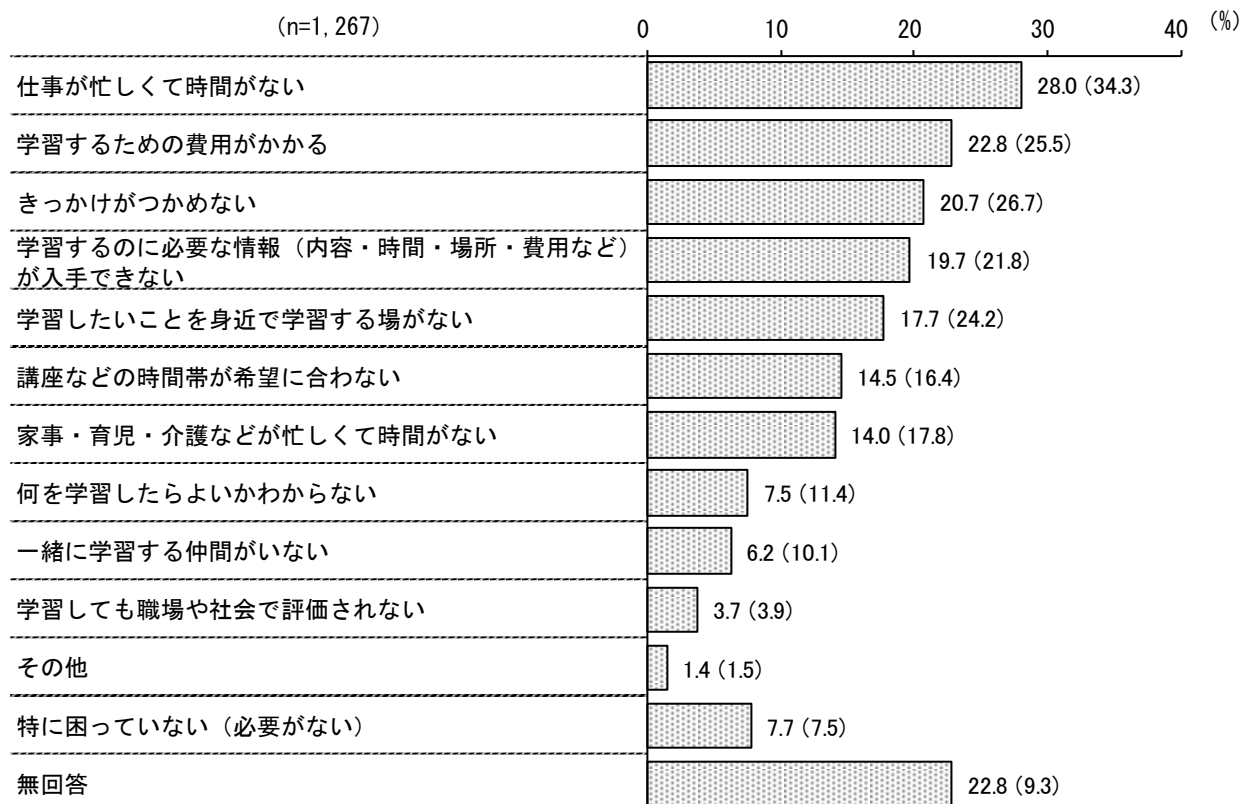
（１－１）学習する上で困っていること

◇「仕事が忙しくて時間がない」が約３割

【問40で「学習したいとは思わない」以外を回答した方】

問41 学習する上で困っていることは何ですか。（問40で「学習したいとは思わない」と回答した方は、学習したいとは思わない理由をお答えください。）（〇はいくつでも）

＜図表 8－3＞学習する上で困っていること（複数回答）



注）（ ）の数字は令和 6 年度の同様の項目による調査結果 n = 1,328

「学習したいとは思わない」以外を回答した1,267人に、学習する上で困っていることを聞いたところ、「仕事が忙しくて時間がない」（28.0%）が約３割で最も高く、以下、「学習するための費用がかかる」（22.8%）、「きっかけがつかめない」（20.7%）、「学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない」（19.7%）が続く。

一方、「特に困っていない（必要がない）」（7.7%）が約１割となっている。（図表 8－3）

【地域別】

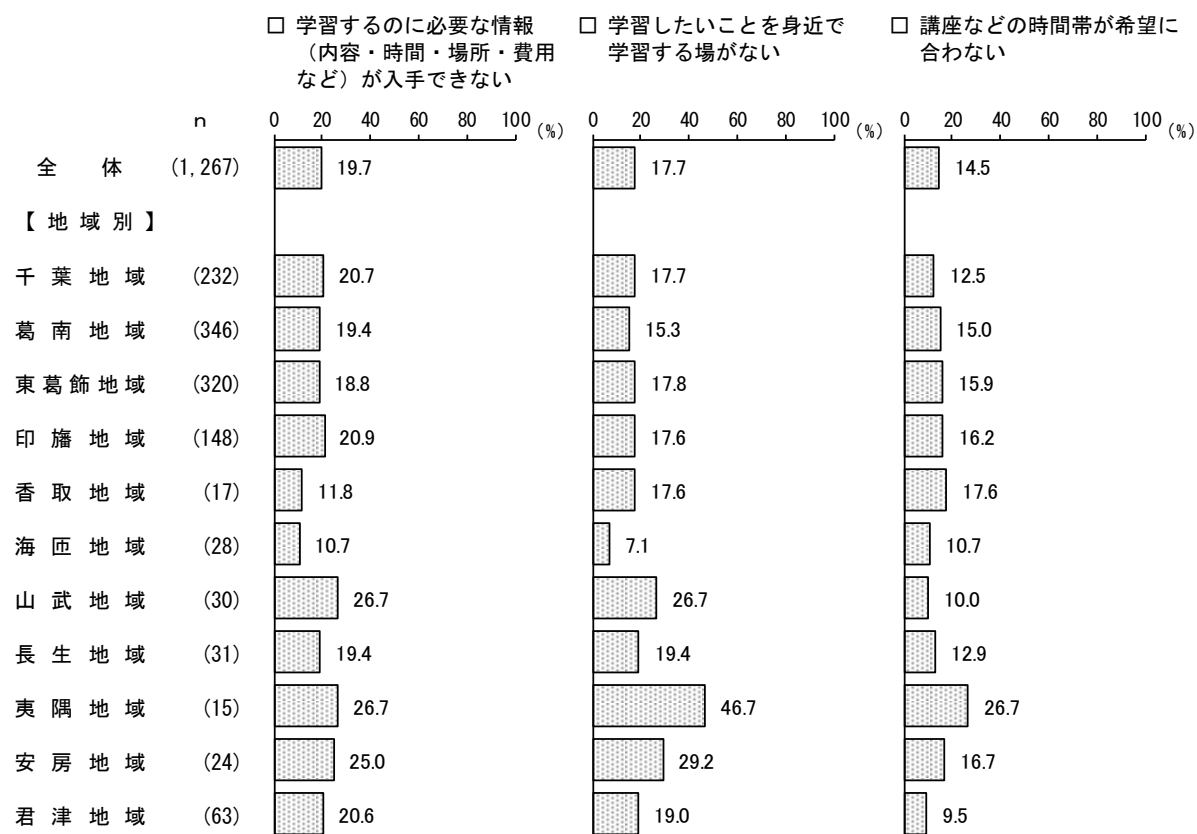
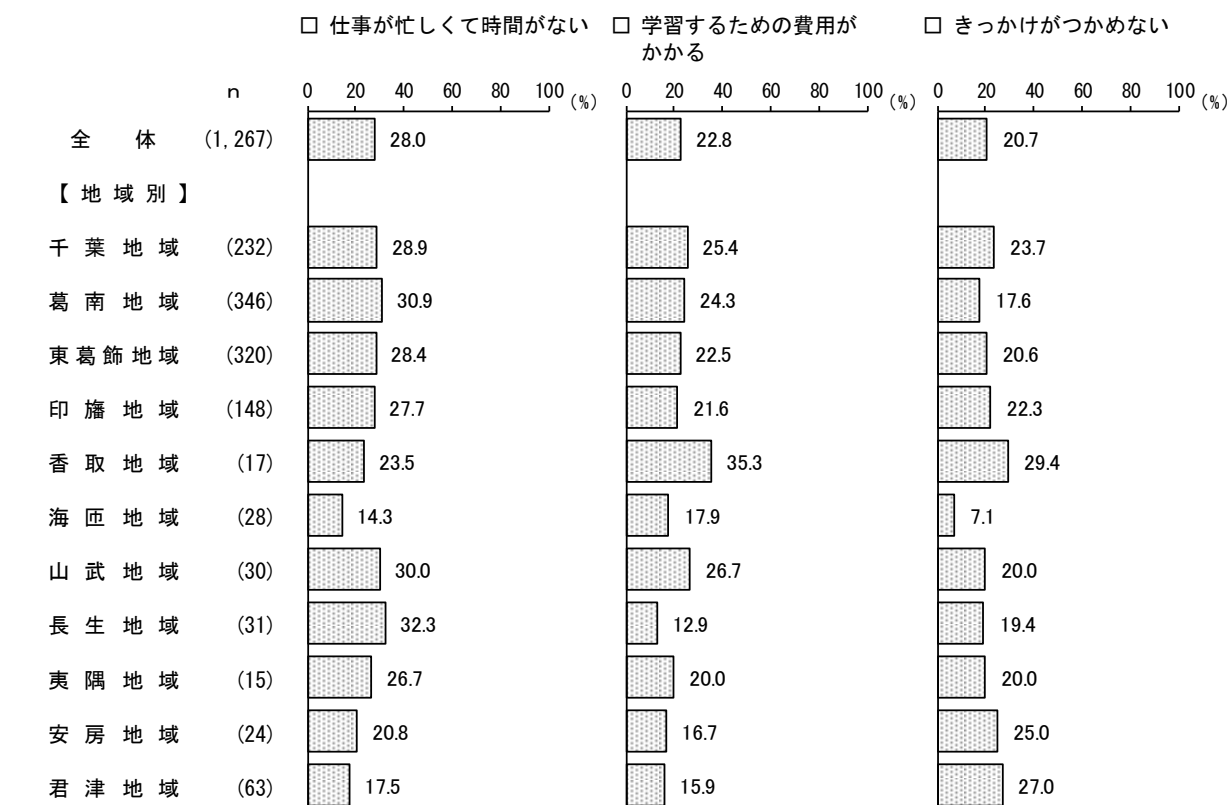
地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 8－4）

【性・年代別】

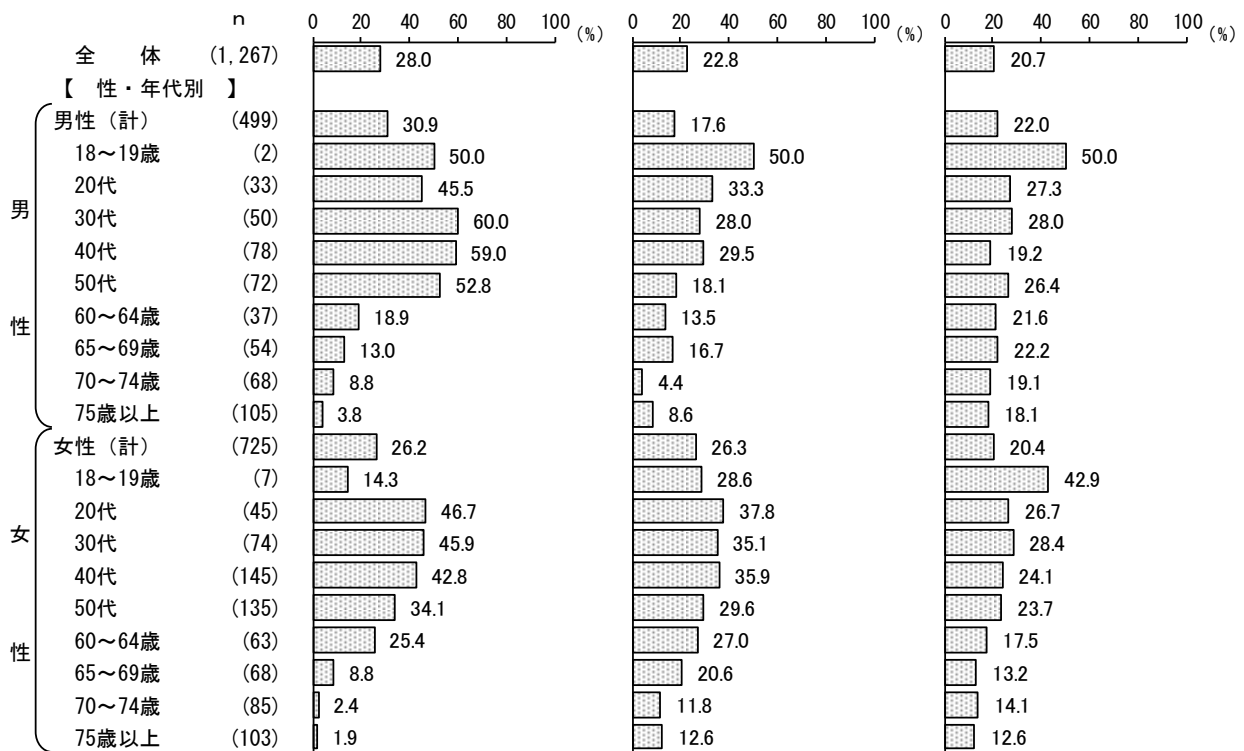
性・年代別にみると、「仕事が忙しくて時間がない」は男性の30代（60.0%）が６割、男性の40代（59.0%）が約６割、男性の50代（52.8%）が５割を超え、女性の20代（46.7%）、女性の30代（45.9%）、男性の20代（45.5%）が４割台半ば、女性の40代（42.8%）が４割を超え高くなっている。

「学習するための費用がかかる」は女性の20代（37.8%）が約４割、女性の40代（35.9%）と女性の30代（35.1%）が３割台半ば、女性の50代（29.6%）が約３割で高くなっている。（図表 8－4）

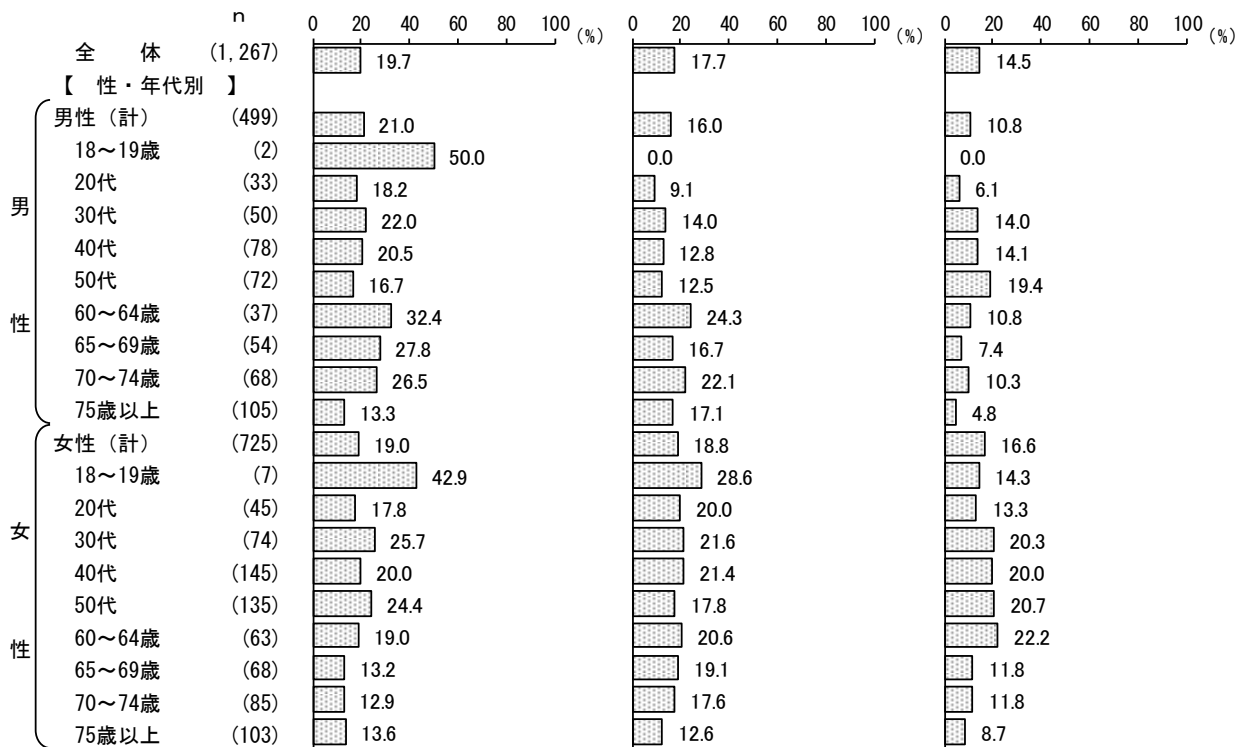
＜図表８－４＞学習する上で困っていること（複数回答）／地域別、性・年代別（上位６項目）



□ 仕事が忙しくて時間がない □ 学習するための費用がかかる □ きっかけがつかめない



□ 学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない □ 学習したいことを身近で学習する場がない □ 講座などの時間帯が希望に合わない



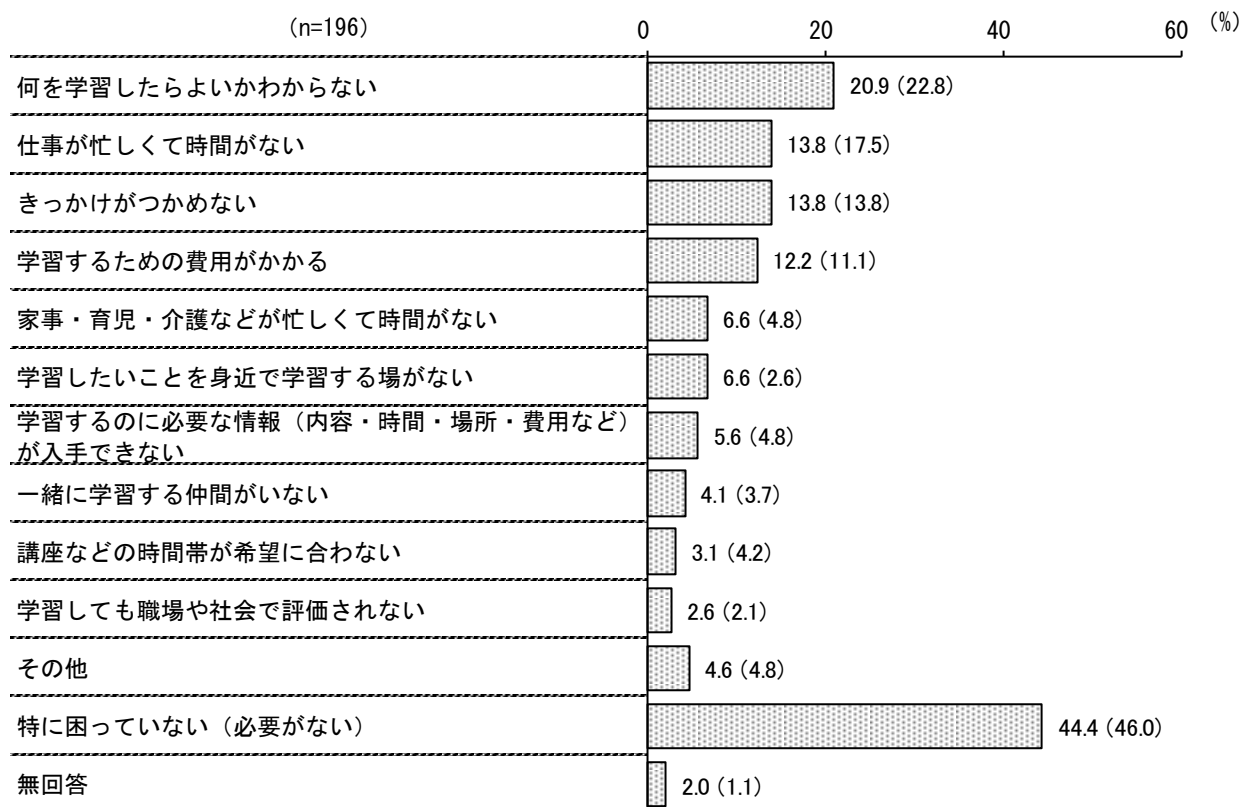
（１－２）学習したいと思わない理由

◇「何を学習したらよいかわからない」が２割

【問40で「学習したいとは思わない」を回答した方】

問41 学習する上で困っていることは何ですか。（問40で「学習したいとは思わない」と回答した方は、学習したいとは思わない理由をお答えください。）（○はいくつでも）

＜図表 8－5＞学習したいと思わない理由（複数回答）



注) () の数字は令和 6 年度の同様の項目による調査結果 n = 189

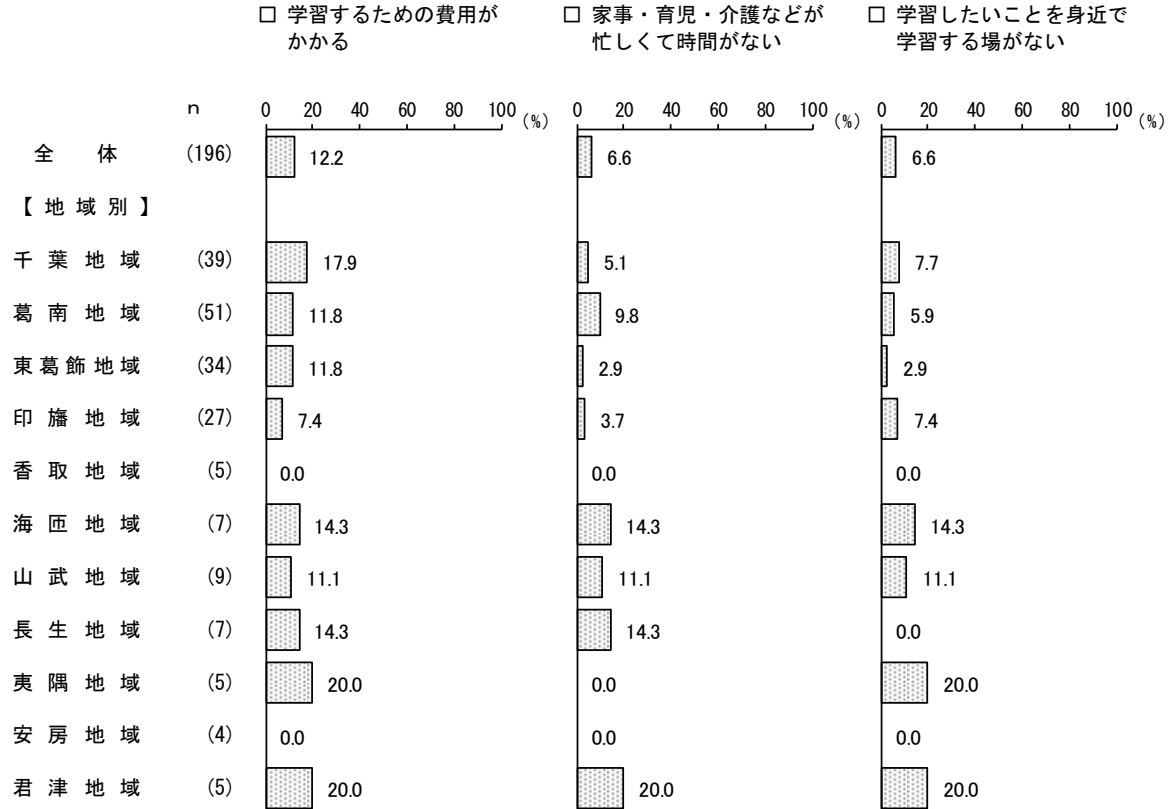
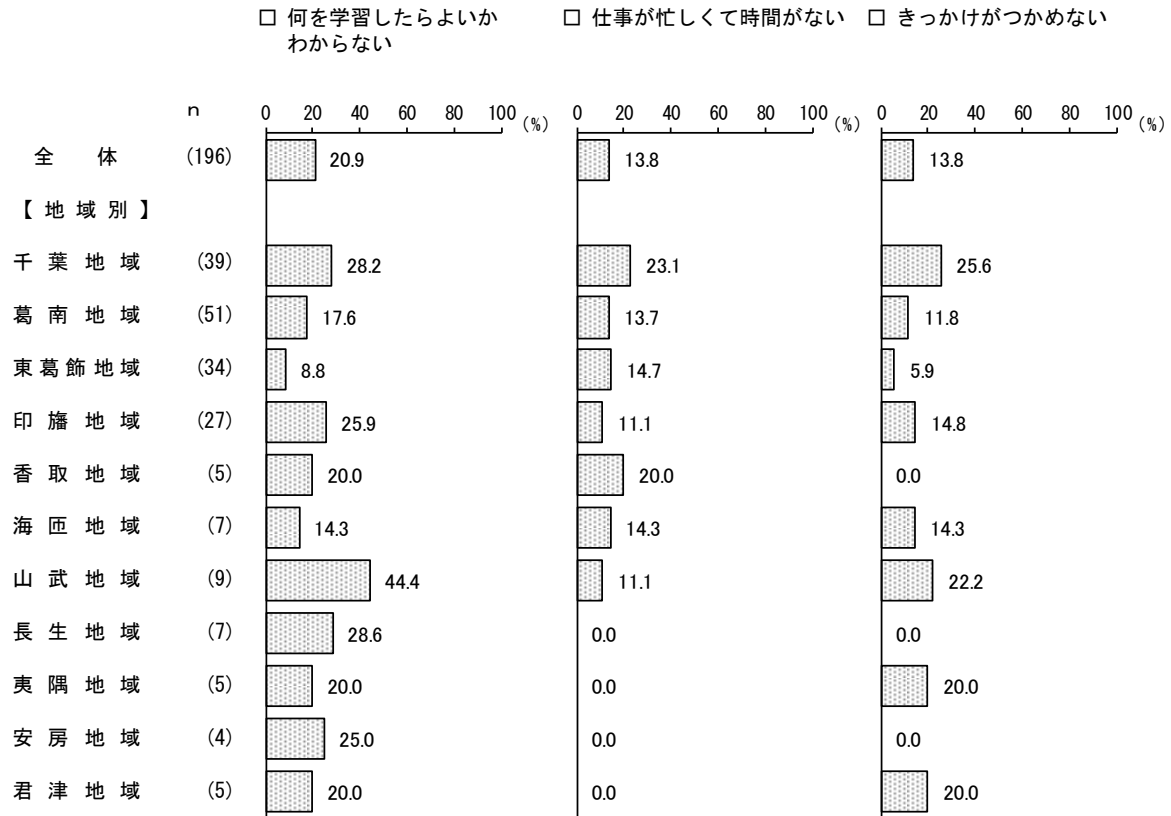
「学習したいとは思わない」と回答した196人に、学習したいとは思わない理由を聞いたところ、「何を学習したらよいかわからない」（20.9%）が２割で最も高く、以下、「仕事が忙しくて時間がない」、「きっかけがつかめない」（ともに13.8%）、「学習するための費用がかかる」（12.2%）が続く。

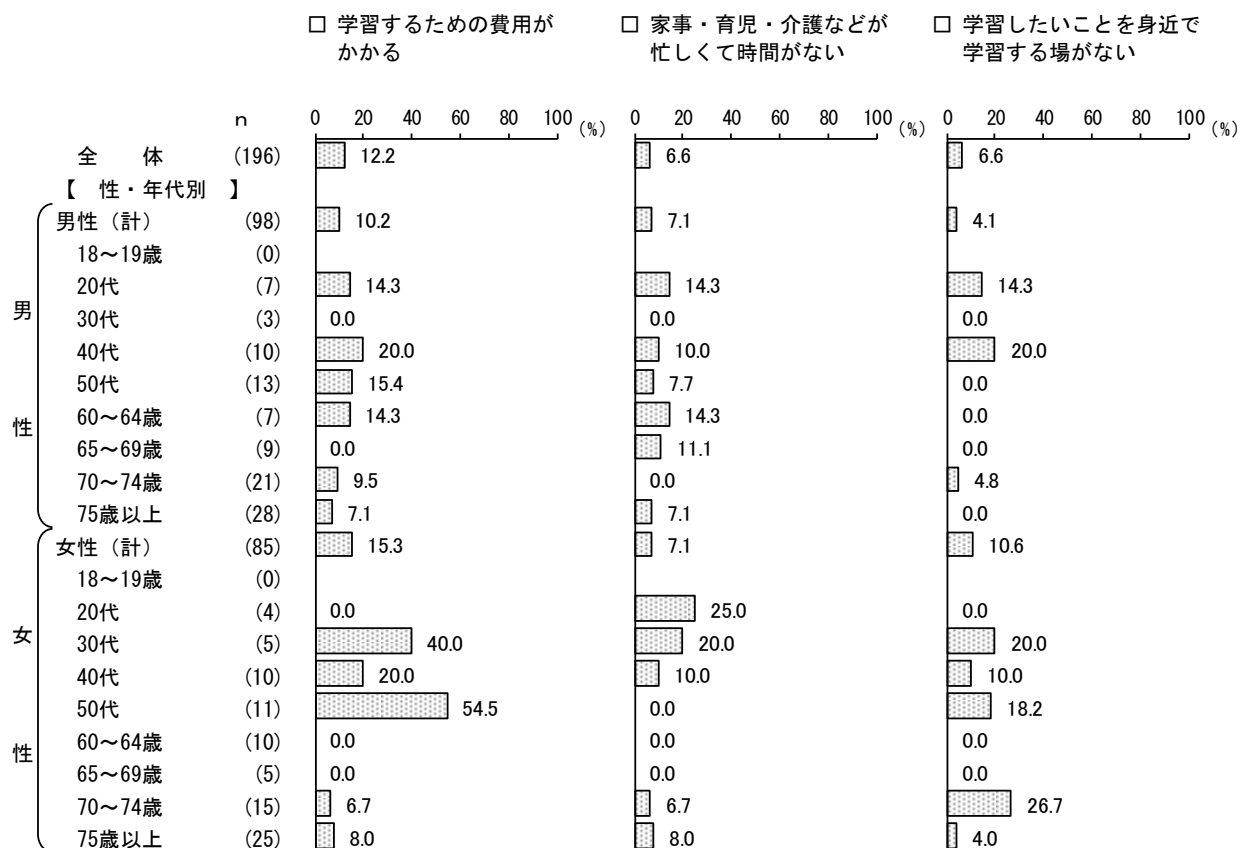
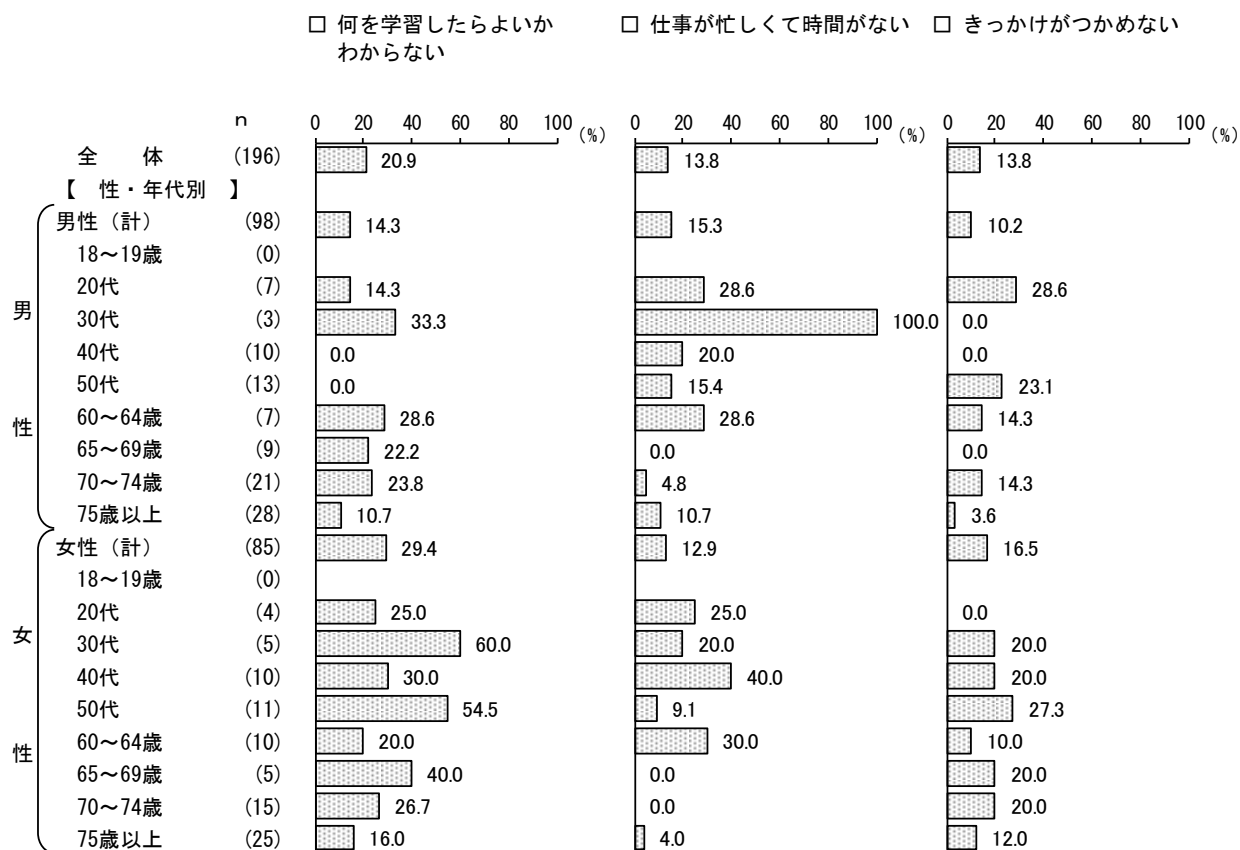
一方、「特に困っていない（必要がない）」（44.0%）が４割台半ばとなっている。（図表 8－5）

※サンプル数が少ないため、【地域別】、【性・年代別】は参考までに図示するにとどめる。

（8 ページ「報告書の見方（5）」を参照）（図表 8－6）

〔参考〕＜図表 8－6＞学習したいと思わない理由（複数回答）／地域別、性・年代別（上位 6 項目）



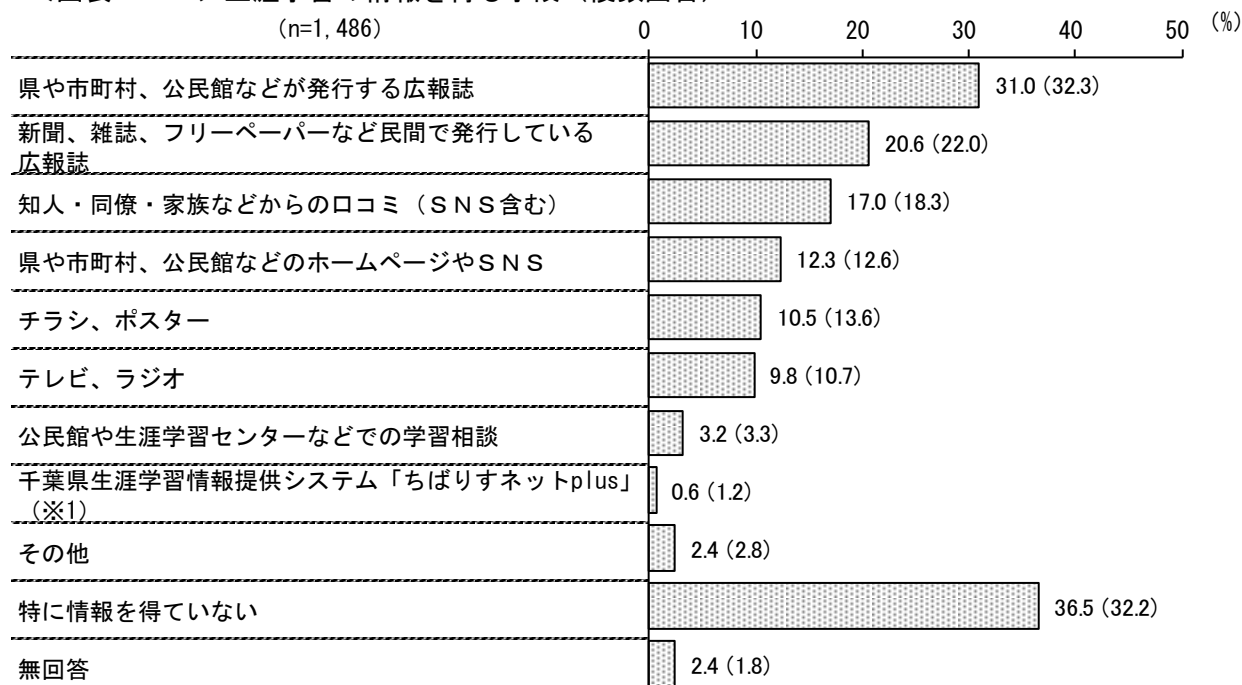


（２）生涯学習の情報を得る手段

◇「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」が３割を超える

問42 あなたは、生涯学習の情報をどこから得ていますか。（○はいくつでも）

＜図表８－７＞生涯学習の情報を得る手段（複数回答）



注) () の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

(※1) 令和6年度調査では「千葉県生涯学習情報提供システム『ちばりすネット』」

生涯学習の情報を得る手段について聞いたところ、「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」(31.0%)が３割を超えて最も高く、以下、「新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌」(20.6%)、「知人・同僚・家族などからの口コミ（SNS含む）」(17.0%)、「県や市町村、公民館などのホームページやSNS」(12.3%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(36.5%)が３割台半ばとなっている。(図表８－７)

【地域別】

地域別にみると、「新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌」は“葛南地域”(24.5%)が２割台半ばで高くなっている。(図表８－８)

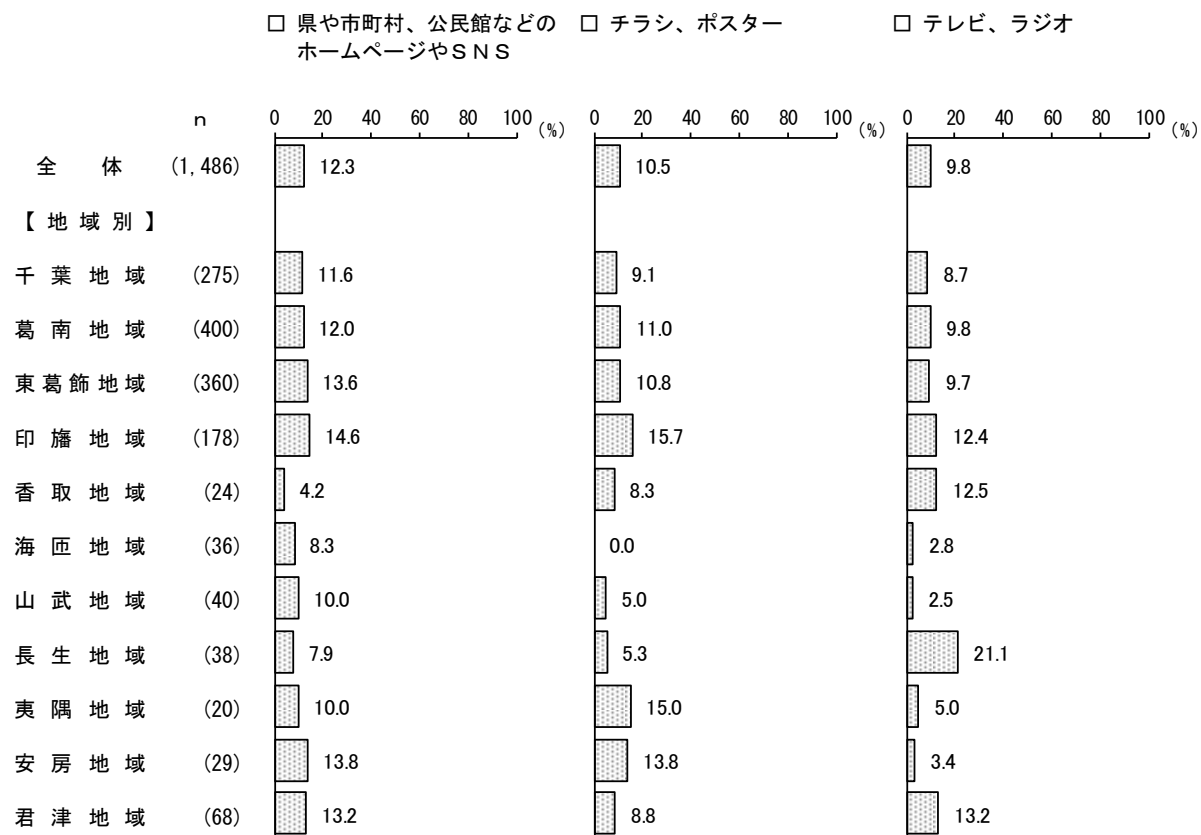
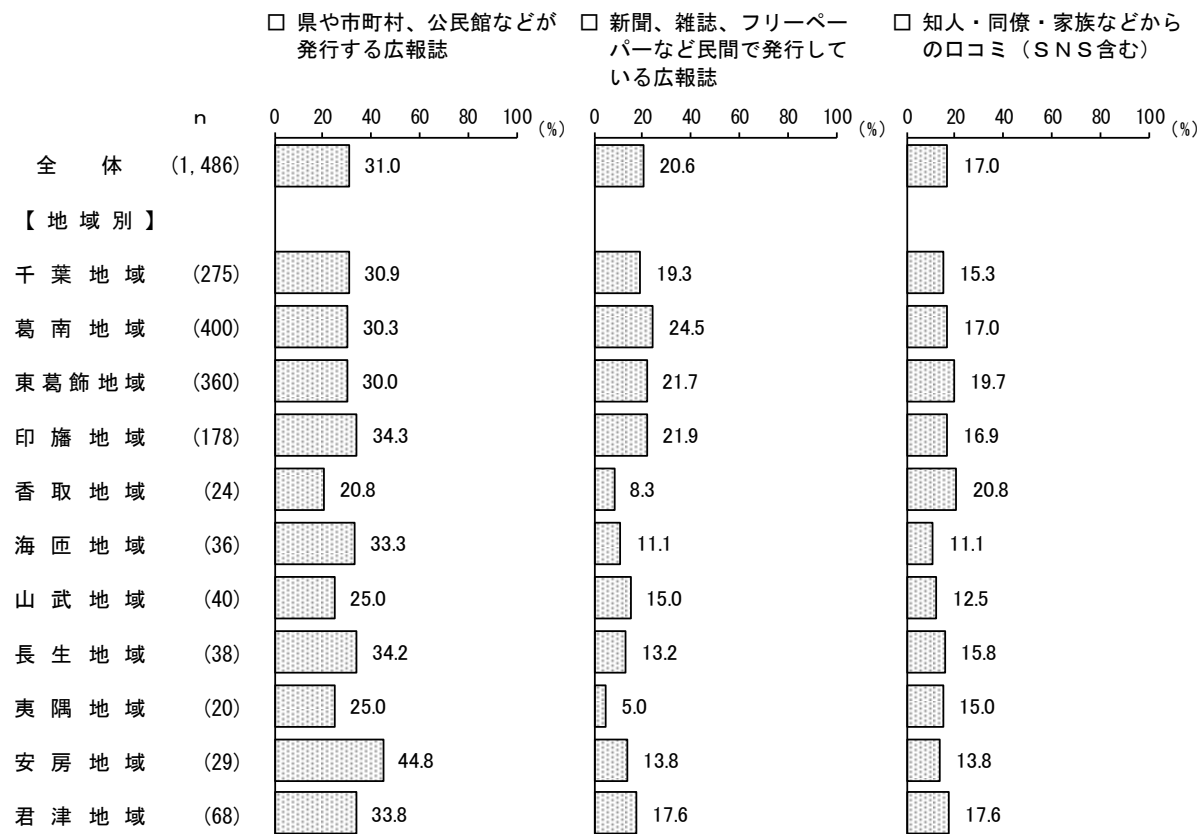
【性・年代別】

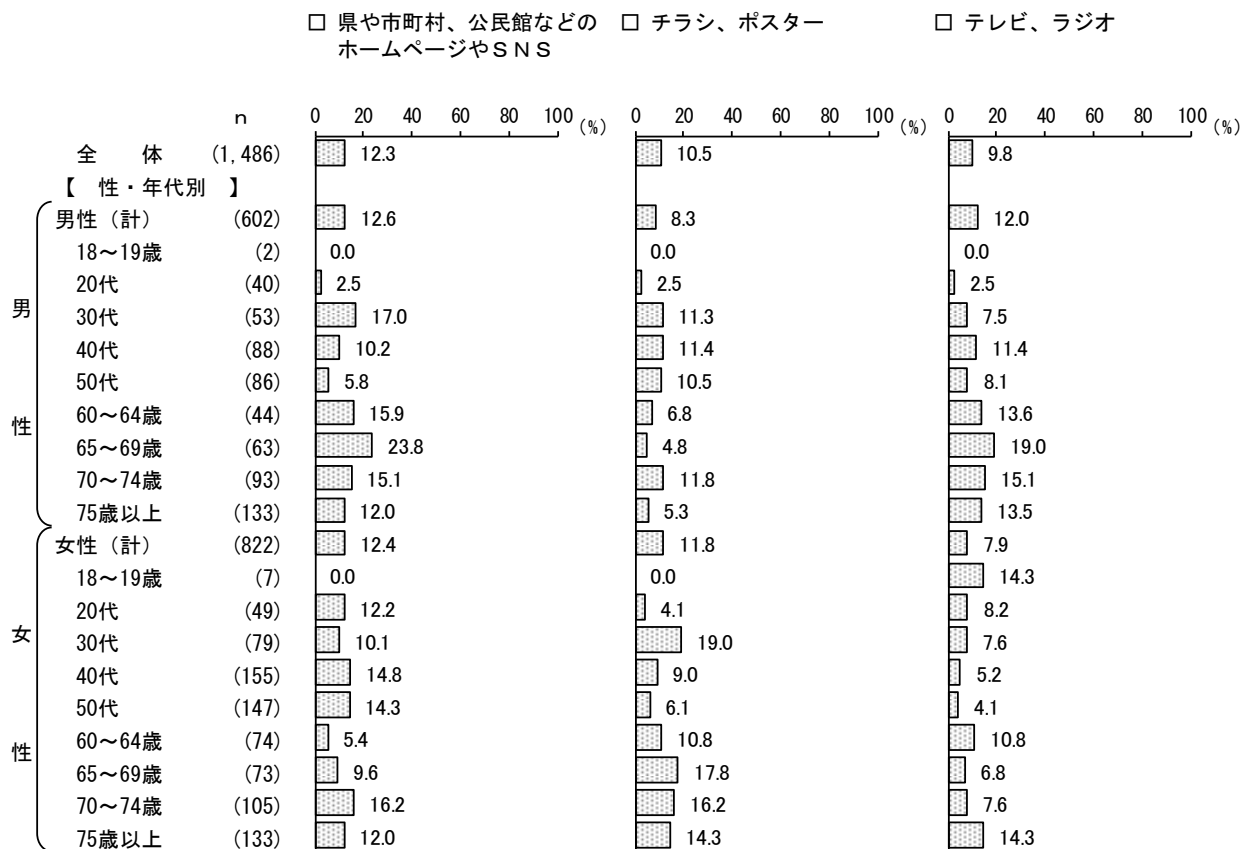
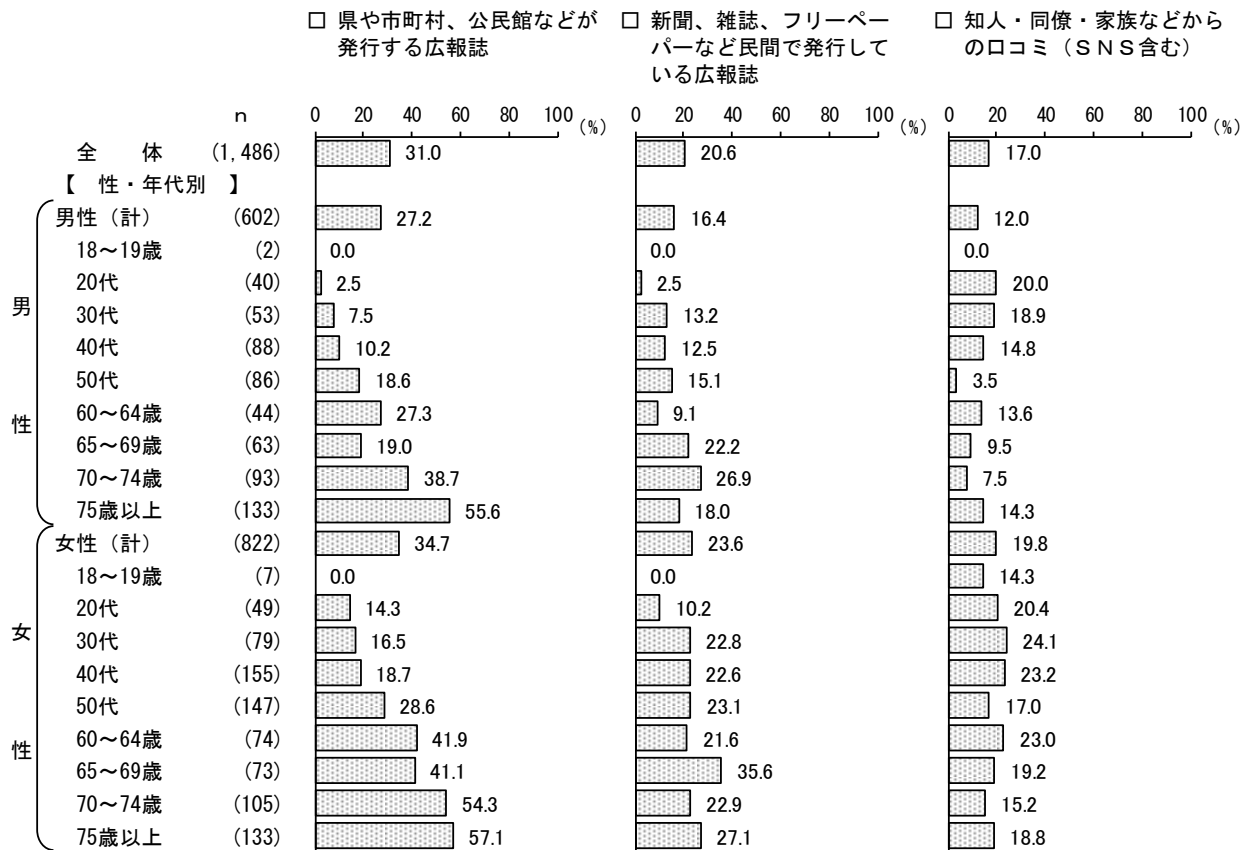
性・年代別にみると「県や市町村、公民館などが発行する広報誌」は女性の75歳以上(57.1%)が約６割、男性の75歳以上(55.6%)と女性の70～74歳(54.3%)が５割台半ば、女性の60～64歳(41.9%)が４割を超えて高くなっている。

「新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌」は女性の65～69歳(35.6%)が３割台半ばで高くなっている。

「知人・同僚・家族などからの口コミ（SNS含む）」は女性の40代(23.2%)が２割を超えて高くなっている。(図表８－８)

＜図表８－８＞生涯学習の情報を得る手段（複数回答）／地域別、性・年代別（上位６項目）





9 SDGs・多様性尊重等について

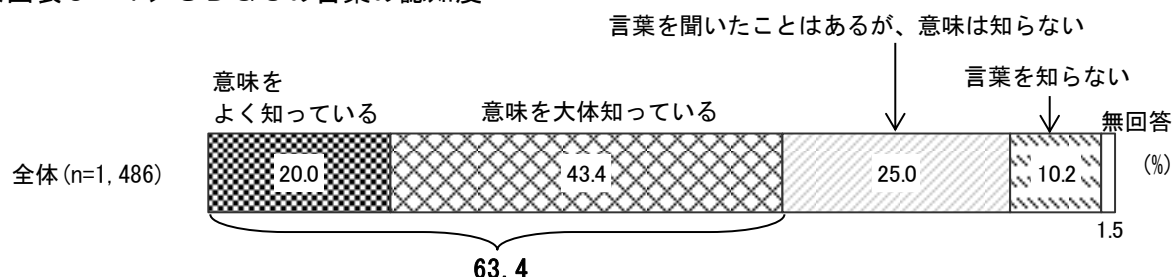
（１）SDGsの言葉の認知度

◇『意味を知っている（計）』が6割を超える

問43 あなたは、SDGs※の言葉の意味を知っていますか。（○は1つ）

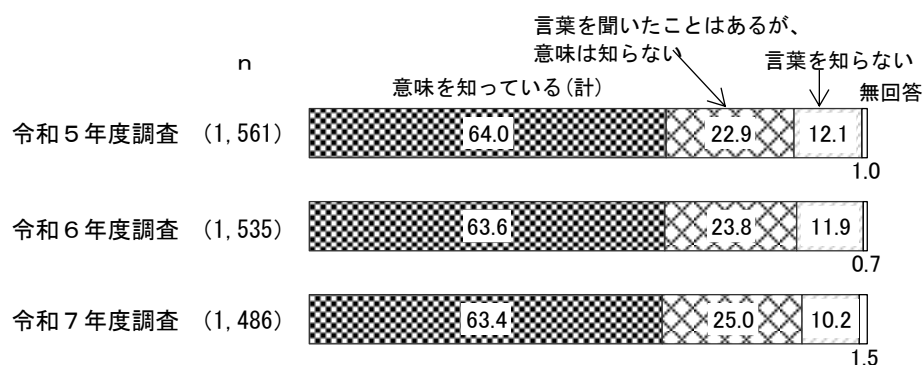
※ SDGs（Sustainable Development Goals：持続可能な開発目標）とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を達成年限とする世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」という理念を掲げ、経済・社会・環境の三側面の調和がとれた開発のため、17のゴールから構成されます。

＜図表9－1＞SDGsの言葉の認知度



SDGsの言葉の意味を知っているか聞いたところ、「意味をよく知っている」（20.0%）と「意味を大体知っている」（43.4%）を合わせた『意味を知っている（計）』（63.4%）が6割を超えている。一方、「言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない」（25.0%）が2割台半ば、「言葉を知らない」（10.2%）が1割となっている。（図表9－1）

〔参考〕令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

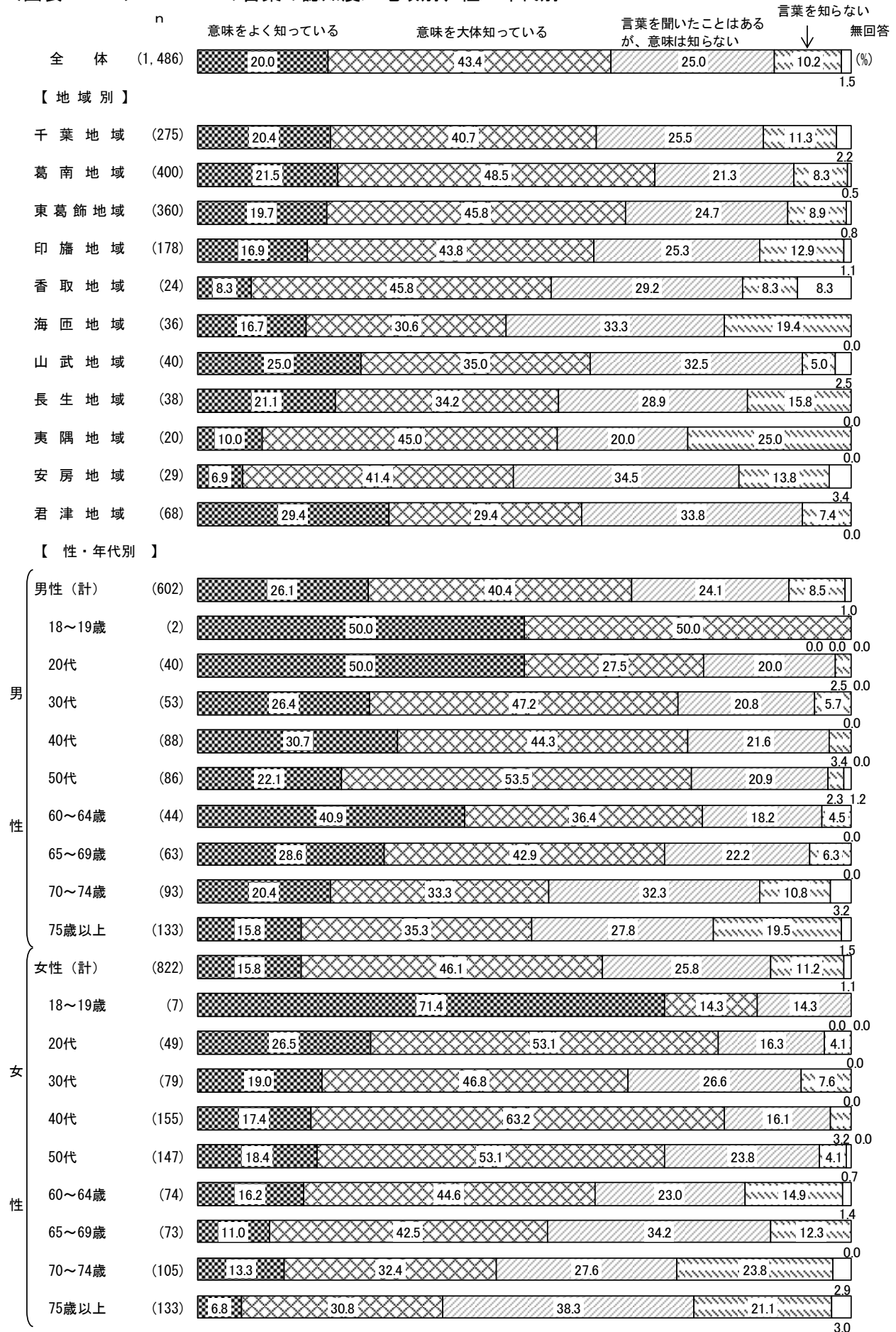
地域別にみると、『意味を知っている（計）』は“葛南地域”（70.0%）が7割で高くなっている。
（図表9－2）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『意味を知っている（計）』は女性の40代（80.6%）が8割、女性の20代（79.6%）が約8割、男性の50代（75.6%）と男性の40代（75.0%）が7割台半ば、女性の50代（71.4%）が7割を超えて高くなっている。

一方、「言葉を知らない」は女性の70～74歳（23.8%）が2割台半ば、女性の75歳以上（21.1%）が2割を超え、男性の75歳以上（19.5%）が約2割で高くなっている。（図表9－2）

＜図表 9－2＞SDGsの言葉の認知度／地域別、性・年代別



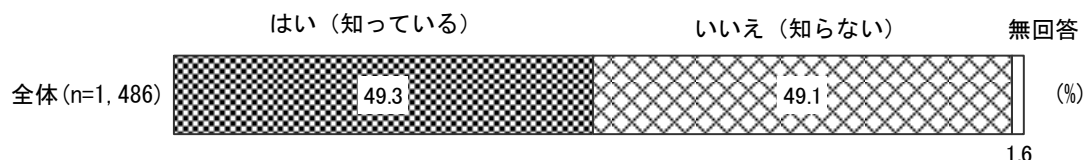
（２）「ダイバーシティ」概念の認知度

◇『はい（知っている）』が約５割

問44 「ダイバーシティ※」という概念を知っていますか。（○は１つ）

※ 「ダイバーシティ」とは、多様性のことをいい、性別や国籍、年齢、障害の有無などに関わりなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことを「ダイバーシティ社会」といいます。

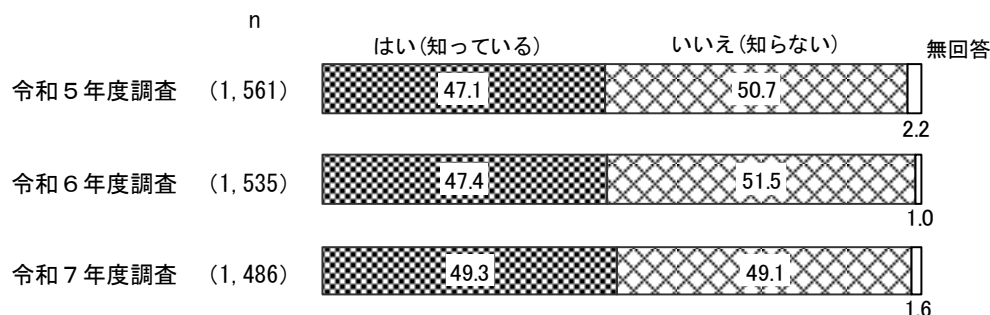
＜図表 9－3＞「ダイバーシティ」概念の認知度



「ダイバーシティ」という概念を知っているか聞いたところ、『はい（知っている）』（49.3%）が約５割となっている。

一方、『いいえ（知らない）』（49.1%）が約５割となっている。（図表 9－3）

〔参考〕令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

地域別にみると、『はい（知っている）』は“葛南地域”（56.0%）が５割台半ばで高くなっている。一方、『いいえ（知らない）』は“海匝地域”（75.0%）が７割台半ばで高くなっている。

（図表 9－4）

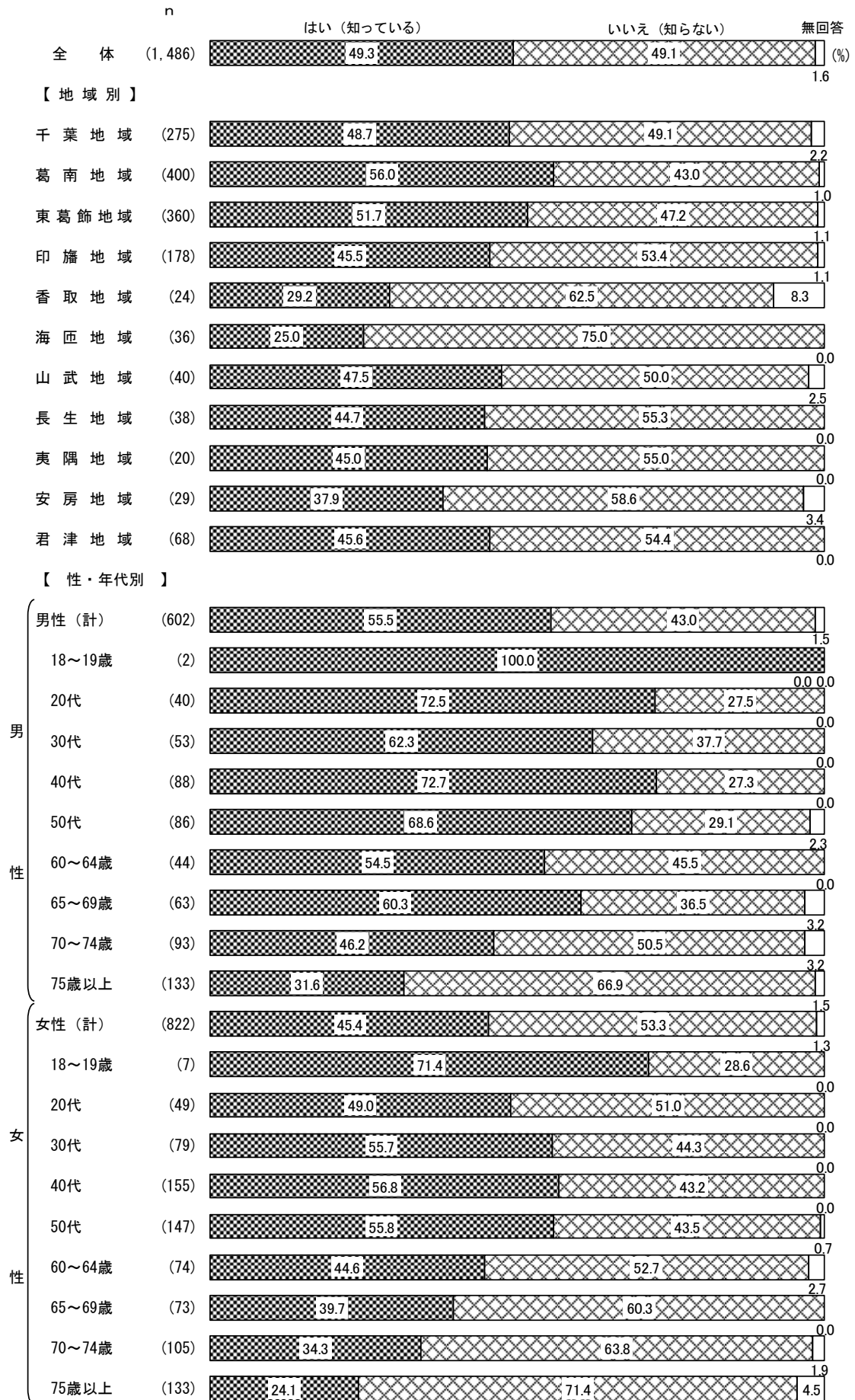
【性・年代別】

性・年代別にみると、『はい（知っている）』は男性の40代（72.7%）と男性の20代（72.5%）が７割を超え、男性の50代（68.6%）が約７割で高くなっている。

一方、『いいえ（知らない）』は女性の75歳以上（71.4%）が７割を超え、男性の75歳以上（66.9%）と女性の70～74歳（63.8%）が６割台半ば、女性の65～69歳（60.3%）が６割で高くなっている。

（図表 9－4）

＜図表 9－4＞「ダイバーシティ」概念の認知度／地域別、性・年代別



（２－１）千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について

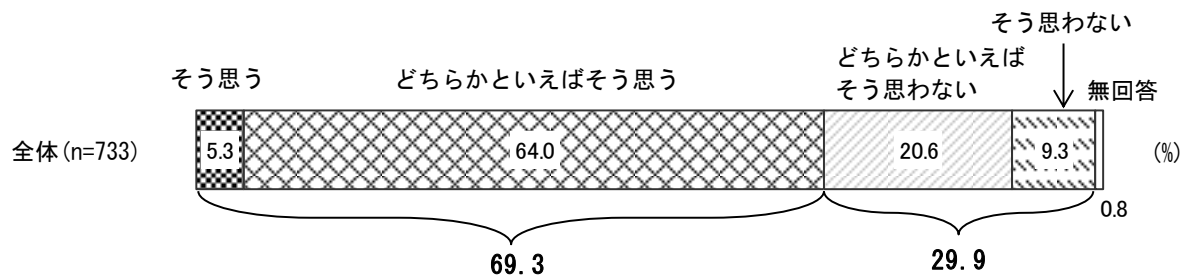
◇『そう思う（計）』が約7割

（問44で『はい（知っている）』とお答えの方に）

問44－1 千葉県で「ダイバーシティ社会」が実現できていると思いますか。

「どちらかといえばそう思わない」又は「そう思わない」を選んだ方は、その理由をご記載ください。（任意）（○は1つ）

＜図表9－5＞千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について



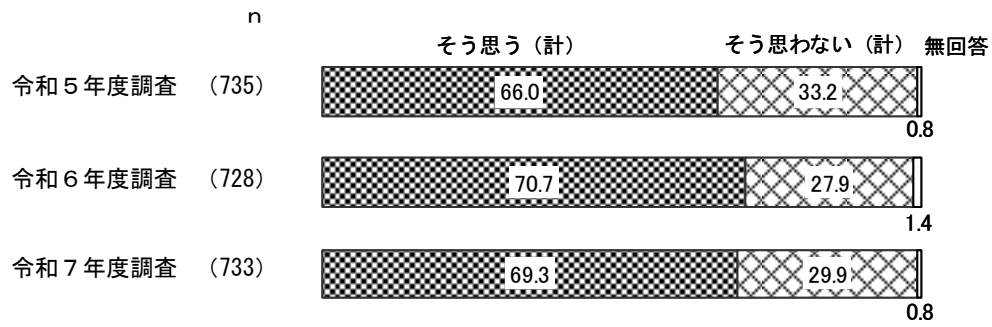
ダイバーシティの概念を知っている733人を対象に、千葉県でダイバーシティ社会が実現できているか聞いたところ、「そう思う」（5.3%）と「どちらかといえばそう思う」（64.0%）を合わせた『そう思う（計）』（69.3%）が約7割となっている。

一方、「どちらかといえばそう思わない」（20.6%）と「そう思わない」（9.3%）を合わせた『そう思わない（計）』（29.9%）が約3割となっている。（図表9－5）

どちらかといえばそう思わない／そう思わないを選んだ人の理由は以下の通り。

- ・ダイバーシティ社会の実感がない／具体例を知らないため（43件）
- ・社会の取り組みが進んでいない／浸透していないため（23件）
- ・多様性との共存が難しいと感じるから（20件）
- ・差別や偏見があるため／なくならないため（19件）
- ・性別による格差があるため（8件）
- ・国籍、人種、言語による差別があるため（8件）
- ・保守的な体制や考え方の人々が多いため（7件）
- ・地域によって差がある（7件）
- ・障がいによる差別があるため（3件）
- ・年齢による格差があるため（2件）
- ・その他（24件）
- ・わからない（8件）

〔参考〕 令和5年度・6年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



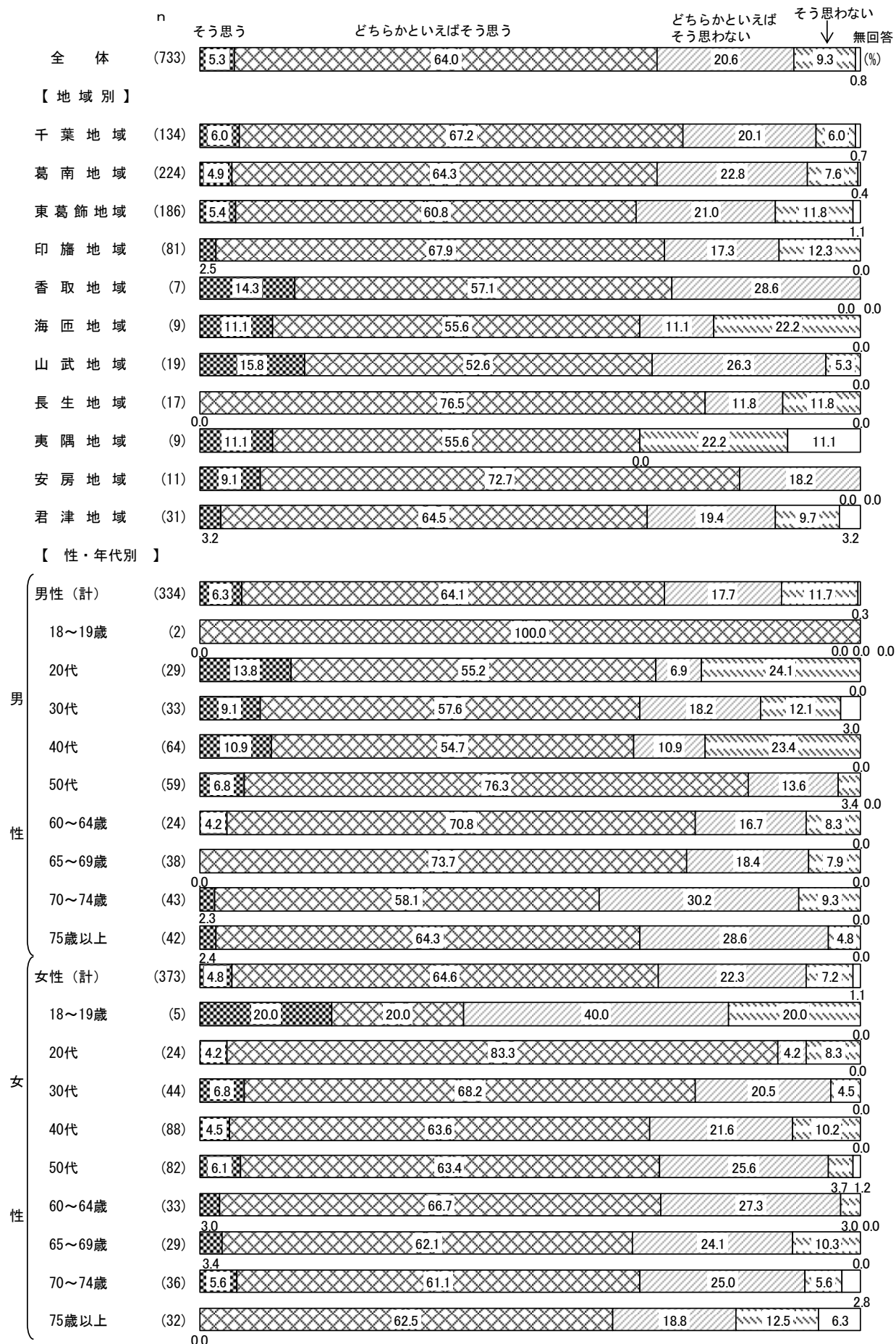
【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表9－6）

【性・年代別】

性・年代別にみると、『そう思う（計）』は女性の20代（87.5％）が約9割、男性の50代（83.1％）が8割を超えて高くなっている。（図表9－6）

＜図表９－６＞千葉県における「ダイバーシティ社会」の実現について／地域別、性・年代別



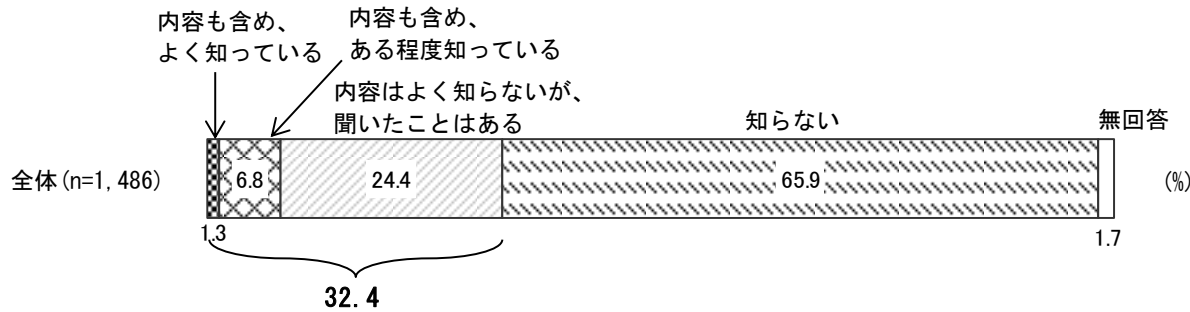
（3）「多様性尊重条例」の認知度

◇『聞いたことがある（計）』が3割を超える

問45 あなたは、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」（多様性尊重条例）※を知っていますか。

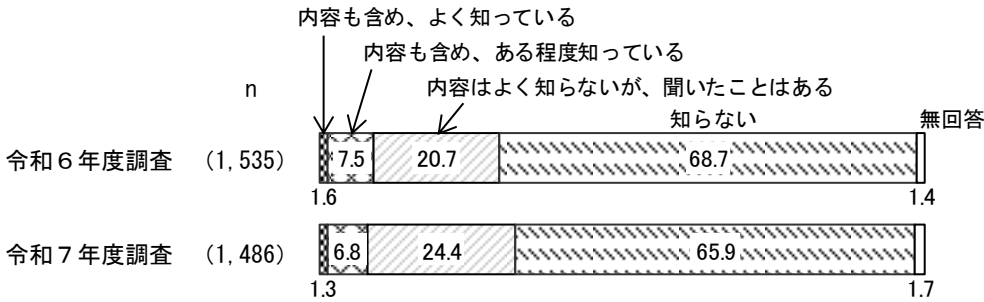
※ 多様性尊重条例とは、あらゆる人々が差別を受けることなく、一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、誰もが参加し、その人らしく活躍することができる社会の形成を推進するために制定した理念条例であり、令和6年1月から施行されています。

＜図表9－7＞「多様性尊重条例」の認知度



「多様性尊重条例」について知っているか聞いたところ、「内容も含め、よく知っている」（1.3%）、「内容も含め、ある程度知っている」（6.8%）、「内容はよく知らないが、聞いたことはある」（24.4%）の3つを合わせた『聞いたことがある（計）』（32.4%）が3割を超えている。
一方、「知らない」（65.9%）が6割台半ばとなっている。（図表9－7）

〔参考〕令和6年度・7年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



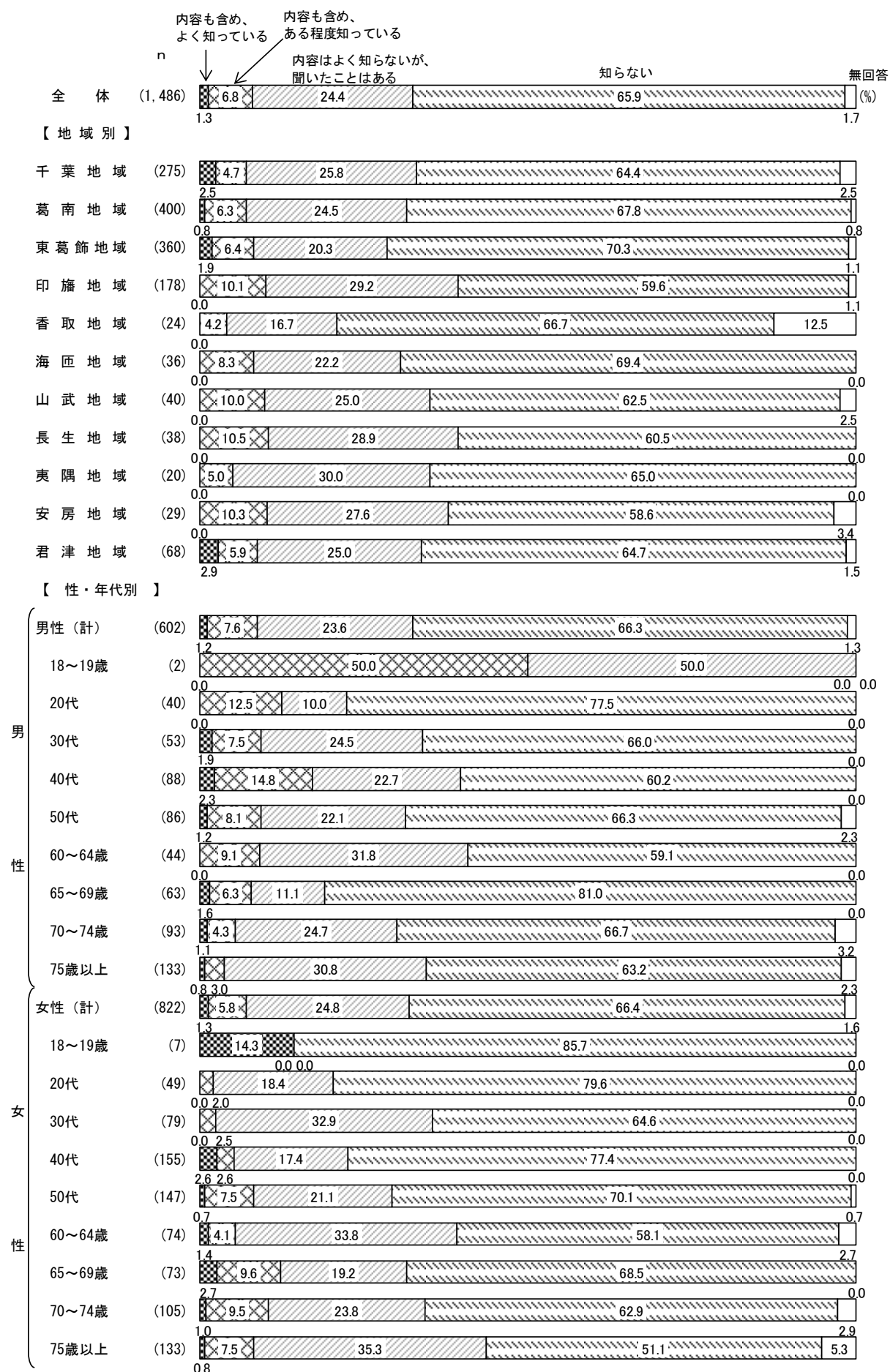
【地域別】

地域別にみると、『聞いたことがある（計）』は“印旛地域”（39.3%）が約4割で高くなっている。
一方、「知らない」は“東葛飾地域”（70.3%）が7割で高くなっている。（図表9－8）

【性・年代別】

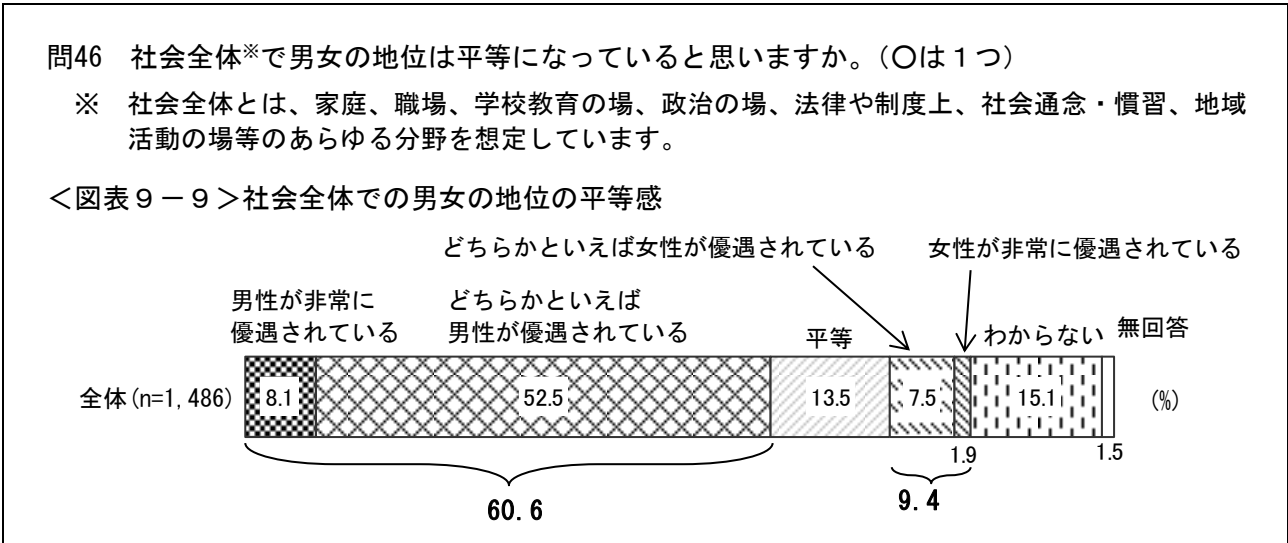
性・年代別にみると、『聞いたことがある（計）』は女性の75歳以上（43.6%）が4割台半ばで高くなっている。
一方、「知らない」は男性の65～69歳（81.0%）が8割を超え、女性の20代（79.6%）と女性の40代（77.4%）が約8割で高くなっている。（図表9－8）

＜図表 9－8＞「多様性尊重条例」の認知度／地域別、性・年代別



（４）社会全体での男女の地位の平等感

◇『男性が優遇されている（計）』が６割

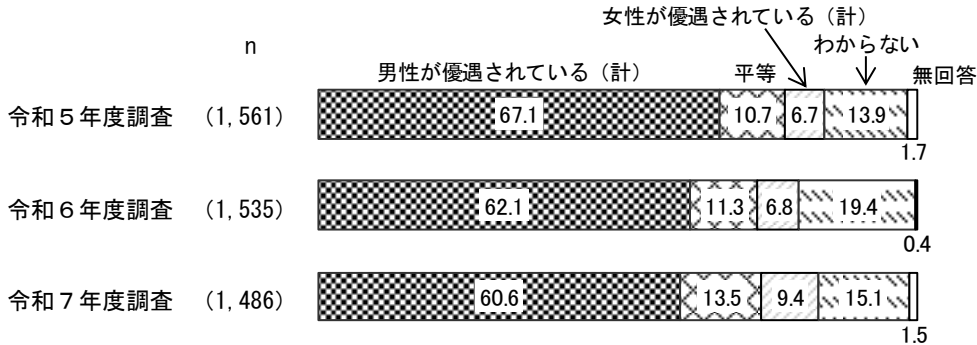


社会全体で男女の地位は平等になっていると思うか聞いたところ、「男性が非常に優遇されている」(8.1%)と「どちらかといえば男性が優遇されている」(52.5%)を合わせた『男性が優遇されている（計）』(60.6%)が６割となっている。

一方、「どちらかといえば女性が優遇されている」(7.5%)と「女性が非常に優遇されている」(1.9%)を合わせた『女性が優遇されている（計）』(9.4%)は約１割となっている。

「平等」(13.5%)は１割台半ばとなっている。(図表 9－9)

【参考】令和５年度・６年度の同様の項目による調査結果との比較（単位：％）



【地域別】

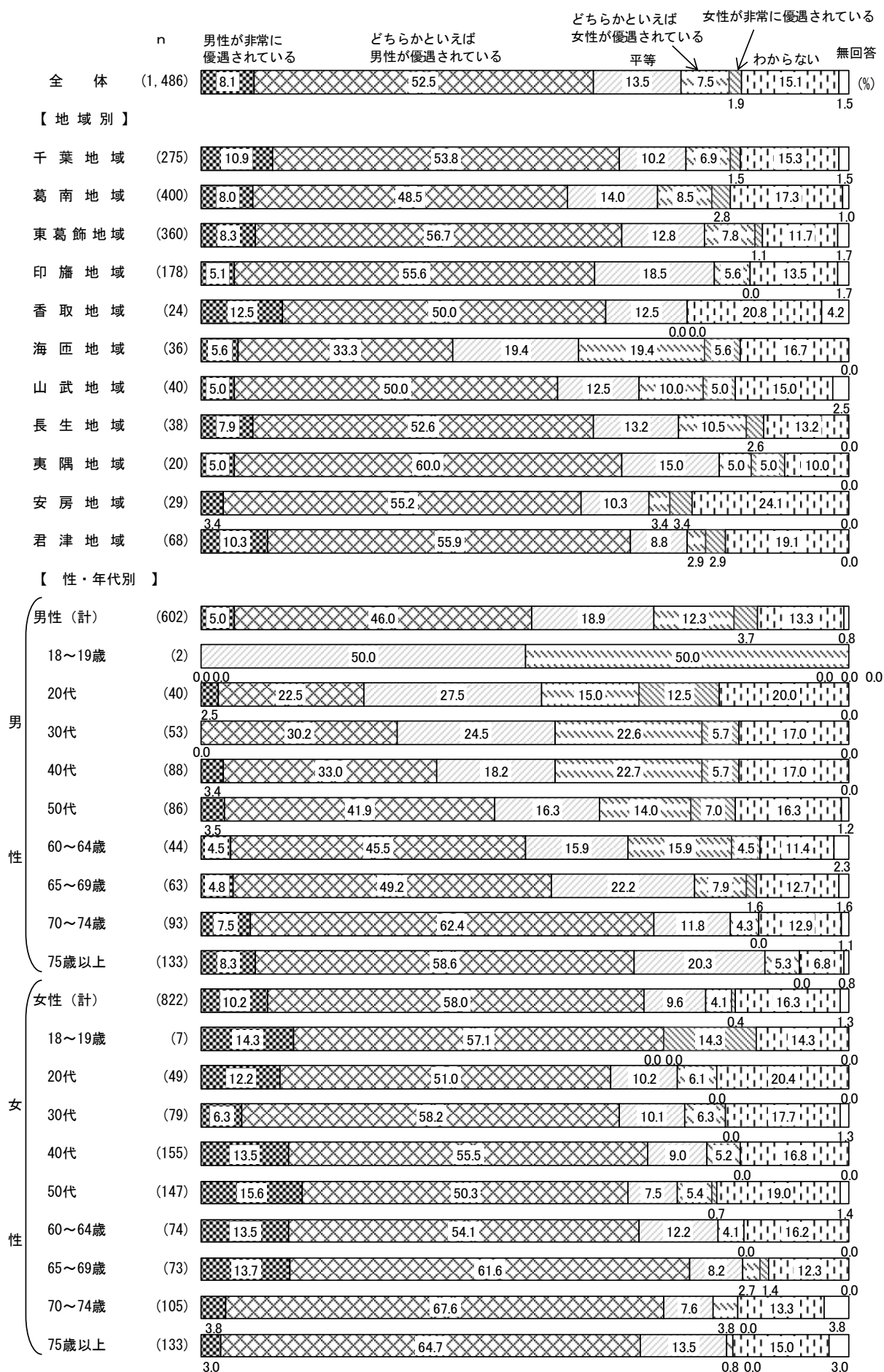
地域別にみると、『女性が優遇されている（計）』は“海匠地域”(25.0%)が２割台半ばで高くなっている。(図表 9－10)

【性・年代別】

性・年代別にみると、『男性が優遇されている（計）』は女性の65～69歳(75.3%)が７割台半ば、女性の70～74歳(71.4%)が７割を超え、女性の40代(69.0%)が約７割で高くなっている。

一方、『女性が優遇されている（計）』は男性の40代(28.4%)、男性の30代(28.3%)、男性の20代(27.5%)が約３割、男性の50代(20.9%)と男性の60～64歳(20.5%)が２割で高くなっている。「平等」は男性の20代(27.5%)が約３割、男性の30代(24.5%)が２割台半ば、男性の65～69歳(22.2%)が２割を超え、男性の75歳以上(20.3%)が２割で高くなっている。(図表 9－10)

＜図表 9－10＞社会全体での男女の地位の平等感／地域別、性・年代別

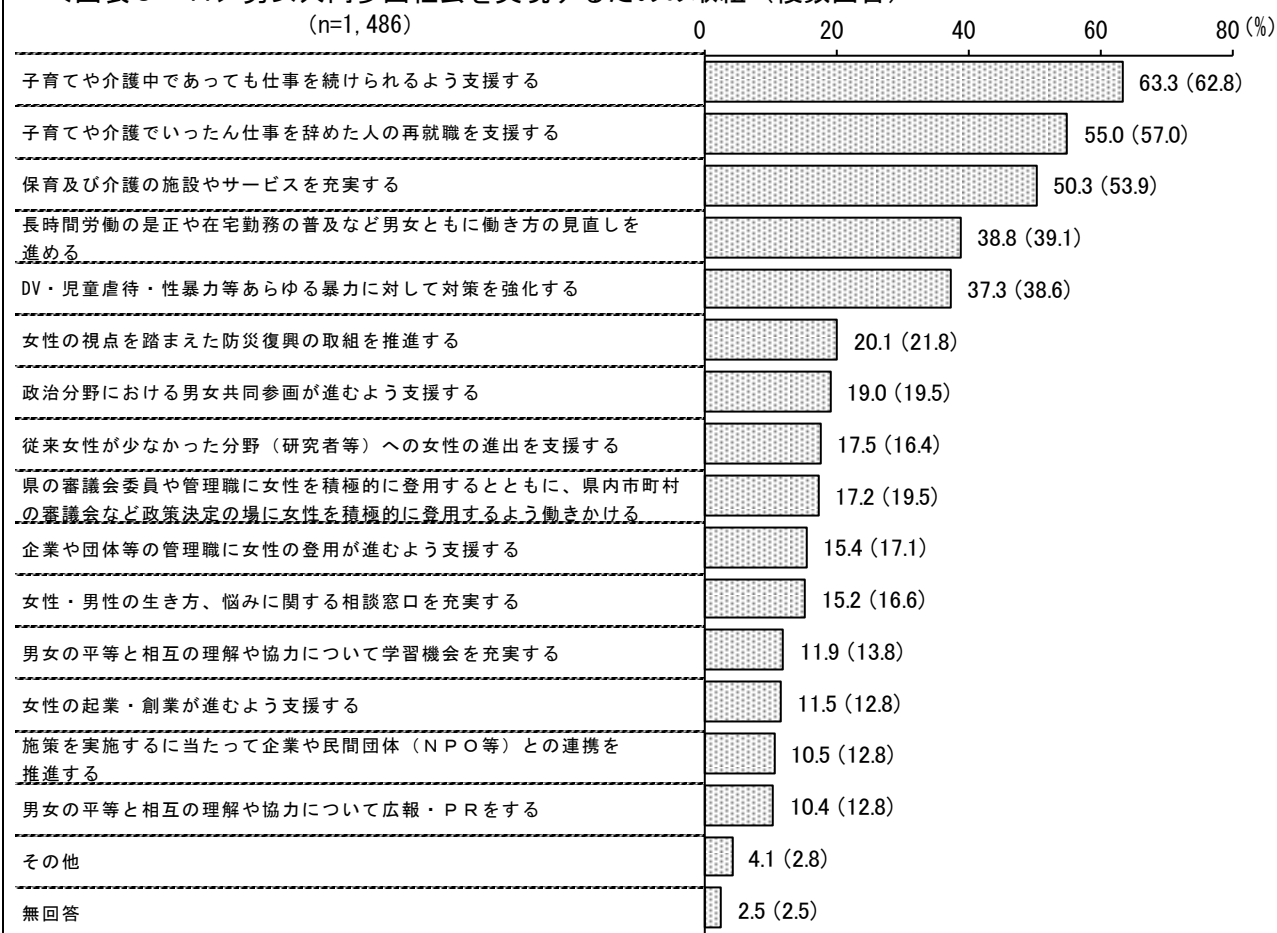


（５）男女共同参画社会を実現するための取組

◇「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」が６割を超える

問47 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。（○はいくつでも）

＜図表 9－11＞男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）



注）（ ）の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

男女共同参画社会を実現するために今後県が力を入れるべき取組を聞いたところ、「子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する」（63.3%）が６割を超えて最も高く、以下、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」（55.0%）、「保育及び介護の施設やサービスを充実する」（50.3%）、「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」（38.8%）が続く。（図表 9－11）

【地域別】

地域別にみると、大きな傾向の違いは見られない。（図表 9－12）

【性・年代別】

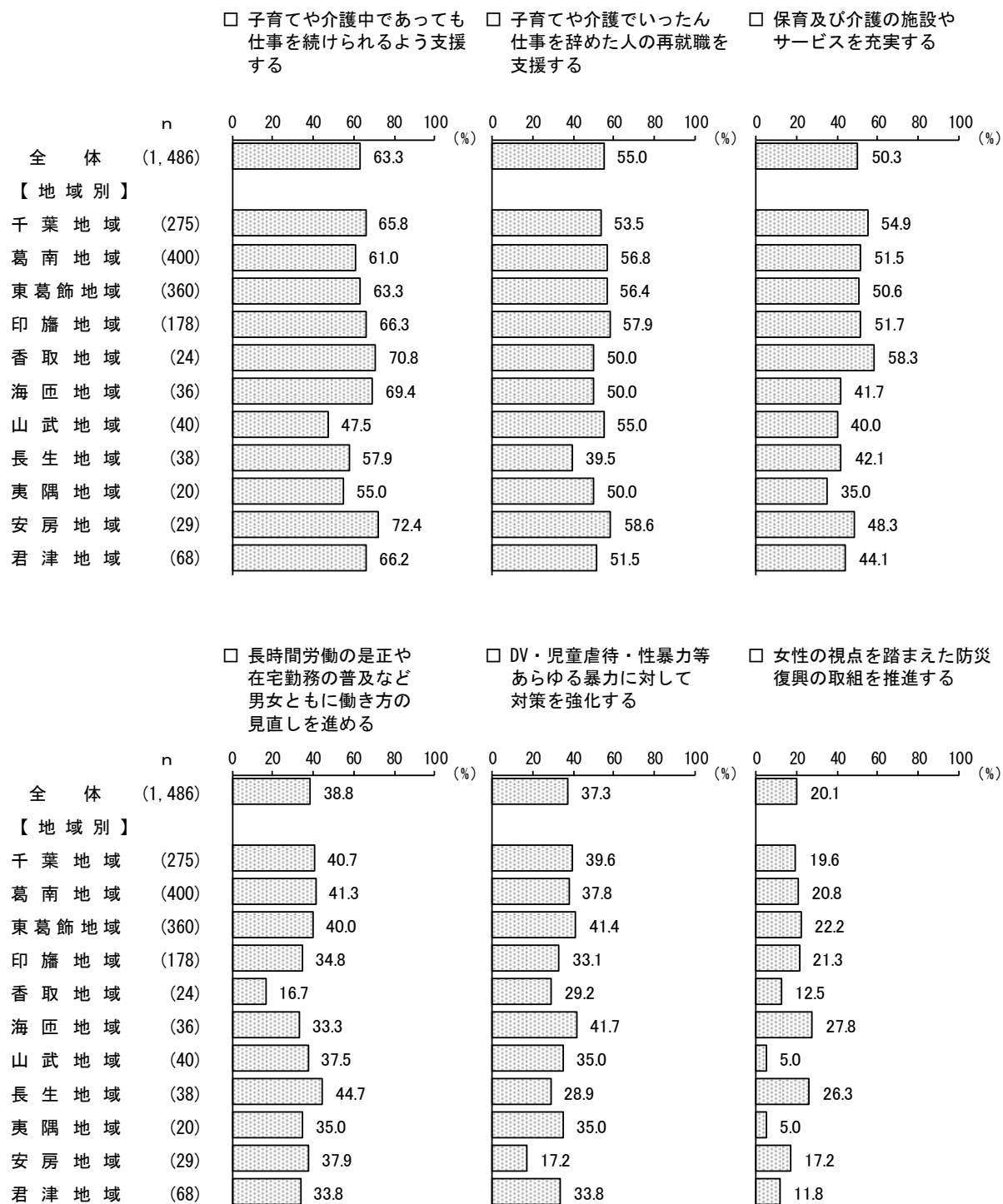
性・年代別にみると、「子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する」は男性の70～74歳（67.7%）が約7割で高くなっている。

「保育及び介護の施設やサービスを充実する」は女性の70～74歳（63.8%）が６割台半ばで高くなっている。

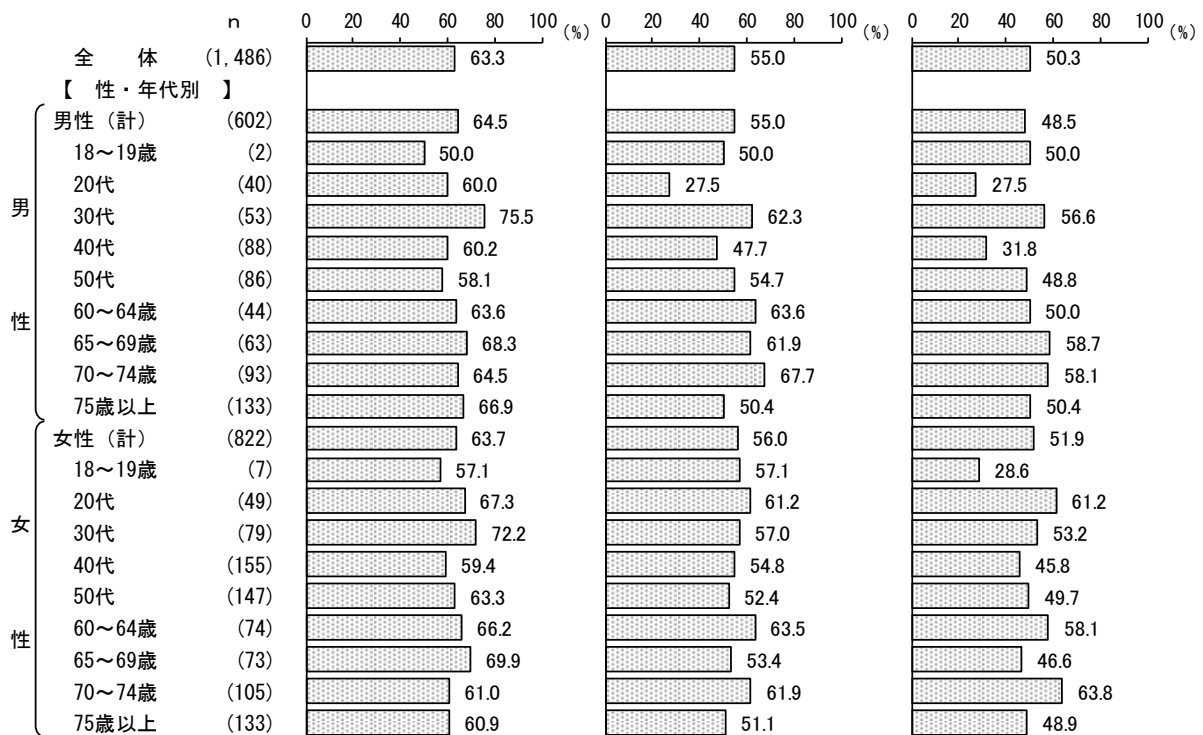
「長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める」は女性の20代（59.2%）が約6割、女性の30代（55.7%）が5割台半ば、女性の40代（46.5%）が4割台半ばで高くなっている。（図表9－12）

＜図表9－12＞男女共同参画社会を実現するための取組（複数回答）

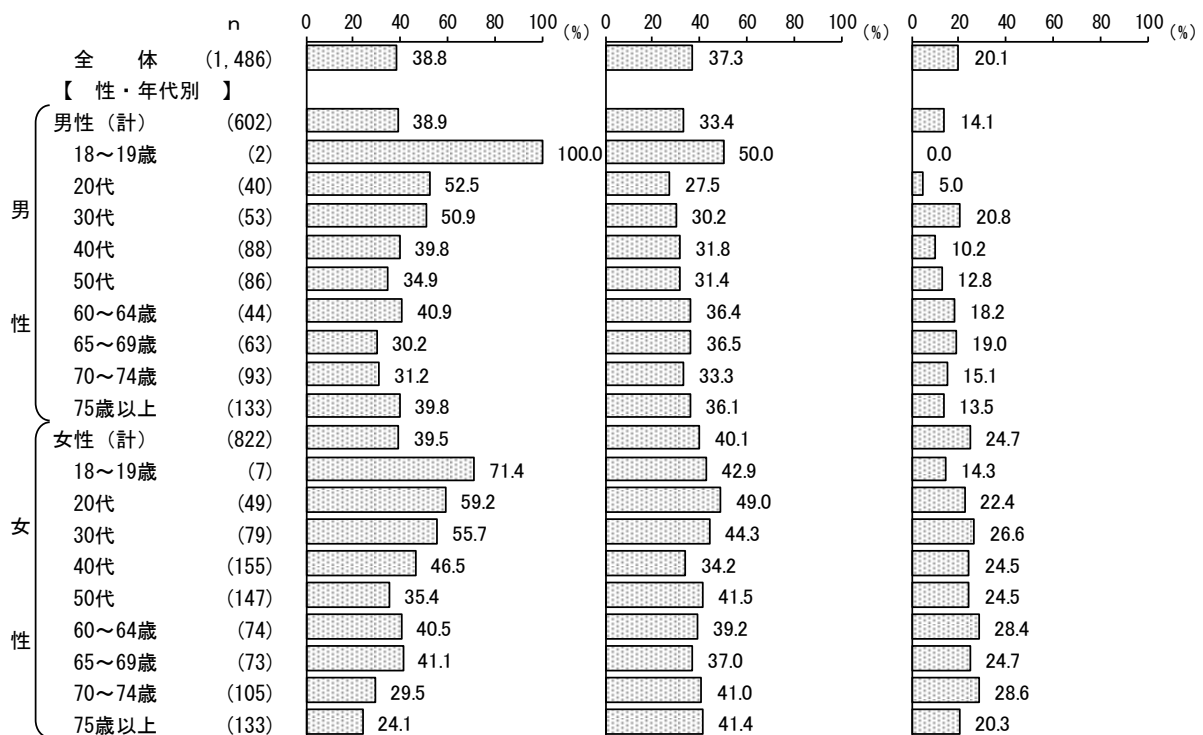
／地域別、性・年代別（上位6項目）



- 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
□ 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
□ 保育及び介護の施設やサービスを充実する



- 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
□ DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する
□ 女性の視点を踏まえた防災復興の取組を推進する



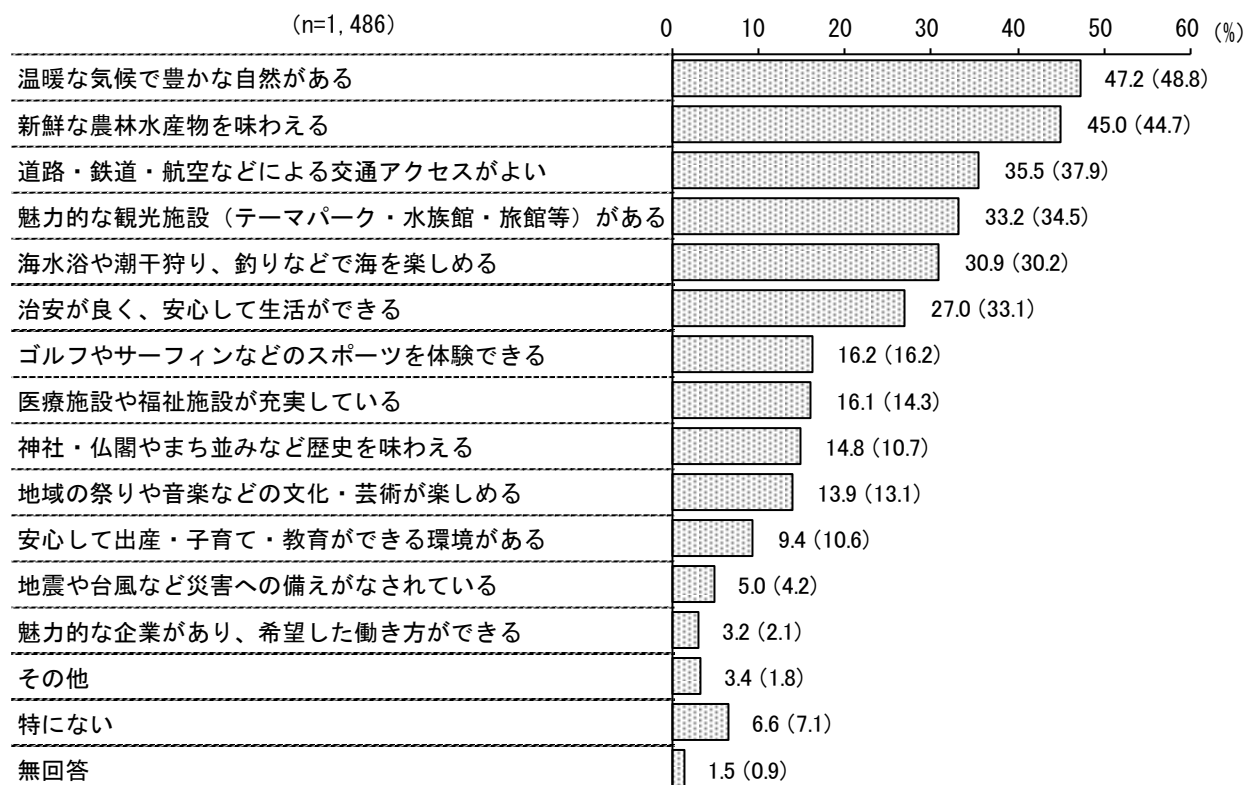
10 県の魅力について

（１）千葉県の魅力

◇「温暖な気候で豊かな自然がある」が約５割

問48 千葉県の魅力は、次のどれだと思いますか。（○はいくつでも）

＜図表10－１＞千葉県の魅力（複数回答）



注）（ ）の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n = 1,535

千葉県の魅力を聞いたところ、「温暖な気候で豊かな自然がある」（47.2%）が約５割で最も高く、以下、「新鮮な農林水産物を味わえる」（45.0%）、「道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい」（35.5%）、「魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある」（33.2%）が続く。（図表10－１）

【地域別】

地域別にみると、「温暖な気候で豊かな自然がある」は“長生地域”（63.2%）が６割を超え、“千葉地域”（53.1%）が５割を超えて高くなっている。

「新鮮な農林水産物を味わえる」は“長生地域”（68.4%）が約７割で高くなっている。

「道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい」は“葛南地域”（39.8%）が約４割で高くなっている。

「魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある」は“葛南地域”（38.5%）が約４割で高くなっている。（図表10－２）

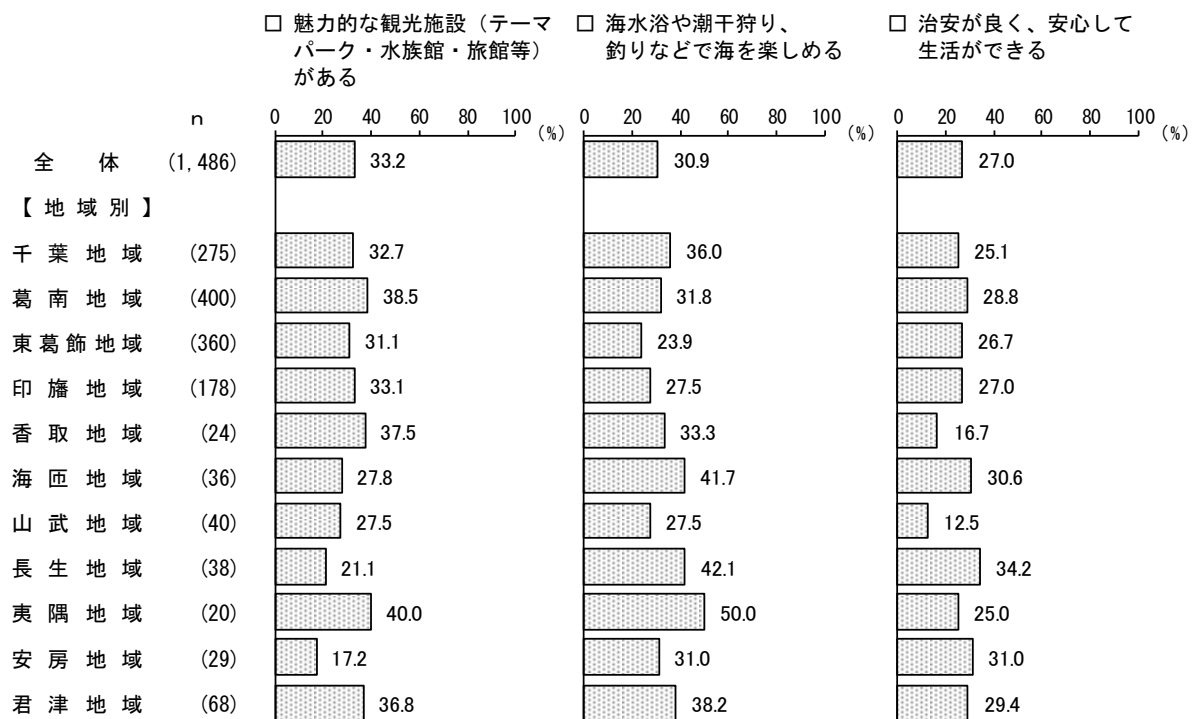
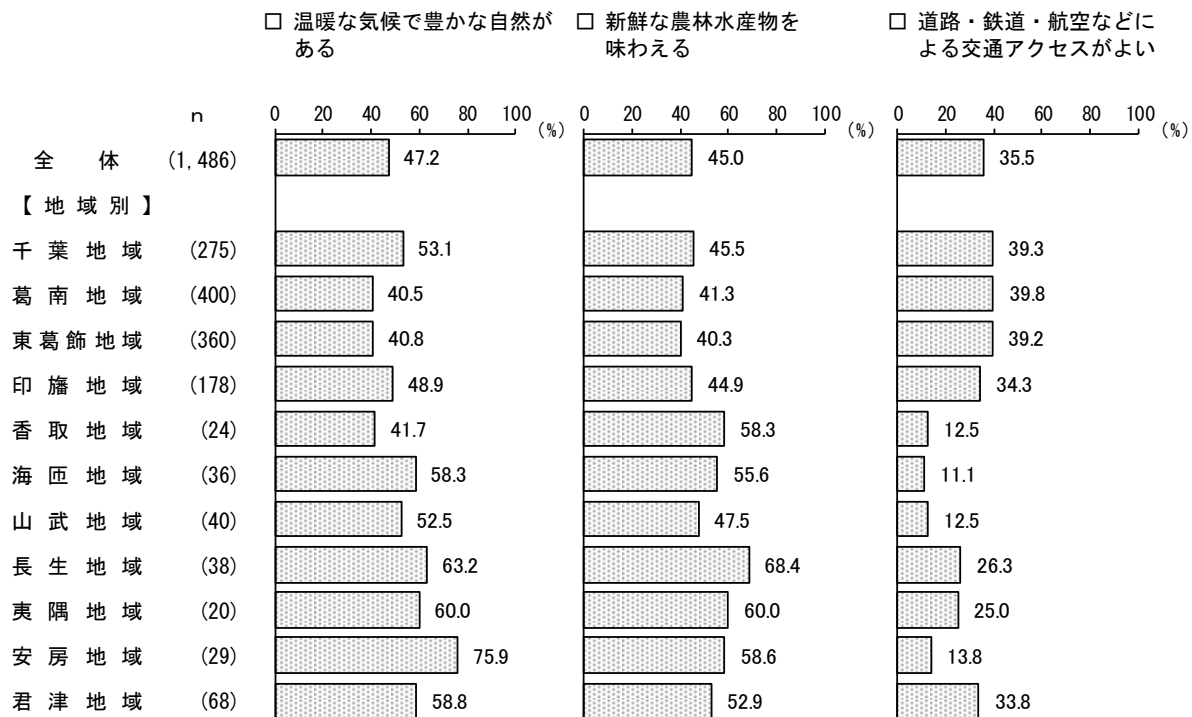
【性・年代別】

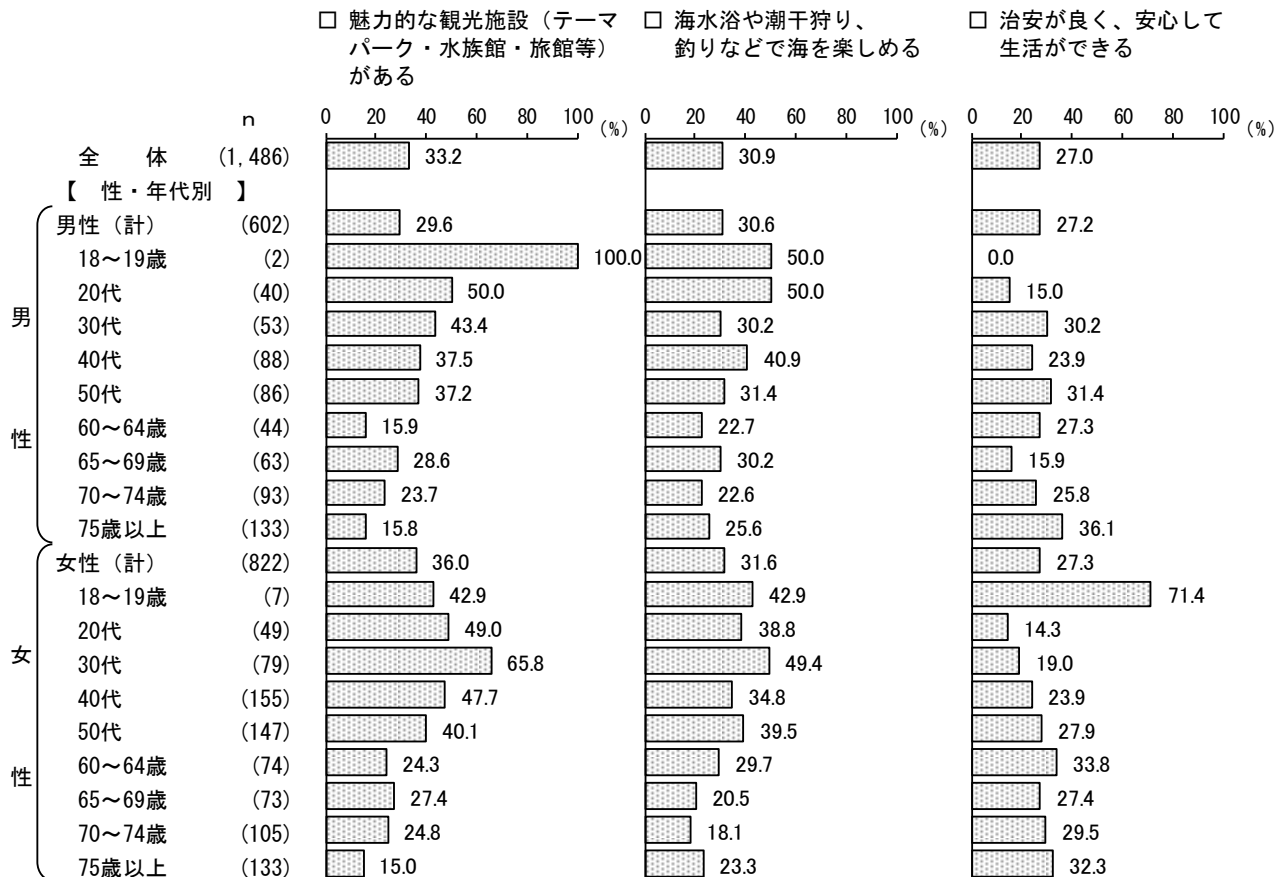
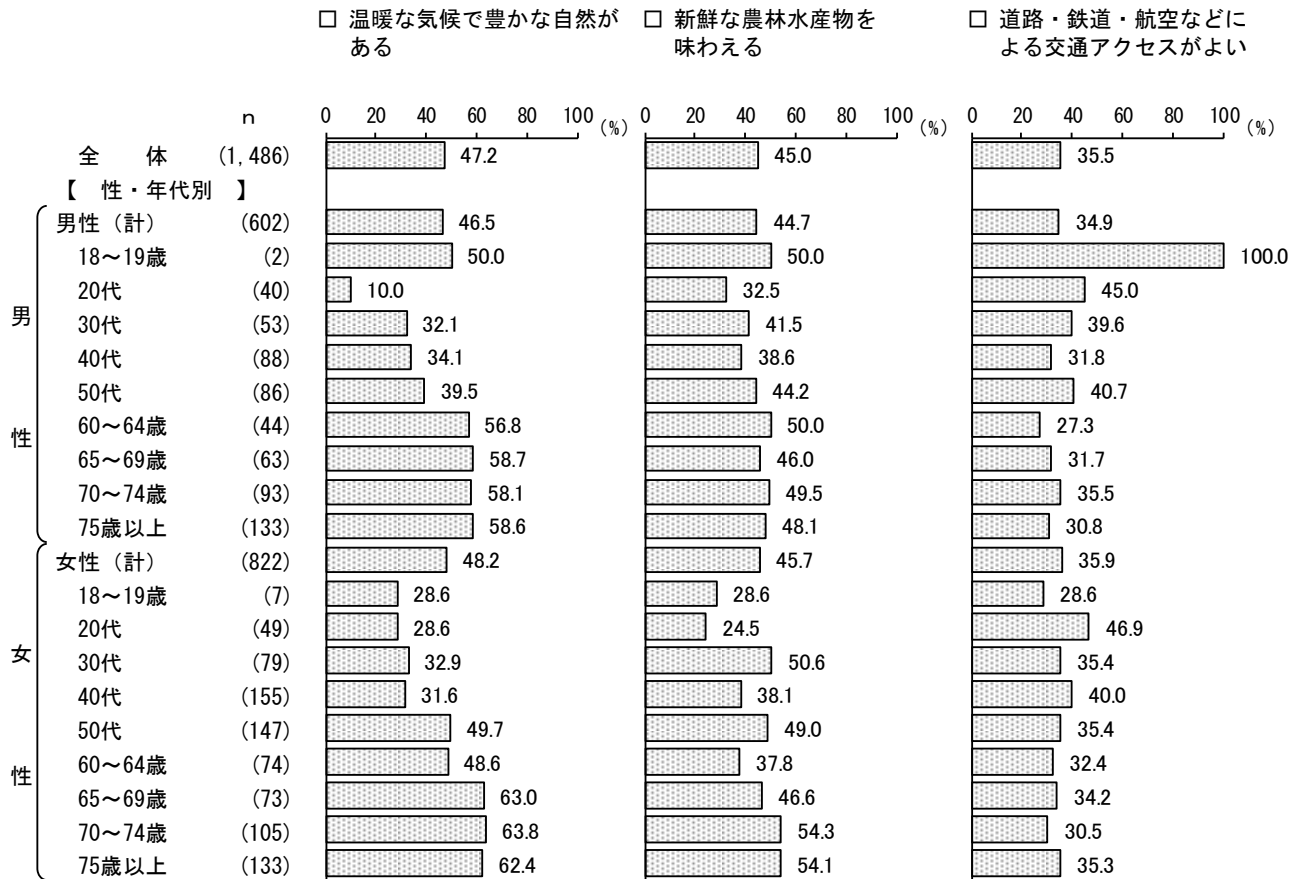
性・年代別にみると、「温暖な気候で豊かな自然がある」は女性の70～74歳（63.8%）が6割台半ば、女性の65～69歳（63.0%）と女性の75歳以上（62.4%）が6割を超え、男性の75歳以上（58.6%）と男性の70～74歳（58.1%）が約6割で高くなっている。

「新鮮な農林水産物を味わえる」は女性の70～74歳（54.3%）と女性の75歳以上（54.1%）が5割台半ばで高くなっている。

「魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある」は女性の30代（65.8%）が6割台半ば、男性の20代（50.0%）が5割、女性の20代（49.0%）と女性の40代（47.7%）が約5割で高くなっている。（図表10－2）

＜図表10－2＞千葉県の魅力（複数回答）／地域別、性・年代別（上位6項目）





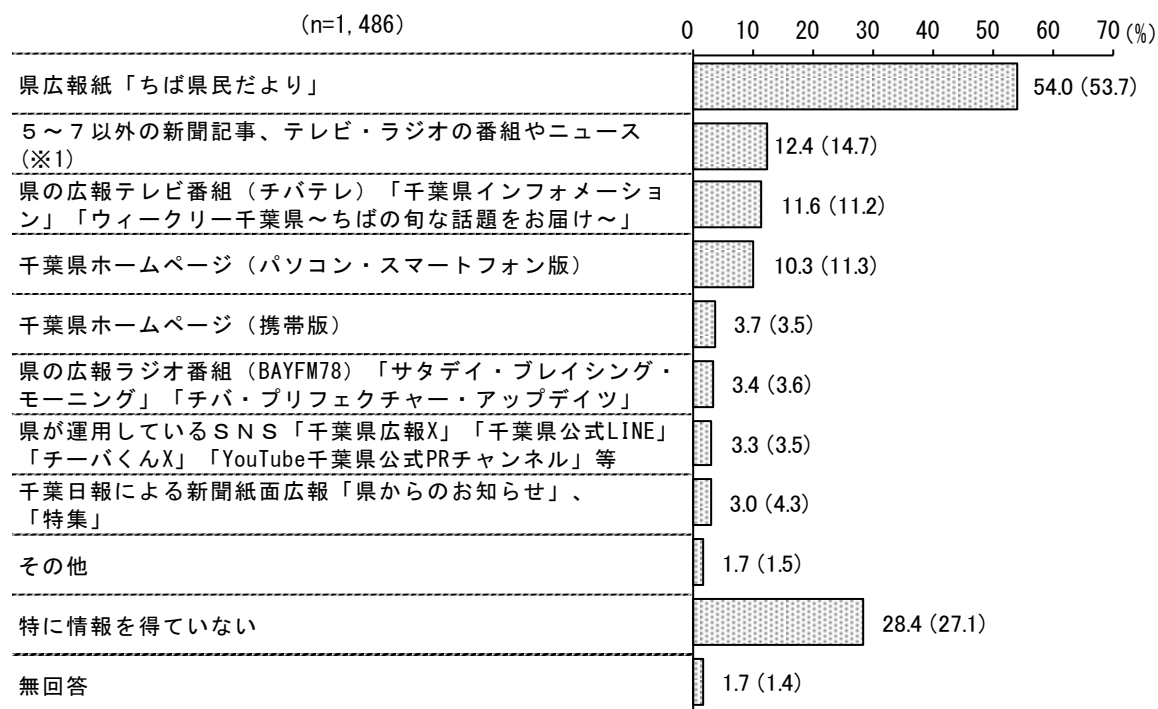
11 広報について

（１）県政に関する情報を得る手段

◇「県広報紙『ちば県民だより』」が５割台半ば

問49 県政に関する情報をどのような手段で得ていますか。（○はいくつでも）

＜図表11－１＞県政に関する情報を得る手段（複数回答）



注) () の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

(※1) 「5～7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」における、5～7とは、「千葉日報による新聞紙面広報『県からのお知らせ』、『特集』」「県の広報テレビ番組 (チバテレ) 『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」「県の広報ラジオ番組 (BAYFM78) 『サタデイ・ブレイシング・モーニング』『チバ・プリフェクチャー・アップデイツ』」を指す。

県政に関する情報を得る手段を聞いたところ、「県広報紙『ちば県民だより』」(54.0%)が5割台半ばで最も高く、以下、「5～7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」(12.4%)、「県の広報テレビ番組 (チバテレ) 『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」(11.6%)、「千葉県ホームページ (パソコン・スマートフォン版)」(10.3%)が続く。

一方、「特に情報を得ていない」(28.4%)は約3割となっている。(図表11－１)

【地域別】

地域別にみると、「県広報紙『ちば県民だより』」は「千葉地域」(59.6%)が約6割で高くなっている。(図表11－２)

【性・年代別】

性・年代別にみると、「県広報紙『ちば県民だより』」は女性の75歳以上(75.9%)と男性の75歳以上(74.4%)が7割台半ば、女性の70～74歳(73.3%)と女性の65～69歳(72.6%)が7割を超

え、男性の70～74歳（64.5%）が6割台半ばで高くなっている。

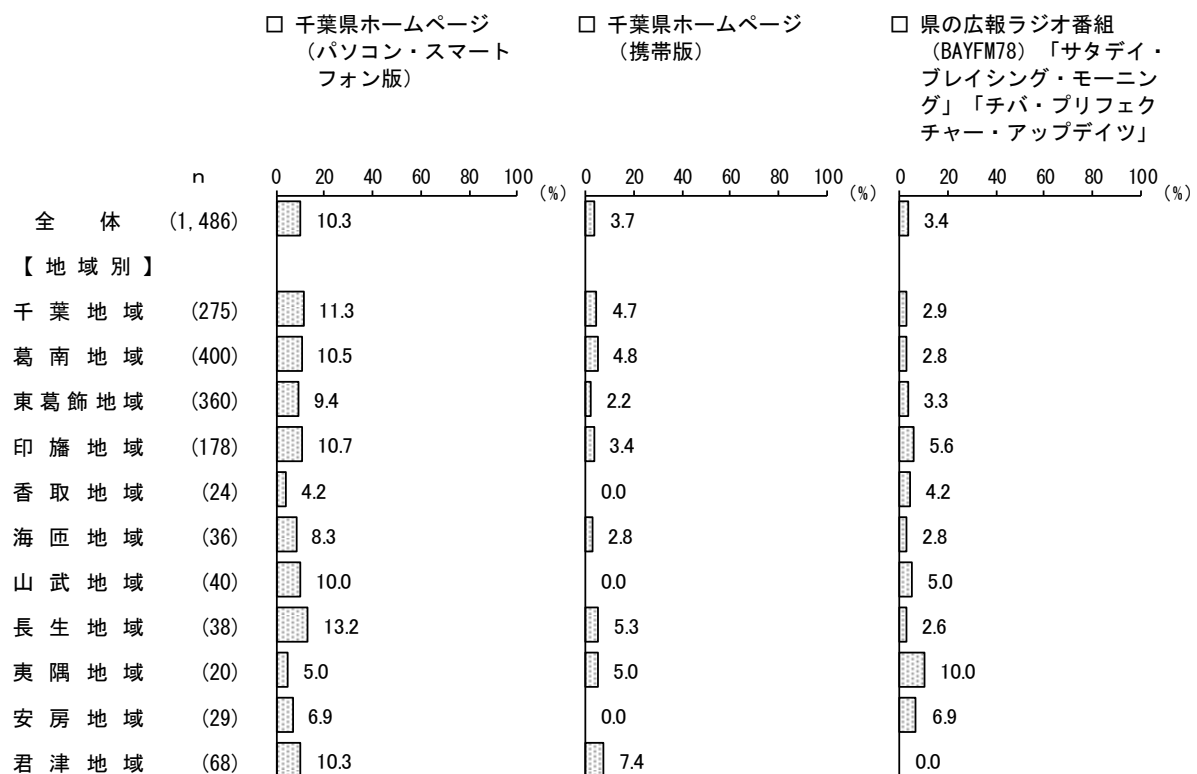
「5～7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース」は女性の75歳以上（24.1%）が2割台半ば、男性の75歳以上（23.3%）が2割を超え、女性の70～74歳（19.0%）が約2割で高くなっている。

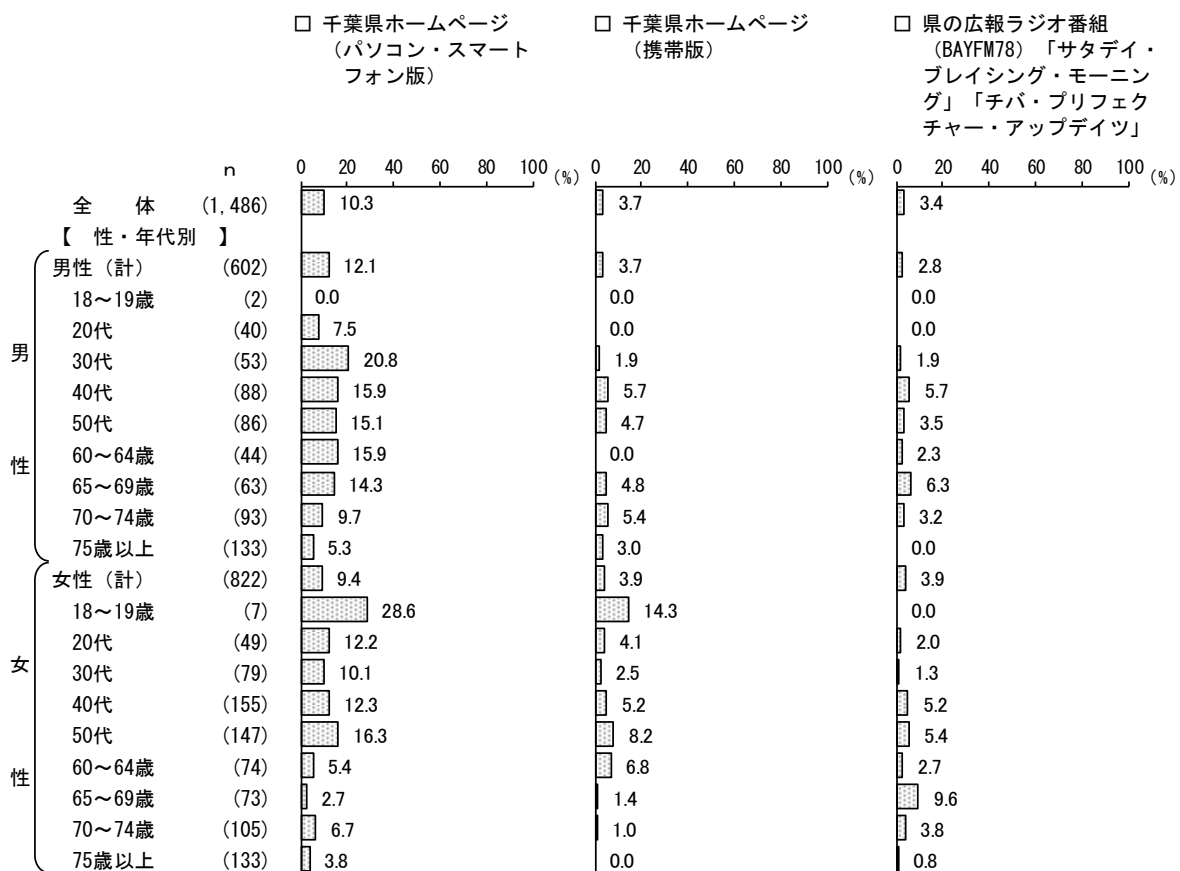
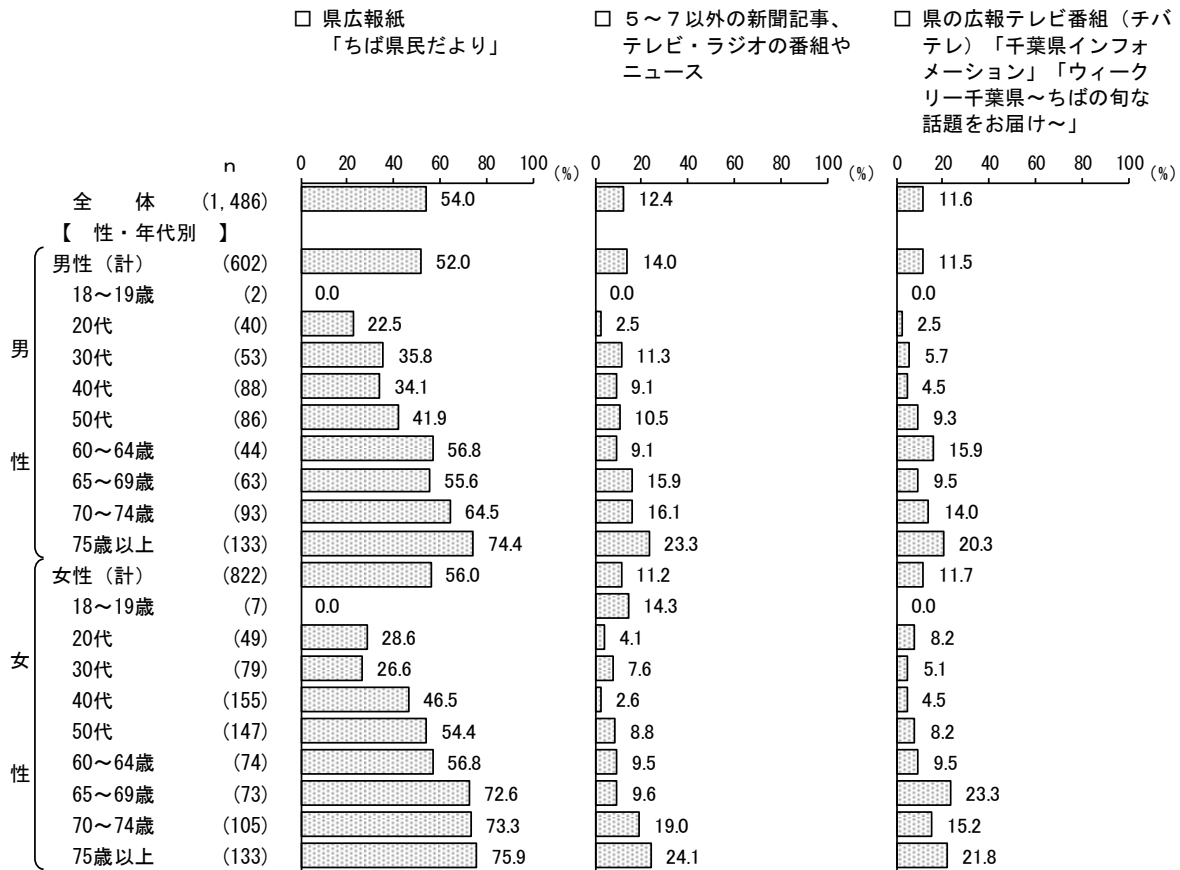
「県の広報テレビ番組（チバテレ）『千葉県インフォメーション』『ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～』」は女性の65～69歳（23.3%）と女性の75歳以上（21.8%）が2割を超え、男性の75歳以上（20.3%）が2割で高くなっている。

「千葉県ホームページ（パソコン・スマートフォン版）」は男性の30代（20.8%）が2割、女性の50代（16.3%）が1割台半ばで高くなっている。

一方、「特に情報を得ていない」は男性の20代（62.5%）が6割を超え、女性の30代（45.6%）と男性の30代（45.3%）が4割台半ば、男性の40代（42.0%）が4割を超え、女性の20代（40.8%）が4割、男性の50代（38.4%）が約4割、女性の40代（35.5%）が3割台半ばで高くなっている。

（図表11－2）





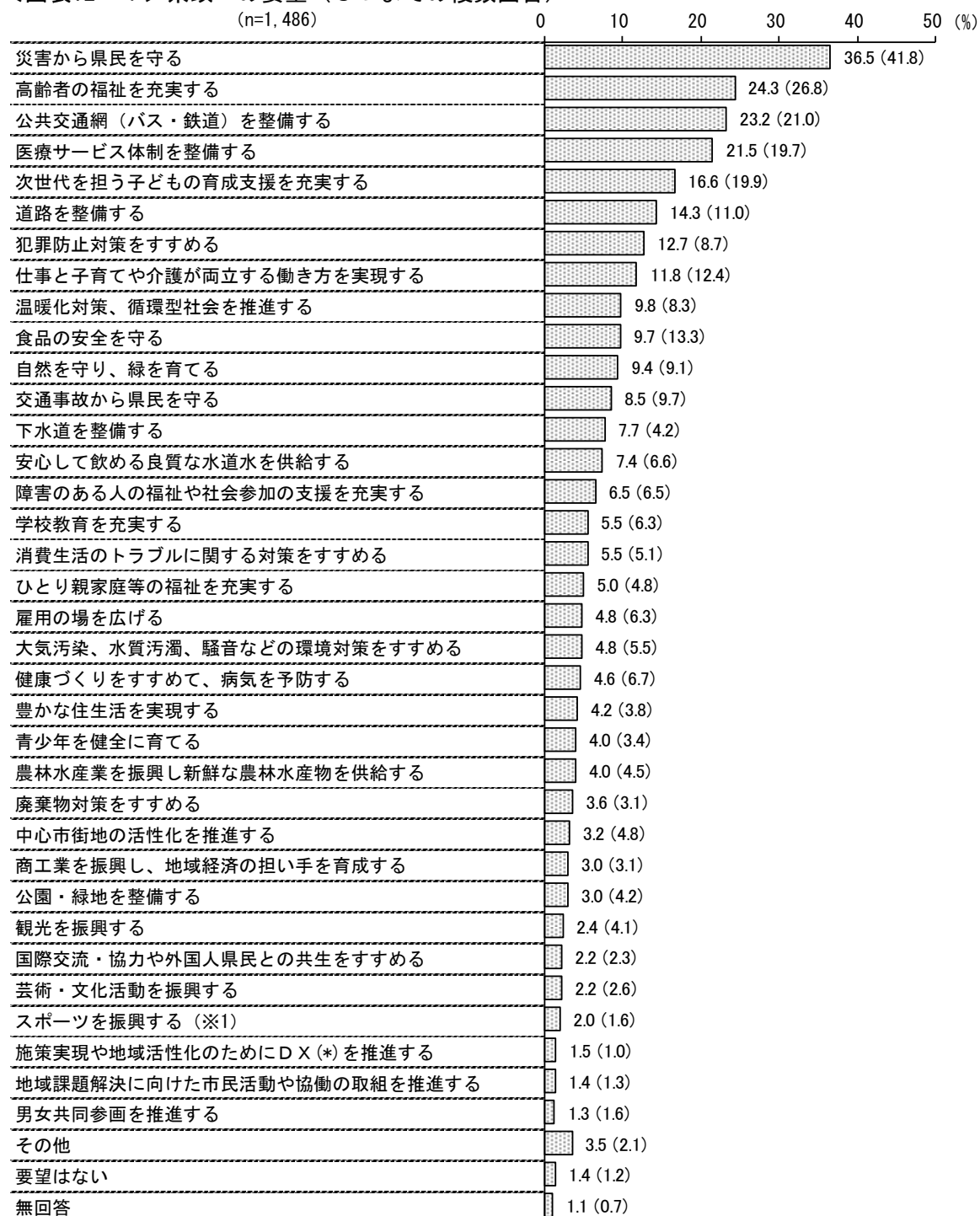
12 県政への要望

（1）県政への要望

◇「災害から県民を守る」が3割台半ば

問50 県政全般について、今後特に力をいれてほしいと思われることを、次の県政への要望項目の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

＜図表12－1＞県政への要望（3つまでの複数回答）



注）（ ）の数字は令和6年度の同様の項目による調査結果 n=1,535

（※1）令和6年度調査では「生涯学習・スポーツ・レクリエーションを振興する」

（*）DX＝デジタルトランスフォーメーション

県政への要望を3つまで選んでもらったところ、「災害から県民を守る」(36.5%)が1位で県民からの要望が特に高い。次いで「高齢者の福祉を充実する」(24.3%)が2位となっており、以下、「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」(23.2%)が3位、「医療サービス体制を整備する」(21.5%)が4位、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」(16.6%)が5位と続く。
(図表 12－1)

【地域別】

地域別にみると、「災害から県民を守る」は“海匠地域”、“山武地域”、“夷隅地域”を除く8地域で1位となっている。

「高齢者の福祉を充実する」は“東葛飾地域”、“印旛地域”、“香取地域”で2位（同率を含む）となっている。

「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」は“海匠地域”、“山武地域”、“夷隅地域”で1位（同率を含む）となっている。

「医療サービス体制を整備する」は“夷隅地域”で1位（同率）となっている。

「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は“山武地域”で3位（同率）となっている。

(図表12－3～図表12－4)

【性別、性・年代別】

性別にみると、男女で1位～5位の要望に変わりはないが、「仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する」は女性では6位、男性では9位と男女で違いがみられる。

性・年代別にみると、「災害から県民を守る」は男性18～19歳、男性30代、男性60～64歳、女性18～19歳、女性20代、女性65～69歳、女性75歳以上を除いた性・年代で1位となっている。

「高齢者の福祉を充実する」は男性60～64歳、女性18～19歳、女性65～69歳、女性75歳以上で1位（同率を含む）となっている。

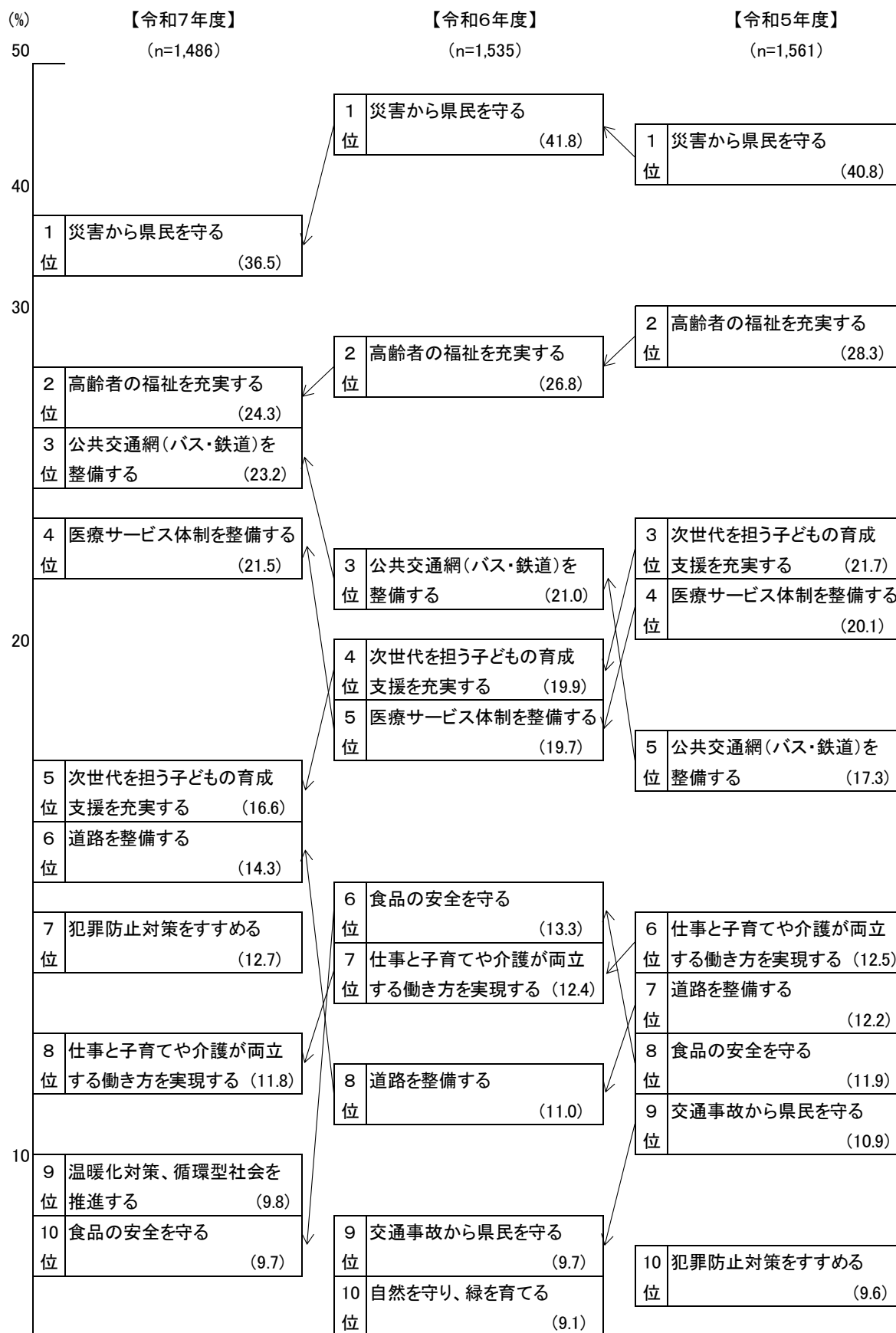
「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」は男性18～19歳、男性20代で1位（同率）となっている。
(図表12－5～図表12－6)

【参考】令和5年度以降の同様の項目による調査結果との比較（上位10項目の推移）（図表12－2）

【経年変化の特徴】

1. 「災害から県民を守る」は令和6年度(41.8%)に引き続き1位(36.5%)となっている。
2. 2位の「高齢者の福祉を充実する」(24.3%)、3位の「公共交通網（バス・鉄道）を整備する」(23.2%)に変動はないが、4位の「医療サービス体制を整備する」(21.5%)は令和6年度の5位(19.7%)から順位を上げている。一方、「次世代を担う子どもの育成支援を充実する」は令和6年度の4位(19.9%)から5位(16.6%)へ順位を下げています。
3. 「道路を整備する」は令和6年度の8位(11.0%)から6位(14.3%)へ、「犯罪防止対策をすすめる」は令和6年度の11位(8.7%)から7位(12.7%)へそれぞれ順位を上げている。
4. 「食品の安全を守る」は令和6年度の6位(13.3%)から10位(9.7%)へ順位を下げています。

＜図表12－２＞県政への要望（３つまでの複数回答）／上位10項目の推移



<図表12-3> 県政への要望（3つまでの複数回答）（上位1位～5位）／地域別

（%）

属性	順位 n	1位	2位	3位	4位	5位
全体	1,486	災害から県民を守る (36.5)	高齢者の福祉を充実する (24.3)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (23.2)	医療サービス体制を整備する (21.5)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (16.6)
【 地 域 別 】						
千葉地域	275	災害から県民を守る (40.7)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (29.1)	高齢者の福祉を充実する (24.4)	医療サービス体制を整備する (20.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (16.0)
葛南地域	400	災害から県民を守る (34.3)	医療サービス体制を整備する (23.3)	高齢者の福祉を充実する (22.0)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する/道路を整備する (19.0)	
東葛飾地域	360	災害から県民を守る (37.5)	高齢者の福祉を充実する (23.6)	医療サービス体制を整備する (20.8)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (18.6)	道路を整備する (16.7)
印旛地域	178	災害から県民を守る (37.6)	高齢者の福祉を充実する (32.0)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (25.8)	医療サービス体制を整備する (20.8)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (15.2)
香取地域	24	災害から県民を守る (41.7)	高齢者の福祉を充実する/医療サービス体制を整備する (37.5)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (20.8)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/雇用の場を広げる/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する/安心して飲める良質な水道水を供給する (12.5)	
海匝地域	36	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (36.1)	災害から県民を守る (27.8)	医療サービス体制を整備する (25.0)	高齢者の福祉を充実する (16.7)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する (13.9)
山武地域	40	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (35.0)	災害から県民を守る (30.0)	高齢者の福祉を充実する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する (27.5)		医療サービス体制を整備する/自然を守り、緑を育てる (12.5)
長生地域	38	災害から県民を守る (44.7)	医療サービス体制を整備する (28.9)	高齢者の福祉を充実する (23.7)	自然を守り、緑を育てる (18.4)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (15.8)
夷隅地域	20	公共交通網（バス・鉄道）を整備する/医療サービス体制を整備する (35.0)		災害から県民を守る/高齢者の福祉を充実する (25.0)		食品の安全を守る (20.0)
安房地域	29	災害から県民を守る (34.5)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する (20.7)		高齢者の福祉を充実する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/自然を守り、緑を育てる (17.2)	
君津地域	68	災害から県民を守る (35.3)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (32.4)	高齢者の福祉を充実する (25.0)	医療サービス体制を整備する (19.1)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.6)

＜図表12－４＞県政への要望（３つまでの複数回答）（上位６位～10位）／地域別

(%)

属性 \ 順位	n	6位	7位	8位	9位	10位
全体	1,486	道路を整備する (14.3)	犯罪防止対策をすすめる (12.7)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (11.8)	温暖化対策、循環型社会を推進する (9.8)	食品の安全を守る (9.7)
【 地 域 別 】						
千葉地域	275	犯罪防止対策をすすめる (14.5)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (11.6)	温暖化対策、循環型社会を推進する (10.9)	道路を整備する (10.2)	安心して飲める良質な水道水を供給する (9.5)
葛南地域	400	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.3)	犯罪防止対策をすすめる (14.8)	食品の安全を守る (12.3)	温暖化対策、循環型社会を推進する (11.5)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (10.8)
東葛飾地域	360	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (16.4)	犯罪防止対策をすすめる (12.8)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (11.7)	交通事故から県民を守る (10.6)	温暖化対策、循環型社会を推進する (10.0)
印旛地域	178	-	犯罪防止対策をすすめる (13.5)	食品の安全を守る (12.9)	交通事故から県民を守る (12.4)	自然を守り、緑を育てる (11.8)
香取地域	24	-				障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/ひとり親家庭等の福祉を充実する/温暖化対策、循環型社会を推進する/道路を整備する/下水道を整備する/学校教育を充実する (8.3)
海匝地域	36	-	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/自然を守り、緑を育てる/商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する/観光を振興する/雇用の場を広げる/安心して飲める良質な水道水を供給する (11.1)			
山武地域	40	-	消費生活のトラブルに関する対策をすすめる/障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/ひとり親家庭等の福祉を充実する/商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する/道路を整備する (10.0)			
長生地域	38	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/犯罪防止対策をすすめる (13.2)			ひとり親家庭等の福祉を充実する/雇用の場を広げる/下水道を整備する/安心して飲める良質な水道水を供給する (10.5)	
夷隅地域	20	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/道路を整備する (15.0)		ひとり親家庭等の福祉を充実する/健康づくりをすすめて、病気を予防する/自然を守り、緑を育てる/雇用の場を広げる (10.0)		
安房地域	29	-	公共交通網(バス・鉄道)を整備する/医療サービス体制を整備する/安心して飲める良質な水道水を供給する (13.8)			食品の安全を守る/健康づくりをすすめて、病気を予防する (10.3)
君津地域	68	ひとり親家庭等の福祉を充実する/道路を整備する (16.2)		温暖化対策、循環型社会を推進する (13.2)	食品の安全を守る/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (11.8)	

＜図表12－５＞県政への要望（３つまでの複数回答）（上位１位～５位）／性別、性・年代別

順位 属性		n	1位	2位	3位	4位	5位	(%)
全体		1,486	災害から県民を守る (36.5)	高齢者の福祉を充実する (24.3)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (23.2)	医療サービス体制を整備する (21.5)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (16.6)	
【性・年代別】								
男性（計）		602	災害から県民を守る (33.9)	高齢者の福祉を充実する (23.3)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (22.1)	医療サービス体制を整備する (20.4)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.9)	
18～19歳		2	公共交通網（バス・鉄道）を整備する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/医療サービス体制を整備する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する/下水道を整備する (50.0)					
20 代		40	災害から県民を守る/公共交通網（バス・鉄道）を整備する (27.5)		次世代を担う子どもの育成支援を充実する (22.5)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する (20.0)		
30 代		53	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (41.5)	災害から県民を守る (24.5)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する/医療サービス体制を整備する (22.6)		仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する (18.9)	
40 代		88	災害から県民を守る (31.8)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (26.1)	道路を整備する/犯罪防止対策をすすめる (20.5)		次世代を担う子どもの育成支援を充実する (18.2)	
50 代		86	災害から県民を守る (29.1)	高齢者の福祉を充実する (23.3)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する/医療サービス体制を整備する (20.9)		道路を整備する (19.8)	
60～64歳		44	高齢者の福祉を充実する (38.6)	災害から県民を守る (36.4)	医療サービス体制を整備する (31.8)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (25.0)		道路を整備する (18.2)
65～69歳		63	災害から県民を守る (44.4)	犯罪防止対策をすすめる (23.8)	自然を守り、緑を育てる/道路を整備する (22.2)		高齢者の福祉を充実する (19.0)	
70～74歳		93	災害から県民を守る/高齢者の福祉を充実する (34.4)		医療サービス体制を整備する (25.8)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (23.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (15.1)	
75歳以上		133	災害から県民を守る (38.3)	高齢者の福祉を充実する (33.1)	医療サービス体制を整備する (21.1)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (19.5)		犯罪防止対策をすすめる (17.3)
女性（計）		822	災害から県民を守る (38.2)	高齢者の福祉を充実する (25.5)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (24.3)	医療サービス体制を整備する (22.7)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (15.6)	
18～19歳		7	交通事故から県民を守る/国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる/障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/ひとり親家庭等の福祉を充実する/高齢者の福祉を充実する/学校教育を充実する/犯罪防止対策をすすめる (28.6)					
20 代		49	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (34.7)	災害から県民を守る/公共交通網（バス・鉄道）を整備する (28.6)		仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (24.5)	犯罪防止対策をすすめる (22.4)	
30 代		79	災害から県民を守る (44.3)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (25.3)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (21.5)	医療サービス体制を整備する (20.3)	交通事故から県民を守る (16.5)	
40 代		155	災害から県民を守る (41.3)	医療サービス体制を整備する (24.5)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (21.9)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (21.3)	道路を整備する (18.1)	
50 代		147	災害から県民を守る (32.7)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (29.3)	医療サービス体制を整備する (27.9)	高齢者の福祉を充実する (23.8)	道路を整備する (12.2)	
60～64歳		74	災害から県民を守る (41.9)	高齢者の福祉を充実する (33.8)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (25.7)	医療サービス体制を整備する (20.3)	道路を整備する (14.9)	
65～69歳		73	高齢者の福祉を充実する (35.6)	災害から県民を守る (32.9)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (30.1)	医療サービス体制を整備する (27.4)	温暖化対策、循環型社会を推進する (16.4)	
70～74歳		105	災害から県民を守る (43.8)	高齢者の福祉を充実する (36.2)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (23.8)	医療サービス体制を整備する (19.0)	温暖化対策、循環型社会を推進する (16.2)	
75歳以上		133	高齢者の福祉を充実する (41.4)	災害から県民を守る (38.3)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (24.8)	医療サービス体制を整備する (21.1)	食品の安全を守る (15.0)	

＜図表12－６＞県政への要望（３つまでの複数回答）（上位６位～10位）／性別、性・年代別

属性\順位		n	6位	7位	8位	9位	10位	(%)		
全体		1,486	道路を整備する (14.3)	犯罪防止対策をすすめる (12.7)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (11.8)	温暖化対策、循環型社会を推進する (9.8)	食品の安全を守る (9.7)			
【性・年代別】										
男性（計）		602	道路を整備する (17.3)	犯罪防止対策をすすめる (15.3)	交通事故から県民を守る (10.5)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (10.3)	食品の安全を守る (10.1)			
18～19歳		2	-							
20 代		40	雇用の場を広げる/犯罪防止対策をすすめる (15.0)			食品の安全を守る/障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/観光を振興する (12.5)				
30 代		53	-	交通事故から県民を守る (17.0)	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/安心して飲める良質な水道水を供給する (13.2)	青少年を健全に育てる/学校教育を充実する/犯罪防止対策をすすめる (11.3)				
40 代		88	医療サービス体制を整備する (15.9)	食品の安全を守る (11.4)	交通事故から県民を守る/下水道を整備する (10.2)	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/高齢者の福祉を充実する (9.1)				
50 代		86	食品の安全を守る (17.4)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (14.0)	交通事故から県民を守る/犯罪防止対策をすすめる (12.8)	雇用の場を広げる (9.3)				
60～64歳		44	温暖化対策、循環型社会を推進する (15.9)	交通事故から県民を守る/次世代を担う子どもの育成支援を充実する (13.6)	食品の安全を守る (11.4)	自然を守り、緑を育てる/犯罪防止対策をすすめる (9.1)				
65～69歳		63	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (17.5)	医療サービス体制を整備する (15.9)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (14.3)	消費生活のトラブルに関する対策をすすめる (12.7)	健康づくりをすすめて、病気を予防する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (11.1)			
70～74歳		93	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/道路を整備する (11.8)		交通事故から県民を守る/自然を守り、緑を育てる (10.8)		温暖化対策、循環型社会を推進する/犯罪防止対策をすすめる (9.7)			
75歳以上		133	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/道路を整備する (12.8)		温暖化対策、循環型社会を推進する (11.3)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (9.0)	消費生活のトラブルに関する対策をすすめる/食品の安全を守る/交通事故から県民を守る/自然を守り、緑を育てる (8.3)			
女性（計）		822	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.6)	道路を整備する (12.3)	温暖化対策、循環型社会を推進する (11.4)	犯罪防止対策をすすめる (11.1)	自然を守り、緑を育てる (9.7)			
18～19歳		7	-			災害から県民を守る/消費生活のトラブルに関する対策をすすめる/公共交通網（バス・鉄道）を整備する/次世代を担う子どもの育成支援を充実する/医療サービス体制を整備する/大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる/観光を振興する (14.3)				
20 代		49	医療サービス体制を整備する (16.3)	交通事故から県民を守る/高齢者の福祉を充実する (14.3)			ひとり親家庭等の福祉を充実する/自然を守り、緑を育てる (12.2)			
30 代		79	下水道を整備する (15.2)	犯罪防止対策をすすめる (13.9)	公共交通網（バス・鉄道）を整備する (12.7)	道路を整備する (11.4)	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する (10.1)			
40 代		155	自然を守り、緑を育てる (16.1)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (14.8)	食品の安全を守る (11.6)	温暖化対策、循環型社会を推進する/犯罪防止対策をすすめる (10.3)				
50 代		147	次世代を担う子どもの育成支援を充実する/犯罪防止対策をすすめる (11.6)		仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (10.9)	温暖化対策、循環型社会を推進する/雇用の場を広げる (10.2)				
60～64歳		74	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (12.2)	自然を守り、緑を育てる/温暖化対策、循環型社会を推進する/雇用の場を広げる/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (10.8)						
65～69歳		73	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する (13.7)	健康づくりをすすめて、病気を予防する/道路を整備する (12.3)			安心して飲める良質な水道水を供給する (11.0)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (9.6)		
70～74歳		105	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する/仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/安心して飲める良質な水道水を供給する (11.4)			食品の安全を守る (10.5)	次世代を担う子どもの育成支援を充実する (9.5)			
75歳以上		133	道路を整備する/犯罪防止対策をすすめる (12.8)			温暖化対策、循環型社会を推進する (12.0)	自然を守り、緑を育てる (11.3)	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する/安心して飲める良質な水道水を供給する (10.5)		

（１－１）各政策への具体的な要望

問51 問50で選んでいただきました県政の要望について、具体的にどのようなことを望まれますか。問50で選んだ３項目についてのみ、具体的要望項目から１つずつ選んで番号に○をつけてください。

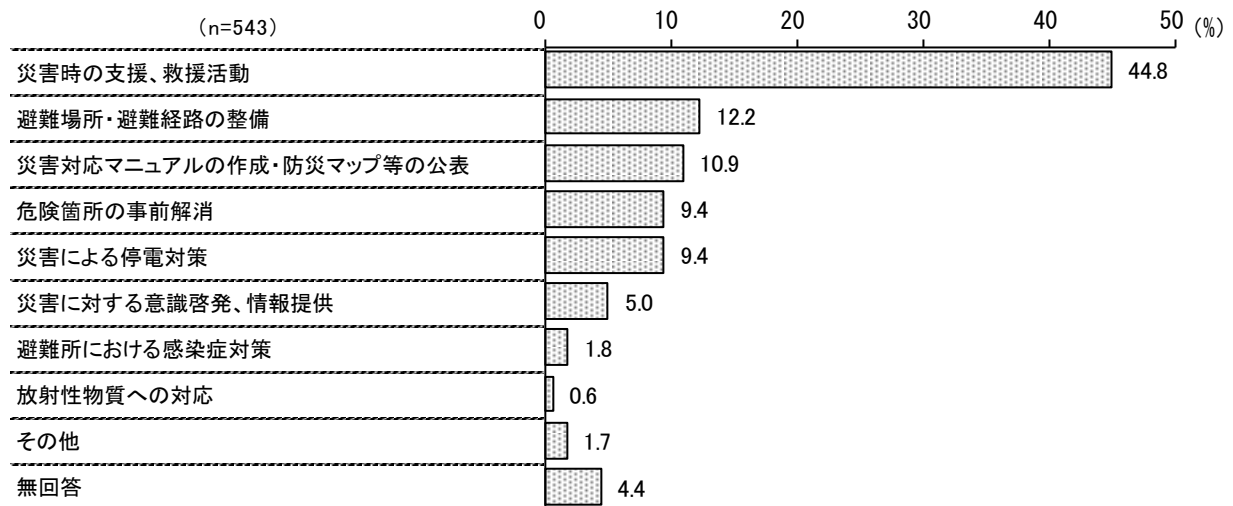
問50で県政への要望を３つまでたずね、その選んだ要望に関して、それぞれ具体的にどのようなことを望んでいるかを聞いた。

ここからは、それぞれの結果を図示していくが、問50の回答状況次第では、nの値が少なくなるものもあり、その場合は参考ということを明示する。

１ 災害から県民を守る（36.5%、１位）

「災害時の支援、救援活動」（44.8%）が４割台半ばで最も高く、以下、「避難場所・避難経路の整備」（12.2%）、「災害対応マニュアルの作成・防災マップ等の公表」（10.9%）が続く。

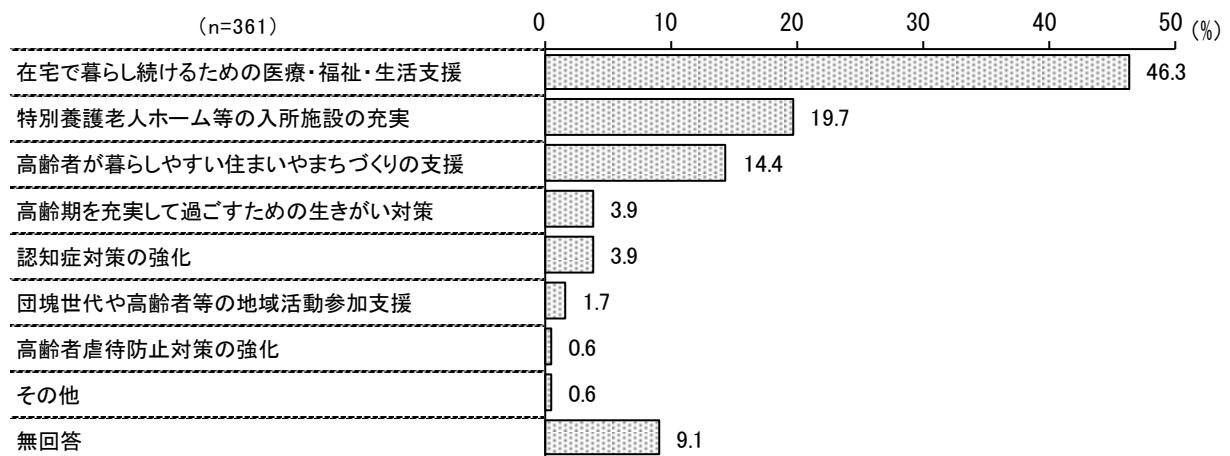
＜図表12－７＞災害から県民を守る



２ 高齢者の福祉を充実する（24.3%、２位）

「在宅で暮らし続けるための医療・福祉・生活支援」（46.3%）が４割台半ばで最も高く、以下、「特別養護老人ホーム等の入所施設の充実」（19.7%）、「高齢者が暮らしやすい住まいやまちづくりの支援」（14.4%）が続く。

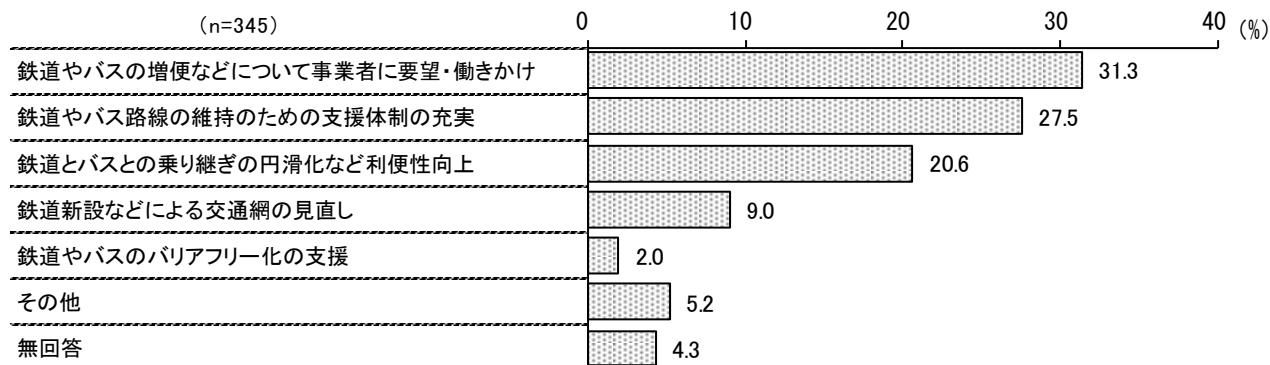
＜図表12－８＞高齢者の福祉を充実する



3 公共交通網（バス・鉄道）を整備する（23.2%、3位）

「鉄道やバスの増便などについて事業者に要望・働きかけ」（31.3%）が3割を超えて最も高く、以下、「鉄道やバス路線の維持のための支援体制の充実」（27.5%）、「鉄道とバスとの乗り継ぎの円滑化など利便性向上」（20.6%）が続く。

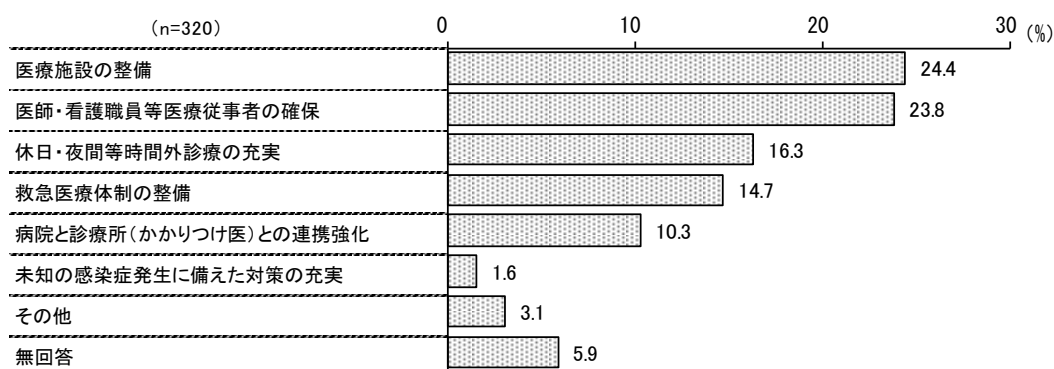
＜図表12－9＞公共交通網（バス・鉄道）を整備する



4 医療サービス体制を整備する（21.5%、4位）

「医療施設の整備」（24.4%）が2割台半ばで最も高く、以下、「医師・看護職員等医療従事者の確保」（23.8%）、「休日・夜間等時間外診療の充実」（16.3%）が続く。

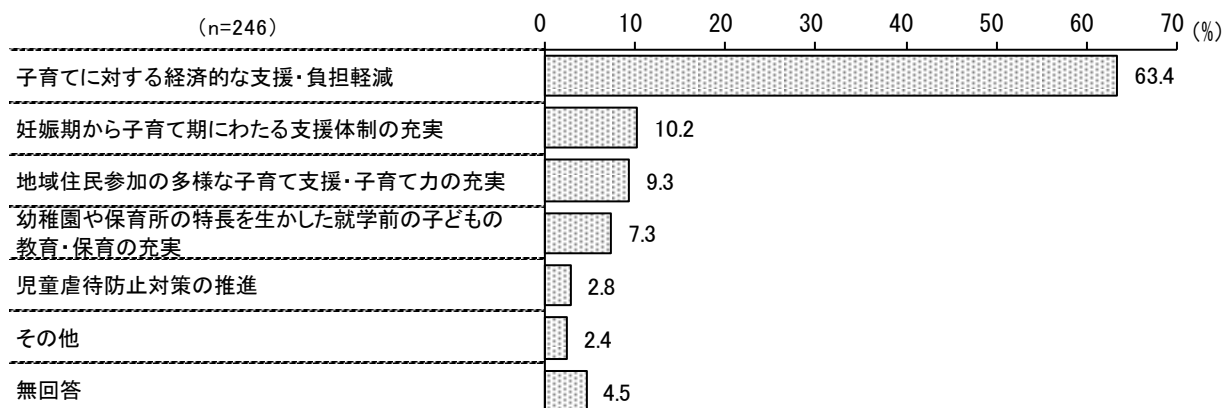
＜図表12－10＞医療サービス体制を整備する



5 次世代を担う子どもの育成支援を充実する（16.6%、5位）

「子育てに対する経済的な支援・負担軽減」（63.4%）が6割を超えて最も高く、以下、「妊娠期から子育て期にわたる支援体制の充実」（10.2%）、「地域住民参加の多様な子育て支援・子育て力の充実」（9.3%）が続く。

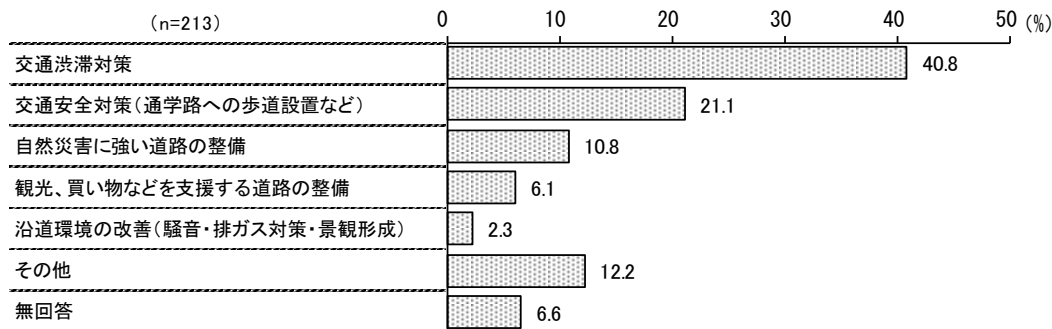
＜図表12－11＞次世代を担う子どもの育成支援を充実する



6 道路を整備する（14.3%、6位）

「交通渋滞対策」(40.8%) が4割で最も高く、以下、「交通安全対策（通学路への歩道設置など）」(21.1%)、「自然災害に強い道路の整備」(10.8%)が続く。

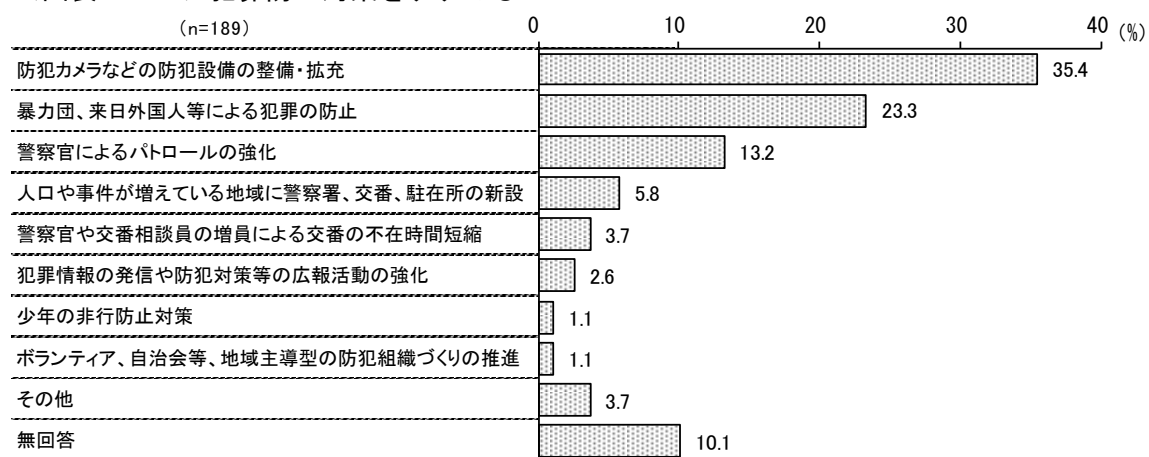
＜図表12-12＞道路を整備する



7 犯罪防止対策をすすめる（12.7%、7位）

「防犯カメラなどの防犯設備の整備・拡充」(35.4%) が3割台半ばで最も高く、以下、「暴力団、来日外国人等による犯罪の防止」(23.3%)、「警察官によるパトロールの強化」(13.2%)が続く。

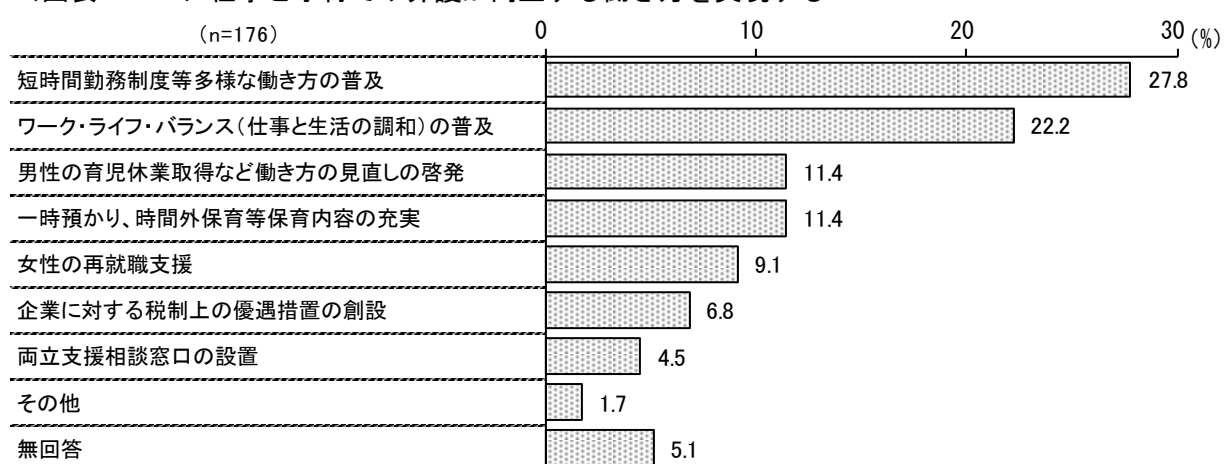
＜図表12-13＞犯罪防止対策をすすめる



8 仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する（11.8%、8位）

「短時間勤務制度等多様な働き方の普及」(27.8%) が約3割で最も高く、以下、「ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及」(22.2%)、「男性の育児休業取得など働き方の見直しの啓発」(11.4%)、「一時預かり、時間外保育等保育内容の充実」(ともに11.4%)が続く。

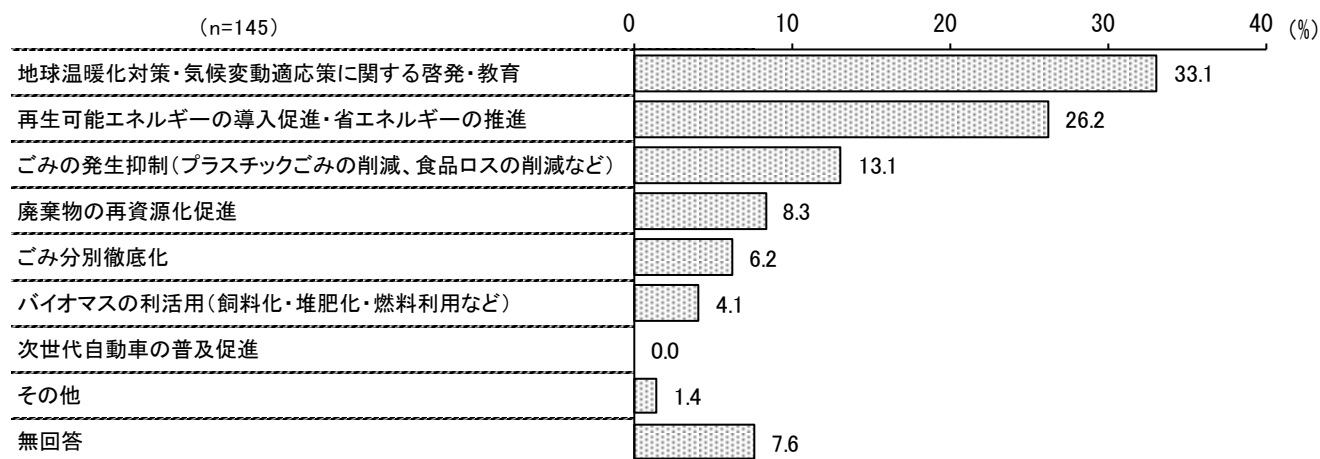
＜図表12-14＞仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する



9 温暖化対策、循環型社会を推進する（9.8%、9位）

「地球温暖化対策・気候変動適応策に関する啓発・教育」（33.1%）が3割を超えて最も高く、以下、「再生可能エネルギーの導入促進・省エネルギーの推進」（26.2%）、「ごみの発生抑制（プラスチックごみの削減、食品ロスの削減など）」（13.1%）が続く。

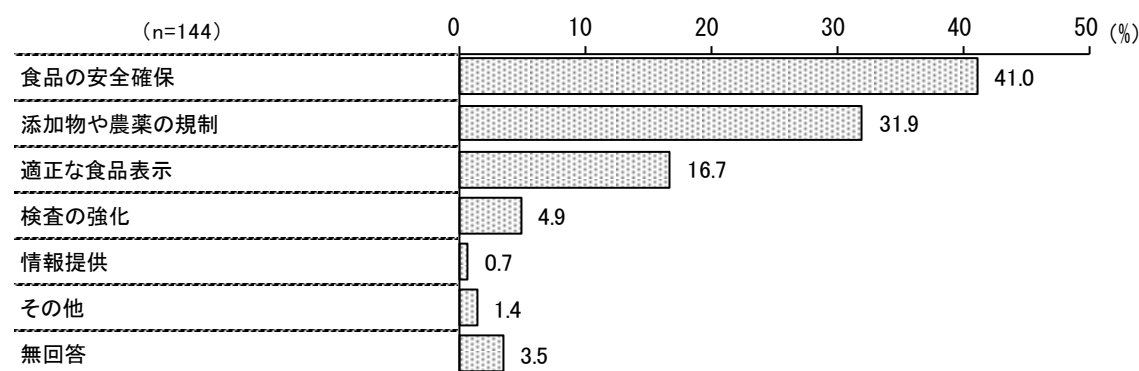
＜図表12-15＞温暖化対策、循環型社会を推進する



10 食品の安全を守る（9.7%、10位）

「食品の安全確保」（41.0%）が4割を超えて最も高く、以下、「添加物や農薬の規制」（31.9%）、「適正な食品表示」（16.7%）が続く。

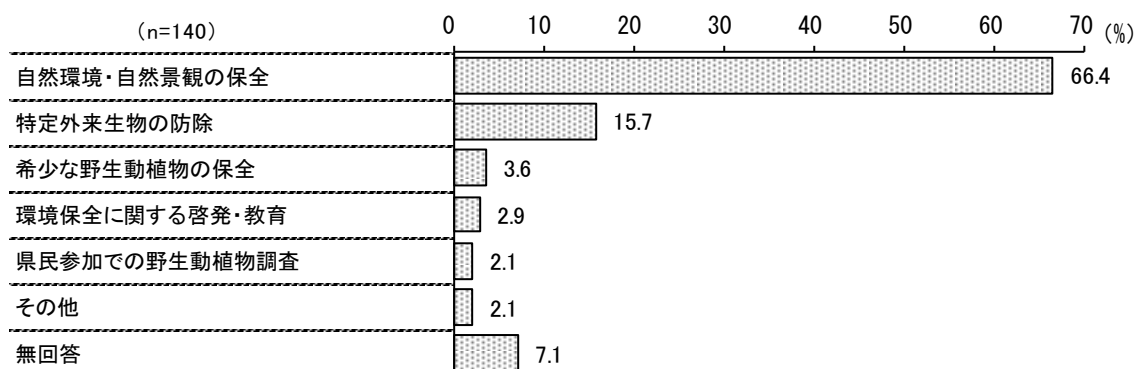
＜図表12-16＞食品の安全を守る



11 自然を守り、緑を育てる（9.4%、11位）

「自然環境・自然景観の保全」（66.4%）が6割台半ばで最も高く、以下、「特定外来生物の防除」（15.7%）、「希少な野生動植物の保全」（3.6%）が続く。

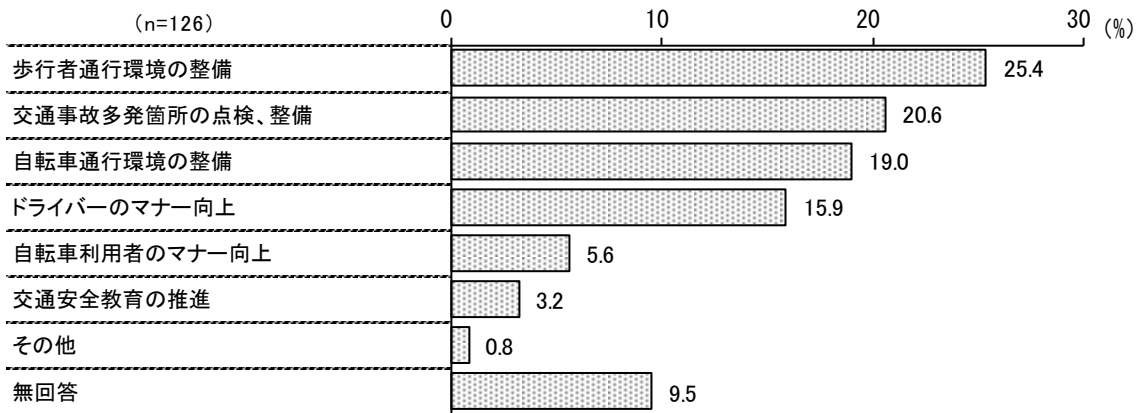
＜図表12-17＞自然を守り、緑を育てる



12 交通事故から県民を守る（8.5%、12位）

「歩行者通行環境の整備」（25.4%）が2割台半ばで最も高く、以下、「交通事故多発箇所の点検、整備」（20.6%）、「自転車通行環境の整備」（19.0%）が続く。

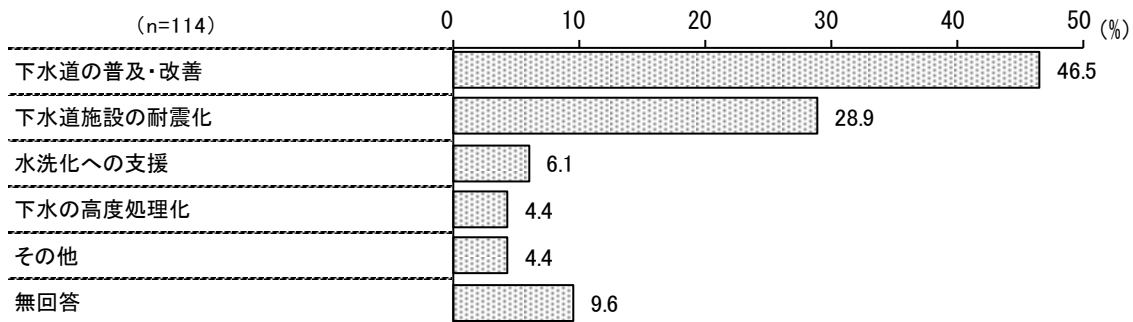
＜図表12－18＞交通事故から県民を守る



13 下水道を整備する（7.7%、13位）

「下水道の普及・改善」（46.5%）が4割台半ばで最も高く、以下、「下水道施設の耐震化」（28.9%）、「水洗化への支援」（6.1%）が続く。

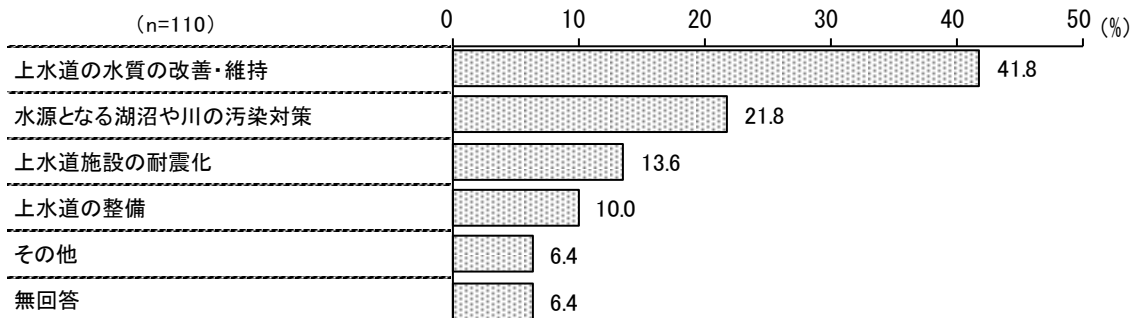
＜図表12－19＞下水道を整備する



14 安心して飲める良質な水道水を供給する（7.4%、14位）

「上水道の水質の改善・維持」（41.8%）が4割を超えて最も高く、以下、「水源となる湖沼や川の汚染対策」（21.8%）、「上水道施設の耐震化」（13.6%）が続く。

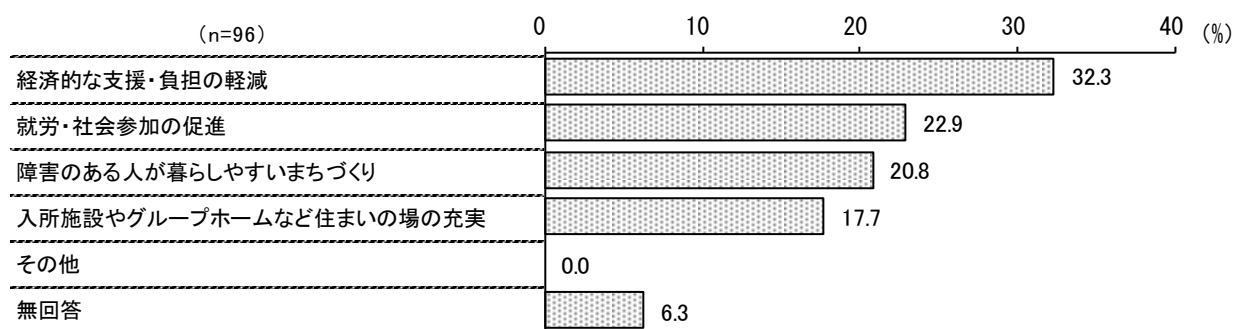
＜図表12－20＞安心して飲める良質な水道水を供給する



15 障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する（6.5%、15位）

「経済的な支援・負担の軽減」（32.3%）が3割を超えて最も高く、以下、「就労・社会参加の促進」（22.9%）、「障害のある人が暮らしやすいまちづくり」（20.8%）が続く。

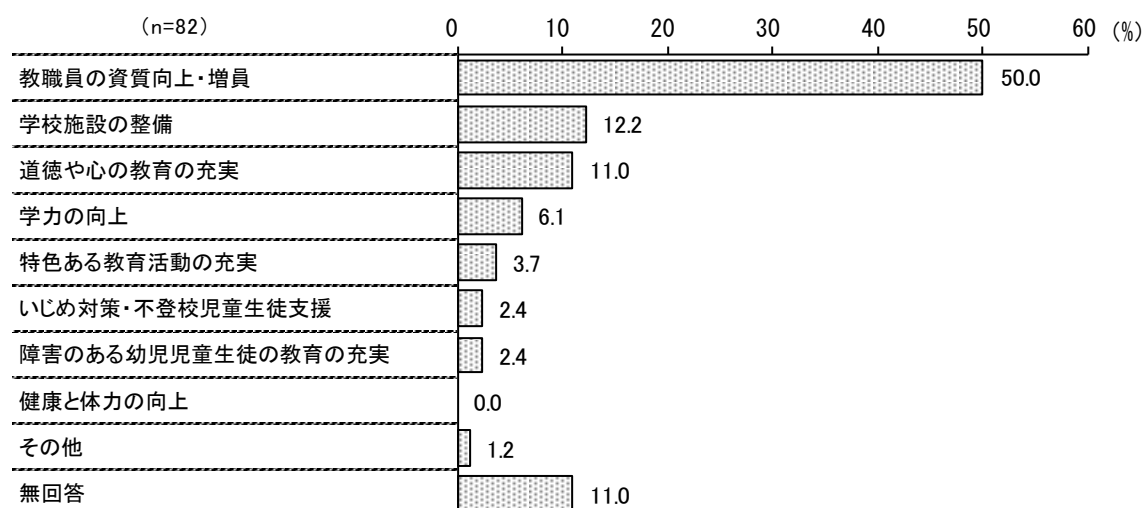
＜図表12-21＞障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する



16 学校教育を充実する（5.5%、16位）

「教職員の資質向上・増員」（50.0%）が5割で最も高く、以下、「学校施設の整備」（12.2%）、「道徳や心の教育の充実」（11.0%）が続く。

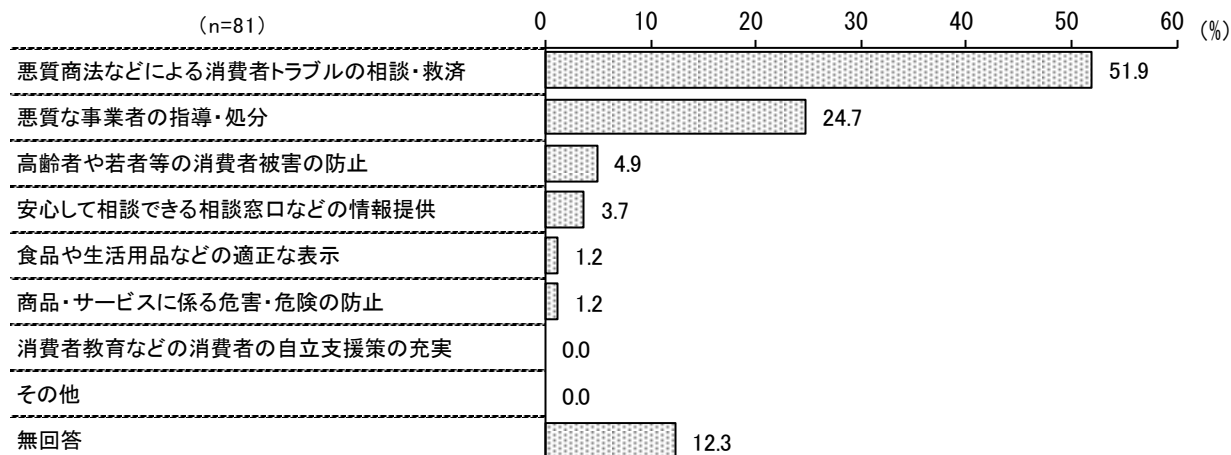
＜図表12-22＞学校教育を充実する



17 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる（5.5%、17位）

「悪質商法などによる消費者トラブルの相談・救済」（51.9%）が5割を超えて最も高く、以下、「悪質な事業者の指導・処分」（24.7%）、「高齢者や若者等の消費者被害の防止」（4.9%）が続く。

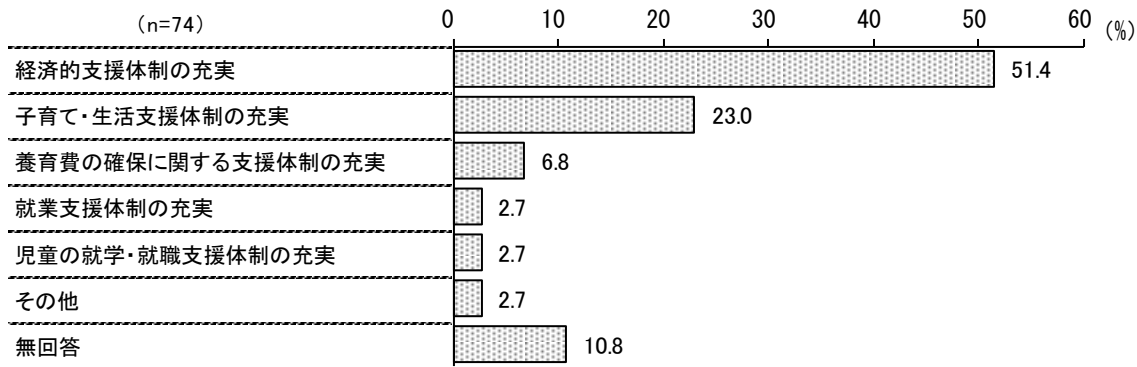
＜図表12-23＞消費生活のトラブルに関する対策をすすめる



18 ひとり親家庭等の福祉を充実する（5.0%、18位）

「経済的支援体制の充実」（51.4%）が5割を超えて最も高く、以下、「子育て・生活支援体制の充実」（23.0%）、「養育費の確保に関する支援体制の充実」（6.8%）が続く。

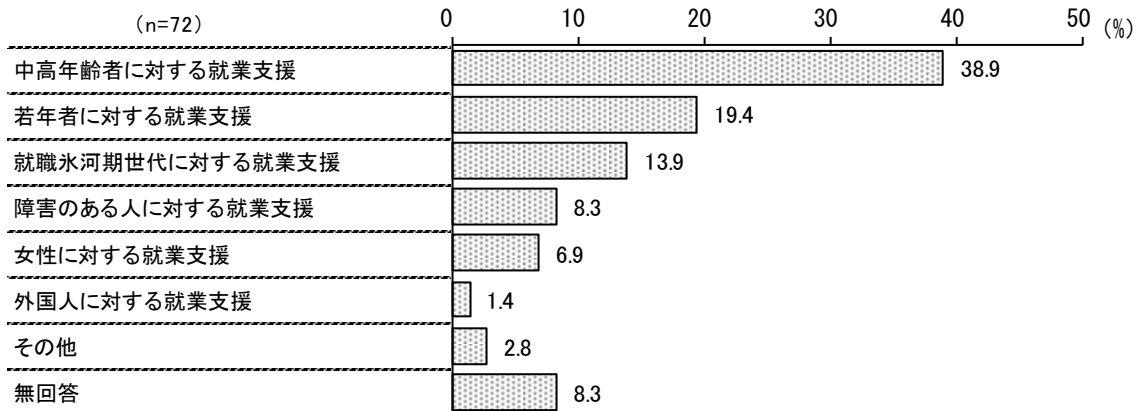
＜図表12-24＞ひとり親家庭等の福祉を充実する



19 雇用の場を広げる（4.8%、19位）

「中高年齢者に対する就業支援」（38.9%）が約4割で最も高く、以下、「若年者に対する就業支援」（19.4%）、「就職氷河期世代に対する就業支援」（13.9%）が続く。

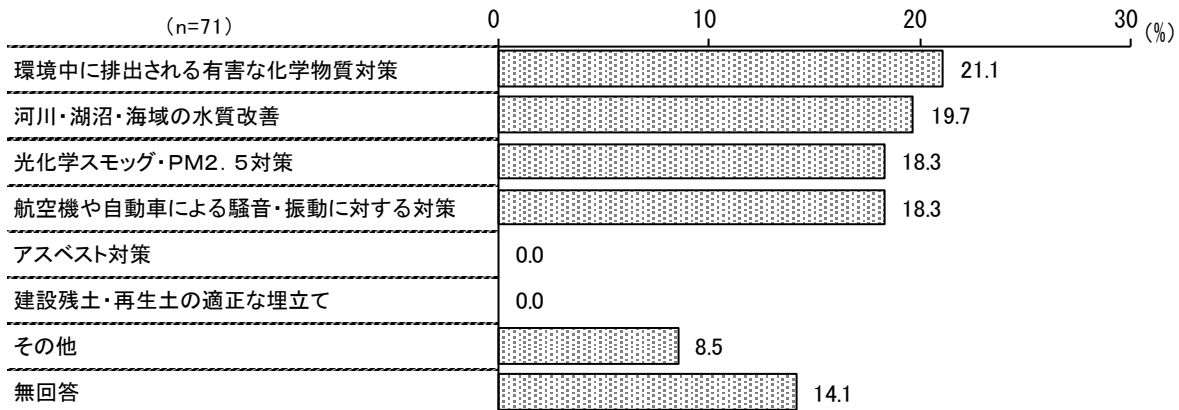
＜図表12-25＞雇用の場を広げる



20 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる（4.8%、20位）

「環境中に排出される有害な化学物質対策」（21.1%）が2割を超えて最も高く、以下、「河川・湖沼・海域の水質改善」（19.7%）、「光化学スモッグ・PM2.5対策」、「航空機や自動車による騒音・振動に対する対策」（ともに18.3%）が続く。

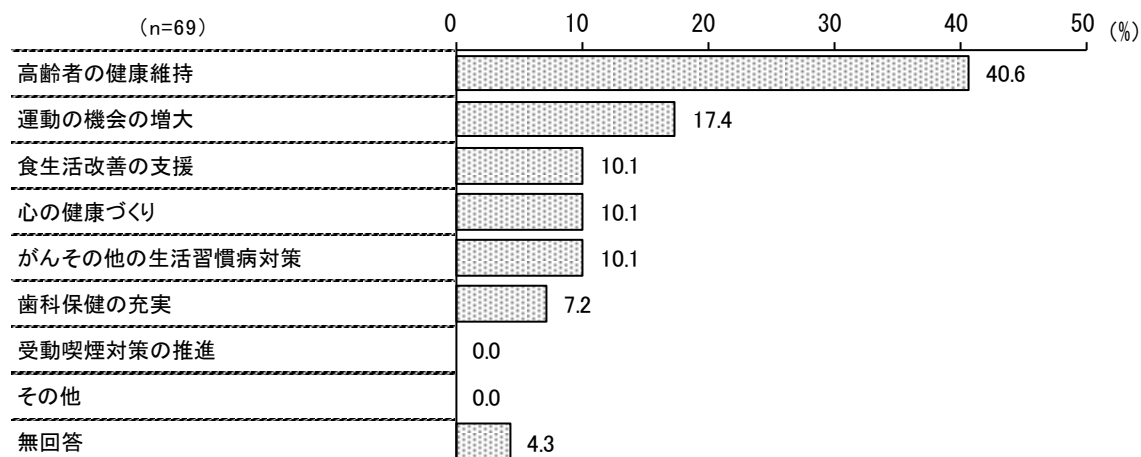
＜図表12-26＞大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる



21 健康づくりをすすめて、病気を予防する（4.6%、21位）

「高齢者の健康維持」（40.6%）が4割で最も高く、以下、「運動の機会の増大」（17.4%）、「食生活改善の支援」、「心の健康づくり」、「がんその他の生活習慣病対策」（いずれも10.1%）が続く。

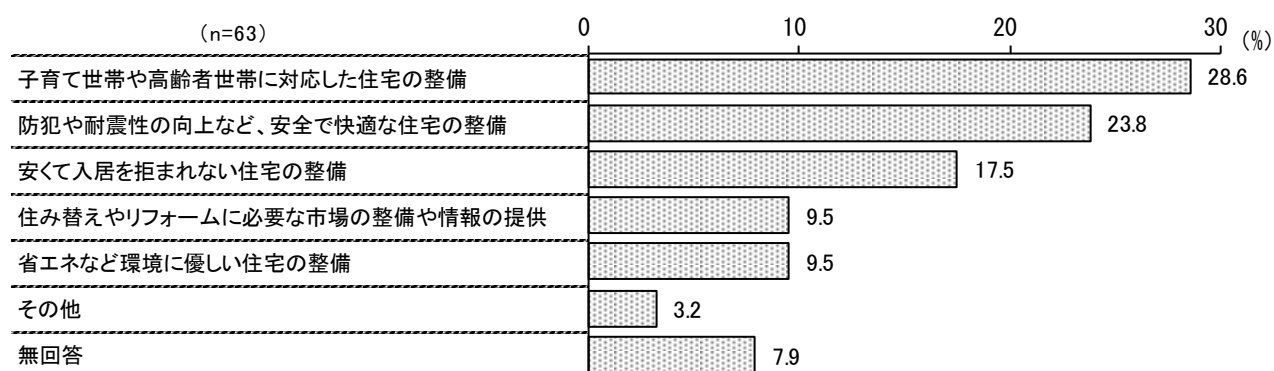
＜図表12-27＞健康づくりをすすめて、病気を予防する



22 豊かな住生活を実現する（4.2%、22位）

「子育て世帯や高齢者世帯に対応した住宅の整備」（28.6%）が約3割で最も高く、以下、「防犯や耐震性の向上など、安全で快適な住宅の整備」（23.8%）、「安くて入居を拒まれない住宅の整備」（17.5%）が続く。

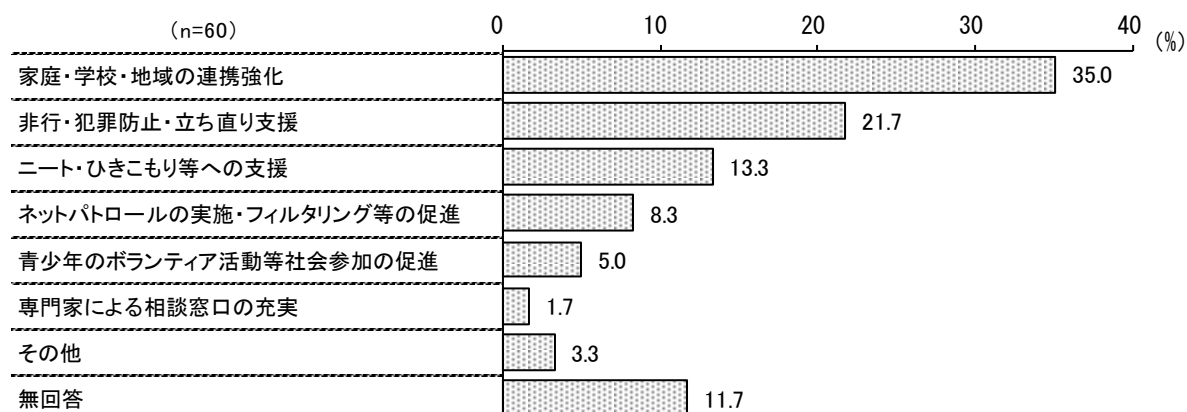
＜図表12-28＞豊かな住生活を実現する



23 青少年を健全に育てる（4.0%、23位）

「家庭・学校・地域の連携強化」（35.0%）が3割台半ばで最も高く、以下、「非行・犯罪防止・立ち直り支援」（21.7%）、「ニート・ひきこもり等への支援」（13.3%）が続く。

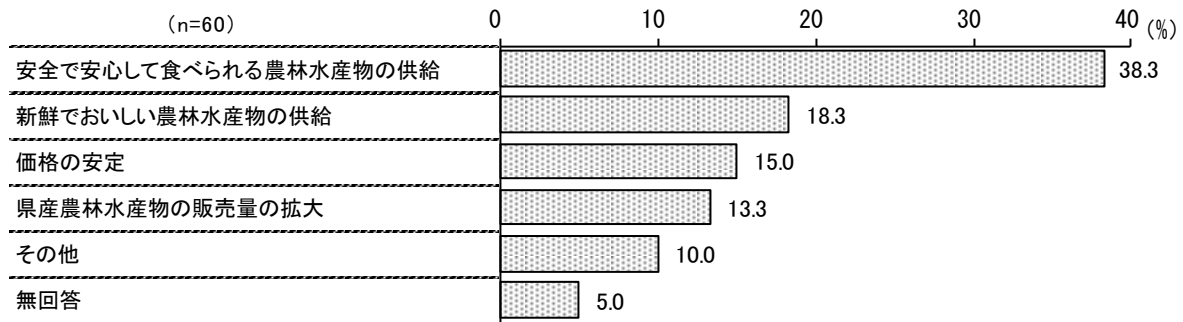
＜図表12-29＞青少年を健全に育てる



24 農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する（4.0%、23位）

「安全で安心して食べられる農林水産物の供給」（38.3%）が約4割で最も高く、以下、「新鮮でおいしい農林水産物の供給」（18.3%）、「価格の安定」（15.0%）が続く。

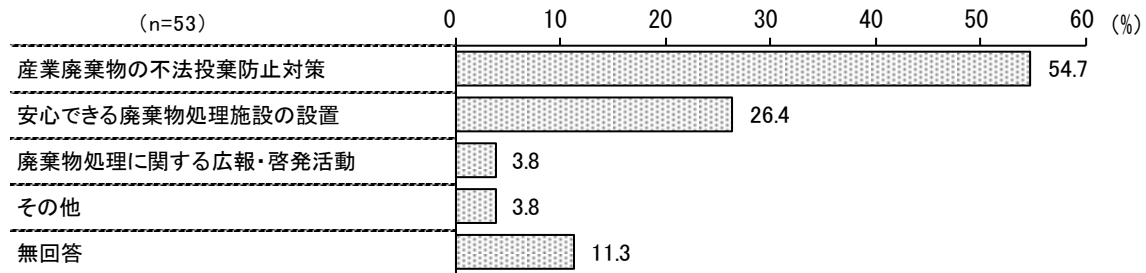
＜図表12－30＞農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する



25 廃棄物対策をすすめる（3.6%、25位）

「産業廃棄物の不法投棄防止対策」（54.7%）が5割台半ばで最も高く、以下、「安心できる廃棄物処理施設の設置」（26.4%）、「廃棄物処理に関する広報・啓発活動」（3.8%）が続く。

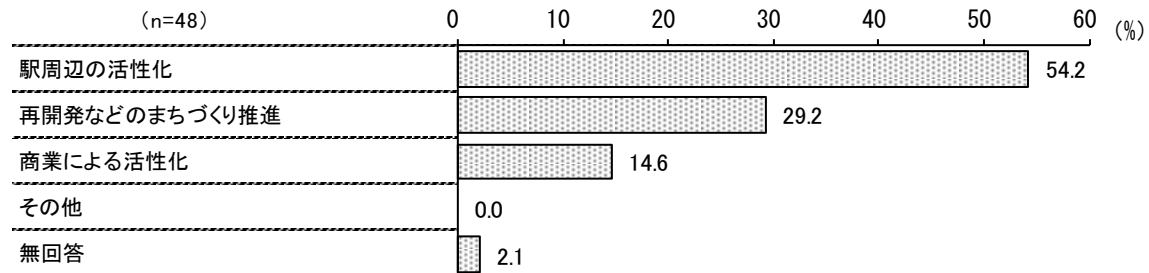
＜図表12－31＞廃棄物対策をすすめる



26 中心市街地の活性化を推進する（3.2%、26位）

「駅周辺の活性化」（54.2%）が5割台半ばで最も高く、以下、「再開発などのまちづくり推進」（29.2%）、「商業による活性化」（14.6%）が続く。

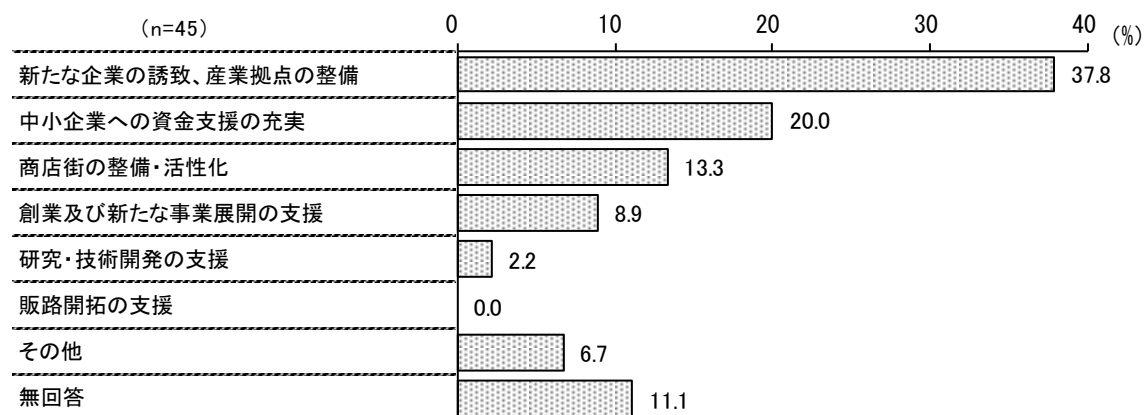
＜図表12－32＞中心市街地の活性化を推進する



27 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する（3.0%、27位）

「新たな企業の誘致、産業拠点の整備」（37.8%）が約４割で最も高く、以下、「中小企業への資金支援の充実」（20.0%）、「商店街の整備・活性化」（13.3%）が続く。

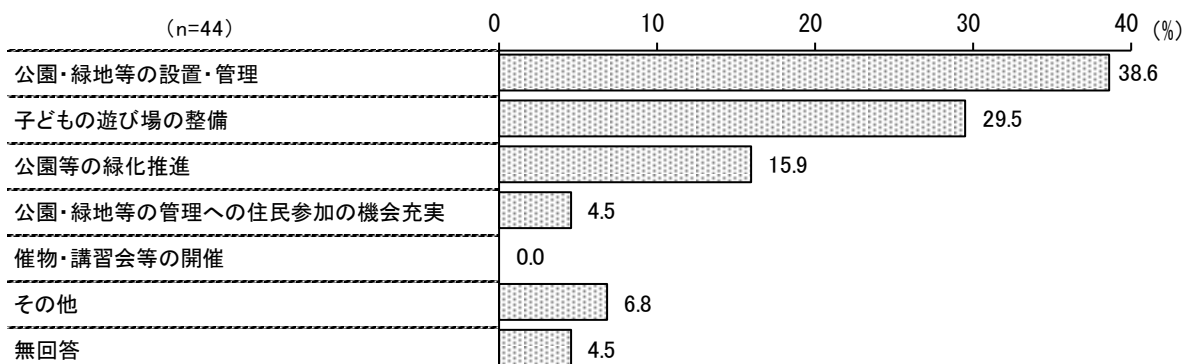
＜図表12－33＞商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する



28 公園・緑地を整備する（3.0%、28位）

「公園・緑地等の設置・管理」（38.6%）が約４割で最も高く、以下、「子どもの遊び場の整備」（29.5%）、「公園等の緑化推進」（15.9%）が続く。

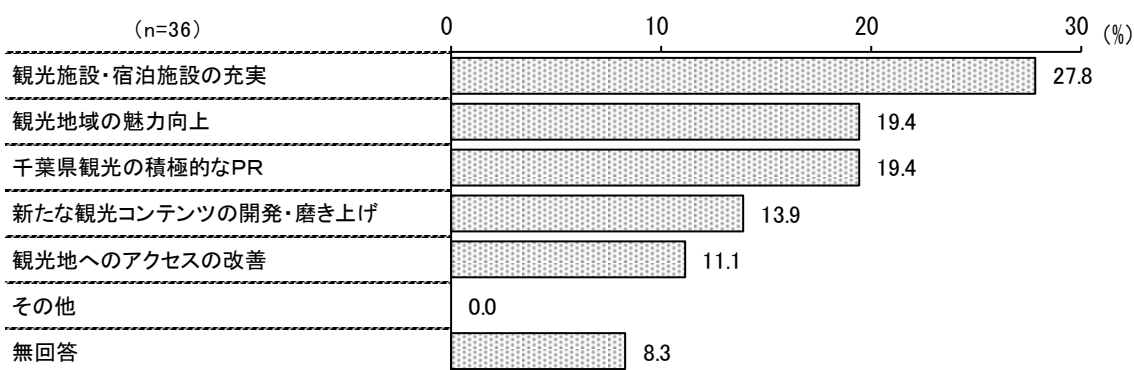
＜図表12－34＞公園・緑地を整備する



29 観光を振興する（2.4%、29位）

「観光施設・宿泊施設の充実」（27.8%）が約３割で最も高く、以下、「観光地域の魅力向上」、「千葉県観光の積極的なPR」（ともに19.4%）が続く。

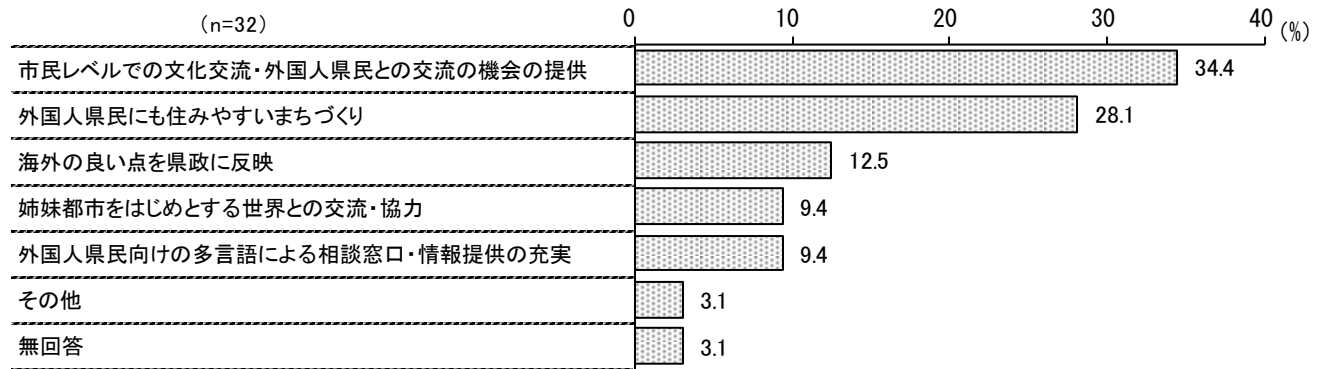
＜図表12－35＞観光を振興する



30 国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる（2.2%、30位）

「市民レベルでの文化交流・外国人県民との交流の機会の提供」（34.4%）が3割台半ばで最も高く、以下、「外国人県民にも住みやすいまちづくり」（28.1%）、「海外の良い点を県政に反映」（12.5%）が続く。

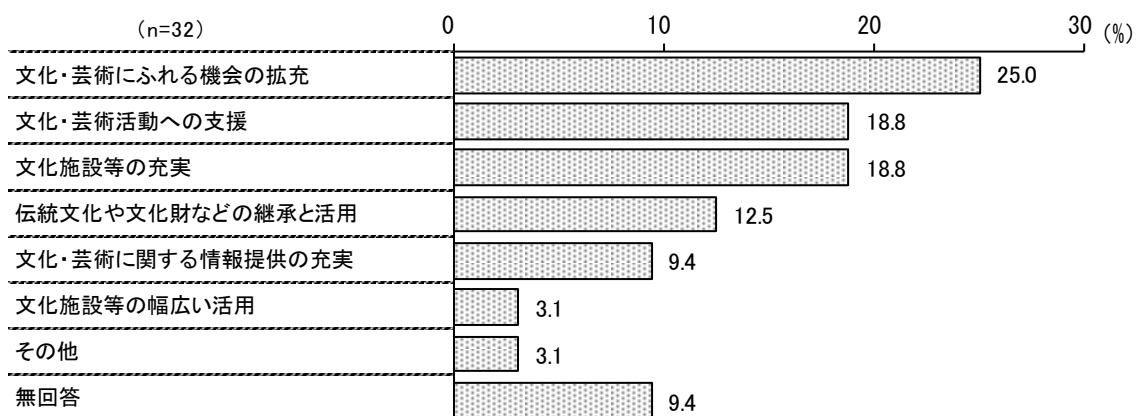
＜図表12-36＞国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる



31 芸術・文化活動を振興する（2.2%、30位）

「文化・芸術にふれる機会の拡充」（25.0%）が2割台半ばで最も高く、以下、「文化・芸術活動への支援」、「文化施設等の充実」（ともに18.8%）が続く。

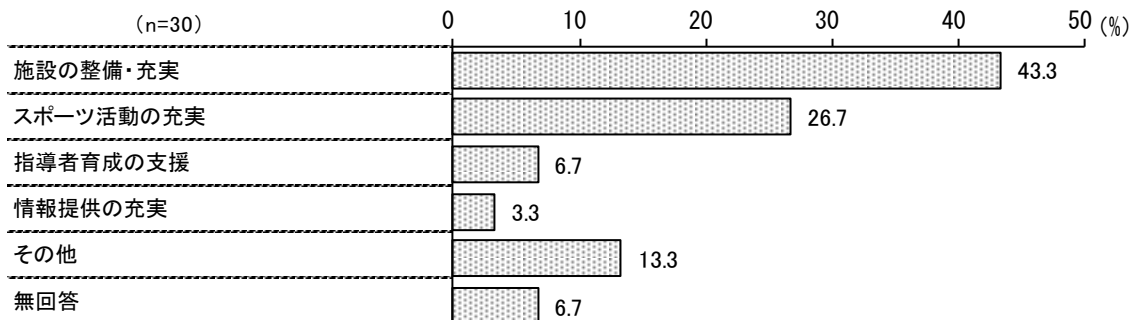
＜図表12-37＞芸術・文化活動を振興する



32 スポーツを振興する（2.0%、32位）

「施設の整備・充実」（43.3%）が4割を超えて最も高く、以下、「スポーツ活動の充実」（26.7%）、「指導者育成の支援」（6.7%）が続く。

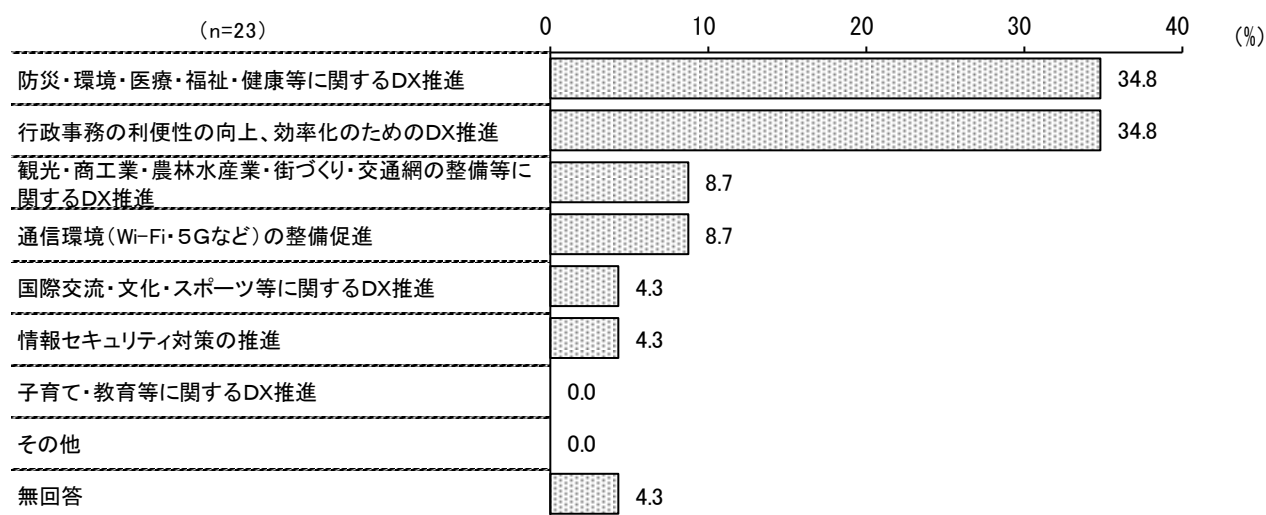
＜図表12-38＞スポーツを振興する



33 施策実現や地域活性化のためにD Xを推進する（1.5%、33位）

「防災・環境・医療・福祉・健康等に関するD X推進」、「行政事務の利便性の向上、効率化のためのD X推進」（ともに34.8%）が3割台半ばで最も高く、以下、「観光・商工業・農林水産業・街づくり・交通網の整備等に関するD X推進」、「通信環境（Wi-Fi・5 Gなど）の整備促進」（ともに8.7%）が続く。

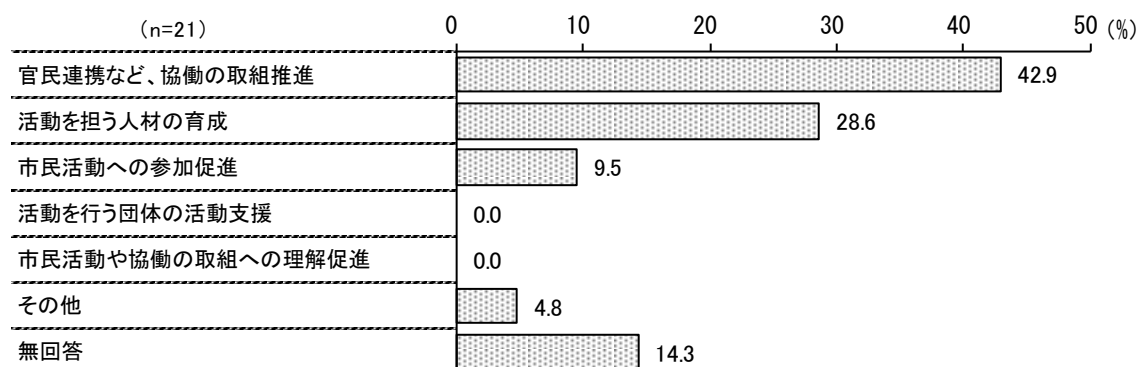
＜図表12－39＞施策実現や地域活性化のためにD Xを推進する



34 地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する（1.4%、34位）

「官民連携など、協働の取組推進」（42.9%）が4割を超えて最も高く、以下、「活動を担う人材の育成」（28.6%）、「市民活動への参加促進」（9.5%）が続く。

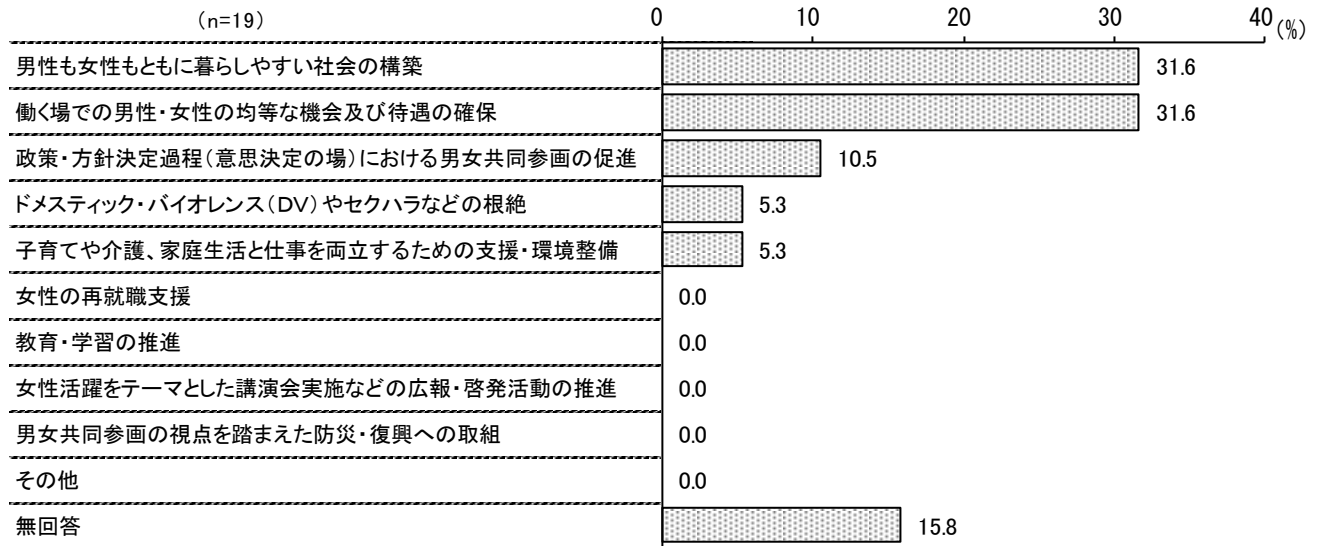
＜図表12－40＞地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する



35 男女共同参画を推進する（1.3%、35位）

「男性も女性もともに暮らしやすい社会の構築」、「働く場での男性・女性の均等な機会及び待遇の確保」（ともに31.6%）が3割を超えて最も高く、以下、「政策・方針決定過程（意思決定の場）における男女共同参画の促進」（10.5%）が続く。

＜図表12－41＞男女共同参画を推進する



13 自由回答

問 県や世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

県への意見を自由に記述していただいたところ、県への意見については247人から延べ323件の回答が寄せられた。人数・件数には別の設問である「設問への意見」に記入された県への意見も含む。

記述いただいた内容は多岐にわたり、県政の各施策におおむね沿った形で整理した。なお、一人の回答が複数の内容にわたる場合には、原文の内容の趣旨をそこなわないよう回答を分け、それぞれの項目へ分類した。また、紙面の都合上、すべての意見を掲載することはできないが、意見の多い項目（10件以上）に関しては、意見の一部を抜粋して記載するものとする。

【県への自由回答の項目順位】

順位	項目	件数
第1位	県政全般に関する要望	49
第2位	道路を整備する	34
第3位	公共交通網（バス・鉄道）を整備する	25
第4位	県政の情報発信について	19
第5位	次世代を担う子どもの育成支援を充実する	13
第6位	学校教育を充実する	12
第7位	国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる	11
第8位	犯罪防止対策をすすめる	10
〃	高齢者の福祉を充実する	10
〃	医療サービス体制を整備する	10
第11位	農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する	7
第12位	交通事故から県民を守る	6
〃	芸術・文化活動を振興する	6
第14位	中心市街地の活性化を推進する	6
〃	男女共同参画を推進する	5
第16位	大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる	4
〃	自然を守り、緑を育てる	4
〃	温暖化対策、循環型社会を推進する	4
〃	仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する	4
〃	下水道を整備する	4
〃	安心して飲める良質な水道水を供給する	4
第22位	スポーツを振興する	3
〃	施策実現や地域活性化のためにDX(デジタルトランスフォーメーション)を推進する	3
第24位	災害から県民を守る	2
〃	廃棄物対策をすすめる	2
〃	東京湾アクアラインについて	2
第27位	障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する	1
〃	ひとり親家庭等の福祉を充実する	1
〃	健康づくりをすすめて、病気を予防する	1
〃	商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する	1
〃	観光を振興する	1
〃	豊かな住生活を実現する	1
〃	公園・緑地を整備する	1
	その他	57
	うち、国政への要望	19
	うち、住んでいる市町村への要望	14

合 計（延べ件数） 323

【自由回答の記述】（意見の多い項目の一部抜粋）

■県政全般に関する要望

- 子育て世代だけでなく、高齢者、弱い立場の人にやさしい千葉県になることを望みます。
（女性、70～74歳、東葛飾地域）
- 企業向けの政策よりも暮らしの充実に向けた施策を優先してください。
（女性、75歳以上、千葉地域）
- インフラの維持管理が大変重要と考えています。新しい取組も大事かもしれませんが今までと同じ水準で暮らしていけるようによろしくお願いします。 （女性、40代、安房地域）
- 中心部の都市だけ力を入れるのでは無く、衰退化している市町村にもっと目を向けてほしい。
（女性、40代、海匝地域）
- 内房や外房の過疎化、高齢化している市町村を元気にする政策をして欲しい。
（女性、70～74歳、千葉地域）
- 性別や国籍を問わず、すべての千葉県民が暮らしやすいと思えるような施策の実施をよろしくをお願いいたします。 （男性、20代、葛南地域）
- 移民、メガソーラー、風力発電は、環境と治安を悪化させるので反対です。
（男性、50代、千葉地域）
- 学業に励むためにこちらに来ているので、生活に関しての不安が減少するような仕組みを望む。
（男性、20代、葛南地域）

■道路を整備する

- 千葉県は魅力的で住みやすい県ですが、交通渋滞が酷いです。そこを改善して頂きたいですし、直ぐ行動してほしいです。 （男性、40代、葛南地域）
- 道路整備、特に東葛地区から南部（千葉市）への交通渋滞が30年間改善されていない。
（男性、50代、東葛飾地域）
- 船橋市は道路の整備が急務。狭すぎる車道や危険な歩道が多すぎる。
（男性、50代、葛南地域）
- 自転車の規制が厳しくなりましたが、自転車で車道を走るのが怖い道が多いです。千葉県は交通事故が多い県ですので、ガードレールを増やして欲しいです。（女性、20代、千葉地域）
- 自転車通行帯は道路の広さがあるので、今の道路の広さではムリだと思います。
（男性、50代、葛南地域）
- 信号機の時間と交通量がマッチしないところが多いと感じます。AIが交通量を判断して時間を調整できるような信号システムの構築などの取組が出来ないのでしょうか。
（男性、40代、東葛飾地域）

■公共交通網（バス・鉄道）を整備する

- 通勤で自宅近くのバスを利用していたが、コロナ以降人件費削減などの理由から、始発が9:00になり、通勤で使用できず、家族に車で駅まで送ってもらっている。この状況では、現在の自宅に住むのも問題だと思い始めました。
（男性、40代、印旛地域）

- 千葉市に住んでいて東京へ通勤する身として近年で一番不便になったのは、京葉線の快速が事実上なくなったことです。通勤時間帯に快速がないという点が千葉の住みやすさを半減させていて他県の人に千葉を勧めることが出来ません。（男性、40代、千葉地域）
- バスが減便され、ラッシュ時も減ってしまって、とっても混んでたいへんです。せめて朝は増やしてほしい。最終バスが早すぎて、せめて電車の終わりに1本ほしいです。（女性、65～69歳、葛南地域）
- 免許返納ができるよう老人が病院に行ったり買い物に行ったり交通面で簡単に利用できるシステムがあったらいいと思います。（女性、60～64歳、千葉地域）
- 免許がなくても使える安価なレンタル移動車両が欲しい。（男性、20代、君津地域）

■県政の情報発信について

- チーバくん・ディズニー・空港・九十九里は有名だが、それ以外他県にあまり知られてないと感じます。千葉県はとても素敵な県なので他県へのアピールに力を入れてほしいです。（女性、40代、東葛飾地域）
- 不満はありませんが、県政についてはピンとこない所があります。関心をもたないといろんな情報は入ってきませんね。すこしアンテナをはりたいと思いますが、県政はちょっと遠い所にあるように思います。（女性、65～69歳、東葛飾地域）
- 新聞を取らない家庭には千葉県民だよりは届かない。市町村は申し込めば広報が郵送で届くが、県はどうなっているのか調べたことがないため、県政の情報収集が上手く出来ていない。地理的優位があるが、他との差別化が図れていないためか、ただのベッドタウンとしか魅力を他県の人に説明できない。（男性、40代、印旛地域）
- 市の大切さは良くわかるが、県の大切さがよくわからない。県は何故必要かのPRがほしい。（男性、75歳以上、東葛飾地域）
- 県への要望、苦情、質問の受付はどこですか広報で知らせてほしい。（女性、70～74歳、葛南地域）

■次世代を担う子どもの育成支援を充実する

- 若い人達が安心して子どもを産み育てられるような支援が必要だと思います。（女性、40代、葛南地域）
- 子ども教育支援で高校、大学への支援幅を東京都のように広げて欲しい。（男性、40代、東葛飾地域）
- 子育て環境について、夏休み中は外気温が高すぎて外で遊べません。地域によっては子どもだけで行ける距離に図書館や児童センターがないので、せめて夏休み中だけでも学校の図書室を利用できるようにしてほしいです。（女性、40代、印旛地域）
- 保育園の充実！子ども持ちの家庭への支援！東京都に負けない制度充実（教育費や無痛分娩）。エッセンシャルワーカー（看護師、福祉士、保育士、物流ドライバーなど）への支援拡充。（男性、30代、葛南地域）

■学校教育を充実する

- 公立高校のトイレが、今なお和式で不衛生な状況が生まれやすい環境がありますが、対策は考えられているのでしょうか。施設が整備されていれば公立に通わせたいと考えるのですが。
（女性、50代、東葛飾地域）
- 小中学校の環境について、市だけでは格差があるので、県で支援してほしい（エアコンやトイレなどの設備、給食の価格や内容・人員）。
（女性、30代、千葉地域）
- 学校施設の整備について、千葉市内の学校では体育館の雨もり等があるにもかかわらず予算の関係とかで、なかなか直してもらえないと聞きました。給食費無償化より雨もりを直す方が先ではないのですか？
（男性、20代、千葉地域）

■国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる

- 外国人との共生を目指した行政をもっと強く進めて欲しい。昨今、一部に顕著になってきている外国人嫌悪、排外主義にきちんと対峙してもらいたい。日本の成長に外国人の労働力は不可欠である。そうである以上、彼らが日本で安心して、幸せな生活を送ることが、我が国の社会の維持、発展につながる。ひいては、それが国の名誉、国際的評価にもつながる。
（男性、40代、葛南地域）
- 千葉県も労働力不足により、海外からの人材確保は避けられない状況かと思いますが、日本で働くにあたり、共生するために最低限、日本の風習やルールを守ってほしいです。入国に際しての基準や期間など設けるなどしてほしいと思います。
（女性、40代、葛南地域）
- 日本国籍を持つ日本人に厳しく、そうでない人に共存だからとその国の言葉も学ばずルールも守れない方々へ甘くすることだけはやめていただきたい。こちら側がきちんと言葉でこちらの主義主張を話せるよう対応していただきたい。共存をする前に課題があると思う。
（女性、50代、東葛飾地域）

■犯罪防止対策をすすめる

- 近所は老人世帯が多いのですが、皆さん、強盗被害におびえておられます。県でも引き続き対策をお願いします。
（女性、40代、東葛飾地域）
- 千葉県は海外との玄関口である点を踏まえ、不法滞在外国人の対策を強化していただきたい。
（男性、30代、千葉地域）
- 外国人のヤード設置の許可を慎重にしてください。産廃のリサイクル業者の許可も慎重にしてください（特に外国人の違法操業）。
（男性、70～74歳、印旛地域）

■高齢者の福祉を充実する

- 物価がどんどん上がり、高齢者の生活をおびやかしている。安心して暮せる、支援をお願いします。
（女性、60～64歳、千葉地域）
- 今、高齢者といわれる年齢になって、もし車の運転ができなくなったら不安です。高齢者にさらにやさしい町づくりをお願いします（グリーンバスの増便・介護制度）。
（女性、70～74歳、東葛飾地域）
- 年老いた親の介護問題について相談できる窓口が欲しいと感じます。
（女性、40代、君津地域）

■医療サービス体制を整備する

- 医療体制の整備を早急にして頂きたいです。 （女性、75歳以上、千葉地域）
- かかりつけ医がないと、コロナの疑いがある時に、診てもらうことができませんでした。かかりつけ医以外でも診てもらえるような制度がほしいです。 （女性、40代、葛南地域）
- 精神科医療及び入院施設の拡充をお願いします。今回妻の入院先が決まらず、大変な苦勞でした。 （男性、75歳以上、東葛飾地域）

「世論調査」に関する意見を自由に記述していただいたところ、55人から55件の回答が寄せられた。人数・件数には前問の「設問への意見」に記入された世論調査への意見も含む。

これらのご意見から、一部抜粋してご意見を記載するものとする。

■世論調査について

—《世論調査自体への意見》

- 日常生活で余り考えずに生活していましたが、いろいろと考える機会になりました。いろいろと知らないこともあり勉強になりました。（女性、70～74歳、東葛飾地域）
- 千葉県にもっと住みやすくなるために提案できるようにしてほしい。このアンケートもたくさんの方に回答してほしいと思いました。（女性、50代、千葉地域）
- パブリックコメントを積極的に提案するタイプではないので、直接意見表明する機会をいただきましてありがとうございました。（男性、65～69歳、東葛飾地域）
- 県政に関する世論調査がこのような形で行なわれているのは知らなかったです。活動に感謝します。より良い街づくりのため住民の声を大切にしてほしいです。（女性、50代、東葛飾地域）
- これからも県民の声を聞く機会を増やして下さい。（男性、65～69歳、千葉地域）
- 結果を集計してどこかへ載せてほしい。（女性、40代、千葉地域）

—《調査手法や謝礼への意見》

- ネット回答の場合、回答による分岐が自動で助かった。（男性、20代、東葛飾地域）
- インターネットでの回答方法が難しく、紙でやることにしました。（男性、20代、東葛飾地域）
- インターネット・スマホでの回答メインにすれば、紙や集計はいらない。マイナンバーやポータルを上手くつかえば、無作為からアンケートできるのでは？ 謝礼はポイントとか、今回はあえて紙面で回答（せっかく紙があるので）しました。（男性、50代、山武地域）
- アンケートに結構時間がかかるので、封筒に所要時間を書いて欲しいです。インターネットで回答できるのはありがたいです。（女性、40代、千葉地域）
- 冊子が厚くて折りにくいです。これほど設問、選択肢があるとWebより紙のほうが楽です。（女性、30代、千葉地域）
- チーバくんのペン嬉しかったです！大切に使います。（女性、20代、千葉地域）

問 今までの設問について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

今回のアンケート調査における「設問に関する意見」を自由に記述していただいたところ、208人から42件の回答が寄せられた。「県や世論調査への意見」に記述された意見のうち、「設問への意見」に該当するものもこちらに振り分けている。なお、回答者数より記述件数が少ないのは、その多くが「県や世論調査への意見」に該当するものであったため、そちらに振り分けたことによるものである。

- 県政への要望、どれをとっても大切なことで、同時に力を入れて欲しいと思いました。選ぶのが大変でした。（女性、60～64歳、千葉地域）
- 問50、51（県政への要望）は重要だと思いましたが、選択可能な項目数が少なく意見の実際を反映できなかった。（女性、65～69歳、葛南地域）
- 県政の要望については、どれも力をいれているように思えます。一つ4の「交通事故から県民を守る」に○をつけましたが、これも力をいれていると思います。（男性、50代、葛南地域）
- 設問多すぎです。（男性、30代、千葉地域）
- 質問も選択肢も多く、内容が理解しづらいものもあり、回答が苦痛でした。家族に手伝ってもらいました。（女性、75歳以上、東葛飾地域）
- 学生には少し内容が難しいと感じる質問がいくつかありました。（女性、18～19歳、千葉地域）
- 千葉県として様々な施策を展開されていることが質問から知ることができましたか、残念ながらそのほとんどが知らないことで、回答出来ませんでした。（男性、70～74歳、葛南地域）
- 障害者への対応について、将来の過ごし方の問い合わせ案に対しての設問がなく、残念だ。芸術、文化などが多くて、興味が無いものが多かった。（女性、50代、山武地域）
- 住んでみたい市などを調査したり今住んでいる市への改善点などを調査すると、どこの市が魅力的で改善点が必要なところがどこか分かります。（女性、30代、千葉地域）
- 3つまでとかではなく、もっと選ばせて欲しい選択肢が多々ありました
(性別その他、30代、東葛飾地域)

第 69 回 千葉県政に関する世論調査 調査票

ご回答に当たってのお願い

宛名のご本人様がお答えください。(代筆による回答も可能です。)

回答方法は「郵送」又は「インターネット」のいずれかをお選びいただけます。

令和 7 年 9 月 12 日 (金) までに ご回答をお願いします。

※郵送・インターネット共通

郵送でお答えいただく場合

- この調査票に直接、黒か青のボールペン又は鉛筆でご記入ください。
- 調査票はご記入後、三つ折りにして同封の返信用封筒に入れて、郵便ポストにご投函ください。返信用封筒へのお名前やご住所のご記入、切手は不要です。

インターネットでお答えいただく場合

- ご回答には、右下に貼られた「利用者 ID」「パスワード」が必要になります。
- 「利用者 ID」等は、ランダムに調査票へ貼っており、個人は特定されません。
- インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する必要はありません。
- 手順の詳細は、別添の「インターネット回答操作案内」をご覧ください。
- スマートフォンで、右下の 2 次元コードを読み取ると回答ページに移動します。

ご回答に当たってご不明な点等がございましたら、お手数ですが下記までお問い合わせください。

【調査の趣旨・内容について】

千葉県 総合企画部報道広報課 広聴室
〒260-8667
千葉市中央区市場町1番1号
電話 043-223-2469
(平日 9:00~17:00)



千葉県マスコットキャラクター
チーパくん

【調査票の記入方法・締切等について】

調査実施機関
株式会社マーケティングリサーチサービス
〒170-0005
東京都豊島区南大塚2-45-8
ニッセイ大塚駅前ビル 5階
電話 03-6690-0086
(平日 10:00~18:00)



【環境と生活について】

問1 あなたは、現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思いますか。

n=1,486 (○は1つ)

- | | | |
|------|------------------------|---------|
| 72.7 | 住み続けたい | |
| 5.7 | 千葉県内のよそへ移りたい | |
| 5.3 | 千葉県外に移りたい | |
| 4.6 | 千葉県内、県外どちらでもかまわないう移りたい | |
| 11.2 | わからない | 0.5 無回答 |

→ (問1で「1」とお答えの方に)

問1-1 あなたが現在お住まいの地域に、ずっと住み続けたいと思う理由は何ですか。

n=1,080 (○は3つまで)

- | | | |
|------|---|-----------|
| 14.3 | 地域の人とのつながりを大切に考えているから | |
| 17.5 | 家族の思い出がつまっているから | |
| 39.6 | 生活環境に満足しているから | |
| 59.4 | 自分の土地や家があるから | |
| 32.6 | 通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性がよいから | |
| 7.1 | 公共施設(道路や上下水道、公園や図書館など)や教育・子育て、文化の環境が整っているから | |
| 19.9 | 自然環境や気候に恵まれ暮らしやすいから | |
| 8.6 | 治安や風紀がよいから | |
| 35.2 | 住み慣れていて愛着があるから | |
| 19.9 | 家族や親族が近くににいるから | |
| 5.2 | 仕事や商売に都合がよいから | |
| 1.8 | その他(具体的に |) 0.0 無回答 |

→ (問1で「2」～「4」のいずれかをお答えの方に)

問1-2 あなたが現在お住まいの地域から移りたいと思う理由は何ですか。

n=232 (○は3つまで)

- | | | |
|------|---|-----------|
| 29.7 | そのときどきの家族の状況(子どもの成長、親の面倒を見るなど)に合った住まいを考えているから | |
| 40.1 | 生活環境をより良くしたいから | |
| 13.8 | より良質で広い住宅に住みたいから | |
| 3.9 | 近所の人とのつきあいがうまくいってないから | |
| 37.5 | 通勤や通学、買い物、医療など日常生活の利便性が悪いから | |
| 18.5 | 公共施設(道路や上下水道、公園や図書館など)や教育・子育て、文化の環境が整っていないから | |
| 8.6 | 自然環境に恵まれていないから | |
| 6.5 | 治安や風紀が悪いから | |
| 7.8 | 住み慣れておらず愛着を感じないから | |
| 10.3 | 家族や親族の近くに住みたいから | |
| 6.0 | 仕事や商売に都合が悪いから | |
| 13.4 | その他(具体的に |) 0.4 無回答 |

問2 あなたは、千葉県内の道路状況についてどう感じですか。 n=1,486 (○は1つ)

1.9 大変満足している	23.6 どちらともいえない	11.6 大変不満である
29.5 まあ満足している	27.5 やや不満である	3.6 わからない
		2.4 無回答

問3 あなたは、今後、道路整備をしていく上で、優先的に対策すべき課題は何だと思いますか。 n=1,486 (○はいくつでも)

50.3 災害や事故に強い道路整備（高速道路の整備（暫定2車線の4車線化含む）、幹線道路の整備、橋の補強、法面補強など）
47.0 渋滞対策（バイパスの整備、開かずの踏切対策、交差点の改良など）
38.5 交通事故対策（通学路の歩道設置など）
30.6 バリアフリー対策（歩道の段差の解消など）
30.8 自転車利用の促進（自転車道・駐輪場の整備など）
26.1 バスなどの公共交通機関への支援（バスレーンの整備など）
15.1 既存道路をうまく使う（アクアライン通行料金引下げの継続、混雑等に応じた柔軟な料金体系、インターチェンジの増設など）
11.3 休憩施設の整備・機能の強化（道の駅等の防災機能や休憩機能の強化など）
28.8 維持管理の充実（清掃など日常的な維持管理、老朽化した橋の予防対策など）
15.9 わかりやすい案内標識などの整備
16.2 道路景観の改善（電線類の地中化、植樹など）
11.8 大気汚染や騒音などの環境対策
7.3 デジタル化の推進（渋滞などカーナビ情報の充実、点検ドローンなどの最新技術の活用など）
6.6 その他(具体的に)
0.7 無回答

問4 現在の住生活全般（住まい・環境・地域社会）についてどう感じですか。 n=1,486 (○は1つ)

7.3 大変満足している	17.0 どちらともいえない	2.6 大変不満である
59.5 まあ満足している	12.0 やや不満である	0.8 わからない
		0.9 無回答

問5 高齢期における住まいで重要なことは何だと思いますか。

n=1,486 (○は3つまで)

30.8 バリアフリー化された住宅（手すりがある、段差が少ないなど）	13.3 近所付き合いや地域の支え合いがある
19.6 見守り装置・緊急通報装置がある住宅	14.9 福祉サービスについて行政からの情報が得やすい
17.4 耐震性や防犯性が高い住宅	6.5 参加しやすいコミュニティ活動やサークル活動がある
57.4 近くに買い物できる場所がある	2.8 地域に若い世代がいる
52.4 近くに医療施設や福祉施設がある	17.4 治安・風紀がよい
12.1 住宅周辺の道が歩きやすい（段差や坂が少ない、安全な道路など）	1.0 その他(具体的に)
33.6 公共交通機関を利用しやすい	0.3 無回答
10.8 近くに家族や親戚がいる	

問6 あなたは、高齢期を迎えたとき、どのような住宅に住みたいと思いますか。
n=1,486 (○は1つ)

65.7	住み慣れた住宅に住み続けたい		
13.5	バリアフリー化など、高齢者向けに配慮された賃貸住宅に住み替えたい		
4.3	同世代の高齢者たちが支え合って生活するグループリビングなどに住み替えたい		
11.4	将来、介護を受けることを想定して、元気なうちから早めにケア付き住宅などに住み替えたい		
3.1	その他（具体的に	2.1	無回答

問7 高齢期に備え、あなたがお住まいの住宅の建て替え、買い替え、リフォームなどが必要だと思いませんか。予定の有無にかかわらずお答えください。
n=1,486 (○は1つ)

34.9	そう思う	12.4	そう思わない
32.8	どちらかといえばそう思う	9.1	わからない
9.2	どちらかといえばそう思わない	1.5	無回答

問8 あなたは、地球温暖化問題にどの程度関心がありますか。n=1,486 (○は1つ)

34.9	とても関心がある	20.9	ふつう	1.3	全く関心がない
38.3	ある程度関心がある	3.4	あまり関心がない	1.2	無回答

問9 日常生活の中で環境に配慮して行動していますか。n=1,486 (○は1つ)

23.3	いつも配慮している	10.9	あまり配慮していない	4.2	わからない
55.7	ときどき配慮している	3.5	特に配慮していない	2.4	無回答

問10 あなたは、普段の生活で環境に配慮した次のような取組を行っていますか。
n=1,486 (○はそれぞれ1つずつ)

	実施している	ときどき実施している	あまり実施していない	実施していない	該当するものがない	無回答
(ア) 節電に努めている	45.0	41.0	10.3	1.5	0.4	1.8
(イ) 冷暖房の設定温度を控えめにする	52.5	28.2	11.8	5.0	0.9	1.6
(ウ) 省エネルギー性能の高い家電製品を選ぶ	33.0	34.4	20.4	7.3	2.7	2.3
(エ) マイバッグの利用	79.8	11.3	4.4	2.6	0.4	1.4
(オ) 車の急発進・急ブレーキはしない	61.7	10.0	3.2	1.4	19.9	3.8

問11 あなたは、「食品ロス」の削減に取り組んでいますか。n=1,486 (○は1つ)

47.2	取り組んでいる	8.5	あまり取り組んでいない	2.3	わからない
39.5	ときどき取り組んでいる	1.3	取り組んでいない	1.1	無回答

問12 あなたは、普段の生活で食品ロスの削減に向けた次のような取組を行っていますか。
n=1,486(○はそれぞれ1つずつ)

	取り組んでいる	取り組んでいるときどき	取り組んでいないあまり	取り組んでいない	わからない	無回答
(ア) 食べきれる量を購入、調理している	65.6	26.2	5.0	0.8	1.1	1.3
(イ) 賞味期限切れでもすぐには捨てず、自分で判断している	67.7	23.5	3.8	2.7	0.6	1.7
(ウ) 冷蔵庫等の食材の在庫をこまめに確認している	49.7	35.1	9.8	2.5	1.3	1.6
(エ) 外食時、食べきれる量を注文している	85.3	9.2	2.1	0.5	1.1	1.7
(オ) お店に了承を得て残った料理を持ち帰っている	21.9	16.3	15.3	33.5	10.2	2.8
(カ) 宴会終了直前・終了後に残った料理を食べるようにしている	26.3	23.8	16.1	17.4	13.1	3.3

問13 「ちば食品ロス削減エコスタイル」※を知っていますか。n=1,486(○は1つ)

3.2 内容をよく知っている	74.7 内容も言葉も知らない
21.0 内容はよく知らないが、言葉は聞いたことがある	1.1 無回答

※ 「ちば食品ロス削減エコスタイル」とは、食品ロスを減らすために、身の回りでできることを実践するライフスタイルのことです。

→ (問13で「1」、「2」のいずれかをお答えの方に)

問13-1 どのような方法で「ちば食品ロス削減エコスタイル」を知りましたか。

n=360(○はいくつでも)

47.5 ちば県民だより	6.4 ホームページ(インターネット)
8.6 イベントなどで配布されたリーフレット	31.4 市町村の広報誌等
25.3 店のポスターやステッカーなどの掲示物	3.6 その他(具体的に)
	1.7 無回答

(すべての方に)

問14 これまでに環境保全に関する講演やセミナー(オンラインでの参加を含む)、あるいは環境ボランティア活動(植林や清掃活動など)に参加したことがありますか。
n=1,486(○は1つ)

13.4 参加したことがある	
29.8 参加したことはないが、機会があれば参加してみたい	
30.4 参加したことはなく、あまり参加したいと思わない	
23.8 参加したことはなく、今後も参加するつもりはない	
1.1 その他(具体的に)	1.5 無回答

問15 消費生活全般（消費者トラブルの相談体制、消費者教育の機会、悪質商法への対策、生活必需品の安定供給など）について、どうお感じですか。

n=1,486（○は1つ）

1.3 大変満足している	38.0 どちらともいえない	3.0 大変不満である
15.5 まあ満足している	7.8 やや不満である	33.4 わからない
		1.1 無回答

問16 あなたは、消費者トラブルなどの相談窓口であり、出前講座等も実施している「県の消費者センター」や「市町村の消費生活センター」を知っていますか。

n=1,486（○は1つ）

15.9 名前も業務内容も知っている
50.7 名前は聞いたことがあるが、業務内容までは知らない
32.6 名前も業務内容も知らない
0.9 無回答

問17 市民活動団体※の活動や、ボランティア活動に関心がありますか。

n=1,486（○は1つ）

5.2 大変関心がある	46.8 あまり関心がない
36.9 まあ関心がある	10.4 まったく関心がない
0.7 無回答	

※ 「市民活動団体」とは、市民の自発性に基づき、福祉や子育て支援、まちづくり、環境等様々な分野の地域課題の解決のために、自立的・継続的に社会貢献活動を行う営利を目的としない団体（行政が認証したNPO法人やボランティア団体等任意団体）です。

問18 市民活動団体の活動に参加※したことがありますか。 n=1,486（○は1つ）

3.6 定期的に参加している	11.4 参加したことはないが、今後参加してみたいと思う
4.9 ときどき参加している	65.3 参加したことはない
14.1 参加したことがある	0.6 無回答

※ ここでいう「参加」とは、団体の会員やボランティアとしての参加のみならず、団体への資金・物品・技術・場所等の提供・寄付などの支援を通しての参加や、団体が提供するサービスの利用・イベントへの参加などを指します。

問19 ボランティアとして活動※したことがありますか。 n=1,486（○は1つ）

6.9 定期的に参加している	7.3 活動したことはないが、今後活動してみたいと思う
7.9 ときどき活動している	52.0 活動したことはない
25.4 活動したことがある	0.5 無回答

※ ここでいう「ボランティア活動」とは、市民の自発性に基づき地域や社会に貢献する活動（町会・自治会の活動、PTA活動や学校行事の手伝い、子ども会の活動、交通安全運動、道路や公園等の清掃なども含む）のことであり、市民活動団体が行うボランティア活動への参加のみならず、個人として行うものを含むボランティア活動全般を指します。

問20 あなたは、この1年間に、文化芸術※を鑑賞しましたか。また、鑑賞ではなく、自分で文化芸術活動をしましたか。
n=1,486 (○はそれぞれ1つつ)

※ 「文化芸術」とは、映画（アニメ含む）、音楽（全てのジャンル）、美術（写真・デジタルアート含む）、文芸（マンガ含む）、ダンス、茶道・華道・書道、歌舞伎、地域に伝わる祭り、文化財などを指します。

鑑賞	(ア) 直接の鑑賞 (施設での音楽鑑賞、美術館や博物館での展覧会の鑑賞、舞台公演鑑賞、史跡めぐり、読書、映画館での鑑賞など)	64.7 鑑賞した 34.4 鑑賞しなかった 0.9 無回答
	(イ) オンラインやテレビでの鑑賞	66.8 鑑賞した 28.5 鑑賞しなかった 4.7 無回答
活動	(ウ) 直接の文化芸術活動 (創作、音楽の演奏や舞台等への出演、習い事、趣味を同じくするグループでの活動、地域の祭りや体験活動への参加など)	24.0 活動した 74.6 活動しなかった 1.4 無回答
	(エ) オンラインでの文化芸術活動 (動画や写真の投稿、デジタルアートの創作など)	10.2 活動した 87.2 活動しなかった 2.6 無回答

(問20 (ア) (イ) のいずれかで「2」をお答えの方に) <-----

問20-1 「鑑賞しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。

n=641 (○はいくつでも)

24.3	文化芸術の鑑賞に興味がないから
32.8	時間がないから
22.5	近くに鑑賞できる文化施設がないから
20.7	鑑賞に関する情報を得られないから
28.5	興味のある内容の催し物がないから
18.4	都合の良い日時に開催されていないから
10.0	催し物の料金が安いから
8.9	Web環境が整っていない、又はWeb上でのチケット購入などの手続きが難しいから
1.9	施設のバリアフリー対策や情報提供、サポートが不十分だから
6.4	その他(具体的に)
3.9	無回答

(問20 (ウ) (エ) のいずれかで「2」をお答えの方に) <-----

問20-2 「活動しなかった」とお答えの主な理由は何ですか。

n=1,352 (○はいくつでも)

21.7	文化芸術の活動に興味がないから
36.0	時間がないから
14.3	近くに活動のための文化施設がないから
23.7	活動に関する情報を得られないから
23.9	興味のある内容の活動がないから
15.5	都合の良い日時に取り組みたい活動が開催されていないから
7.5	活動のための料金や費用が高いから
1.3	施設のバリアフリー対策や情報提供、サポートが不十分だから
8.9	その他(具体的に)
3.2	無回答

問21 あなたは、千葉県において、文化芸術に触れ、自ら取り組むための環境が整っていると
思いますか。 n = 1,486 (○は1つ)

3.5	そう思う	14.5	どちらかといえばそう思わない
14.5	どちらかといえばそう思う	8.0	そう思わない
28.5	どちらともいえない	29.3	わからない
		1.5	無回答

【健康について】

問22 あなたは、積極的に健康づくり※に取り組んでいますか。 n = 1,486 (○は1つ)

23.9	そう思う	8.7	どちらかといえばそう思わない
39.2	どちらかといえばそう思う	5.5	そう思わない
19.7	どちらともいえない	1.7	わからない
		1.2	無回答

※ ここでいう「健康づくり」とは、適度な運動やバランスの取れた食事、禁煙等の県民一人ひとりによる主体的な取組を指します。

問23 あなたは、自分が住み慣れた地域で安心して受診できる医療体制にあると思
いますか。 n = 1,486 (○は1つ)

25.5	そう思う	9.6	どちらかといえばそう思わない
37.5	どちらかといえばそう思う	7.5	そう思わない
15.4	どちらともいえない	3.2	わからない
		1.3	無回答

問24 「かかりつけ医」、「かかりつけ歯科医」、「かかりつけ薬剤師・薬局」をお持ち
ですか。 n = 1,486 (○はそれぞれ1つずつ)

かかりつけ医	かかりつけ歯科医	かかりつけ薬剤師・薬局
64.8 持っている	71.7 持っている	51.5 持っている
26.5 持っていないが、必要 性は強く感じている	19.9 持っていないが、必要 性は強く感じている	26.4 持っていないが、必要 性は強く感じている
7.6 持っていないし、必要 性もあまり感じてい ない	5.7 持っていないし、必要 性もあまり感じてい ない	19.1 持っていないし、必要 性もあまり感じてい ない
1.1 無回答	2.7 無回答	3.0 無回答

【医療について】

問25 あなたは、千葉県内の医療についてどう感じですか。 n=1,486 (○は1つ)

6.2 非常に満足している	18.8 やや不満である	14.3 わからない
54.3 まあ満足している	4.2 非常に不満である	2.2 無回答

問26 あなたが今後、県に力を入れて欲しい医療について次の中から選んでください。 n=1,486 (○は3つまで)

30.6 がん医療	5.3 糖尿病
19.1 循環器（心臓病・脳卒中）医療	18.0 災害時における医療
32.9 救急救命医療	6.2 新興感染症
28.1 在宅（訪問）医療	14.4 オンライン診療
6.2 精神科（救急）医療	2.8 その他（具体的に
11.2 小児科（救急）医療	5.2 特になし
6.9 産科・周産期医療	1.7 無回答
24.6 老年医療	
27.3 地域単位の医療（その地域で完結する医療全般）	

問27 あなたは、AED（自動体外式除細動器）※という機器について見聞きしたり、使ったことがありますか。 n=1,486 (○は1つ)

※ AED（自動体外式除細動器）とは、心臓がけいれんし血液を流すポンプ機能を失った状態（心室細動）になった心臓に対して、電気ショックを与え、正常なリズムに戻すための医療機器です。

48.8 見たり聞いたりしたことがある	0.9 実際に倒れた人に使ったことがある
42.5 使い方を学んだことがある	6.5 1～3※のいずれもない
	1.2 無回答

※ 1～3とは、「見たり聞いたりしたことがある」、「使い方を学んだことがある」、「実際に倒れた人に使ったことがある」を指します。

問28 あなたは、もし、見知らぬ人が目の前で突然倒れた場合、その場にAEDがあれば、その人にAEDを使用することができると思いませんか。 n=1,486 (○は1つ)

39.0 できると思う	59.7 できないと思う	1.3 無回答
-------------	--------------	---------

【福祉について】

問29 以下について、お住まいの地域はどのような状況だと思いますか。

n=1,486 (○はそれぞれ1つずつ)

	そう思う	どちらかといえば そう思う	どちらとも いえない	どちらかといえば そう思わない	そう思わない	わからない	無回答
(ア) 安心して子育てができる環境がととのっている	11.4	37.7	22.0	5.9	5.8	16.0	1.1
(イ) 自分が介護の必要な状況になっても、現在の自宅や地域で暮らし続けられる環境にある	7.3	26.0	30.1	13.1	11.1	11.5	0.9
(ウ) 多様な社会参加を通じ、社会と関わりを持ちながら高齢者が生活を送っている	6.2	23.9	31.8	11.1	7.9	17.8	1.3
(エ) 地域住民が互いに支え合い、安心して暮らせる地域社会づくりが進められている	4.5	19.7	33.0	13.6	11.2	16.6	1.5

問30 あなたは、県が進めている「お年寄りが安心して暮らせる高齢者施策」についてどうお感じですか。ご自身以外でも、ご家族やご近所の方など、身の回り的高齢者を想定してお答えください。

n=1,486 (○は1つ)

1.2 大変満足している	40.2 どちらともいえない	3.8 大変不満である
12.5 まあ満足している	12.8 やや不満である	28.7 わからない
		0.7 無回答

→(問30で「4」～「6」のいずれかをお答えの方に)

問30-1 その主な理由は何ですか。

n=674(○は3つまで)

18.8 施設利用や訪問介護など、必要な介護サービスが受けられないと感じるから	
23.0 高齢者が安心して医療を受けられる体制の整備が進んでいないと感じるから	
17.1 地域での見守りや高齢者が集まる通いの場などが不足していると感じるから	
14.7 高齢者が意欲・能力に応じて働き続けることができる環境の整備が不足していると感じるから	
21.7 住まいの整備や歩道等のバリアフリー化など、高齢者が安心して暮らせるまちづくりが進んでいないと感じるから	
13.5 高齢者が被害者となる犯罪が発生していると感じるから	
67.1 県がどのような高齢者施策を進めているか知らないから	
6.8 その他(具体的に)	1.5 無回答

問31 障害のある・なしにかかわらず、誰もが社会の一員としてお互いを尊重し、支え合って暮らす「共生社会」という考え方を知っていますか。n=1,486 (○は1つ)

31.0 知っている	40.4 言葉だけは聞いたことがある	26.9 知らない	1.8 無回答
------------	--------------------	-----------	---------

【県の農林水産物について】

問32 千葉県産農林水産物を購入したいと思いますか。 n=1,486 (○は1つ)

56.2	そう思う	4.4	どちらかといえばそう思わない
36.0	どちらかといえばそう思う	2.9	そう思わない
		0.5	無回答

→ (問32で「1」、「2」のいずれかをお答えの方に)

問32-1 その主な理由は何ですか。 n=1,370 (○は1つ)

23.6	千葉県に愛着があるから	3.2	価格が安いから	
40.0	鮮度が良い(美味しい)から	2.6	その他(具体的に)
22.5	地元のものは安心だから	6.7	特に理由はない	1.4 無回答

→ (問32で「3」、「4」のいずれかをお答えの方に)

問32-2 その主な理由は何ですか。 n=109 (○は1つ)

38.5	産地にこだわらず価格で選ぶから	2.8	その他(具体的に)
33.9	産地にこだわらず旬や鮮度で決めるから	18.3	特に理由はない	
3.7	千葉県以外で買いたい産地があるから	2.8	無回答	

問33 千葉県では、農薬や化学肥料をできるだけ減らすなど、「環境にやさしい農業に取り組む農業者」や「環境にやさしい農産物」についての認証制度を設けています。次の農産物や制度を知っていますか。

※同封の資料①を参考にご回答ください。 n=1,486(○はいくつでも)

19.0	ちばエコ農産物	13.2	エコファーマー	
35.9	有機農産物	2.4	みどり認定者	
8.1	特別栽培農産物	51.0	どれも知らない	1.7 無回答

問34 「千葉ブランド水産物」を知っていますか。 n=1,486 (○は1つ)

1.8	よく知っている(認定マークや品目までわかる)	69.0	知らない
28.5	多少は知っている(聞いたことがある)	0.7	無回答

※ 千葉県では、千葉のさかなの認知度を高め、広く県内外にアピールするため、「銚子つりきんめ」、「外房イセエビ」、「九十九里地はまぐり」などの優良な県産水産物を「千葉ブランド水産物」として認定しています。



【防災に関する取組について】

問35 災害発生危険度の危険度と、取るべき避難行動を示す各警戒レベルの意味や、その際に取るべき行動について知っていますか。
n = 1,486 (○は1つ)

5.2 よく知っている（それぞれのレベルの意味までわかる）
36.6 大体知っている（レベルにより取るべき行動が異なることを知っている）
46.2 ある程度知っている（言葉を聞いたことがある）
10.2 全く知らない
1.7 無回答

令和3年5月20日から災害対策基本法の一部改正に伴い、住民の方へ伝達される避難情報の伝え方が変更されました。今後、お住まいの地域で「警戒レベル4 避難指示」が発令された場合は、「危険な場所から全員避難」となります。お近くの避難所の位置や避難経路の確認を行うなど、災害に備えていただきますようお願いします。

問36 あなたの家では、災害時に利用できる食料品等を何日分用意していますか。
n = 1,486 (○はそれぞれ1つずつ)

＊飲料水 1日分＝1人当たり3リットル×家族の人数 ＊トイレ 1日分＝1人当たり1日5回分×家族の人数	4日分以上	3日分	2日分	1日分	用意していない	わからない	無回答
(ア) 食料品	18.0	30.8	19.5	9.8	16.2	4.8	0.9
(イ) 飲料水	28.6	27.7	16.3	10.4	13.2	3.0	0.9
(ウ) 災害用トイレ（携帯・簡易トイレ）	16.5	13.6	10.8	9.7	44.7	4.0	0.7

問37 あなたは、地震や台風などの災害に備えて、次の対策を行っていますか。
n = 1,486 (○はいくつでも)

43.0 家具（冷蔵庫、食器棚、本棚、タンス、テレビなど）の固定化
54.4 避難場所・避難経路の確認
34.7 家族等との安否確認手段（災害用伝言ダイヤル、SNS等）の確認
19.8 上記の対策はどれも行っていない
0.8 無回答

大規模な災害が発生した場合、避難所に飲料水や食料などの支援物資が届くまで時間がかかることや、断水や停電、給排水管の損壊、し尿処理施設の被災により、水洗トイレが使用できなくなることが予想されます。また、固定電話や携帯電話（音声及びメール）は、回線が大変混雑し、つながりにくくなることがあります。日頃から防災に対する意識を高めましょう。



【公金のキャッシュレス化の推進について】※同封の資料②を参考にご回答ください。

県では、収納方法について、県民の皆様の利便性や事務の効率性の観点から「キャッシュレス化の推進」に向けて取り組んでいます。

問38 あなたは、税金や使用料・手数料などの県の公金の納付に当たり、不便と感
じることがありますか。 n=1,486 (○は1つ)

19.7 不便に感じる	58.2 不便に感	20.2 わ
1.9 無		

→ (問38で「1」とお答えの方に)

問38-1 あなたは、公金の納付に関して、特に、どの場面のキャッシュレス決
済を拡大すべきだと思いますか。 n=293 (○は1つ)

55.6 公共施設における窓口での支払い
16.0 収入証紙による使用料・手数料の支払い
18.1 インターネット(ちば電子申請サービスなど)での申請に係る使用料・手数料の支払い
7.5 その他(具体的に) 2.7 無回答

問39 あなたは、公金の納付に関し、収入証紙に代えて、どのような納付方法が便利だ
と思いますか。 n=1,486 (○はいくつでも)

38.2 インターネット(ちば電子申請サービスなど)での申請で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い
52.9 届いた納付書で、使用料・手数料をスマホ決済アプリ、クレジットカード等により支払い
16.8 県の各施設窓口で、キャッシュレス決済端末により支払い
24.8 県の各施設窓口で、現金により支払い
3.6 その他(具体的に) 2.9 無回答

【生涯学習について】※同封の資料③を参考にご回答ください。

県では、人生 100 年時代到来や技術革新など、社会が大きく変化する中、新しい時代に合った生涯学習を推進していくため、今後の施策推進の参考にいたします。

問40 あなたは、今後、学習したいと思うことはありますか。

n = 1,486 (○はいくつでも)

- 63.5 自分の人生を豊かにするための学習（趣味や教養的なもの）
- 17.2 仕事や就職の上で役立つ学習（ビジネス基礎や様々な業種の基礎的知識）
- 20.1 仕事や就職の上で役立つ学習（専門的知識や実践的技術）
- 27.3 家庭や日常の生活に役立つ学習（子育て、料理、編み物など）
- 51.7 健康の維持・増進に役立つ学習（健康法、医学、栄養、ジョギングなど）
- 13.1 地域や社会での活動に役立つ学習（活動の指導者やボランティアなど）
- 1.9 その他（具体的に
- 13.2 学習したいとは思わない 1.5 無回答

問41 学習する上で困っていることは何ですか。

（問40で「8」と回答した方は、学習したいとは思わない理由をお答えください。）

n = 1,486 (○はいくつでも)

- 25.8 仕事が忙しくて時間がない
- 12.8 家事・育児・介護などが忙しくて時間がない
- 12.8 講座などの時間帯が希望に合わない
- 15.9 学習したいことを身近で学習する場がない
- 17.6 学習するのに必要な情報（内容・時間・場所・費用など）が入手できない
- 21.1 学習するための費用がかかる
- 5.9 一緒に学習する仲間がいない
- 3.5 学習しても職場や社会で評価されない
- 19.4 きっかけがつかめない
- 9.2 何を学習したらよいかわからない
- 1.8 その他（具体的に
- 12.4 特に困っていない（必要がない） 21.2 無回答

問42 あなたは、生涯学習の情報をどこから得ていますか。n = 1,486 (○はいくつでも)

- 0.6 千葉県生涯学習情報提供システム「ちばりすネット plus」
- 12.3 県や市町村、公民館などのホームページやSNS
- 31.0 県や市町村、公民館などが発行する広報誌
- 20.6 新聞、雑誌、フリーペーパーなど民間で発行している広報誌
- 10.5 チラシ、ポスター
- 9.8 テレビ、ラジオ
- 17.0 知人・同僚・家族などからの口コミ（SNS含む）
- 3.2 公民館や生涯学習センターなどでの学習相談
- 2.4 その他（具体的に
- 36.5 特に情報を得ていない 2.4 無回答

【SDGs・多様性尊重等について】

問43 あなたは、SDGs※の言葉の意味を知っていますか。 n=1,486 (○は1つ)

20.0 意味をよく知っている	25.0 言葉を聞いたことはあるが、意味は知らない
43.4 意味を大体知っている	10.2 言葉を知らない 1.5 無回答

※ SDGs (Sustainable Development Goals: 持続可能な開発目標) とは、2015年9月の国連サミットで採択された2030年を達成年限とする世界共通の目標です。「誰一人取り残さない」という理念を掲げ、経済・社会・環境の三側面の調和がとれた開発のため、17のゴールから構成されます。

問44 「ダイバーシティ※」という概念を知っていますか。 n=1,486 (○は1つ)

49.3 はい	49.1 いいえ	1.6 無回答
---------	----------	---------

※ 「ダイバーシティ」とは、多様性のことをいい、性別や国籍、年齢、障害の有無などに限りなく、多様な個性が力を発揮し、共存できる社会のことを「ダイバーシティ社会」といいます。

→ (問44で「1」とお答えの方に)

問44-1 千葉県で「ダイバーシティ社会」が実現できていると思いますか。

3又は4を選んだ方は、その理由をご記載ください。(任意)

n=733 (○は1つ)

5.3 そう思う
64.0 どちらかといえばそう思う
20.6 どちらかといえばそう思わない(その理由)
9.3 そう思わない(その理由)
0.8 無回答

問45 あなたは、「千葉県多様性が尊重され誰もが活躍できる社会の形成の推進に関する条例」(多様性尊重条例)※を知っていますか。 n=1,486 (○は1つ)

1.3 内容も含め、よく知っている	24.4 内容はよく知らないが、聞いたことはある
6.8 内容も含め、ある程度知っている	65.9 知らない 1.7 無回答

※ 多様性尊重条例とは、あらゆる人々が差別を受けることなく、一人ひとりが様々な違いがある個人として尊重され、誰もが参加し、その人らしく活躍することができる社会の形成を推進するために制定した理念条例であり、令和6年1月から施行されています。

問46 社会全体※で男女の地位は平等になっていると思いますか。 n =1,486 (○は1つ)

- 8.1 男性が非常に優遇されている
- 52.5 どちらかといえば男性が優遇されている
- 13.5 平等
- 7.5 どちらかといえば女性が優遇されている
- 1.9 女性が非常に優遇されている
- 15.1 わからない
- 1.5 無回答

※ 社会全体とは、家庭、職場、学校教育の場、政治の場、法律や制度上、社会通念・慣習、地域活動の場等のあらゆる分野を想定しています。

問47 男女共同参画社会を実現するための様々な取組のなかで、今後、県はどのようなことにより力を入れるべきと考えますか。 n =1,486 (○はいくつでも)

- 63.3 子育てや介護中であっても仕事を続けられるよう支援する
- 55.0 子育てや介護でいったん仕事を辞めた人の再就職を支援する
- 50.3 保育及び介護の施設やサービスを充実する
- 38.8 長時間労働の是正や在宅勤務の普及など男女ともに働き方の見直しを進める
- 17.2 県の審議会委員や管理職に女性を積極的に登用するとともに、県内市町村の審議会など政策決定の場に女性を積極的に登用するよう働きかける
- 19.0 政治分野における男女共同参画が進むよう支援する
- 11.5 女性の起業・創業が進むよう支援する
- 15.4 企業や団体等の管理職に女性の登用が進むよう支援する
- 17.5 従来女性が少なかった分野（研究者等）への女性の進出を支援する
- 20.1 女性の視点を踏まえた防災復興の取組を推進する
- 37.3 DV・児童虐待・性暴力等あらゆる暴力に対して対策を強化する
- 15.2 女性・男性の生き方、悩みに関する相談窓口を充実する
- 11.9 男女の平等と相互の理解や協力について学習機会を充実する
- 10.4 男女の平等と相互の理解や協力について広報・PR をする
- 10.5 施策を実施するに当たって企業や民間団体（NPO 等）との連携を推進する
- 4.1 その他（具体的に
- 2.5 無回答

【県の魅力について】

問48 千葉県の魅力は、次のどれだと思いますか。

n = 1,486 (○はいくつでも)

- 5.0 地震や台風など災害への備えがなされている
- 27.0 治安が良く、安心して生活ができる
- 9.4 安心して出産・子育て・教育ができる環境がある
- 16.1 医療施設や福祉施設が充実している
- 3.2 魅力的な企業があり、希望した働き方ができる
- 13.9 地域の祭りや音楽などの文化・芸術が楽しめる
- 14.8 神社・仏閣やまち並みなど歴史を味わえる
- 16.2 ゴルフやサーフィンなどのスポーツを体験できる
- 45.0 新鮮な農林水産物を味わえる
- 47.2 温暖な気候で豊かな自然がある
- 30.9 海水浴や潮干狩り、釣りなどで海を楽しめる
- 33.2 魅力的な観光施設（テーマパーク・水族館・旅館等）がある
- 35.5 道路・鉄道・航空などによる交通アクセスがよい
- 3.4 その他（具体的に
- 6.6 特にない
- 1.5 無回答

【広報について】 ※同封の資料④を参考にご回答ください。

問49 県政に関する情報をどのような手段で得ていますか。n = 1,486 (○はいくつでも)

- 54.0 県広報紙「ちば県民だより」
- 10.3 千葉県ホームページ（パソコン・スマートフォン版）
- 3.7 千葉県ホームページ（携帯版）
- 3.3 県が運用しているSNS「千葉県広報X」「千葉県公式LINE」「チーバくんX」「YouTube 千葉県公式PRチャンネル」等
- 3.0 千葉日報による新聞紙面広報「県からのお知らせ」、「特集」
- 11.6 県の広報テレビ番組（チバテレ）
「千葉県インフォメーション」「ウィークリー千葉県～ちばの旬な話題をお届け～」
- 3.4 県の広報ラジオ番組（BAYFM78）
「サタデー・ブレイジング・モーニング」「チバ・プリフェクチャー・アップデイツ」
- 12.4 5～7以外の新聞記事、テレビ・ラジオの番組やニュース
- 1.7 その他（具体的に
- 28.4 特に情報を得ていない
- 1.7 無回答

【県政への要望】

問50 県政全般について、今後特に力をいれてほしいと思われることを、次の県政への要望項目の中から3つまで選んで番号に○をつけてください。

なお、「問51（19～23ページ）」に具体的要望項目を記載していますので、参考にしてください。

n = 1,486

- 36.5 災害から県民を守る
- 5.5 消費生活のトラブルに関する対策をすすめる
- 9.7 食品の安全を守る
- 8.5 交通事故から県民を守る
- 3.2 中心市街地の活性化を推進する
- 2.2 国際交流・協力や外国人県民との共生をすすめる
- 23.2 公共交通網（バス・鉄道）を整備する
- 6.5 障害のある人の福祉や社会参加の支援を充実する
- 5.0 ひとり親家庭等の福祉を充実する
- 24.3 高齢者の福祉を充実する
- 16.6 次世代を担う子どもの育成支援を充実する
- 4.0 青少年を健全に育てる
- 1.3 男女共同参画を推進する
- 1.4 地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する
- 4.6 健康づくりをすすめて、病気を予防する
- 21.5 医療サービス体制を整備する
- 4.8 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる
- 9.4 自然を守り、緑を育てる
- 9.8 温暖化対策、循環型社会を推進する
- 3.6 廃棄物対策をすすめる
- 3.0 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する
- 2.4 観光を振興する
- 4.8 雇用の場を広げる
- 11.8 仕事と子育てや介護が両立する働き方を実現する
- 4.0 農林水産業を振興し新鮮な農林水産物を供給する
- 14.3 道路を整備する
- 7.7 下水道を整備する
- 4.2 豊かな住生活を実現する
- 3.0 公園・緑地を整備する
- 7.4 安心して飲める良質な水道水を供給する
- 5.5 学校教育を充実する
- 2.0 スポーツを振興する
- 2.2 芸術・文化活動を振興する
- 12.7 犯罪防止対策をすすめる
- 1.5 施策実現や地域活性化のためにDX（デジタルトランスフォーメーション）を推進する
- 3.5 その他（具体的に)
- 1.4 要望はない
- 1.1 無回答

(問50で「1」～「35」のうち1つでもお答えの方は、次の問51にお進みください。

問50で「36」又は「37」だけにお答えの方は、23ページのF 1にお進みください。) ➡

→問51 問50で選んでいただきました県政の要望について、具体的にどのようなことを望まれますか。

問50で選んだ3項目についてのみ、具体的要望項目から1つずつ選んで番号に○をつけてください。

問50の番号及び項目		具体的要望項目（問50で選んだ項目についてのみお答えください）
1 n=543 災害から県民を守る を選んだ方	⇒	10.9 災害対応マニュアルの作成・防災マップ等の公表 44.8 災害時の支援、救援活動 12.2 避難場所・避難経路の整備 9.4 危険箇所の事前解消 5.0 災害に対する意識啓発、情報提供 0.6 放射性物質への対応 1.8 避難所における感染症対策 9.4 災害による停電対策 1.7 その他（具体的に） 4.4 無回答
2 n=81 消費生活のトラブルに 関する対策をすすめる を選んだ方	⇒	51.9 悪質商法などによる消費者トラブルの相談・救済 24.7 悪質な事業者の指導・処分 1.2 食品や生活用品などの適正な表示 1.2 商品・サービスに係る危害・危険の防止 0.0 消費者教育などの消費者の自立支援策の充実 4.9 高齢者や若者等の消費者被害の防止 3.7 安心して相談できる相談窓口などの情報提供 0.0 その他（具体的に） 12.3 無回答
3 n=144 食品の安全を守る を選んだ方	⇒	41.0 食品の安全確保 16.7 適正な食品表示 4.9 検査の強化 0.7 情報提供 31.9 添加物や農薬の規制 1.4 その他（具体的に） 3.5 無回答
4 n=126 交通事故から県民を 守る を選んだ方	⇒	20.6 交通事故多発箇所の点検、整備 15.9 ドライバーのマナー向上 25.4 歩行者通行環境の整備 3.2 交通安全教育の推進 19.0 自転車通行環境の整備 0.8 その他（具体的に） 5.6 自転車利用者のマナー向上 9.5 無回答
5 n=48 中心市街地の活性化を 推進する を選んだ方	⇒	29.2 再開発などのまちづくり推進 54.2 駅周辺の活性化 14.6 商業による活性化 0.0 その他（具体的に） 2.1 無回答
6 n=32 国際交流・協力や外国人 県民との共生をすすめる を選んだ方	⇒	12.5 海外の良い点を県政に反映 9.4 姉妹都市をはじめとする世界との交流・協力 34.4 市民レベルでの文化交流・外国人県民との交流の機会の提供 28.1 外国人県民にも住みやすいまちづくり 9.4 外国人県民向けの多言語による相談窓口・情報提供の充実 3.1 その他（具体的に） 3.1 無回答
7 n=345 公共交通網(バス・鉄道) を整備する を選んだ方	⇒	31.3 鉄道やバスの増便などについて事業者に要望・働きかけ 27.5 鉄道やバス路線の維持のための支援体制の充実 9.0 鉄道新設などによる交通網の見直し 20.6 鉄道とバスとの乗り継ぎの円滑化など利便性向上 2.0 鉄道やバスのバリアフリー化の支援 5.2 その他（具体的に） 4.3 無回答
8 n=96 障害のある人の福祉や 社会参加の支援を充実 する を選んだ方	⇒	22.9 就労・社会参加の促進 17.7 入所施設やグループホームなど住まいの場の充実 20.8 障害のある人が暮らしやすいまちづくり 32.3 経済的な支援・負担の軽減 0.0 その他（具体的に） 6.3 無回答

問50の番号及び項目		具体的要望項目（問50で選んだ項目についてのみお答えください）
9 n=74 ひとり親家庭等の福祉を充実する を選んだ方	⇒	23.0 子育て・生活支援体制の充実 2.7 就業支援体制の充実 51.4 経済的支援体制の充実 2.7 児童の就学・就職支援体制の充実 6.8 養育費の確保に関する支援体制の充実 2.7 その他（具体的に） 10.8 無回答
10 n=361 高齢者の福祉を充実する を選んだ方	⇒	46.3 在宅で暮らし続けるための医療・福祉・生活支援 19.7 特別養護老人ホーム等の入所施設の充実 14.4 高齢者が暮らしやすい住まいやまちづくりの支援 3.9 高齢期を充実して過ごすための生きがい対策 1.7 団塊世代や高齢者等の地域活動参加支援 0.6 高齢者虐待防止対策の強化 3.9 認知症対策の強化 0.6 その他（具体的に） 9.1 無回答
11 n=246 次世代を担う子どもの育成支援を充実する を選んだ方	⇒	63.4 子育てに対する経済的な支援・負担軽減 9.3 地域住民参加の多様な子育て支援・子育て力の充実 7.3 幼稚園や保育所の特長を生かした就学前の子どもの教育・保育の充実 2.8 児童虐待防止対策の推進 10.2 妊娠期から子育て期にわたる支援体制の充実 2.4 その他（具体的に） 4.5 無回答
12 n=60 青少年を健全に育てる を選んだ方	⇒	5.0 青少年のボランティア活動等社会参加の促進 35.0 家庭・学校・地域の連携強化 1.7 専門家による相談窓口の充実 8.3 ネットパトロールの実施・フィルタリング等の促進 21.7 非行・犯罪防止・立ち直り支援 13.3 ニート・ひきこもり等への支援 3.3 その他（具体的に） 11.7 無回答
13 n=19 男女共同参画を推進する を選んだ方	⇒	31.6 男性も女性もともに暮らしやすい社会の構築 5.3 ドメスティック・バイオレンス（DV）やセクハラなどの根絶 5.3 子育てや介護、家庭生活と仕事を両立するための支援・環境整備 0.0 女性の再就職支援 31.6 働く場での男性・女性の均等な機会及び待遇の確保 10.5 政策・方針決定過程（意思決定の場）における男女共同参画の促進 0.0 教育・学習の推進 0.0 女性活躍をテーマとした講演会実施などの広報・啓発活動の推進 0.0 男女共同参画の視点を踏まえた防災・復興への取組 0.0 その他（具体的に） 15.8 無回答
14 n=21 地域課題解決に向けた市民活動や協働の取組を推進する を選んだ方	⇒	42.9 官民連携など、協働の取組推進 28.6 活動を担う人材の育成 0.0 活動を行う団体の活動支援 0.0 市民活動や協働の取組への理解促進 9.5 市民活動への参加促進 4.8 その他（具体的に） 14.3 無回答
15 n=69 健康づくりをすすめて、病気を予防する を選んだ方	⇒	17.4 運動の機会の増大 10.1 心の健康づくり 40.6 高齢者の健康維持 7.2 歯科保健の充実 0.0 受動喫煙対策の推進 10.1 がんその他の生活習慣病対策 10.1 食生活改善の支援 0.0 その他（具体的に） 4.3 無回答

問50の番号及び項目		具体的要望項目（問50で選んだ項目についてのみお答えください）
16 n=320 医療サービス体制を整備する を選んだ方	⇒	23.8 医師・看護職員等医療従事者の確保 10.3 病院と診療所（かかりつけ医）との連携強化 24.4 医療施設の整備 16.3 休日・夜間等時間外診療の充実 14.7 救急医療体制の整備 1.6 未知の感染症発生に備えた対策の充実 3.1 その他（具体的に ） 5.9 無回答
17 n=71 大気汚染、水質汚濁、騒音などの環境対策をすすめる を選んだ方	⇒	18.3 光化学スモッグ・PM2.5対策 0.0 アスベスト対策 18.3 航空機や自動車による騒音・振動に対する対策 19.7 河川・湖沼・海域の水質改善 0.0 建設残土・再生土の適正な埋立て 21.1 環境中に排出される有害な化学物質対策 8.5 その他（具体的に ） 14.1 無回答
18 n=140 自然を守り、緑を育てる を選んだ方	⇒	66.4 自然環境・自然景観の保全 3.6 希少な野生動植物の保全 15.7 特定外来生物の防除 2.9 環境保全に関する啓発・教育 2.1 県民参加での野生動植物調査 2.1 その他（具体的に ） 7.1 無回答
19 n=145 温暖化対策、循環型社会を推進する を選んだ方	⇒	33.1 地球温暖化対策・気候変動適応策に関する啓発・教育 26.2 再生可能エネルギーの導入促進・省エネルギーの推進 0.0 次世代自動車の普及促進 6.2 ごみ分別徹底化 8.3 廃棄物の再資源化促進 13.1 ごみの発生抑制（プラスチックごみの削減、食品ロスの削減など） 4.1 バイオマスの利活用（飼料化・堆肥化・燃料利用など） 1.4 その他（具体的に ） 7.6 無回答
20 n=53 廃棄物対策をすすめる を選んだ方	⇒	54.7 産業廃棄物の不法投棄防止対策 26.4 安心できる廃棄物処理施設の設置 3.8 廃棄物処理に関する広報・啓発活動 3.8 その他（具体的に ） 11.3 無回答
21 n=45 商工業を振興し、地域経済の担い手を育成する を選んだ方	⇒	37.8 新たな企業の誘致、産業拠点の整備 20.0 中小企業への資金支援の充実 8.9 創業及び新たな事業展開の支援 2.2 研究・技術開発の支援 0.0 販路開拓の支援 13.3 商店街の整備・活性化 6.7 その他（具体的に ） 11.1 無回答
22 n=36 観光を振興する を選んだ方	⇒	19.4 観光地域の魅力向上 27.8 観光施設・宿泊施設の充実 19.4 千葉県観光の積極的なPR 13.9 新たな観光コンテンツの開発・磨き上げ 11.1 観光地へのアクセスの改善 0.0 その他（具体的に ） 8.3 無回答

問50の番号及び項目		具体的要望項目（問50で選んだ項目についてのみお答えください）
23 n=72 雇用の場を広げる を選んだ方	⇒	19.4 若年者に対する就業支援 13.9 就職氷河期世代に対する就業支援 38.9 中高年齢者に対する就業支援 6.9 女性に対する就業支援 8.3 障害のある人に対する就業支援 1.4 外国人に対する就業支援 2.8 その他（具体的に） 8.3 無回答
24 n=176 仕事と子育てや介護が 両立する働き方を実現 する を選んだ方	⇒	9.1 女性の再就職支援 4.5 両立支援相談窓口の設置 22.2 ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の普及 11.4 男性の育児休業取得など働き方の見直しの啓発 27.8 短時間勤務制度等多様な働き方の普及 6.8 企業に対する税制上の優遇措置の創設 11.4 一時預かり、時間外保育等保育内容の充実 1.7 その他（具体的に） 5.1 無回答
25 n=60 農林水産業を振興し 新鮮な農林水産物を 供給する を選んだ方	⇒	18.3 新鮮でおいしい農林水産物の供給 15.0 価格の安定 13.3 県産農林水産物の販売量の拡大 38.3 安全で安心して食べられる農林水産物の供給 10.0 その他（具体的に） 5.0 無回答
26 n=213 道路を整備する を選んだ方	⇒	40.8 交通渋滞対策 21.1 交通安全対策（通学路への歩道設置など） 2.3 沿道環境の改善（騒音・排ガス対策・景観形成） 6.1 観光、買い物などを支援する道路の整備 10.8 自然災害に強い道路の整備 12.2 その他（具体的に） 6.6 無回答
27 n=114 下水道を整備する を選んだ方	⇒	46.5 下水道の普及・改善 6.1 水洗化への支援 28.9 下水道施設の耐震化 4.4 その他（具体的に） 4.4 下水の高度処理化 9.6 無回答
28 n=63 豊かな住生活を実現す る を選んだ方	⇒	17.5 安くて入居を拒まれない住宅の整備 28.6 子育て世帯や高齢者世帯に対応した住宅の整備 23.8 防犯や耐震性の向上など、安全で快適な住宅の整備 9.5 住み替えやリフォームに必要な市場の整備や情報の提供 9.5 省エネなど環境に優しい住宅の整備 3.2 その他（具体的に） 7.9 無回答
29 n=44 公園・緑地を整備する を選んだ方	⇒	38.6 公園・緑地等の設置・管理 15.9 公園等の緑化推進 29.5 子どもの遊び場の整備 4.5 公園・緑地等の管理への住民参加の機会充実 0.0 催物・講習会等の開催 6.8 その他（具体的に） 4.5 無回答
30 n=110 安心して飲める良質な 水道水を供給する を選んだ方	⇒	41.8 上水道の水質の改善・維持 10.0 上水道の整備 21.8 水源となる湖沼や川の汚染対策 13.6 上水道施設の耐震化 6.4 その他（具体的に） 6.4 無回答
31 n=82 学校教育を充実する を選んだ方	⇒	50.0 教職員の資質向上・増員 2.4 障害のある幼児児童 6.1 学力の向上 生徒の教育の充実 0.0 健康と体力の向上 12.2 学校施設の整備 3.7 特色ある教育活動の充実 1.2 その他（具体的に） 11.0 道徳や心の教育の充実 11.0 無回答 2.4 いじめ対策・不登校児童生徒支援

問50の番号及び項目		具体的要望項目（問50で選んだ項目についてのみお答えください）
32 n=30 スポーツを振興する を選んだ方	⇒	6.7 指導者育成の支援 26.7 スポーツ活動の充実 3.3 情報提供の充実 43.3 施設の整備・充実 13.3 その他（具体的に ） 6.7 無回答
33 n=32 芸術・文化活動を振興 する を選んだ方	⇒	25.0 文化・芸術にふれる機会の拡充 9.4 文化・芸術に関する情報提供の充実 18.8 文化・芸術活動への支援 12.5 伝統文化や文化財などの継承と活用 18.8 文化施設等の充実 3.1 文化施設等の幅広い活用 3.1 その他（具体的に ） 9.4 無回答
34 n=189 犯罪防止対策をすすめ る を選んだ方	⇒	13.2 警察官によるパトロールの強化 35.4 防犯カメラなどの防犯設備の整備・拡充 2.6 犯罪情報の発信や防犯対策等の広報活動の強化 3.7 警察官や交番相談員の増員による交番の不在時間短縮 5.8 人口や事件が増えている地域に警察署、交番、駐在所の新設 1.1 少年の非行防止対策 23.3 暴力団、来日外国人等による犯罪の防止 1.1 ボランティア、自治会等、地域主導型の防犯組織づくりの 推進 3.7 その他（具体的に ） 10.1 無回答
35 n=23 施策実現や地域活性化 のためにDX(デジタル トランスフォーメーシ ョン)を推進する を選んだ方	⇒	34.8 防災・環境・医療・福祉・健康等に関するDX推進 0.0 子育て・教育等に関するDX推進 4.3 国際交流・文化・スポーツ等に関するDX推進 8.7 観光・商工業・農林水産業・街づくり・交通網の整備等 に関するDX推進 34.8 行政事務の利便性の向上、効率化のためのDX推進 4.3 情報セキュリティ対策の推進 8.7 通信環境（Wi-Fi・5Gなど）の整備促進 0.0 その他（具体的に ） 4.3 無回答

以上で質問は終わりですが、調査結果を統計的に分析するために必要なことがらをお聞かせください。

F 1 あなたの性別は。

n=1,486 (○は1つ)

40.5	男性	55.3	女性	0.1	その他	1.8	回答しない	2.3	無回答
------	----	------	----	-----	-----	-----	-------	-----	-----

F 2 あなたは満何歳ですか。

n=1,486 (○は1つ)

0.7	18～19 歳	17.1	40～49 歳	9.2	65～69 歳	2.3	無回答
6.1	20～29 歳	16.1	50～59 歳	13.5	70～74 歳		
9.2	30～39 歳	8.0	60～64 歳	17.9	75 歳以上		



F 3 あなたのご職業は何ですか。

n = 1,486 (○は1つ)

6.9 自営業者	17.0 主婦・主夫	20.5 無職
28.1 正規社員・職員	2.2 学生	2.6 その他 ()
21.3 パート・アルバイト・契約社員		1.4 無回答

F 4 あなたは、次のどの市町村にお住まいですか。

n = 1,486 (○は1つ)

13.7 千葉市	3.8 佐倉市	1.1 匝瑳市	0.0 勝浦市
4.8 市原市	1.3 四街道市	1.1 東金市	0.6 いすみ市
11.0 船橋市	0.6 八街市	0.5 山武市	0.0 夷隅郡大多喜町
7.4 市川市	1.5 印西市	0.9 大網白里市	0.7 夷隅郡御宿町
2.4 習志野市	1.5 白井市	0.0 山武郡九十九里町	0.6 館山市
3.8 八千代市	0.6 富里市	0.3 山武郡芝山町	0.2 鴨川市
2.3 浦安市	0.7 印旛郡酒々井町	0.0 山武郡横芝光町	0.6 南房総市
7.6 松戸市	0.7 印旛郡栄町	1.7 茂原市	0.5 安房郡鋸南町
2.8 野田市	1.1 香取市	0.6 長生郡一宮町	1.7 木更津市
6.1 柏市	0.0 香取郡神崎町	0.0 長生郡睦沢町	1.5 君津市
3.7 流山市	0.5 香取郡多古町	0.3 長生郡長生村	0.7 富津市
2.7 我孫子市	0.0 香取郡東庄町	0.0 長生郡白子町	0.6 袖ヶ浦市
1.3 鎌ヶ谷市	1.1 銚子市	0.0 長生郡長柄町	1.2 無回答
1.1 成田市	0.1 旭市	0.0 長生郡長南町	

以上で質問はすべて終わりです。

今までの設問について、ご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。

県や世論調査へのご意見やご提案がありましたらご自由にお書きください。



最後までご協力いただき、ありがとうございました。

この調査票を3つ折りにして、同封の返信用封筒に入れて、

9月12日(金)までに、郵便ポストにご投函ください。

なお、返信用封筒へのお名前やご住所の記入、切手は不要です。
(インターネットでお答えいただいた方は、この調査票を返送する必要はありません。)

令和 7 年度

(第69回)

県 政 に 関 す る 世 論 調 査

令和 8 年 1 月 発行

(令和 7 年 8 月 実施)

千葉県総合企画部報道広報課

千葉市中央区市場町 1 番 1 号

(広聴室) 電話 0 4 3 - 2 2 3 - 2 4 6 9
